

令和 7(2025)年度  
事業報告書

自 令和 7年 4月 1日  
至 令和 8年 3月 31日

学校法人 九州文化学園

## 目 次

|   |     |
|---|-----|
| I. 学校法人の概要                                      | 1   |
| 1. 基本情報   | 1   |
| 2. 建学の精神  | 1   |
| 3. 学校法人の沿革                                      | 1   |
| 4. 設置する学校・学部・学科等                                | 3   |
| 5. 学校・学部・学科等の学生数の状況                             | 4   |
| 6. 収容定員充足率                                      | 4   |
| 7. 役員の概要  | 5   |
| 8. 評議員の概要                                       | 6   |
| 9. 会計監査人の概要                                     | 6   |
| 10. 理事選任機関の概要                                   | 7   |
| 11. 教職員の概要                                      | 8   |
| 12. 中期計画における基本方針と重点戦略                           | 9   |
| II. 事業の概要                                       | 10  |
| 1. 長崎国際大学                                       | 10  |
| 2. 長崎短期大学                                       | 33  |
| 3. 九州文化学園高等学校                                   | 48  |
| 4. 九州文化学園中学校                                    | 57  |
| 5. 九州文化学園小学校                                    | 65  |
| 6. 認定こども園九州文化学園幼稚園                              | 76  |
| 7. 九州文化学園調理師専門学校                                | 86  |
| 8. 九州文化学園歯科衛生士学院                                | 93  |
| 9. 法人事務局  | 100 |
| 10. 学園全体  | 107 |
| 11. 法人全体の中期計画および事業計画の進捗・達成状況                    | 109 |
| III. 財務の概要                                      | 110 |
| 1. 決算の概況  | 110 |
| 2. その他  | 115 |
| 3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策                 | 117 |
| IV. 学校法人の業務の適正を確保するための体制(内部統制システム)の整備および運用状況の概要 | 118 |
| 1. 関係する決議の概要                                    | 118 |
| 2. 体制整備および運用状況の概要                               | 118 |

## I. 学校法人の概要

### 1. 基本情報

|            |  |
|------------|--|
| 法人の名称      | 学校法人九州文化学園   |
| 主たる事務所の住所等 | 【学校法人九州文化学園 法人事務局】<br>〒859-3298 長崎県佐世保市ハウステンボス町 2825 番 7<br>(長崎国際大学内)<br>TEL 0956-39-2020 FAX 0956-39-3111 |
| ホームページアドレス | <a href="https://www.kyubun.ed.jp/">https://www.kyubun.ed.jp/</a>  |

### 2. 建学の精神

この法人は、教育基本法・学校教育法・就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律に従い、学校教育および保育を行い、九州文化学園創設の精神に則り、高い知性と豊かな教養、優れた徳性と品格、たくましい意志と健康な身体の備わった人間を育成することを目的とする。

(学校法人九州文化学園 寄附行為 第3条「目的」より)

### 3. 学校法人の沿革

| 年月                | 事項  |
|-------------------|---|
| 昭和 20(1945)年 11 月 | 財団法人九州文化学院設立申請(校地：大黒町 元海軍工廠工員宿舎)  |
| 12 月              | 財団法人九州文化学院創立(12 月 15 日、創立記念日)   |
| 昭和 22(1947)年 2 月  | 九州女子専門学校認可され、法人設立(2 月 28 日)   |
| 昭和 23(1948)年 9 月  | 校地：矢岳移転   |
| 昭和 26(1951)年 2 月  | 学校法人九州文化学園へ組織変更(2 月 24 日)   |
| 3 月               | 九州文化学園高等学校設置認可(3 月 24 日)  |
| 4 月               | 九州文化学園高等学校開校  |
| 昭和 29(1954)年 6 月  | 九州文化学園幼稚園設置認可(6 月 24 日)   |
| 昭和 41(1966)年 3 月  | 九州文化学園短期大学設置認可(3 月 18 日)  |
| 昭和 41(1966)年 4 月  | 九州文化学園短期大学開学(食物科設置)   |
| 昭和 46(1971)年 3 月  | 九州文化学園調理師専修学校設置認可(3 月 10 日)   |
| 昭和 47(1972)年 4 月  | 九州文化学園短期大学幼児教育学科設置  |
| 昭和 50(1975)年 11 月 | 九州文化学園創立 30 周年記念式典開催  |
| 昭和 53(1978)年 1 月  | 初代理事長(創設者)逝去(1 月 31 日)  |
| 昭和 56(1981)年 2 月  | 九州文化学園歯科衛生士学院設置認可(2 月 26 日)   |
| 昭和 60(1985)年 4 月  | 九州文化学園短期大学を長崎短期大学に名称変更、椎木キャンパスへ移転   |
| 平成元(1989)年 4 月    | 長崎短期大学英語科、幼児教育学科専攻科福祉専攻(後に廃止)設置   |
| 平成 7(1995)年 4 月   | 長崎短期大学英語科専攻科英語専攻設置(後に廃止)  |
| 11 月              | 九州文化学園開設 50 周年記念式典開催・50 周年記念誌発行   |
| 平成 8(1996)年 4 月   | 九州文化学園高等学校衛生看護専攻科開設<br>長崎短期大学食物科専攻科食物栄養専攻開設(後に廃止)                                 |
| 平成 11(1999)年 12 月 | 長崎国際大学設置認可(12 月 22 日)   |
| 平成 12(2000)年 4 月  | 長崎国際大学開学(校地：ハウステンボスキャンパス)<br>人間社会学部国際観光学科・社会福祉学科開設<br>長崎短期大学幼児教育学科を保育学科に名称変更      |
| 平成 14(2002)年 4 月  | 長崎国際大学健康管理学部健康栄養学科開設<br>長崎短期大学を男女共学化  |
| 平成 16(2004)年 4 月  | 長崎国際大学大学院人間社会学研究科観光学専攻・社会福祉学専攻(修士課程)開設  |
| 平成 18(2006)年 4 月  | 長崎国際大学薬学部薬学科(6 年制)、大学院健康管理学研究科健康栄養学専攻(修士課程)<br>および大学院人間社会学研究科地域マネジメント専攻(博士後期課程)開設 |

| 年月              | 事項   |
|-----------------|--|
| 平成 18(2006)年 4月 | 九州文化学園高等学校を椎木キャンパス、九州文化学園調理師専修学校と九州文化学園歯科衛生士学院を藤原キャンパス、九州文化学園幼稚園を上町キャンパス、法人事務局をハウステンボス町へ各々移転 |
|                 | 九州文化学園高等学校を男女共学化   |
|                 | 九州文化学園歯科衛生士学院を 3 年制度に変更  |
| 平成 20(2008)年 4月 | 長崎短期大学専攻科保育専攻開設  |
| 平成 22(2010)年 4月 | 長崎短期大学保育学科保育専攻および介護福祉専攻開設  |
| 平成 25(2013)年 1月 | 旧矢岳キャンパス(佐世保中央 IC)記念碑建立  |
|                 | 長崎短期大学英語科を国際コミュニケーション学科へ名称変更   |
| 平成 26(2014)年 4月 | 長崎国際大学大学院薬学研究科医療薬学専攻(4 年制博士課程)開設   |
| 平成 27(2015)年 4月 | 九州文化学園幼稚園を認定こども園九州文化学園幼稚園(幼保連携型)に変更開園  |
|                 | 九州文化学園創立 70 周年記念式典・祝賀会 開催  |
|                 | 70 周年記念誌 発行  |
| 平成 28(2016)年 4月 | 九州文化学園調理師専修学校を九州文化学園調理師専門学校に校人変更し、2 年専門課程開設  |
| 平成 30(2018)年 9月 | 九州文化学園小学校・九州文化学園中学校設置認可(9 月 10 日)  |
| 平成 31(2019)年 4月 | 九州文化学園小学校・九州文化学園中学校開設(校地：花園キャンパス)  |
| 令和 2(2020)年 4月  | 長崎短期大学国際コミュニケーション学科、食物科、保育学科(2 専攻)を改組し、地域共生学科 4 コース(食物栄養・製菓・介護福祉・国際コミュニケーション)、保育学科(1 専攻)へ変更  |
| 令和 3(2021)年 3月  | 九州文化学園 SDGs 推進宣言(3 月 17 日)   |
| 令和 4(2022)年 3月  | 第 1 回九州文化学園 SDGs 推進宣言の日記念イベント開催(3 月 17 日)  |
| 令和 4(2022)年 4月  | 九州文化学園高等学校 普通科を S アカデミー・S グローバル・総合進学・キャリアデザイン の 4 コース制に変更                                    |
| 令和 5(2023)年 3月  | 第 2 回九州文化学園 SDGs 推進宣言の日記念イベント開催(3 月 17 日)  |
| 令和 5(2023)年 4月  | 九州文化学園歯科衛生士学院を男女共学化  |
| 令和 6(2024)年 2月  | 第 2 代理事長逝去(2 月 3 日)  |
| 令和 6(2024)年 3月  | 第 3 回九州文化学園 SDGs 推進宣言の日記念イベント開催(3 月 15 日)  |
| 令和 7(2025)年 5月  | 第 4 回九州文化学園 SDGs 推進宣言の日記念イベント開催(5 月 24 日)<br>(佐世保中央公園で行われた第 3 回 NAKIRI SDGs フェスティバルにブース出展)   |
|                 | 80 周年絆の茶会(12 月 7 日)  |
| 12月             | 九州文化学園創立 80 周年記念式典・祝賀会開催(12 月 15 日)  |
| 令和 8(2026)年 2月  | 法人事務局(主たる事務所の住所等)を長崎国際大学内へ移転登記(2 月 2 日)  |
| 令和 8(2026)年 3月  | 九州文化学園創立 80 周年記念誌 発行   |

#### 4.設置する学校・学部・学科等

| 学校等の名称  | 住所等  |
|---|--|
| 長崎国際大学<br><ul style="list-style-type: none"> <li>● 人間社会学研究科<br/>               観光学専攻[修士課程]<br/>               社会福祉学専攻[修士課程]<br/>               地域マネジメント専攻[博士後期課程]</li> <li>● 健康管理学研究科<br/>               健康栄養学専攻[修士課程]</li> <li>● 薬学研究科<br/>               医療薬学専攻[4年制博士課程]</li> <li>● 人間社会学部<br/>               国際観光学科、社会福祉学科</li> <li>● 健康管理学部 健康栄養学科</li> <li>● 薬学部 薬学科[6年制]</li> </ul> | 【ハウステンボスキャンパス】<br>〒859-3298<br>長崎県佐世保市ハウステンボス町 2825 番 7<br>TEL 0956-39-2020 FAX 0956-39-3111<br><a href="https://www.niu.ac.jp">https://www.niu.ac.jp</a>                                    |
| 長崎短期大学<br><ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域共生学科<br/>               食物栄養コース、製菓コース<br/>               介護福祉コース<br/>               国際コミュニケーションコース</li> <li>● 保育学科</li> <li>● 専攻科保育専攻</li> </ul>   | 【椎木キャンパス】<br>〒858-0925<br>長崎県佐世保市椎木町 600 番<br>TEL 0956-47-5566 FAX 0956-47-5596<br><a href="https://www.njc.ac.jp">https://www.njc.ac.jp</a>   |
| 九州文化学園高等学校<br><ul style="list-style-type: none"> <li>● 普通科<br/>               S アカデミーコース<br/>               S グローバスコース<br/>               総合進学コース<br/>               キャリアデザインコース</li> <li>● 食物調理科</li> <li>● 衛生看護科</li> <li>● 保育福祉科<br/>               保育コース、福祉コース</li> </ul>   | 【椎木キャンパス】<br>〒858-0925<br>長崎県佐世保市椎木町 600 番<br>TEL 0956-26-2323 FAX 0956-26-2211<br><a href="https://high-school.kyubun.ed.jp">https://high-school.kyubun.ed.jp</a>                           |
| 九州文化学園高等学校衛生看護専攻科   | 【椎木キャンパス】<br>〒858-0925<br>長崎県佐世保市椎木町 600 番<br>TEL 0956-26-2327 FAX 0956-26-2299<br><a href="https://high-school.kyubun.ed.jp/kango-senko/">https://high-school.kyubun.ed.jp/kango-senko/</a> |
| 九州文化学園小学校・九州文化学園中学校   | 【花園キャンパス】<br>〒857-0024<br>長崎県佐世保市花園町 10 番 1 号<br>TEL 0956-37-8100 FAX 0956-37-8200<br><a href="https://kyubun-ejhs.ed.jp/">https://kyubun-ejhs.ed.jp/</a>                                    |
| 認定こども園九州文化学園幼稚園   | 【上町キャンパス】<br>〒857-0058<br>長崎県佐世保市上町 8 番 35 号<br>TEL 0956-24-8735 FAX 0956-24-8773<br><a href="https://kyubun-yochien.ed.jp">https://kyubun-yochien.ed.jp</a>                                 |
| 九州文化学園調理師専門学校   | 【藤原キャンパス】<br>〒857-0832<br>長崎県佐世保市藤原町 7 番 32 号<br>TEL 0956-26-1280 FAX 0956-26-1285<br><a href="https://kyubun-chori.ac.jp">https://kyubun-chori.ac.jp</a>                                    |
| 九州文化学園歯科衛生士学院   | 【藤原キャンパス】<br>〒857-0832<br>長崎県佐世保市藤原町 7 番 32 号<br>TEL 0956-26-1203 FAX 0956-26-1204<br><a href="https://kyubun-shika.ac.jp">https://kyubun-shika.ac.jp</a>                                    |

## 5.学校・学部・学科等の学生数の状況

(令和 7(2025)年 5 月 1 日現在)

| 学校人                | 入学定員     | 入学者数  | 収容定員  | 現員数     |         |
|--------------------|----------|-------|-------|---------|---------|
| 長崎国際大学             | 人間社会学部   | 260 人 | 266 人 | 1,100 人 | 1,158 人 |
|                    | 健康管理学部   | 80 人  | 62 人  | 340 人   | 247 人   |
|                    | 薬学部      | 120 人 | 83 人  | 720 人   | 602 人   |
|                    | 人間社会学研究科 | 23 人  | 10 人  | 49 人    | 40 人    |
|                    | 健康管理学研究科 | 4 人   | 3 人   | 8 人     | 4 人     |
|                    | 薬学研究科    | 3 人   | 3 人   | 12 人    | 9 人     |
| 長崎短期大学             | 地域共生学科   | 135 人 | 129 人 | 270 人   | 278 人   |
|                    | 保育学科     | 100 人 | 55 人  | 200 人   | 130 人   |
|                    | 専攻科保育専攻  | 10 人  | 5 人   | 20 人    | 12 人    |
| 九州文化学園高等学校         | 普通科      | 120 人 | 116 人 | 360 人   | 348 人   |
|                    | 食物調理科    | 40 人  | 43 人  | 120 人   | 133 人   |
|                    | 保育福祉科    | 80 人  | 65 人  | 240 人   | 201 人   |
|                    | 衛生看護科    | 40 人  | 44 人  | 120 人   | 139 人   |
|                    | 衛生看護専攻科  | 45 人  | 49 人  | 90 人    | 104 人   |
| 九州文化学園中学校          | 40 人     | 27 人  | 120 人 | 62 人    |         |
| 九州文化学園小学校          | 40 人     | 34 人  | 240 人 | 167 人   |         |
| 認定こども園九州文化学園幼稚園 ※1 | —        | —     | 270 人 | 214 人   |         |
| 九州文化学園調理師専門学校※2    | 30 人     | 21 人  | 70 人  | 38 人    |         |
| 九州文化学園歯科衛生士学院      | 40 人     | 23 人  | 120 人 | 89 人    |         |

※1 認定こども園九州文化学園幼稚園の収容定員は、1号認定、2号認定、3号認定の各利用定員の合計値を記載

※2 九州文化学園調理師専門学校は、令和 7(2024)年度より入学定員を 40 人→30 人変更

## 6.収容定員充足率

(毎年度 5 月 1 日現在)

| 学校人               | 令和 3<br>(2021)<br>年度 | 令和 4<br>(2022)<br>年度 | 令和 5<br>(2023)<br>年度 | 令和 6<br>(2024)<br>年度 | 令和 7<br>(2025)<br>年度 |
|-------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 長崎国際大学            | 103.5%               | 97.8%                | 95.7%                | 92.3%                | 92.9%                |
| 長崎国際大学大学院         | 53.6%                | 59.4%                | 58.0%                | 68.1%                | 76.8%                |
| 長崎短期大学            | 85.1%                | 87.2%                | 98.5%                | 91.2%                | 86.8%                |
| 長崎短期大学専攻科保育専攻     | 50.0%                | 45.0%                | 45.0%                | 55.0%                | 60.0%                |
| 九州文化学園高等学校        | 105.6%               | 109.7%               | 107.5%               | 101.4%               | 96.7%                |
| 九州文化学園高等学校衛生看護専攻科 | 94.4%                | 82.2%                | 116.7%               | 124.4%               | 115.6%               |
| 九州文化学園中学校         | 50.8%                | 50.0%                | 46.6%                | 42.5%                | 51.6%                |
| 九州文化学園小学校         | 55.8%                | 61.3%                | 60.5%                | 65.4%                | 69.5%                |
| 認定こども園九州文化学園幼稚園   | 85.6%                | 84.4%                | 73.7%                | 78.9%                | 79.3%                |
| 九州文化学園調理師専門学校     | 31.3%                | 33.8%                | 33.8%                | 38.8%                | 63.3%                |
| 九州文化学園歯科衛生士学院     | 70.8%                | 73.3%                | 77.5%                | 79.1%                | 74.2%                |

※ 九州文化学園高校は入学定員を平成 30(2018)年度より 20 人増。以降、各年度の収容定員は進行学年までの定員数の合計を分母として算定。また令和 4(2022)年度より 30 人増し、令和 6(2024)年度で定員増の学年進行完了。

※ 九州文化学園小学校・中学校は平成 31/令和元(2019)年度に開設。令和 6(2024)年度時点で完成年度。

※ 認定こども園九州文化学園幼稚園は利用定員を平成 30(2018)年度に 12 人増、平成 31/令和元(2019)年度に 6 人増。

※九州文化学園調理師専門学校は入学定員を令和 7(2025)年度より 10 人減。

## 7. 役員 の 概 要

### ■理事(定数 6 人以上 9 人以内 現員 7 人)

(令和 8(2026)年 3 月 31 日現在)

| 役職     | 氏名    | 就任年月日                | 常勤・非常勤 | 主な現職                         | 外部理事 |
|--------|-------|----------------------|--------|------------------------------|------|
| 理事長    | 安部 直樹 | 令和 7(2025)年 6 月 13 日 | 常 勤    | 学校法人九州文化学園<br>理事長            |      |
| 業務執行理事 | 安部 雅隆 | 令和 7(2025)年 6 月 13 日 | 常 勤    | 学校法人九州文化学園<br>法人本部長 兼 法人事務局長 |      |
| 理事     | 中村 誠司 | 令和 7(2025)年 6 月 13 日 | 常 勤    | 学校法人九州文化学園<br>長崎国際大学学長       |      |
|        | 橋之口裕太 | 令和 7(2025)年 6 月 13 日 | 常 勤    | 学校法人九州文化学園<br>九州文化学園高等学校校長   |      |
|        | 綾部賢一郎 | 令和 7(2025)年 6 月 13 日 | 常 勤    | 学校法人九州文化学園<br>長崎国際大学事務局長     |      |
|        | 大串 祐一 | 令和 7(2025)年 6 月 13 日 | 非常勤    | 株式会社十八親和銀行<br>取締役常務執行役員      | 外部   |
|        | 樋口 聡子 | 令和 7(2025)年 6 月 13 日 | 非常勤    | 樋口弁護士事務所<br>弁護士              | 外部   |

### ■監事(定数 2 人以上 3 人以内 現員 3 人)

(令和 8(2026)年 3 月 31 日現在)

| 役職 | 氏名    | 就任年月日                | 常勤・非常勤 | 主な現職       |
|----|-------|----------------------|--------|------------|
| 監事 | 松瀬 太郎 | 令和 7(2025)年 6 月 13 日 | 非常勤    | 元 公立高校校長   |
|    | 内田 聡  | 令和 7(2025)年 6 月 13 日 | 非常勤    | 元 銀行員      |
|    | 川口 博樹 | 令和 7(2025)年 6 月 13 日 | 非常勤    | 株式会社サンエル顧問 |

### ■責任免除・責任限定契約、補償契約・役員賠償責任保険契約の状況

| 見出人          | 規則条項                              | 条文   |
|--------------|-----------------------------------|--|
| 責任の免除に関する決議等 | 学校法人九州文化学園寄附行為<br>第 9 章<br>第 59 条 | (責任の免除)<br>第 59 条 役員または会計監査人が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対して賠償する責任は、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、役員または会計監査人が賠償の責任を負う額から私立学校法第 92 条の規定に基づく最低責任限度額を控除して得た額を限度として理事会の決議によって免除することができる。<br>2 理事は、前項の規定に基づく責任の免除(理事の責任の免除に限る。)に関する議案を理事会に提案するには、各監事の同意を得なければならない。<br>3 第 1 項の決議を行ったときは、理事長は、遅滞なく、私立学校法第 92 条第 2 項各号に掲げる事項および責任を免除することに異議がある場合には 1 か月以内に当該異議を述べるべき旨を評議員会に通知しなければならない。<br>4 評議員の総数の 10 分の 1 以上の評議員が前項の期間内に同項の異議を述べるときは、第 1 項の規定に基づく責任の免除をしてはならない。<br>5 第 1 項の決議があった場合において、当該決議後に同項の役員または会計監査人に対し退職慰労金その他の私立学校法施行規則で定める財産上の利益を与えるときは、評議員会の決議による承認を受けなければならない。 |
| 責任限定契約       | 学校法人九州文化学園寄附行為<br>第 9 章<br>第 60 条 | (責任限定契約)<br>第 60 条 理事(理事長および業務執行理事ならびにこの法人の職員である理事を除く。以下この条において「非業務執行理事」という。)、監事または会計監査人が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事、監事または会計監査人が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金 10 万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法第 92 条の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事、監事または会計監査人と締結することができる。   |

| 契約名称       | 契約先                                | 対象および契約概要  |
|------------|------------------------------------|--|
| 補償契約       | 該当なし                               |  |
| 役員賠償責任保険契約 | 東京海上日動火災保険株式会社<br>(代理店：有限会社オフィス東海) | 私大協役員賠償責任保険制度(D&O マネジメントパッケージ)<br><b>【対象】</b> 理事・監事・評議員、法人(調査費・第三者委員会費用のみ)<br><b>【概要】</b> 学校法人役員の任務懈怠による賠償責任(第三者或いは学校法人に対するもの)を補償する。 |

## 8. 評議員の概要

(定数 7 人以上 9 人以内 現員 9 人)

(令和 8(2026)年 3 月 31 日現在)

| 役職  | 氏名    | 就任年月日                | 主な現職等                             | 選任区分    |
|-----|-------|----------------------|-----------------------------------|---------|
| 評議員 | 木村 勝彦 | 令和 7(2025)年 6 月 13 日 | 長崎国際大学 副学長                        | 法人職員    |
|     | 安部恵美子 | 令和 7(2025)年 6 月 13 日 | 長崎短期大学 学長                         | 法人職員    |
|     | 宮崎 省三 | 令和 7(2025)年 6 月 13 日 | 学校法人九州文化学園<br>法人事務局人事課長 兼 専門学校事務長 | 法人職員    |
|     | 松永美詠子 | 令和 7(2025)年 6 月 13 日 | スクールカウンセラー                        | 卒業生(大学) |
|     | 田淵 美紀 | 令和 7(2025)年 11 月 5 日 | 無職                                | 卒業生(短大) |
|     | 徳吉 由香 | 令和 7(2025)年 11 月 5 日 | 三川内保育園職員                          | 卒業生(短大) |
|     | 本岡 正則 | 令和 7(2025)年 6 月 13 日 | 公認会計士                             | 学識経験者   |
|     | 柿本 雄二 | 令和 7(2025)年 6 月 13 日 | 元法人事務局長                           | 学識経験者   |
|     | 新地 文彦 | 令和 7(2025)年 6 月 13 日 | 学福岡音楽学院理事兼園長                      | 学識経験者   |

## 9. 会計監査人の概要

(定員数 一 人)

(令和 8(2026)年 3 月 31 日現在)

| 役職    | 名称または氏名 | 就任年月日                | 主な現職等           |
|-------|---------|----------------------|-----------------|
| 会計監査人 | 西村 拓哉   | 令和 7(2025)年 6 月 13 日 | 西村拓哉公認会計士事務所 代表 |

### ■責任免除・責任限定契約、補償契約・役員賠償責任保険契約の状況

| 見出人          | 規則条項                        | 条文   |
|--------------|-----------------------------|--|
| 責任の免除に関する決議等 | 学校法人九州文化学園寄附行為 第 9 章 第 59 条 | (責任の免除)<br>第 59 条 役員または会計監査人が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対して賠償する責任は、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、役員または会計監査人が賠償の責任を負う額から私立学校法第 92 条の規定に基づく最低責任限度額を控除して得た額を限度として理事会の決議によって免除することができる。<br>2 理事は、前項の規定に基づく責任の免除(理事の責任の免除に限る。)に関する議案を理事会に提案するには、各監事の同意を得なければならない。<br>3 第 1 項の決議を行ったときは、理事長は、遅滞なく、私立学校法第 92 条第 2 項各号に掲げる事項および責任を免除することに異議がある場合には 1 か月以内に当該異議を述べるべき旨を評議員会に通知しなければならない。<br>4 評議員の総数の 10 分の 1 以上の評議員が前項の期間内に同項の異議を述べるときは、第 1 項の規定に基づく責任の免除をしてはならない。<br>5 第 1 項の決議があった場合において、当該決議後に同項の役員または会計監査人に対し退職慰労金その他の私立学校法施行規則で定める財産上の利益を与えるときは、評議員会の決議による承認を受けなければならない。 |
| 責任限定契約       | 学校法人九州文化学園寄附行為 第 9 章 第 60 条 | (責任限定契約)<br>第 60 条 理事(理事長および業務執行理事ならびにこの法人の職員である理事を除く。以下この条において「非業務執行理事」という。)、監事または会計監査人が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事、監事ま   |

|  |       |  |
|--|-------|--|
|  |       | たは会計監査人が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金10万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法第92条の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事、監事または会計監査人と締結することができる。 |
|  | 監査契約書 | 第11条 責任限定契約<br>受嘱者の私立学校法第88条第1項の責任について、受嘱者が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、私立学校法第92条の規定に基づく最低責任限度額をもって、受嘱者の委嘱者に対する損害賠償責任の限度とする。     |

| 契約名称       | 契約先  | 対象および契約概要 |
|------------|------|-----------|
| 補償契約       | 該当なし |           |
| 役員賠償責任保険契約 | 該当なし |           |

### 10. 理事選任機関の概要

|  |
|--|
| <p>本法人の理事選任機関については、寄附行為第6条において以下の通り定めている。</p> <p>(理事選任機関)</p> <p>第6条 この法人の理事選任機関は、評議員会とする。</p> <p>2 理事選任機関の構成員は、全ての評議員とする。</p> <p>3 監事は、理事選任機関に対し必要な報告を行おうとするときは、理事長に対し、理事選任機関の招集を請求することができる。この場合において、理事長は、理事選任機関を招集しなければならない。</p> |
|--|

## 11.教職員の概要

(令和7(2025)年5月1日現在)

### ■学長・学校長等

| 学校人        | 役職人 | 氏名     |
|------------|-----|--------|
| 長崎国際大学     | 学長  | 中村 誠司  |
| 長崎短期大学     | 学長  | 安部 恵美子 |
| 九州文化学園高等学校 | 校長  | 橋之口 裕太 |
| 九州文化学園中学校  | 校長  | 橋本 信博  |
| 九州文化学園小学校  | 校長  | 橋本 信博  |

| 学校人             | 役職人 | 氏名    |
|-----------------|-----|-------|
| 認定こども園九州文化学園幼稚園 | 園長  | 金子 圭一 |
| 九州文化学園調理師専門学校   | 校長  | 松尾 修  |
| 九州文化学園歯科衛生士学院   | 学院長 | 松尾 修  |

### ■長崎国際大学

|        | 本務教員 |     |     |     |    |      |      | 兼務<br>教員数 |
|--------|------|-----|-----|-----|----|------|------|-----------|
|        | 教授   | 准教授 | 講師  | 助教  | 助手 | 合計   | 平均年齢 |           |
| 人間社会学部 | 18人  | 10人 | 12人 | 7人  | 1人 | 48人  | 51歳  | 54人       |
| 健康管理学部 | 5人   | 4人  | 6人  | 0人  | 5人 | 20人  | 41歳  |           |
| 薬学部    | 21人  | 11人 | 9人  | 5人  | 3人 | 49人  | 49歳  |           |
| 合計     | 44人  | 25人 | 27人 | 12人 | 9人 | 117人 | 48歳  | 54人       |

※理事長を人間社会学部の教授、学長を薬学部の教授、副学長を人間社会学部の教授に算入。

### ■長崎短期大学

|        | 本務教員 |     |    |     |    |     |      | 兼務<br>教員数 |
|--------|------|-----|----|-----|----|-----|------|-----------|
|        | 教授   | 准教授 | 講師 | 助教  | 助手 | 合計  | 平均年齢 |           |
| 地域共生学科 | 5人   | 1人  | 7人 | 7人  | 2人 | 22人 | 43歳  | 60人       |
| 保育学科   | 6人   | 3人  | 1人 | 3人  | 0人 | 13人 | 51歳  |           |
| 合計     | 11人  | 4人  | 8人 | 10人 | 2人 | 35人 | 46歳  |           |

※学長を保育学科の教授、副学長を保育学科の教授に算入。

### ■高等学校、小中学校、幼稚園

|                 | 本務教員 |     |    |     |      | 兼務<br>教員数 |
|-----------------|------|-----|----|-----|------|-----------|
|                 | 教諭   | 助教諭 | 講師 | 合計  | 平均年齢 |           |
| 九州文化学園高等学校      | 43人  | 15人 | 0人 | 58人 | 44歳  | 34人       |
| 九州文化学園中学校       | 9人   | 0人  | 2人 | 11人 | 47歳  | 6人        |
| 九州文化学園小学校       | 13人  | 0人  | 5人 | 18人 | 50歳  | 1人        |
| 認定こども園九州文化学園幼稚園 | 23人  | 0人  | 0人 | 23人 | 31歳  | 9人        |

※高等学校長、小中学校長、副校長、教頭、幼稚園園長、養護教諭、栄養教諭をそれぞれの教諭に算入。

### ■専修学校

|               | 本務 |    |    |      | 兼務<br>教員数 |
|---------------|----|----|----|------|-----------|
|               | 教員 | 講師 | 合計 | 平均年齢 |           |
| 九州文化学園調理師専門学校 | 3人 | 0人 | 3人 | 38歳  | 53人       |
| 九州文化学園歯科衛生士学院 | 5人 | 0人 | 5人 | 46歳  | 149人      |

※校長兼学院長を学院に算入。

### ■事務職員

|                 | 本務   |      | 兼務<br>職員数 |
|-----------------|------|------|-----------|
|                 | 職員数  | 平均年齢 |           |
| 長崎国際大学          | 63人  | 47歳  | 9人        |
| 長崎短期大学          | 14人  | 48歳  | 6人        |
| 九州文化学園高等学校      | 8人   | 54歳  | 0人        |
| 九州文化学園中学校       | 2人   | 39歳  | 0人        |
| 九州文化学園小学校       | 3人   | 42歳  | 0人        |
| 認定こども園九州文化学園幼稚園 | 4人   | 48歳  | 0人        |
| 九州文化学園調理師専門学校   | 1人   | 62歳  | 1人        |
| 九州文化学園歯科衛生士学院   | 1人   | 52歳  | 1人        |
| 法人事務局           | 12人  | 45歳  | 0人        |
| 合計              | 108人 | 49歳  | 17人       |

## 12.中期計画における基本方針と重点戦略

### ■基本方針

|   |            |   |
|---|------------|---|
| 1 | 成長力の確保     | 学園や各機関として、現状維持ではなく成長すること、またその原動力を確保することを目指す。                  |
| 2 | 教育力の向上     | 学校として教育の質を向上すること、教育組織や教職員個々の能力を高めることを目指す。                     |
| 3 | 約定返済の確実な履行 | 毎年度の事業収支や自己資金を目標通り確保し、借入金を約定通りに返済することのできる安定した財務体質を形成することを目指す。 |

### ■重点戦略

| 戦略区分 |                                 | 達成目標   |
|------|---------------------------------|--|
| 戦略Ⅰ  | 建学の精神・理念に基づく人材養成と内部質保証の担保       | ① 建学の精神の教職員への浸透と共有、尊重する風土の形成<br>② 建学の精神に基づく人的資源の確保・育成<br>③ 本学園の教育について内部質保証のできる組織の形成                                      |
| 戦略Ⅱ  | 成長・発展のための教育改革とキャリア教育・支援の充実      | ① 継続的に成長・発展できる教育力や成長力の獲得<br>② 伸長度合いを確認・検証できる教学や経営情報の見える化<br>③ 社会に貢献できる人材を輩出するキャリアデザイン支援の構築                               |
| 戦略Ⅲ  | グローバル化と社会連携の強化、ステークホルダーとの関係強化   | ① With コロナ、After コロナ下でも実現できるグローバル化の構築<br>② 地域と連携・協働した教育・研究・学生等支援体制の強化<br>③ 保護者や卒業生、教職員OBとの関係性の強化                         |
| 戦略Ⅳ  | ICT化と施設設備の充実による教育環境の魅力向上と経営の効率化 | ① ICTを活用した教育・研究環境の整備と教育改革の実施<br>② ICTを活用した業務効率化の推進と利用者の意識改革の実施<br>③ ICT環境導入を実現できる資金確保策の実施                                |
| 戦略Ⅴ  | 認知度やブランド力の向上と入学定員・収容定員の充足       | ① 認知度向上やブランドアップを効果的に推進する仕組みの構築<br>② 教職員に対するインナーリレーション強化策の実施  |
| 戦略Ⅵ  | 財政基盤の安定と機動的な組織運営の強化             | ① 定員確保による学納金収入や補助金・寄付金・外部資金等の獲得による収入の最大化<br>② 人件費や経費の効果的な支出と適正水準の維持<br>③ 約定返済の確実な履行<br>④ 法人本部および各設置校で機動的な組織運営を遂行できる体制の整備 |

## II. 事業の概要

### 1. 長崎国際大学

#### 1) 3ポリシー

|                          |   |
|--------------------------|---|
| <p>卒業の認定に関する方針</p>       | <p>長崎国際大学(以下本学という)は、「人間尊重」を基本理念に、「ホスピタリティの獲得」をその具体像としている。必須単位数等を定めた学士課程カリキュラムを履修することによって、身に付けた深い専門的知識と高い技能、及び社会の課題に対する思考力、判断力、表現力を活用し、主体的に問題解決を行って、地域社会及び国際社会に貢献することができる人物の育成が目的としている。また、この基盤には高い人間性が存在する。伝統文化や書物からの学びによって、静かに考え、一步先を読む態度を育成することが、変化の激しい社会の中であって、人間性をより豊かにすると考えている。</p> <p>この実現のために、所定の単位数を修得し、ホスピタリティを構成する次の諸能力を身に付け活用することができる人物に学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>1. 専門力</b><br/>                 学士課程カリキュラムに沿って専門的知識・技能を修得し、それらを様々な課題に適用して解決を図ることができる。</li> <li><b>2. 情報収集、分析力</b><br/>                 社会に存在する情報を収集し、それを分析して自己の成長や課題解決等に役立てることができる。</li> <li><b>3. コミュニケーション力</b><br/>                 他の人の意見を傾聴するとともに自分の考えを明確にした上で、静かに意見を交換し、相互理解を図ることができる。</li> <li><b>4. 協働・課題解決力</b><br/>                 課題を的確に把握し、他の人と協力して課題解決に向けた方策を立案し、着実に実行できる。</li> <li><b>5. 多様性理解力</b><br/>                 自国の文化を深く理解するとともに他国の文化や障がいのある人々を広く受け入れ、共生に向けた行動がとれる。</li> </ol>   |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> | <p>本学は、卒業認定及び学位授与の方針に掲げた知識・技能を始めとした諸能力の獲得を可能にするために、初年次教育、教養教育、及び専門教育の授業科目の順次性を考慮して体系的に配置するとともに、講義や実習等を効果的に組み合わせたカリキュラムを編成する。さらに、その構造を理解しやすくするために、各授業科目が学士課程カリキュラムでどのような位置を占めるかを示し(カリキュラム・マップという)、さらに学修段階や履修順序を示す番号を各授業科目に割り振る(ナンバリングという)。</p> <p><b>初年次教育</b><br/>                 4年間あるいは6年間の学修の基盤となる資質(大学理念の理解、アクティブ・ラーニングの理解、大学での学修習慣の形成、省察の意味やポートフォリオ活用の理解等)の修得を行う場であり、「茶道文化」、「ホスピタリティセミナー」及び「教養セミナー」という授業科目が核になる。</p> <p><b>教養教育</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ここでは、ディプロマ・ポリシーで掲げた能力・態度の基礎を培う授業科目を展開する。特に、主体的に考え、判断し、表現する能力・態度の修得に必要な内容や方法が組み込まれている。</li> <li>ICTに関する科目においては、時代とともに進化する状況に応じた、情報活用能力の修得を可能にする。</li> </ol> <p><b>専門教育</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学科及びコースごとに専門分野の体系と最新の知見を踏まえた適切な内容を講義や実習等に組み込んでいる。ディプロマ・ポリシーで掲げる専門力向上の主な場となる。</li> <li>大学内で獲得した能力・態度を統合して活用するとともに、将来のキャリアと結びつけた省察を可能にする体験実習(ハイ・インパクト・プラクティス)を行う。</li> </ol> <p><b>教育方法</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>アクティブ・ラーニングを全授業科目で展開するとともに、その成果を生かす実習を組み込み、毎日の授業をディプロマ・ポリシーで掲げた能力・態度の形成につなげる。また、学生一人ひとりに対して担任となる教員を決め、ポートフォリオを活用した面談を行うことによって、それぞれの長所を伸ばし、短所を修正するための適切な学修支援を行う。ポートフォリオは、大学での学びやその成果、担任教員との面談記録等</li> </ol> |

|               |   |
|---------------|---|
|               | を記録したものであり、各学生の成長の記録と位置付けている。   |
| 入学者の受入れに関する方針 | <p>本学は理念に掲げる人物を育成するために、本学の教育方針を理解し、それを素直に受け入れて主体的に学修を進めることができる次のような入学者を求めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高等学校の履修内容を幅広く獲得している人。<br/>ただし、学科によっては特に深い習得を求められる分野が加わる。</li> <li>2. 高等学校までの知識・技能を活用して、学校内外の課題解決活動に取り組んだ経験がある人。</li> <li>3. 自分の将来の選択肢と視野を拓げるため、総合的な英語力を伸ばした人。</li> <li>4. ボランティア活動等を通して、社会的な課題に取り組んだ経験がある人。</li> <li>5. 日本文化や書物等から多くの学びを得た人、あるいはその学びを身に付けたいと考えている人。</li> <li>6. 学びたい学部・学科があり、そこで獲得した能力・態度を社会で生かしたいと考えている人。</li> <li>7. 大学での履修を円滑に進めるために、自己の不足する能力の向上に入学前から取り組むことができる人。</li> </ol> |

## 2) 経営理念・経営目標

|      |   |
|------|---|
| 経営理念 | 3S、speed、service、scientific に遂行する。  |
| 経営目標 | <p>様々なメソッドを用い広報活動の強化に努める。<br/>         With コロナを念頭に置き安全、安心の中で、合理的経営を図る。</p> |

## 3) 1年間の総括と評価

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和7(2025)年度は、第2期中期計画の最終年度として、これまでの取り組みの総括と次期計画への橋渡しを行う重要な一年であった。管理運営においては、大学機関別認証評価および薬学教育評価の受審に向け、全学的な教学運営の点検と根拠資料の整備を後方より支援し、内部質保証システムの維持・向上に努めた。</li> <li>✓ また、学園創立80周年の節目にあたり、記念式典および祝賀会、記念茶会を滞りなく挙行し、本学の教育・研究の歩みを広く発信するとともに、地域社会やステークホルダーとの連携と絆を一層深めることができた。</li> <li>✓ 教育活動においては、3ポリシーに則った教育課程の質保証を強化し、学修成果の可視化と評価に基づく教育改善サイクルを確立した。特にアクティブ・ラーニングの深化やICT活用の推進、グローバル人材育成のための語学教育充実を図った。</li> <li>✓ 学生募集・広報面では、入学定員532人の確保を柱に、SNS等を活用した戦略的な情報発信を展開した。</li> <li>✓ 管理運営面では、「長崎国際大学ガバナンス・コード」に基づき、法令遵守と透明性の高い運営を徹底するとともに、物価高騰に備えた計画的な施設整備と経費削減を両立させた。</li> </ul> |
|--|

## 4) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組実績

|   |            |   |
|---|------------|---|
| 1 | 成長力の確保     | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ Society 5.0時代に即した教育組織の再構築として、「情報学部情報デザイン学科」の開設に向けた設置認可申請および準備作業を計画通りに完遂した。地域のデジタル人材ニーズに応えるべく、新設学部のカリキュラム構築や施設整備計画を具体化させるとともに、薬学部の収容定員変更の認可申請を行い、さらには令和8年4月に届出予定の健康管理学部の収容定員変更に向けた準備に着手するなど、大学全体の将来を見据えた安定的な教育基盤の拡充を推進した。</li> </ul>  |
| 2 | 教育力の向上     | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 第2期中期計画の総仕上げとして、3ポリシーを基軸とした内部質保証システムの高度化を完遂した。具体的には、本学独自の「ホスピタリティ・ルーブリック」を搭載した学修ポートフォリオによる教員面談を全学的に定着させ、学生が自らの成長を実感できる学修成果の可視化を実現した。また、令和7(2025)年度からのシラバス全面電子化を推進するなど、教育DXを強力に支援した。</li> <li>✓ 令和7(2025)年度受審の大学機関別認証評価および薬学教育評価に向けては、本学の教育支援体制の客観的エビデンスを整理し、強化に向けたに直しを行うことで、全学的な自己点検・評価を通じて「適合」認定を受けるための教育の質保証体制を盤石なものとした。</li> </ul>                    |
| 3 | 約定返済の確実な履行 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 健全な財務基盤の確立を最優先事項とし、有利子負債の着実な圧縮を図るため、借入金の約定返済を計画通り完全に履行した。厳しい募集環境や物価・エネルギー価格の高騰という外部要因に対し、「経営健全化ワーキングGoogle」を中心に、全学的なLED照明への更新完了やデマンドコントロールの強化による光熱水費の抑制、事務作業のペーパーレス化を徹底し、経常収支の安定化を実現した。</li> <li>✓ また、外部資金の戦略的獲得にも注力し、「私立大学等改革総合支援事業」における複数タイプの採択を維持するとともに、学園創立80周年記念事業に伴う募金活動を展開し、受配者指定寄付金の積極的な獲得を通じて、次世代の教育投資に向けた支払資金の確保と財務の健全性を高い水準で両立させた。</li> </ul> |

## 5) 経営改善(健全化)に関する成果

|   |             |  |
|---|-------------|--|
| 1 | 収入の増加       | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学納金収入については減少するとともに、補助金収入は修学支援制度の影響により形式上は増加したものの、当該収入は学生への支援を目的としたものであり、法人の実質的な収入基盤の強化には直結しないことから、全体としては当初見込みを下回る結果となり、収入環境は厳しい状況が継続している。</li> <li>✓ このため、速やかに収支見通しの見直しを行い、より厳格な収支管理のもとで支出の適正化および事業の優先順位付けを進めるなど、機動的な対応により財務バランスの確保に努めた。</li> </ul>         |
| 2 | 支出の効率化      | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 物品調達および役務提供委託については、手続の透明性向上および契約内容の見直しを進め、適正かつ効率的な執行に努めた。</li> <li>✓ 一方で、賃金・物価上昇の影響により消耗品費等は増加したものの、水光熱費については使用状況の見直し等により抑制を図り、経費全体の適正管理に取り組んだ。</li> <li>✓ また、施設設備投資については、建設費高騰等の経済情勢を踏まえ、整備時期および内容の見直しを行い、段階的な資金確保を進めることで、将来負担の軽減と財務運営の安定化に努めた。</li> </ul> |
| 3 | 人員・業務の効率化   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 事務組織の生産性向上を目的に、業務プロセスの再点検と可視化を実施した。事務手続きのデジタル化や部門間の共通業務の集約化に向けた検討を進めることで、限られた人員での迅速かつ適切な意思決定と業務執行が可能な体制を構築した。</li> </ul>  |
| 4 | 付加価値向上と広報強化 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「広報活動の基本方針」に基づき、本学独自の教育・研究活動を多角的に発信した。特に学園創立80周年事業を機に、地域社会への貢献を強調するプロモーションを展開し、ステークホルダーからの信頼向上に努めた。SNSの積極運用により、若年層への訴求力を高め、本学のブランド価値を再構築した。</li> </ul>  |

## 6) 中期計画の進捗・達成状況

| 区分  | 進捗・達成状況  |
|-----|--|
| 戦略Ⅰ | <p><b>【国際観光学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 本学の建学の精神・理念を反映した「国際観光学科3ポリシー」に基づいた教育を実践し、社会が求める人材育成を実現するため、少人数での専門演習を基礎とし、担当教員の省察、ポートフォリオを活用した学生情報の共有等を通じ、学生の学業進捗状況を学科レベルで把握、指導する体制をきめ細やかに実践した。</li> </ul> <p><b>【社会福祉学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 建学の精神及び理念を基盤に「社会福祉学科3ポリシー」に基づいた専門職養成を行うため、学科内各コース会議を通して教育の質向上を図っている。社会福祉士・介護福祉士・精神福祉士を目指す3つのコースに加え、コミュニティーコースの教育課程の再検討を行い、地域社会に貢献しうる福祉人材の育成を目指している。</li> </ul> <p><b>【健康栄養学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 建学の精神・理念を理解し、それに基づいた教育・研究を行うための知識や技能を修得するため、新任研修やFD、各種研修会への積極的な参加を促し、各教員が研鑽に努めた。</li> </ul> <p><b>【薬学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 新カリキュラム(4次カリキュラム)の完成年度を迎え、教育効果の検証を行いながらPDCAサイクルのもとに、建学の理念を身につけた地域社会へ貢献できる薬剤師を養成している。</li> <li>✓ 共用試験・国家試験対策として、外部講習会や演習科目による専門力の醸成を行った。</li> <li>✓ 基礎学力の向上および留年生対策として、薬学教育支援センターを中心に、学修支援体制を強化した。</li> </ul> <p><b>【人間社会学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 建学の精神および理念に基づき、社会が求める高度専門職業人ならびに研究者の育成を目的として、観光学・社会福祉学・地域マネジメントの3専攻において、講義、研究指導、学位論文中間発表会等の教育活動を実施した。その結果、観光学専攻9人、社会福祉学専攻4人に修士号、地域マネジメント専攻2人に博士号の学位を授与した。</li> </ul> <p><b>【健康管理学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教員の研究業績の積み上げや学位取得を推進し、教育・研究体制の強化を進めた。</li> </ul> <p><b>【薬学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 建学の理念に基づき、高度医療を担い、生命科学の発展に寄与する人材を養成することを継続目標とした。令和7(2025)年度は新たに3人の大学院生が入学した。</li> <li>✓ 18時30分以降の講義開講や土曜日開講、遠隔講義などの対応を行い、社会人学生が受講・研究しやすい環境を整えることで、大学院研究・教育活動を円滑に進めるよう配慮した。</li> </ul> |
| 戦略Ⅱ | <p><b>【国際観光学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 近年の学力格差は大きな問題であり、非常に困難を極めているが、そういう状況下においても学力レベルの格差に対応するため、特に語学はレベル別のクラスに分けて授業を行うなど、学習効果向上を</li> </ul>  |

|            |   |
|------------|---|
|            | <p>図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 早期からの就職意識の醸成を図るため、全学年において進路意識調査を実施し、教養セミナー、専門演習なども活用しながら、きめ細かな指導につなげることができている。また、2026年度の1年生より、ハウステンボスにおける「初年次インターンシップ」を必修科目として設定した。</li> </ul> <p><b>【社会福祉学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和 6(2024)年度で終了した 3 福祉士の新カリキュラム導入の点検結果を踏まえ、各コースの運営体制・教育内容などを改善・発展させ、学科運営の基盤の改善を図ることができた。</li> <li>✓ 学科教員数が大幅に減少する中で、教育の質を損なわない範囲での効率的な科目担当配置のあり方を検討し、各教員の担当科目数の削減を図ったうえで、令和 7(2025)年度の学科専門科目担当者の配置に反映した。</li> <li>✓ 早期から進路決定に向けた専門職への意識の醸成を図り、地域の福祉人材として就職成就率の向上に努めるため、キャリアセンターとの協同により「2025 年度社会福祉学科学内合同説明会」を実施した。</li> <li>✓ 留学生に対する福祉専門養成の充実を図り、各種資格取得を目指す留学生の受入れを向上させた。</li> </ul> <p><b>【健康栄養学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 早期より管理栄養士としての職業倫理の涵養を図るため、学科専門導入科目において職業倫理・キャリア教育を継続して実施した。</li> <li>✓ 管理栄養士養成施設のコア・カリキュラムに準拠した教育指導を行い、合格率の向上を図った。第 40 回管理栄養士国家試験の合格率は 78.0%であった。</li> <li>✓ 就職活動と管理栄養士国家試験の両立を促し、卒業時の就職率の向上を図った。2 月末時点の対卒業生・進学者数は前年比 96.5%、対就職希望者は前年比 102.0%であった。</li> </ul> <p><b>【薬学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 地域医療の人材育成およびヒューマンズ教育の一環として、近隣地区の高校生を対象とした体験学習型の事業および地域の期待に応える実践活動(OB、OG の講演等)を実施した。</li> <li>✓ 長崎県や薬剤師会、長崎大学と共同で高校生を対象とした薬学部進学セミナーを開催した。</li> <li>✓ 低学年の学生も参加できる薬学部企業研究セミナーを開催し、薬剤師としてのキャリア形成を推進した。</li> <li>✓ 4 次カリキュラムについての学部内での点検・評価に加えて、薬学教育評価機構による外部評価の意見も参考に、薬学教育モデル・コアカリキュラム(令和 4 年度改訂版)に対応したカリキュラム編成の準備を進めている。</li> </ul> <p><b>【人間社会学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 地方創生および地域を支える人材育成を目指し、産業界や地方公共団体と連携したリカレント教育の充実を図った。その結果、観光学 2 人、社会福祉学 1 人の履修証明プログラム修了者の実績を得た。</li> </ul> <p><b>【健康管理学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 長期履修制度を活用した社会人の研究活動の支援を継続し、修士課程修了者 1 人を輩出した。</li> </ul> <p><b>【薬学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 大学院生 1 人当たり主研究指導担当 1 人、副研究指導担当教員 2 人の指導体制を堅持した。</li> <li>✓ 研究進捗状況発表会等を通じて、大学院担当教員全員が大学院生の研究状況を把握し、建設的な議論・批評を行うことで、引き続き大学院生の研究能力取得、水準向上をすすめた。</li> </ul> |
| <p>戦略Ⅲ</p> | <p><b>【国際観光学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 国際観光研究所が中心となり、様々な産官学の取り組みを積極的に推進し、地域貢献を図ると共に本学の地域における存在感を示した。</li> <li>✓ スポーツ関連の取り組みにおいても、令和 7(2025)年度の地域連携活動 I A での「部活動地域移行の支援プログラム」、「スポーツフェスタ 2025」(来場者約 450 人規模のイベント)、などを通して、地域貢献を図ると共に本学の地域における存在感を示すことができた。</li> <li>✓ 観光ビジネスプランコンテストを開催した。本コンテストは、学生の日頃の学びの発表の場となるだけでなく、九州観光機構が主催する「2026 年度学生ビジネスプランコンテスト」へつなげる取り組みとして、大いに意義のある取り組みとなった。さらに充実したものに進化させていく。</li> <li>✓ 高度な観光経営人材の育成を目指したカリキュラムの構築については、まず一歩目として、令和 8(2026)年度の 1 年生より、ハウステンボスの協力を得て、「初年次インターンシップ」を必修科目として設定した。</li> </ul> <p><b>【社会福祉学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 海外学術交流校との学術・人事交流においては、中国の上海大学と「2025 年度上海大学社会学院短期研修プログラム」を 7/21～8/1(11 日間)の日程で開催し、上海大学からは計 11 人(学生 8 人、卒業生 2 人、引率教員 1 人)が参加した。</li> <li>✓ 地域の各方面からのボランティア活動依頼等に機敏に対応し、地域貢献を図るため、学科内のボランティアセンターを通して地域で求められているボランティア活動を学科の全学生及び教員への周知・募集を行っている。</li> <li>✓ 保護者との緊密な連携体制に基づく教育指導を行うため、保護者懇談会を実施し個別面談などを通し</li> </ul>  |

|      |   |
|------|---|
|      | <p>て保護者との連携を図った。さらに、保護者向けの学科説明資料の内容を再検討し作成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 実習受入れ機関・福祉事務所、包括連携協定先(佐世保市社会福祉協議会、平戸市社会福祉協議会)等との連携を通じて、産官学の連携強化を図ることができた。</li> </ul> <p><b>【健康栄養学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 保護者と情報共有を行い、保護者と連携した指導体制を維持した。</li> <li>✓ 長崎県や佐世保市、他大学と連携し、活動を行った。</li> </ul> <p><b>【薬学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 各教員において、国内外の大学や製薬企業との共同研究が進められている。</li> <li>✓ 長崎県薬剤師会と教育研究に関する協定を締結した。</li> <li>✓ 近隣の2つの医療機関と連携して、教員の研修や学生の臨床教育を行っている。また、次年度より新たに保険薬局での研修制度を導入する予定である。</li> <li>✓ 留年生の保護者に対して、面談(遠隔含む)や電話・メールによる相談を受け付けた。</li> <li>✓ 6年生の保護者を対象とした薬学部保護者懇談会を実施した。</li> <li>✓ 国際交流センター、SKY 日本語学校の協力のもと、韓国人留学生の保護者を対象とした保護者会(遠隔)を開催した。</li> <li>✓ JST のさくらサイエンスプログラムに採択され、モンゴル薬科大学から教員・学生8人を受け入れた。</li> <li>✓ 薬学部開設20周年記念式典を計画しており、同窓会との更なる関係強化を図る。</li> </ul> <p><b>【人間社会学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 留学生の多国籍化を推進するため、オンライン入試を実施するとともに、今後も継続して実施する。</li> <li>✓ 本学の訪問研究員制度等を活用し、海外学術交流協定校からの教員招聘に関する取組を推進した。</li> </ul> <p><b>【健康管理学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 食物アレルギーに関する研究成果を長崎県及び県内の施設にフィードバックした。</li> </ul> <p><b>【薬学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 将来国際的に活躍するために、必要な英語能力を修得・向上させる目的で、英語による講義開講を引き続き実施した。</li> </ul>   |
| 戦略IV | <p><b>【国際観光学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ICT を通じた教員間の情報交換、学生情報共有、デジタル活用による教育方法の多様化等を引き続き促進している。</li> </ul> <p><b>【社会福祉学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 福祉専門職の育成に向けた国試対策および実習において、ICT を活用することで教員・学生間の情報の共有、教授方法としてアクティブ・ラーニング手法の共有、デジタル活用による教育方法の多様化等を促進し、学生の能力に応じた学修支援の深化を図った。</li> <li>✓ 令和6(2024)年度より導入した実習支援システム(実習記録等のオンライン化)の効果的な運用を図り、専門職養成においてより効率化を図るとともに教育の質を向上させることができた。</li> </ul> <p><b>【健康栄養学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 基礎学力の修得に向けた反復学習や欠席者の補講のツールとして ICT の活用を継続した。</li> <li>✓ 個人面談等の学生指導の効率化を図り、ICT の活用を継続した。</li> </ul> <p><b>【薬学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 対面授業と並行して、オンデマンド授業の導入、授業動画の配信などにより、学習効果を向上させた。</li> <li>✓ 文部科学省「With コロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」により導入した教材を事前学習(4年生対象)に活用し、遠隔診療に対応できる人材の育成を進めている。</li> <li>✓ CBT や国家試験対策にも活用できる CAI システムについて、内容を充実させた新システムへの変更を予定している。</li> </ul> <p><b>【人間社会学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 遠隔授業と対面授業を併用した講義・研究指導は、国内外の遠隔地で勤務する社会人大学院生に対する教育効果を高めた。</li> </ul> <p><b>【健康管理学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ オンラインによる共同研究者との打ち合わせや学会・研究会への参加を行った。</li> </ul> <p><b>【薬学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 進捗状況報告会の機会を利用して、大学院担当教員全員が大学院生の発表資料、発表・討議に対する臨み方、受け答え等について助言を行い、プレゼンテーション能力の向上をすすめた。</li> </ul> |
| 戦略V  | <p><b>【国際観光学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 今年度も、自治体が主催する各種審議会、懇話会および企業、協会等との取り組みなどにより、学科教員の地域での存在感を示すことができた。また SNS 等も活用し、学科情報の紹介を行い、認知度、ブランド力向上に貢献した。</li> <li>✓ オープンキャンパスでは、今年度も学科独自で実施したアンケートに基づき、改善を加えながら、学科の魅力を伝えることができたことが、入学者の増にもつながったと考える。</li> </ul> <p><b>【社会福祉学科】</b></p>  |

|          |  |
|----------|--|
|          | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 定員充足を至上命題とし、各部署との緊密な連携を図りながら、第2回オープンキャンパスの前日に実施した野球部のセレモニーへの参加者を対象に個別説明会を実施した。また、入試募集センターと連携し大学訪問・模擬授業を年間17件実施した。</li> <li>✓ 社会福祉士国家試験合格率92.3%、精神保健福祉士・介護福祉士各100%の達成することができた。</li> <li>【健康栄養学科】</li> <li>✓ 管理栄養士国家試験の合格率が低下した(前年度95.5%から、今年度78.0%)。</li> <li>✓ 大学公式サイト及びSNSを活用し、大学生活、研究・教育活動等の情報発信を継続した。</li> <li>✓ 学科の特色をいかした催事を3件(キッズキャンパスを含む)開催し、地域貢献や大学・学科の広報に寄与した。</li> <li>✓ 入学定員の充足率は77.5%であり、前年度83.3%から低下した。</li> <li>【薬学科】</li> <li>✓ 研究成果は、大学ホームページや学術大会、学術雑誌などで発表し、また、研究成果をもとにした特許申請・取得もされている。</li> <li>✓ 近隣の高校生を対象とした体験型学習を実施し、認知度向上に努めた。</li> <li>✓ 薬剤師国家試験の新卒の合格率は83.1%(全国平均86.3%)であり、昨年度(88.6%)より低下したため、次年度は合格率が向上するように、教員一同、引き続き努力する。</li> <li>✓ 薬剤師資格取得者は累計で1,302人となり、卒業生の約93%が薬剤師資格を取得している。また、長崎県内薬剤師の約1割、佐世保市内薬剤師の約2割が本学卒業生となっている。</li> <li>【人間社会学研究科】</li> <li>✓ 大学院担当教員の紹介および大学院生の研究活動を、大学ホームページを通じて国内外に発信し、志願者の確保に努めた。</li> <li>【健康管理学研究科】</li> <li>✓ 大学公式サイトやSNSで大学院生及び教員の研究活動について発信を行った。</li> <li>✓ 入学者は3人であり、前年度0人から増加したが、定員を充たせていない。</li> <li>【薬学研究科】</li> <li>✓ 大学院生や教員の各種受賞、論文発表、研究費取得のニュースを適宜リリースし、認知度・ブランドの向上を図った。</li> </ul> |
| 戦略VI     | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学納金収入および補助金収入については、外部環境の変化等により当初見込みを下回る結果となり、収入減少幅が拡大した。これを受け、速やかに収支見通しの見直しを行い、より厳格な収支管理のもとで支出の適正化および事業の優先順位付けを進めるなど、機動的な対応により財務バランスの確保に努めた。</li> <li>✓ 支出面においては、物品調達および役務提供委託に係る手続の透明性向上と契約内容の見直しを実施し、合理的かつ経済的な調達の推進に取り組んだ。一方で、賃金・物価上昇の影響により消耗品費等は増加したものの、使用量の適正化や執行管理の強化を図るとともに、水光熱費については使用状況の見直し等により抑制を実現し、コスト増加の影響の緩和に努めた。</li> <li>✓ また、施設設備投資については、建設費の高騰等の経済情勢を踏まえ、整備内容および実施時期の見直しを行い、優先度に応じた段階的な資金確保を進めることで、財務負担の平準化と将来を見据えた安定的な財務運営に取り組んだ。</li> <li>✓ 以上の取組により、厳しい収入環境の下においても収支構造の改善と財務基盤の健全性確保に向けた対応を着実に推進した。</li> </ul>  |
| 学園内の連携促進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>【国際観光学科】</li> <li>✓ 九州文化学園高等学校の内部進学説明会に学科教員を派遣するなど、学園内の連携を強化するとともに、内部進学を促進することに寄与することができた。</li> <li>✓ 学園内の学校に、非常勤講師を派遣することで連携促進を図った。</li> <li>【社会福祉学科】</li> <li>✓ 法人本部主催による福祉分野連携会議(大学、短大、高校の福祉領域の担当教員と法人本部職員が参加)への参加を通じて、学園内の連携、情報共有を図ることができた。</li> <li>✓ 九州文化学園高等学校保育福祉科福祉コース2年生を対象とした介護体験学習を本学で実施し、介護担当教員を中心に対応にあたった。大学での福祉の学びを喚起することができ、参加生徒への大学進学の相談を気楽にできる環境調整を行うなど、学園内進学の促進に寄与することができた。</li> <li>【健康栄養学科】</li> <li>✓ 学園内の九州文化学園高等学校及び長崎短期大学との連携を強化し、継続して内部進学を促進を図った(前年度13人及び4人から、今年度10人及び3人)。</li> <li>【薬学科】</li> <li>✓ 出前講義や内部進学説明会による九州文化学園高等学校との高大連携の強化、九州文化学園高等学校教員との意見交換会、九州文化学園小中学生を対象とした理科系の魅力紹介を推進している。</li> <li>✓ 次年度より、社会福祉学科および九州文化学園高等学校衛生看護専攻科との合同授業を計画している。</li> <li>【人間社会学研究科】</li> </ul>   |

|         |   |
|---------|---|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学園内との連携強化を図り、教員の進学を推進した結果、長崎国際大学の教員1人が観光学修士の学位を取得した。</li> <li>【健康管理学研究科】</li> <li>✓ 薬学部及び長崎短期大学との共同研究を継続して行い、論文や学会発表等で成果を報告した。</li> <li>【薬学研究科】</li> <li>✓ 本学ホームページ(学術研究)等を通じて、大学院生等の各種受賞、論文発表、研究費取得のニュースリリースを行い、認知度・ブランドの向上を引き続き進めた。</li> </ul>   |
| 付帯計画と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>【国際観光学科】</li> <li>✓ 国際観光学科の学生数の増加は、喜ばしいことではあるが、その一方で、様々な事項に対して、増加した学生への対応が厳しい状況が生じてきている点が課題である。</li> <li>【社会福祉学科】</li> <li>✓ 老朽化した設備・備品の点検し更新については、予定通り実施することができた。</li> <li>✓ 「部活動と福祉」と「留学生と福祉」のキーワードで、定員充足のための新たな戦略を検討し、各部署との連携しながら昨年度より入学定員の増加を達成することができた。</li> <li>【健康栄養学科】</li> <li>✓ 集団給食・調理実習室の改築・増設、研究環境の整備(ラボの設置)については継続課題である。</li> <li>✓ 老朽化した実習・研究機器備品は一部更新された。</li> <li>【薬学科】</li> <li>✓ 入学定員の充足に向けて、広報活動の強化、大学に隣接したJR駅の誘致、通学時間帯のスクールバスの増便、一般男子寮の設置などを要望していく。</li> <li>✓ 大学附属薬局の設置、配信用インフラの整備、講義室や研究スペース、実習室、PC室の不足についても、引き続き要望していく。</li> <li>✓ 「薬学教育モデルコアカリキュラム令和4年度改訂版」に対応すべく、カリキュラム整備を行う。</li> <li>✓ 薬学教育認証評価において指摘された改善すべき点や助言への対応を検討中である。</li> <li>【人間社会学研究科】</li> <li>✓ 海外学術交流協定校および海外大学教員の招聘に係る教育・研究環境整備として、大学院生室の備品整備を行った。</li> <li>【健康管理学研究科】</li> <li>✓ 研究環境の整備(ラボの設置)は、引き続き課題である。</li> <li>【薬学研究科】</li> <li>✓ ニュースリリース等を通じて、研究活動を発信することで、薬学研究の魅力を紹介した。さらにニュースリリース数の増加とアピール向上を進めていく。</li> </ul> |

## 7) 主要情報

### (1) 卒業・修了者数、学位・資格等に関する実績

#### 【学部卒業者数】

| 学部      | 学科       | 令和7(2025)年度 |      |        |
|---------|----------|-------------|------|--------|
|         |          | 9月秋季        | 3月春季 | 合計     |
| 人間社会学部  | 国際観光学科   | 20人         | 176人 | 196人   |
|         | 社会福祉学科   | 0人          | 55人  | 55人    |
| 健康管理学部  | 健康栄養学科   | 6人          | 50人  | 56人    |
| 薬学部     | 薬学科(6年制) | 8人          | 77人  | 85人    |
| 総計      |          | 34人         | 358人 | 392人   |
| 卒業生数の累計 |          |             |      | 9,005人 |

#### 【大学院修了者数】

| 研究科      | 学科                 | 令和7(2025)年度 |      |      |
|----------|--------------------|-------------|------|------|
|          |                    | 9月秋季        | 3月春季 | 合計   |
| 人間社会学研究科 | 観光学専攻(修士課程)        | 3人          | 9人   | 12人  |
|          | 社会福祉学専攻(修士課程)      | 0人          | 4人   | 4人   |
|          | 地域マネジメント専攻(博士後期課程) | 1人          | 2人   | 3人   |
| 健康管理学研究科 | 健康栄養学専攻(修士課程)      | 0人          | 1人   | 1人   |
| 薬学研究科    | 医療薬学専攻(4年制博士課程)    | 0人          | 0人   | 0人   |
| 総計       |                    | 4人          | 16人  | 20人  |
| 修了者数の累計  |                    |             |      | 246人 |

#### 【学位および国家資格・免許等の実績】

| 学位・資格・免許等人 | 取得者  | 備考                             |
|------------|------|--------------------------------|
| 学位：学士      | 392人 | 春季：358人、秋季：34人                 |
| 学位：修士      | 17人  | 春季：14人、秋季：3人                   |
| 学位：博士      | 2人   | 春季：1人、秋季：1人                    |
| 社会福祉士      | 24人  | 合格率：92.3%                      |
| 精神保健福祉士    | 6人   | 合格率：100.0%                     |
| 介護福祉士      | 4人   | 合格率：100.0%                     |
| 管理栄養士      | 39人  | 合格率：78.0%                      |
| 薬剤師        | 64人  | 合格率：83.1%                      |
| 教育職員免許状    | 53人  | 高等学校：28人<br>中学校：24人<br>栄養教諭：1人 |

## (2) 主な行事等の開催実績

| 行事等人                | 実施日・期間等           | 備考                                       |
|---------------------|-------------------|--|
| 辞令交付式               | 4月1日(火)           |  |
| 入学式                 | 4月2日(水)           |  |
| フレッシュマンセミナー         | 4月12日(土)          |  |
| ハイスクール茶会            | 5月17日(土)          | 17高校参加 生徒200人<br>高校顧問・外部講師63人            |
| 第1回オープンキャンパス        | 7月20日(日)          |  |
| 第2回オープンキャンパス        | 8月3日(日)           |  |
| 第3回オープンキャンパス        | 8月24日(日)          |  |
| 秋季卒業式               | 9月6日(土)           |  |
| 秋季入学式               | 9月19日(金)          |  |
| NIU キッズキャンパス        | 11月1日(土)          | 16講座<br>受付者：小学生162人、同伴者192人              |
| 開国祭                 | 11月8日(土)、11月9日(日) |  |
| NIU スポーツアワード        | 1月15日(木)          | 7項目の戦績、GPA、新人賞、地域スポーツ振興活動賞他、個人、団体に表彰を実施。 |
| 九州文化学園 80周年記念大茶会    | 12月7日(日)          |  |
| 九州文化学園 80周年記念式典・祝賀会 | 12月15日(月)         |  |
| 春季卒業式               | 3月7日(土)           |  |
| 第4回オープンキャンパス        | 3月15日(日)          |  |

### <入試関係日程>

| 入試区分       | 実施日                   | 備考                             |
|------------|-----------------------|--------------------------------|
| 総合選抜型Ⅰ期    | 10月18日(土)             |                                |
| 学校推薦型選抜A日程 | 11月22日(土)             |                                |
| 総合選抜型Ⅱ期    | 11月22日(土)             |                                |
| 学校推薦型選抜B日程 | 12月20日(土)             |                                |
| 大学入学共通テスト  | 1月17日(土)<br>～1月18日(日) | 本学の大学入学共通テスト利用選抜では独自の学力試験は行わない |
| 一般選抜A日程    | 2月4日(水)～2月5日(木)       |                                |
| 一般選抜B日程    | 3月5日(木)               |                                |
| 追加日程       | 3月24日(火)              | 社会福祉学科、健康栄養学科、薬学科              |

## 8) 年度の事業計画の進捗・達成状況

### (1) 学部・学科、研究科・専攻の基本方針

| 学部学科コース・区分の名称 | 年度の基本方針の達成状況   |
|---------------|--|
| 人間社会学部国際観光学科  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 今年度も、教職員の地道な努力と様々な取り組みが功を奏した結果、定員を上回る学生を確保することができた。ステークホルダーから支持され、選ばれた結果であると考えている。</li> <li>✓ 高校生を対象とした模擬授業は、入試・募集センターと密接に連携しながら対応した。</li> <li>✓ 国際観光研究所では、近隣地域の自治体等との取り組みを通して、地域貢献に</li> </ul> |

|                       | <p>寄与した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 地域のスポーツ振興のために「NIU マルチスポーツ塾」、「スポーツフェスタ 2025」などを開催し、学内外の多くの方が参加した。</li> <li>✓ 教員の研究活動としては、令和 7(2025)年度の学科共同研究費に対しては、新規 10 件の研究申請が受理され、それぞれの研究課題に取り組んだ。</li> </ul> <p>&lt;資格等の実績&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格等人</th> <th>実績</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国内旅行業務取扱管理者</td> <td>1 人</td> <td>+科目合格者 1 人</td> </tr> <tr> <td>総合旅行業務取扱管理者</td> <td>1 人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>学芸員</td> <td>28 人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>公務員</td> <td>26 人</td> <td>市町村行政職 3 人、自衛隊 5 人、警察官 1 人、消防 2 人、教員 15 人(内、臨採 12 人)</td> </tr> <tr> <td>秘書検定</td> <td>3 級合格 2 人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>日本スポーツ協会<br/>公認スポーツ指導者</td> <td>延 26 人(実人数 14 人)</td> <td>スポーツコーチング<br/>リーダー14 人、アシスタントマネージャー1 人、<br/>ジュニアスポーツ指導員 11 人</td> </tr> <tr> <td>健康運動実践指導者</td> <td>2 人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>マリンスポーツ(ダイビング)</td> <td>14 人</td> <td>オープン 12 人、アドバンス 2 人</td> </tr> <tr> <td>TOEIC(500 点以上)</td> <td>16 人</td> <td>内 6 人が 700 点以上</td> </tr> <tr> <td>教育職員一種免許状</td> <td>27 人(実人数)</td> <td>免許申請数 51 件(中社 4、中英 3、中保体 17、<br/>高地歴 4、高英 3、高保体 20)</td> </tr> <tr> <td>茶道鎮信流初歩伝</td> <td>68 人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>茶道鎮信流初伝</td> <td>16 人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ホテルビジネス実務検定</td> <td>ベーシック 2 級 14 人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 資格等人   | 実績 | 備考 | 国内旅行業務取扱管理者 | 1 人                         | +科目合格者 1 人 | 総合旅行業務取扱管理者 | 1 人             |                         | 学芸員     | 28 人            |                         | 公務員           | 26 人 | 市町村行政職 3 人、自衛隊 5 人、警察官 1 人、消防 2 人、教員 15 人(内、臨採 12 人) | 秘書検定                | 3 級合格 2 人 |  | 日本スポーツ協会<br>公認スポーツ指導者 | 延 26 人(実人数 14 人) | スポーツコーチング<br>リーダー14 人、アシスタントマネージャー1 人、<br>ジュニアスポーツ指導員 11 人 | 健康運動実践指導者     | 2 人 |  | マリンスポーツ(ダイビング) | 14 人 | オープン 12 人、アドバンス 2 人 | TOEIC(500 点以上) | 16 人 | 内 6 人が 700 点以上 | 教育職員一種免許状 | 27 人(実人数) | 免許申請数 51 件(中社 4、中英 3、中保体 17、<br>高地歴 4、高英 3、高保体 20) | 茶道鎮信流初歩伝 | 68 人 |  | 茶道鎮信流初伝 | 16 人 |  | ホテルビジネス実務検定 | ベーシック 2 級 14 人 |  |
|-----------------------|--|--|----|----|-------------|-----------------------------|------------|-------------|-----------------|-------------------------|---------|-----------------|-------------------------|---------------|------|--|---------------------|-----------|--|-----------------------|------------------|--|---------------|-----|--|----------------|------|---------------------|----------------|------|----------------|-----------|-----------|--|----------|------|--|---------|------|--|-------------|----------------|--|
| 資格等人                  | 実績   | 備考   |    |    |             |                             |            |             |                 |                         |         |                 |                         |               |      |  |                     |           |  |                       |                  |  |               |     |  |                |      |                     |                |      |                |           |           |  |          |      |  |         |      |  |             |                |  |
| 国内旅行業務取扱管理者           | 1 人  | +科目合格者 1 人   |    |    |             |                             |            |             |                 |                         |         |                 |                         |               |      |  |                     |           |  |                       |                  |  |               |     |  |                |      |                     |                |      |                |           |           |  |          |      |  |         |      |  |             |                |  |
| 総合旅行業務取扱管理者           | 1 人  |  |    |    |             |                             |            |             |                 |                         |         |                 |                         |               |      |  |                     |           |  |                       |                  |  |               |     |  |                |      |                     |                |      |                |           |           |  |          |      |  |         |      |  |             |                |  |
| 学芸員                   | 28 人   |  |    |    |             |                             |            |             |                 |                         |         |                 |                         |               |      |  |                     |           |  |                       |                  |  |               |     |  |                |      |                     |                |      |                |           |           |  |          |      |  |         |      |  |             |                |  |
| 公務員                   | 26 人   | 市町村行政職 3 人、自衛隊 5 人、警察官 1 人、消防 2 人、教員 15 人(内、臨採 12 人)       |    |    |             |                             |            |             |                 |                         |         |                 |                         |               |      |  |                     |           |  |                       |                  |  |               |     |  |                |      |                     |                |      |                |           |           |  |          |      |  |         |      |  |             |                |  |
| 秘書検定                  | 3 級合格 2 人  |  |    |    |             |                             |            |             |                 |                         |         |                 |                         |               |      |  |                     |           |  |                       |                  |  |               |     |  |                |      |                     |                |      |                |           |           |  |          |      |  |         |      |  |             |                |  |
| 日本スポーツ協会<br>公認スポーツ指導者 | 延 26 人(実人数 14 人)   | スポーツコーチング<br>リーダー14 人、アシスタントマネージャー1 人、<br>ジュニアスポーツ指導員 11 人 |    |    |             |                             |            |             |                 |                         |         |                 |                         |               |      |  |                     |           |  |                       |                  |  |               |     |  |                |      |                     |                |      |                |           |           |  |          |      |  |         |      |  |             |                |  |
| 健康運動実践指導者             | 2 人  |  |    |    |             |                             |            |             |                 |                         |         |                 |                         |               |      |  |                     |           |  |                       |                  |  |               |     |  |                |      |                     |                |      |                |           |           |  |          |      |  |         |      |  |             |                |  |
| マリンスポーツ(ダイビング)        | 14 人   | オープン 12 人、アドバンス 2 人  |    |    |             |                             |            |             |                 |                         |         |                 |                         |               |      |  |                     |           |  |                       |                  |  |               |     |  |                |      |                     |                |      |                |           |           |  |          |      |  |         |      |  |             |                |  |
| TOEIC(500 点以上)        | 16 人   | 内 6 人が 700 点以上   |    |    |             |                             |            |             |                 |                         |         |                 |                         |               |      |  |                     |           |  |                       |                  |  |               |     |  |                |      |                     |                |      |                |           |           |  |          |      |  |         |      |  |             |                |  |
| 教育職員一種免許状             | 27 人(実人数)  | 免許申請数 51 件(中社 4、中英 3、中保体 17、<br>高地歴 4、高英 3、高保体 20)         |    |    |             |                             |            |             |                 |                         |         |                 |                         |               |      |  |                     |           |  |                       |                  |  |               |     |  |                |      |                     |                |      |                |           |           |  |          |      |  |         |      |  |             |                |  |
| 茶道鎮信流初歩伝              | 68 人   |  |    |    |             |                             |            |             |                 |                         |         |                 |                         |               |      |  |                     |           |  |                       |                  |  |               |     |  |                |      |                     |                |      |                |           |           |  |          |      |  |         |      |  |             |                |  |
| 茶道鎮信流初伝               | 16 人   |  |    |    |             |                             |            |             |                 |                         |         |                 |                         |               |      |  |                     |           |  |                       |                  |  |               |     |  |                |      |                     |                |      |                |           |           |  |          |      |  |         |      |  |             |                |  |
| ホテルビジネス実務検定           | ベーシック 2 級 14 人   |  |    |    |             |                             |            |             |                 |                         |         |                 |                         |               |      |  |                     |           |  |                       |                  |  |               |     |  |                |      |                     |                |      |                |           |           |  |          |      |  |         |      |  |             |                |  |
| 人間社会学部社会福祉学科          | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 入学定員の確保に努めたが、令和 8(2026)年度は 75.0%(前年 60.0%) 前年比+9 人で入学者が増加した。定員確保にむけた改善策を学科内と入試募集センターなどと協議しながら、今後さらに取り組みを強化していく。</li> <li>✓ 国家試験の合格率は、社会福祉士が 92.3%、介護福祉士・精神保健福祉士が 100%で目標を達成することができた。国家試験合格率の向上に向けて、学修プログラムの改善と学生の意識向上を図り、新カリキュラムの特性を生かした着実な学修支援をさらに発展させることで国家試験合格率の維持・向上を図っていく。</li> <li>✓ 学科教員数が大幅に減少する中で、教育の質を損なわない範囲での効率的な科目担当配置のあり方を検討し、各教員の担当科目数の削減を図ったうえで、令和 8(2026)年度の学科専門科目担当者の配置に反映した。</li> </ul> <p>&lt;資格等の実績&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格等人</th> <th>実績</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会福祉士</td> <td>合格率 92.3%<br/>(26 人中 24 人合格)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>介護福祉士</td> <td>合格率 100.0%(4 人)</td> <td>内、社会福祉士との<br/>ダブル合格者 1 人</td> </tr> <tr> <td>精神保健福祉士</td> <td>合格率 100.0%(6 人)</td> <td>内、社会福祉士との<br/>ダブル合格者 5 人</td> </tr> <tr> <td>スクールソーシャルワーカー</td> <td>3 人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高等学校教諭一種免許状<br/>(福祉)</td> <td>1 人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>福祉心理士</td> <td>3 人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>パラスポーツ指導員(初級)</td> <td>1 人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  | 資格等人   | 実績 | 備考 | 社会福祉士       | 合格率 92.3%<br>(26 人中 24 人合格) |            | 介護福祉士       | 合格率 100.0%(4 人) | 内、社会福祉士との<br>ダブル合格者 1 人 | 精神保健福祉士 | 合格率 100.0%(6 人) | 内、社会福祉士との<br>ダブル合格者 5 人 | スクールソーシャルワーカー | 3 人  |  | 高等学校教諭一種免許状<br>(福祉) | 1 人       |  | 福祉心理士                 | 3 人              |  | パラスポーツ指導員(初級) | 1 人 |  |                |      |                     |                |      |                |           |           |  |          |      |  |         |      |  |             |                |  |
| 資格等人                  | 実績   | 備考   |    |    |             |                             |            |             |                 |                         |         |                 |                         |               |      |  |                     |           |  |                       |                  |  |               |     |  |                |      |                     |                |      |                |           |           |  |          |      |  |         |      |  |             |                |  |
| 社会福祉士                 | 合格率 92.3%<br>(26 人中 24 人合格)  |  |    |    |             |                             |            |             |                 |                         |         |                 |                         |               |      |  |                     |           |  |                       |                  |  |               |     |  |                |      |                     |                |      |                |           |           |  |          |      |  |         |      |  |             |                |  |
| 介護福祉士                 | 合格率 100.0%(4 人)  | 内、社会福祉士との<br>ダブル合格者 1 人                                    |    |    |             |                             |            |             |                 |                         |         |                 |                         |               |      |  |                     |           |  |                       |                  |  |               |     |  |                |      |                     |                |      |                |           |           |  |          |      |  |         |      |  |             |                |  |
| 精神保健福祉士               | 合格率 100.0%(6 人)  | 内、社会福祉士との<br>ダブル合格者 5 人                                    |    |    |             |                             |            |             |                 |                         |         |                 |                         |               |      |  |                     |           |  |                       |                  |  |               |     |  |                |      |                     |                |      |                |           |           |  |          |      |  |         |      |  |             |                |  |
| スクールソーシャルワーカー         | 3 人  |  |    |    |             |                             |            |             |                 |                         |         |                 |                         |               |      |  |                     |           |  |                       |                  |  |               |     |  |                |      |                     |                |      |                |           |           |  |          |      |  |         |      |  |             |                |  |
| 高等学校教諭一種免許状<br>(福祉)   | 1 人  |  |    |    |             |                             |            |             |                 |                         |         |                 |                         |               |      |  |                     |           |  |                       |                  |  |               |     |  |                |      |                     |                |      |                |           |           |  |          |      |  |         |      |  |             |                |  |
| 福祉心理士                 | 3 人  |  |    |    |             |                             |            |             |                 |                         |         |                 |                         |               |      |  |                     |           |  |                       |                  |  |               |     |  |                |      |                     |                |      |                |           |           |  |          |      |  |         |      |  |             |                |  |
| パラスポーツ指導員(初級)         | 1 人  |  |    |    |             |                             |            |             |                 |                         |         |                 |                         |               |      |  |                     |           |  |                       |                  |  |               |     |  |                |      |                     |                |      |                |           |           |  |          |      |  |         |      |  |             |                |  |

|                        |  |
|------------------------|--|
| 健康管理学部健康栄養学科           | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 管理栄養士国家試験の合格率は、前年度に比べ低下したが、人間力と実践力を備えた人材育成を行った。</li> <li>✓ 九州文化学園高等学校との連携の強化に継続して取組、入学者を確保した。</li> <li>✓ 保護者と連携した指導体制を継続し、また入学前オリエンテーションを実施し、離学防止に努めた。</li> </ul>   |
| 薬学部薬学科                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 入学定員の確保に努めたが、令和8(2026)年度は定員確保には至らなかった。定員確保に向けた改善策を入試・募集センターなどの関係部署と協議する。</li> <li>✓ 入学定員確保に向けて、韓国のSKY日本語学校において説明会を行った。</li> <li>✓ 高校生を対象とした体験実験を通して、薬学部の魅力を紹介し、入試募集活動に努めた。出前講義、薬剤師の職業紹介、施設見学、体験実験など、要望があれば、原則として随時受け入れており、今後も継続する。</li> <li>✓ 小中学生を対象とした理科系進学啓蒙活動を行った。</li> <li>✓ 薬剤師国家試験の新卒合格率は83.1%(全国平均86.3%)であり、合格率向上に向けて成績下位者への学習支援を強化する。</li> <li>✓ 基礎学力向上、留年生対策、離学防止のために、薬学教育支援センターを中心に、入学前教育や基礎科目の補習、個別面談を行った。</li> <li>✓ 査読付き学術論文の公表、外部資金獲得、学会発表、共同研究の推進を促し、研究業績は大学ホームページや長崎国際大学論叢で公表した。</li> <li>✓ 就職希望者に対する就職率は100%であり、今後もこの実績を維持する。</li> </ul>                            |
| 人間社会学研究科観光学専攻          | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 観光学専攻在学生の国際観光学会での発表を通じた研究力の向上は、概ね達成している。</li> <li>✓ 特別研究での指導に加え、『観光学論集』への投稿論文の指導を行うことで、修士論文の質的向上を達成している。</li> <li>✓ 主指導教員1人、副指導教員2人の3人体制による論文指導を前年度同様に実施しており、修士論文の質的向上は達成している。</li> <li>✓ 履修証明プログラムを修了した2人に、履修証明書を交付した。自治体との協働に関しては、九十九島水族館との共同研究が行われている。社会人入学については未達成である。</li> <li>✓ 観光学専攻教員が外部資金ならびに学長裁量経費を獲得し、研究を実施している。</li> <li>✓ 不開講科目の一部を削除し、カリキュラムの更なる充実を行っている。</li> </ul>  |
| 人間社会学研究科社会福祉学専攻        | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ コロナ禍により停滞していた海外学術交流校(中国・上海大学)との学術・人事交流を復活させ、夏季休暇中に上海大学の訪問団を受け入れた。</li> <li>✓ 留学生に対する日本語による論文執筆指導を通して、グローバルな教育・研究を推進した。今年度は留学生1人が修士論文中間発表を終えた。</li> <li>✓ パソコンや分析ソフト等の備品を整備し、院生の研究環境改善に取り組んだ。</li> <li>✓ 福祉機関との包括連携協定を基盤として、学生とともにフィールドワーク研究を推進することで、地域福祉研究のプラットフォーム形成を目的に、令和7(2025)年11月21日(金)に、履修証明プログラム履修者1人、院生2人、学部生1人の参加のもと、社会福祉法人「ながよ光彩会」において、施設見学、職員によるレクチャー、住民との交流会を実施した。</li> <li>✓ 県内の社会福祉職者のキャリアアップを目的としたリカレント教育を推進し、現職者のスキル向上に取り組んだ。今年度は履修証明プログラムに1人の受講応募があり、修了生1人には、令和8(2026)年3月30日(月)に行われた授与式において、学長より履修証明書が授与された。</li> <li>✓ 秋季入学試験を通して定員確保に努め、同試験により2人が入学した。</li> </ul> |
| 人間社会学研究科<br>地域マネジメント専攻 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 地域の経済活動の活発化や生活環境・労働環境の改善に向け、観光学および社会福祉学の視点から地域マネジメントに参画できる新たな知識・技能の修得を目的とした教育を推進した。</li> <li>✓ 博士号の学位を3年間の教育課程で取得できるよう研究指導体制を強化した。</li> <li>✓ 地域マネジメント専攻における主指導教員は、博士号の学位を有する専任教員とした。</li> <li>✓ 入学定員3人の確保に向け、研究指導の補助教員のうち実績を有する者を、観光学および社会福祉学分野から主指導教員に昇格させた。</li> <li>✓ 大学院生の研究能力向上および研究費に資するため、リサーチ・アシスタント制度の充実を図り、1人のリサーチ・アシスタントを採用した。</li> </ul>   |
| 健康管理学研究科健康栄養学専攻        | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 長期履修制度を活用し、無理のない学修・研究計画を立て遂行し、修士課程修了者1人を輩出した。</li> </ul>  |

|             |   |
|-------------|---|
|             | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 業績の積み上げ及び学位取得を促し、研究指導体制の向上を図っている。</li> <li>✓ 産学官の共同研究を推進し、外部資金獲得を目指している。</li> </ul>  |
| 薬学研究科医療薬学専攻 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 社会人の入学促進のため夜間、土曜日に、遠隔を含む講義を開講した。</li> <li>✓ グローバル化への対応として、博士号取得研究者として必要な英語能力を修得させる目的で、英語による講義の開講を継続した。</li> <li>✓ 学生の博士課程レベルの研究能力の修得・向上のため主研究指導担当教員と2人の副研究指導担当教員が責任を持って指導する体制を維持した。</li> </ul> |

## (2) 教育活動

| 取組の総括   |   |
|---|---|
| <p><b>【教務課】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教育活動としては、学園や大学の建学の精神・理念、教育目標や長崎国際大学の3ポリシー及び「令和7(2025)年度長崎国際大学及び大学院の学長方針」に基づき、学修者と教育者が学修成果及び教育成果を把握し明確に可視化できるようにホスピタリティ・ルーブリックやポートフォリオを活用した教員による面接を徹底した。加えて、3ポリシーに基づくカリキュラム編成については、「内部質保証」、「外部評価」及びアセスメント・ポリシーによる不断の見直しを行った。</li> <li>✓ より厳格な出席管理を実施する為、システムを変更し、令和8(2026)年度から運用することとした。加えて、教務課の履修・成績システムの改良を進め、学生及び保護者が成績をWEB上で確認できるようにし、令和8(2026)年度から運用を開始する。</li> </ul> <p><b>【図書課】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 図書館WEBサイトとmanabaを連携させた情報発信で、図書館でのサービスの周知を努めている。</li> <li>✓ 留学生への対応として、図書館2階に日本語能力試験(JLPT)関連図書、日本語多読ライブラリー等の日本語学習書や日本文化を知るための本を集めた「にほんごのひろば」を新設し、提供を開始した。</li> </ul> |   |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 理念や3ポリシーを通じた教育活動の実質化  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 建学の理念であるホスピタリティ獲得の為に、DPに定められた5つの諸能力を具現化したホスピタリティ・ルーブリックを使用した学修ポートフォリオを活用し、教員と学生による面談を通して教育活動の実質化を図った。</li> <li>✓ 引き続き教務委員会において「ホスピタリティ・ルーブリック」の入力状況を確認し、未入力の学生に対する指導を徹底した。</li> </ul>  |
| (2) ポリシーに基づく教育課程の編成・実施  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ DP及びCP点検について、教務委員会において令和9(2027)年度に向けた改訂について協議を行い、現状に合った文言修正等を含めた改訂案を作成した。</li> <li>✓ 令和8(2026)年度のDP及びCP点検については、各学科会議、教務委員会、各学部教授会、全学教授会において確認を行い、全学教育会議においても外部評価員による点検を実施した。</li> <li>✓ 留学生に対する教育効果の向上を図る為、全学共通科目の国際理解区分の日本語科目群を選択必修に変更することを全学共通教育委員会で協議、決定した。</li> <li>✓ 全学科において卒業ポートフォリオを作成し、単位修得状況や卒業論文要旨と共に外部評価を実施した。これらの外部評価については、各学部教授会における卒業判定の要素とした。</li> <li>✓ 全学教育会議において、本学のアセスメント・ポリシーに則り、各学科で検証した結果を確認し、次年度の教育課程に反映させた。</li> </ul> |
| (3) リカレント教育および社会人学生の支援  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和7(2025)年度は履修生：3人、及び履修修了生：3人であり、例年と同程度の人数で推移した。</li> <li>✓ 社会人の更なる受入れを目指し、大学院において、履修証明プログラム独自の科目により構成されたオンライン講座「ローカルいとなみカレッジ」を創設し、令和8(2026)年度より募集を開始する。</li> </ul>  |
| (4) 教育・学修・履修・支援の制度・体制の整備  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ GPA制度の更なる活用を目指し、健康管理学部及び薬学部における進級判定にGPA値を判定材料として導入し、薬学部においては本年度末の進級判定から実施した。</li> </ul>  |
| (5) 外国人留学生への日本語教育   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教育基盤センターにおいて、教職協働のもと以下の事項を実施した。</li> <li>◇ 新生の早期の離学防止対策として企画した入学予定者に対する入学前説明会については、常に見直しを行い、各学科特色のある取組みを実施した。</li> <li>◇ 指導補助者(TA・SA)に対する事前研修については、従来から義務付けており、ポートフォリオを活用し確実に実施した。</li> <li>✓ 教育基盤センター組織の再編を協議し、他の委員会との所管事項の重なりを考慮し、評価IR・研修部門の廃止を決定した。</li> </ul>  |
| (6) 数理・データサイエンス・AI教育の充実   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和9(2027)年度開設予定の情報学部情報デザイン学科について、文部科学省に対し設置認可を申請し、開設年度に向けた全学共通のカリキュラム変更及び学内の情報基盤整備計画を確認した。</li> </ul>  |

|                                  |  |
|----------------------------------|--|
| (7) 他大学等と連携した教育 (QSP の教育活動関係の取組) | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ QSP 科目群創出 WG(本学責任校)参画校と共同で、次年度以降単位互換制度の体制整備、科目開講のための準備が完了した。(西九州探求学など)</li> <li>✓ 『女子中高生の理系進路選択支援プログラム』を幹事校佐賀大学、西九州大学、佐世保工業高等専門学校、久留米工業大学、本学の5校で推進。中高生向けに出張講義や実験体験会などを実施。<br/>・6/14(土)リケフェス in 佐世保、9/28(日)リケフェス 2025(於：佐賀大学)</li> </ul> |
|----------------------------------|--|

### (3) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

| 取組の総括  |  |
|--|--|
| <p>✓ Society 5.0 時代に求められるデジタル技術と創造性を兼ね備えた人材を育成すべく、「情報学部情報デザイン学科(令和9(2027)年度開設予定)」の設置認可申請手続きを計画通り完遂した。これに伴い、全学的な教育資源の最適化を図るため、薬学部の収容定員変更の認可申請を適切に行うとともに、令和8(2026)年4月に届出予定の健康管理学部の収容定員変更の準備に着手し、時代の要請に即した教学組織の改編を組織的に推進した。また、内部質保証の観点から、各学部の定員充足状況を精査し、地域社会のニーズに合致した持続可能な教育体制の構築に向けた基盤を整備した。</p> |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 新学部の開設   | <p>✓ 「情報学部情報デザイン学科」の令和9(2027)年度開設に向け、文部科学省への設置認可申請手続きを滞りなく実施した。</p>  |
| (2) 未来を担う人材育成  | <p>✓ 既存学部においても、3 ポリシーに基づく教育課程の質保証を強化し、学修成果の可視化を推進した。情報学部新設の動きと連動し、全学的なデータサイエンス・AI教育の導入・検討を進めるなど、次世代の社会を牽引する専門性と人間性を備えた人材育成体制を拡充した。</p> |
| (3) 地域社会への貢献   | <p>✓ 地元の産業界や自治体との連携を深め、地域課題の解決に資する実践的な教育・研究を推進することで、知の拠点としての役割を強化した。</p>   |
| (4) 社会人リスクリング  | <p>✓ 地域社会のDX化および生涯学習ニーズの高まりを受け、社会人を対象としたリカレント・リスクリング教育プログラムについて検討した。</p>   |
| (5) 定員管理の適正化   | <p>✓ 18歳人口の減少を見据え、収容定員充足率の適正維持に向けた全学的な定員管理体制を強化した。入試制度の検証と広報戦略の最適化を図るとともに、学生一人ひとりに対する修学支援を充実させることで、中途退学率の抑制と満足度の向上に努めた。</p>            |

### (4) 研究活動

| 取組の総括   |   |
|---|---|
| <p><b>【産学連携・研究支援室】</b><br/>           ✓ 地域産業界との連携に関しては実績には至らず、引続き研究支援、産学連携推進の体制づくりを進める。研究倫理研修、研究費の適正使用に関するコンプライアンス研修、知財管理に係る研修、利益相反マネジメント、安全保障輸出管理などの各研修を通じてリスクマネジメントに対応できる研究環境の造成が図られた。<br/>           ✓ 学内で作成された教育、研究活動の学術成果を電子的に保存・蓄積し、学術機関リポジトリ(NIU-AIR)を通して発信するオープンサイエンスの推進は現在進行中である。</p> <p><b>【図書課】</b><br/>           ✓ 本学の研究データ管理体制の整備のため、産学連携・研究支援室と共同してポリシー策定等の協議を進めている。</p> |   |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 研究機関としての組織的な強化方針や研究課題活動   | <p>✓ 契約ベースの研究交流は浸透してきたが、未だ活性化までは至らず契約件数、金額の大幅な増加とはならなかった。 Grant(外部資金)等の情報提供支援の強化は引続き課題として取り組む。</p>                              |
| (2) 研究者個人の研究活動の支援   | <p>✓ 科研応募に必要なスキルアップ勉強会やリスクマネジメントの一環として利益相反マネジメント研修、安全保障輸出管理研究は予定通り実施した。</p>   |
| (3) 研究系の外部資金の獲得   | <p>✓ 科研費に関して応募件数は例年並みを確保できたが、採択件数については2件と前年比大幅ダウンとなった。科研費説明会の質の向上を図りつつ採択件数の増加に注力していく。また、全体として Grant(外部資金)の一層の獲得を推移する。</p>       |
| (4) 研究倫理の遵守や不正使用防止の啓発   | <p>✓ 基幹教員だけではなく、これらの研究者を補助する各研修室所属の研究支援者、TA、RA に対してコンプライアンス研修など研究倫理教育を実施した。URA 育成に関しては既にURA 認定機構の資格取得者がおり、実務経験を経て申請を予定している。</p> |

### (5) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

| 取組の総括   |  |
|---|--|
| <p><b>【キャリアセンター】</b><br/>           ✓ 年度初めより人員体制が不安定となり学生対応やキャリア・就職支援に支障が生じることがあったが、課員の増員</p> |  |

| <p>と学外者との業務委託契約、ハローワークからの出張相談の利用を取り入れ体制の安定化を図り就職・キャリア支援に務めた。</p> <p>【学生課】</p> <p>✓ 学生数減少の中、NIU シャトル号の運行や保護者会沖縄会場の再開と学生支援を向上させる一方、学長 Café 等でも一定の課題やリクエストがあがっている。</p> <p>【スポーツ支援・振興室】</p> <p>✓ 「学修支援・競技力向上支援・地域スポーツ振興活動支援」の 3 つの柱でスポーツ系学生の支援をすることを目的として、UNIVAS や長崎県・佐世保市から情報を得、スポーツサポートセンター及び強化指定部指導者との連携により進め、スポーツ系学生のサポートを行っている。</p> <p>【キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター】</p> <p>✓ 保健室・学生相談室・学生生活サポート室の三室連携により支援体制の充実を図り、教職員による支援と学生同士によるピア・サポートを推進した。さらに、ホスピタリティの醸成と学生の主体性および自己管理意識の向上に努めた。</p> <p>【図書課】</p> <p>✓ 選書ツアーを学部生 9 人、教職員 4 人で福岡の大型書店で実施し、学生目線の選書を行なった。ツアー後の選書はライブラリー・サポーター(LS)が代表本のポップを製作、館内での展示を展開し利用者へ利用促進に繋げた。また、LS の自主的な企画・活動を支援しビデオ上映会を開催し好評を得た。</p> <p>✓ 読書活動推進の一助として、各部門の代表者同士の書評合戦「ビブリオバトル in 九州文化学園」を実施した。</p> |   |
|--|---|
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 学長 Café  | <p>✓ 第 28 回(7 月 9 日)と第 29 回(2 月 6 日)の学長 Café を開催した。第 29 回では「公認団体」の学生に限定し、団体活動で困っていることや要望などが多く挙がった。これまでもリクエストがあった「砂利駐車場の水たまり対策」「暖房便座の増設」については、少しずつではあるが改善に向かっている。</p>  |
| (2) スクールバス運行   | <p>✓ 令和 7(2025)年 4 月 3 日より運行を開始した。運転手の人数や授業時間との兼ね合いから、早岐方面への運行が少なくなっているが、ヒューマンスクール早岐のスクールバスが早岐方面への運行をしており、そちらと協力をして学生の通学サポートを行っている。また、前期、後期終了後に学生へアンケートを実施し、運行ダイヤの変更や、駐車場所の追加等を行った。当該年度の利用者数は延べ 19,481 人。</p>   |
| (3) 喫煙対策   | <p>✓ 入学時に禁煙誓約書を提出してもらっているが、学生会主催の「タバコポイ捨て撲滅運動」(2 回/年)の巡回時はタバコが学内、学外の禁煙エリアに落ちているのが現状である。</p> <p>✓ 令和 7(2025)年度より、喫煙指導 1 回目は「厳重注意および停学勧告」(※20 歳未満は保証人へ連絡)、2 回目は「停学」と規定の厳罰化し抑止力の強化を図った。</p>  |
| (4) 奨学金  | <p>✓ 修学支援新制度の要件拡充、多子世帯に対する所得制限の緩和が実施されたことに伴い、本学における給付奨学生数は、令和 6(2024)年度の 281 人から令和 7(2025)年度は 524 人となり、前年比 86.5%増加した。制度改正の影響が顕著に表れる結果となった。</p> <p>✓ 制度の周知徹底および奨学金利用者へのきめ細かな支援を継続してきたが、申請受付、書類確認、進捗管理等の取扱いが急増し、学生支援における業務負荷が一層高まっている。こうした状況を踏まえ、令和 8(2026)年度からは奨学金業務の一部を外部委託し、事務処理体制の強化および学生サービスの質の維持・向上を目指す方針である。</p> |
| (5) 開国祭など  | <p>✓ 「新歓祭(4 月)」、「学生総会(5 月)」、「たばこポイ捨て撲滅運動(6・11 月)」、「開筋祭(6 月)」、「共用室一斉清掃(7 月)」、「卒業記念パーティー(9・3 月)」、「開国祭(11 月)」、「活動会計報告説明会(12 月)」、「バトンタッチセミナー(2 月)」など学生会をはじめ、大学祭実行委員会や公認団体と協働し、安全に配慮しながら、関係各所との調整を支援することで、学生の自主性を尊重しつつ円滑な運営に寄与した。</p>  |
| (6) チューリップハウス  | <p>✓ 建物自体の老朽化が進行しているため、積極的に修繕・新替え工事を実施している。今年度は推奨の耐用年数を 11 年超過していたキュービクル内の高圧機器の更新工事を行った。また、耐用年数を超過している給湯ボイラーお 3 基中 1 基が故障により停止中となっていた。冬場に残り 2 基のいずれかが故障した場合、生活に支障が出るため 2 基の更新工事を行った。</p> <p>✓ 令和 7(2025)年度末時点で 7 室の空き室が発生。(昨年度末の空き室は 8 室)収支状況を圧迫している。</p>   |
| (7) 就職支援   | <p>✓ 人員体制が大幅に変更になったことで、学生相談については外部者である専門家に委託し、職員との情報共有を徹底することで学生への就職支援を滞りなく行うことができた。公務員対策講座の受講生数が増加傾向にある(令和 6(2024)年度 31 人⇒令和 7(2025)年度 41 人)。引き続き学内での周知およびフォローを進める。</p>  |

|                             |  |
|-----------------------------|--|
|                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 強化指定部の監督等学者を含む関係者に就職市場の説明を行い、自立的な就職活動支援への協力を依頼した。</li> </ul>  |
| (8) 就職ガイダンス                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 各学科向けに各種ガイダンスを実施したが、学科により運営に対しての温度差があり、参加者が少ない回もいくつかあった。</li> </ul>   |
| (9) 留学生支援                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 留学生の就職支援強化を目的とした「留学生バスツアー」や「OBOG 講話」「日本特有のマナーを学ぶ」ガイダンス等を実施した。</li> <li>✓ 今後、留学生数も増加することが見込まれることから、留学生に対する就職支援の更なる充実を図る必要がある。</li> </ul>   |
| (10) インターンシップ対応             | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 長崎県インターンシップ推進協議会を通じて、13人(令和6(2024)年度14人)が県内企業および官公庁のインターンシップに参加した。また、今年度より4人の学校推薦枠を獲得した(株)JALの客室乗務員インターンシップに4人参加したことが新たな実績。</li> <li>✓ その他、キャリアセンターが把握しているインターンシップへの参加人数は42人。年々インターンシップの重要性が高まっていることから周知およびフォローを継続していく。</li> </ul>  |
| (11) CH サポートセンター内の3室連携      | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 三室が有機的に連携し、情報共有およびケース対応を一体的に行うことで、学生の多様な課題に対する迅速かつ切れ目のない支援体制を維持した。</li> </ul>   |
| (12) 保健室(健康診断・健康相談・保健指導)    | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 健康診断については、令和6(2024)年度に実施した委託機関の見直しによる運用を継続し、精度向上とコスト削減の両立を図った。</li> <li>✓ 健康診断受診率は令和7(2025)年度も100%を達成し、継続的に高い水準を維持している。健診日に未受診だった者に対しては個別対応を行い、確実な受診につなげた。</li> <li>✓ 感染症対策として健康チェックおよび申告フォームの運用を継続し、学内の安全確保に寄与した。</li> <li>✓ 「キャンパスライフ・ヘルスサポートセンターだより」をほぼ毎月発行し、継続的な健康教育と情報発信の充実を図った。</li> </ul>  |
| (13) 学生相談室(心理相談)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 心の健康調査(UPD)を活用したフィードバック面接および継続支援により、早期対応から継続支援までの体制を強化した。</li> <li>✓ 来室件数は前年並みを維持し、安定した相談支援機能を継続的に確保している。</li> <li>✓ 「NIU ランチアワー」を継続実施し、孤立防止および予防的支援の場として機能した。</li> </ul>   |
| (14) 学生生活サポート室(大学生生活相談)     | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 生活面・学修面・進路面の多様な相談に対応し、関係部門と連携した支援を実施した。</li> <li>✓ 相談件数は回復傾向にあり、コロナ禍以前の水準に近づいている。</li> </ul>  |
| (15) 長崎国際大学ピア・サポート学生組織(NPS) | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学生主体による支援活動を継続し、研修の体系化および開国祭での学術発表により、活動の可視化と質向上を図った。</li> <li>✓ 段階的研修プログラムの実施により受講率100%を達成し、支援スキルの向上に成果が認められた。</li> <li>✓ 自己研修用の動画教材を制作し、支援技術の標準化および継続的なスキル向上を図る体制を整備した。</li> <li>✓ 学長裁量経費により、PR動画を制作し、障がい理解の啓発および活動の発信力強化に取り組んだ。</li> </ul>   |
| (16) 合理的配慮の提供               | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 合理的配慮の提供内容検討会議を通じ、個別ニーズに応じた適切な支援提供を実施した。</li> <li>✓ 教務課等と連携し、公正性を担保した試験運用および学修環境の調整を行った。</li> </ul>   |
| (17) 障がい学生支援のプラットフォーム事業     | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学内外の関係機関と連携し、修学から就労までを見据えた支援体制の構築を推進した。</li> <li>✓ 地域連携を含めた支援ネットワークの強化に取り組み、継続的支援基盤の整備を進めた。</li> </ul>  |
| (18) スポーツ系学生に対する支援活動        | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ スポーツ系学生学修支援プログラム(離学防止対策)：強化指定部【9競技13団体：395人(381)】の学生を対象に、スポーツサポートセンターが定めたGPA及び単位取得数の基準を下回る者を抽出し、該当学生に対して、「スポーツ系学生学修支援プログラム」を後期週1回：計13(8)回実施した。該当学生は、強化指定部員数395人の内、25人(2024：10人 2023：32人)であった。</li> <li>✓ NIU スポーツアワード(1/15開催)：7項目の戦績、GPA、新人賞、地域スポーツ振興活動賞他、個人、団体に表彰を実施。</li> <li>✓ 暑熱・熱中症対策サポート事業：6団体に対し、支援。</li> <li>✓ 強化指定部サポート事業：10団体に対し、支援。</li> </ul> |

## (6) 国際交流・留学生支援活動

| 取組の総括   |  |
|---|--|
| <p>✓ 海外協定校との交流では継続して実施するとともに、新たに協定校との締結し、キャンパスの国際化を強力に推進した。留学生募集については、海外での募集環境の変化に対応し国内募集を強化やスリランカ現地入試の再開等を行った結果、令和8(2026)年度春季の留学生入学者数は前年度を上回るなど成果が見られた。また、地域社会と連携した交流プログラムを充実させ、留学生の日本社会への定着と日本人学生のグローバル意識の醸成を両立させた。一方で、一部の支援強化策については実施に至らず、今後の課題として残った。</p> |  |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 海外大学との交流の推進   | <p>✓ アメリカ、カナダ、イギリス等の既存協定校との交換留学プログラムを継続・実施。また、新たに韓国の大学との教育・研究連携に関するMOUを締結し、国際的な連携ネットワークを拡大した。</p>  |
| (2) 留学生募集の強化  | <p>✓ 韓国・中国を中心に海外現地説明会を実施し、特に韓国には年間複数回訪問した。日中関係の影響により中国での募集活動が難しい状況となったことから、日本国内での募集活動を強化し、東京入試会場および追試験を設置した。また、多様な背景を持つ留学生の確保に向け、スリランカ現地での入試が再開した。その結果、令和8(2026)年度春季留学生入学者数は101人となり、令和7(2025)年度春季の75人から増加するなど、募集活動の強化による成果が見られた。</p> |
| (3) 留学生支援体制の充実  | <p>✓ 留学生寮の適切な運営と生活指導を行い、安心・安全な居住環境を提供した。また、経済支援としての奨学金申請手続きを円滑に進めるとともに、在留資格更新等の行政手続き支援を徹底した。</p> <p>✓ 日本語能力、デジタル・IT教育、国内就職支援研修等の支援の強化および上級学年の学生(留学生を含む)のチューター配置については、実施に至らなかった。</p>  |
| (4) グローバル人材育成プログラムの充実   | <p>✓ 日本人学生を対象とした海外短期研修の実施や、学内での国際交流イベントを定期開催。語学学習支援と異文化理解を促進する機会を多角的に提供した。</p> <p>✓ 令和7(2025)年度においては、JASSOの支援事業を活用し、派遣留学生支援を実施した。奨学金の採用人数は10人であった。</p>   |
| (5) 学内外および地域との連携推進  | <p>✓ 佐世保市や地域団体と連携し、留学生が地域の行事やボランティアに参加する機会を創出。地域住民との相互理解を深め、多文化共生社会の実現に寄与した。佐世保市や地域団体と連携し、留学生が地域の行事やボランティアに参加する機会を創出。地域住民との相互理解を深め、多文化共生社会の実現に寄与した。</p>  |

## (7) 学生募集・広報活動

| 取組の総括   |  |
|---|--|
| <p>✓ 令和8(2026)年度春季は、457人(令和7(2025)年度比+2人)の入学者で、春季入学定員比88.7%、1年次入学定員比92.5%となり、定員充足には至らなかった。学科別の1年次入学定員比は、国際観光学科128.7%(前年117.9%)前年比+21人、社会福祉学科75.0%(前年60.0%)前年比+9人と向上したが、健康栄養学科では52.5%(前年77.5%)前年比△20人と大きく低下、薬学科は69.2%(前年69.2%)±0人と同値であった。</p> <p>✓ 日本人志願者は国際観光学科で対前年比90.1%と減少したが、留学生の入学者が141%と増加し入学定員を充足した。社会福祉学科は志願者対前年比66.7%、健康栄養学科の志願者も前年比64.8%と減少する結果となった。薬学科は志願者対前年比117%と増加したが、一般選抜A日程・共通テスト利用前期志願者の歩留まり率が低く前年入学者同数となった。受験者一人当たりの併願校数が減少している状況において、本学への志望順位度を高めるために広報手段の拡充と訴求ポイントを整理した対策を講じて次年度は定員充足を目指す。</p> |  |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 定員確保  | <p>✓ 入学定員と入学者数は下記の《学生募集の計画値と実績》の通りである。全学部1年生、編入学生、大学院の入学定員充足による安定した収容定員の維持を目指しての学生募集活動であったが、入学定員充足に至らなかった。秋季入学者での積み上げを図る。</p>  |
| (2) アドミッション・ポリシーの対応   | <p>✓ 入試改革内容と現アドミッション・ポリシーとの整合性の確認を行っている。必要に応じて変更内容を検討し、見直し後の検証を入試・募集委員会で行う。</p>  |
| (3) 学部学生の募集   | <p>✓ 進学説明会については、過去に実施した高校内説明会、会場説明会の実績について検証し、継続・不参加・新規参加するものを編成し、高校内89件、会場98件に参加し、延べ2,526人に説明を行った。次年度も計画的かつ積極的に参画することとしたい。</p> <p>✓ 高校訪問については、志願者入学者実績をベースに、訪問校リストを再編し、年1~3回の訪問校を設定した。昨年度から41校増やし365校491回の実績。次年度も情報伝達・収集を行い志願者獲得に繋げたい。</p> <p>✓ 進路選択活動の早期化に対応するためにWEB広告配信を11月、1月、2月に加えて6月、7月にも実施した。上記の進学説明会や各種広報媒体からの資料請求者の</p> |

|                  |  |
|------------------|--|
|                  | 保有リストは令和8(2026)年3月末時点において32,984人、前年比では1,487人増加し順調に推移した。これらを入学志願に繋げるために各学科の訴求ポイントを明確にして競合大学との差別化を図り定員確保を目指す。  |
| (4) 大学院生の募集      | ✓ 大学院生募集については、学部在生を中心に各研究科長・専攻長が定員確保に向けて取り組んでいる。令和8(2026)年春季は9人(前年16人)の入学者。このうち留学生は中国4人、台湾1人であった。  |
| (5) 外国人留学生の募集    | ✓ 国際交流・留学生支援センターを中心として、国内・海外における計画的な募集活動を実施している。人間社会学部の1年次入学者は、77人(前年度42人)の入学。編入学生については人間社会学部12人(前年14人)、薬学部6人(前年2人)。<br>✓ 外国人留学生B日程と追加日程入試において東京会場を設置した。中国人留学生25人が志願し国際観光学科に4人、社会福祉学科に13人が入学。  |
| (6) 高校との連携・協力    | ✓ 高校から依頼される出張講義に可能な限り参加することとし、28件32講座実施した。学科内訳は、国際観光11回、社会福祉4回、健康栄養8回、薬9回。<br>✓ 九州文化学園高等学校からの入学者は37人(前年40人)、このうち衛生看護専攻科から社会福祉学科へ3年次編入学が1人。引き続き次年度も情報交換や説明会により学園内部進学者の安定的な入学を図っていく。また、他校においても高大連携の案内強化に努める。   |
| (7) 既存入試制度の実施・改善 | ✓ 令和8(2026)年度入試では健康栄養学科に総合型選抜スポーツ実績型を新設し1人が志願したが不合格の結果であった。<br>✓ 令和7(2025)年度入試から薬学部を導入した理系探求型入試において初めてとなる2人の志願があり、特待Sと特待Bでそれぞれが入学した。   |
| (8) その他          | ✓ オープンキャンパスにおいては、7月・8月に計3回実施し1,026組1,762人の実績。昨年の869組1,470人から増加。3月開催においては、224組381人(前年202組317人)となり年間合計参加者数はコロナ禍後の5年間で順調に増加しており、目標値の年間1,200組2,000人動員を達成した。進路選択活動の早期化により高校1・2年生の参加者が増加しており、参加後から次年度のフォローにも重点を置いて対応していく。<br>✓ 6年目となるQSPによる鎮西学院大学、長崎外国語大学との3大学共同入試「地域創生支援リーダー育成入試」では、令和6(2024)年度に初めての入学者5人を迎え入れ、令和7(2025)年度は2人が入学し、本年度も県内高校訪問と高校3年生へのDMにて出願者を募り、4人が志願し入学者2人の実績。少子化が進む長崎県における地域創生の担い手のさらなる募集に努める。 |
| (9) 卒業生ネットワーク構築  | ✓ 受験生応援サイト内の特集頁、大学パンフレットの各学科頁、健康栄養学科と薬学科リーフレットの特集頁で卒業生の活躍を紹介。今後は大学進学WEB媒体への出稿を検討する。  |

《学生募集の計画値と実績》

| 項目                  |     | 令和8(2026)年度入試 |        | 令和7(2025)年度入試実績 | 前年度比較 |      |      |
|---------------------|-----|---------------|--------|-----------------|-------|------|------|
|                     |     | 計画設定値         | 実績(春季) |                 |       |      |      |
| 留学生入学者の目標人数(編入学生含む) |     | 70人           | 97     | 60人             | +37人  |      |      |
| 入学者数                |     | 530人          | 457    | 455人            | +2人   |      |      |
| 入学者数                | 学部  | 国際観光学科        | 入学者数   | 200人            | 251   | 230人 | +21人 |
|                     |     |               | 編入学者数  | 30人             | 14    | 12人  | +2人  |
|                     |     | 社会福祉学科        | 入学者数   | 60人             | 45    | 36人  | +9人  |
|                     |     |               | 編入学者数  | 0人              | 3     | 6人   | △3人  |
|                     |     | 健康栄養学科        | 入学者数   | 80人             | 42    | 62人  | △20人 |
|                     |     |               | 編入学者数  | 10人             | 7     | 8人   | △1人  |
|                     | 薬学科 | 入学者数          | 120人   | 83              | 83人   | ±0人  |      |
|                     |     | 編入学者数         | 0人     | 3               | 2人    | +1人  |      |
|                     | 計   |               | 500人   | 448             | 439人  | +9人  |      |
|                     | 大学院 | 観光学専攻         | 10人    | 2               | 5人    | △3人  |      |
| 社会福祉学専攻             |     | 10人           | 4      | 2人              | +2人   |      |      |
| 地域マネジメント専攻          |     | 3人            | 2      | 3人              | △1人   |      |      |
| 健康栄養学専攻             |     | 4人            | 0      | 3人              | △3人   |      |      |
| 医療薬学専攻              |     | 3人            | 1      | 3人              | △2人   |      |      |
| 計                   |     | 30人           | 9      | 16人             | △7人   |      |      |

(8) 教職員の人材開発(SD・FD)

| 取組の総括  |  |
|--|--|
| <p>✓ 本学のSD・FD活動は、自己点検・評価委員会において全学的取組みと各部局等で実施する取組みの調整を図り、組織的且つ計画的に実施できるよう、計画を策定し目標達成に努めた。</p> <p>✓ 全学SD・FD活動として、授業アンケート、公開授業、教育向上研究会(各種講演会等)を実施した。</p> |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) SD・FDの計画および調整  | <p>✓ 令和7(2025)年度のSD・FD実施計画は、第1回自己点検・評価委員会において審議し、実施した。</p>   |
| (2) 新着任研修  | <p>✓ 新着任SD・FDおよび授業研修会を、自己点検・評価委員会および教育基盤センター運営委員会との共催で実施した。</p> <p>4月1日(対面) 「新着任教員対象SD・FD」</p> <p>4月2日(対面) 「第1回授業研修会」</p> <p>4月22日(対面) 「ICT活用による教育内容向上に関する研修会」</p> <p>7月10日(対面) 「第2回授業研修会」</p> <p>1月28日(対面) 「学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方(第3回授業研修会)」</p>   |
| (3) SD活動   | <p>✓ 大学運営に関わる職員の資質・能力向上への取組みとして、一部FDと共催で、以下の取組みを実施した。</p> <p>4月30日～5月21日(WEB) 「修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD」</p> <p>4月30日～5月29日(WEB) 「ハラスメント防止に関する研修会」</p> <p>5月12日～5月22日(WEB) 「研究倫理研修」</p> <p>7月10日～7月29日(WEB) 「コンプライアンス研修」</p> <p>7月30日(対面) 「決算の報告と説明」</p> <p>9月2日～10月2日(WEB) 「安全保障輸出管理研修」</p> <p>11月4日～11月14日(WEB) 「やさしい日本語」</p> <p>11月4日～11月19日(WEB) 「大学生の自殺予防」</p> <p>1月28日(対面) 「学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方」(QSP共同SD・FD)</p>   |
| (4) FD活動(教育改善・教育向上)  | <p>✓ 教育内容・方法等の改善の工夫・開発と、効果的な実施のため、一部SDと共催で以下の取組みを実施した。</p> <p><b>【1.授業アンケートの実施】</b><br/>前期・後期それぞれ非常勤を含む全教員を対象に、原則WEB方式で授業アンケートを実施した。その結果を基に各学部で学部長面談を実施し、改善向上に努めた。すべての基幹教員は授業アンケートの結果に対し、「アクションプランシート」で課題抽出と改善向上策を自己点検・評価委員会に報告した。</p> <p><b>【2.公開授業の推進】</b><br/>前期・後期に、全ての学部で授業公開を実施するとともに、授業公開終了後に各学部において報告会を開催し、公開授業に対する課題共有等の意見交換会を行ない、その内容は自己点検・評価委員会に報告した。</p> <p><b>【3.教育向上研究会(各種講演等)】</b></p> <p>4月30日～5月21日(WEB) 「修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD」</p> <p>4月30日～5月29日(WEB) 「ハラスメント防止に関するSD・FD」</p> <p>5月12日～5月22日(WEB) 「研究倫理研修」</p> <p>6月25日(対面) 「科研費申請に関する勉強会」</p> <p>7月10日～7月29日(WEB) 「コンプライアンス研修」</p> <p>7月30日(対面) 「決算の報告と説明」</p> <p>9月2日～10月2日(WEB) 「安全保障輸出管理研修」</p> <p>11月4日～11月14日(WEB) 「やさしい日本語」</p> <p>11月4日～11月19日(WEB) 「大学生の自殺予防」</p> <p>1月28日(対面) 「学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方」(QSP共同SD・FD)</p> |
| (5) SD・FDの大学間連携(QSP)   | <p>✓ 他大学との連携事業として、QSPにおけるSD・FDを実施した。</p> <p>✓ 1月28日(オンデマンド) 「学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方」(QSP共同SD・FD)</p>   |

### (9) ステークホルダーとの連携強化(特に同窓会)

| 取組の総括   |  |
|---|--|
| <p>【地域連携室(QSP含)、スポーツ支援・振興室】</p> <p>✓ ステークホルダーとの連携強化については、特に「知の拠点」である本学と初等・中等教育機関と連携、本学園・本</p> |  |

| <p>学との包括連携協定締結団体との連携を深化することで、本学園・本学のステークホルダー増に繋がると想定する。</p> <p>【図書課】</p> <p>✓ 佐世保市立図書館との共催で「ビブリオバトル 2025 in SASEBO」を開催し、本学代表を含む各市民団体代表との書評合戦を実施した。</p> |  |
|--|--|
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 同窓会(卒業生)との連携強化   | <p>✓ 沖縄支部同窓会：9/27(土)開催</p> <p>※「保護者懇談会」における沖縄同窓会メンバーが運営サポート実施</p> <p>マイクロバス、中型車(10人乗り)購入(2024年度寄付金)</p> <p>公認団体「バックアップ支援：4団体、全国大会出場支援：8団体」</p>   |
| (2) 産学官連携&催事関連事業：地方公共団体・企業・教育機関  | <p>✓ 5/24(土)NAKIRI SDGs FESTIVAL2025</p> <p>✓ 2団体：「VR機器を活用して仮想空間で運動体験などを実施」、「誰もが一緒に楽しめるパラスポーツを体験」</p> <p>✓ 5/26(月)小値賀町との包括連携協定締結式</p> <p>✓ 6/10(火)長崎県薬剤師会との包括連携協定締結式</p> <p>✓ 6/11(水)福石中学校3年対象：プロジェクト学習</p> <p>✓ 7/4(金)佐世保北中学校研究所訪問 同中学校3年生40人+引率2人4学科対応</p> <p>✓ 【長崎県文化観光国際部 ながさきピース文化祭課依頼事項】「全国大学ビブリオバトル in ながさきピース文化祭 2025 概要」の開催に向け地区大会(県内大会)の運営サポート</p> <p>・9/27(土)全国大学ビブリオバトル in ながさきピース文化祭 2025 地区大会(県内大会) 場所：まちなかコミュニティセンター 本学3人バトラー参加</p> <p>・10/19(日)全国大学ビブリオバトル 2025 ブロック決戦長崎特別枠大会 本学1人参加⇒2位⇒全国大学ビブリオバトル 2025 出場決定</p> <p>✓ 【JAL連携事業】JAL 客室乗務員インターシップ 学校推薦コース：4人</p> <p>✓ 7/10(木)佐世保南高校「探求型学習」対応：国際交流・留学生支援室</p> <p>✓ 9/24(水)16:30～「第1回地域防災・減災における人材育成プログラムについて」</p> <p>11/7(金)13:00～「第2回地域防災・減災における人材育成プログラムについて」</p> <p>佐世保市防災危機管理局、企業2社(南風崎MGレヂデンス、佐世保電気防災)の産学官連携にて実施</p> <p>✓ 【佐世保東翔高校連携事業】10/17(金)「創造I」に係る講師の派遣</p> <p>✓ 【東彼杵町連携事業】11/18(火)大学視察及び社会福祉学科との交流</p> <p>✓ 【佐世保市連携事業：若者活躍・未来づくり課】12/21(日)SASEBO 若者活躍アワード 2025</p> <p>✓ 【大学の地域貢献度に関する全国調査 2025】本学 65位</p> <p>✓ 【R7 私立大学等改革総合支援事業選定】タイプ 3(地域連携型、プラットフォーム型)</p> |
| (3) 公開講座   | <p>【地域連携センター及び地域連携室主催分】</p> <p>✓ 11/1(土)16講座×2回</p> <p>✓ 9/30(火)地域活性化のための可視化経営～可視化経営とは？効率化のためのDX活用とは～ 受講者：教職員13人 学生56人</p> <p>✓ 3/12(木)可視化経営推進のための企業データとDXの活用について 受講者：10人</p>  |
| (4) ハイスクール茶会事業   | <p>✓ 5/17(土)開催 17高校参加 生徒200人 高校顧問・外部講師63人</p>  |
| (5) QSP事業  | <p>✓ 単位互換制度 QSP 科目群(西九州探求)を創出完了し、次年度(令和8(2026)年度)より学生募集を開始する。</p> <p>✓ 産学官(地域・企業・大学)連携事業については、各WGの事業計画(共同入試、リケジョ事業、リカレント教育、健康ウォーク、子どもに係る共同研究、留学生との国際交流(異文化理解教室など)順調に推進している。</p> <p>✓ 『女子中高生の理系進路選択支援プログラム』を幹事校佐賀大学、西九州大学、佐世保工業高等専門学校、久留米工業大学、本学の5校で推進、中高生向けに出張講義や実験体験会などを実施した。</p> <p>✓ 6/14(土)リケフェス in 佐世保、9/28(日)リケフェス 2025(於：佐賀大学)</p>  |
| (6) 地域スポーツ振興・大学スポーツ振興事業  | <p>✓ 【九文小学校放課後探求型体験(スポーツ版)】</p> <p>5/1(木)アーチェリー部 6/5(木)空手道部 7/3(木)駅伝部 10/2(木)サッカー部</p> <p>12/4(木)野球部 2/5(木)テニス部</p> <p>11/1(土)「NIUキッズキャンパス」における地域スポーツ振興活動</p> <p>国際観光学科スポーツツーリズムコース、バレーボール部、テニス部、野球部</p> <p>✓ 【佐世保市教育委員会連携事業：部活動地域展開実証事業】</p>  |

|          |  |
|----------|--|
|          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・11/15(土)中学校女子バレーボール部合同練習会にかかる学生指導者派遣について対応：バレーボール部及び指導者</li> <li>・12/13(土)中学校軟式野球部合同練習会にかかる学生指導者派遣について 対応：野球部</li> </ul> <p>✓【UNIVAS】UNIVAS SSC(安全安心認証制度：更新)<br/>✓更新期間：令和8(2026)年4月1日～令和11(2029)年3月31日</p> |
| (7) 保護者会 | <p>✓今年度は本学およびオンラインに加え、2019年度以来の沖縄会場で実施することができた。</p> <p>✓参加者は、本学会場 336組 476人、オンライン対応 79組、沖縄会場 29組 40人であった。(昨年度実績：本学会場 347組 474人、オンライン 130人)</p>   |

## (10) 学園内の連携促進

| 取組の総括  |   |
|--|---|
| ✓各学科・研究科は九州文化高等学校との高大連携事業を中心として、学園内の各学校に講師派遣を行ったり、共同研究を行ったりと緊密な連携を持つように努めた。その成果として、学園内部からの入学、編入学を得ることが出来た。 |   |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 国際観光学科の取組  | <p>✓九州文化学園高等学校から21人の入学、長崎短期大学からは6人の編入学があった。</p> <p>✓学園内の各学校に講師を派遣し、協力を行った。</p>  |
| (2) 社会福祉学科の取組  | <p>✓九州文化学園小中学校からの出前授業等の依頼に機敏に対応し、将来の福祉人材の確保につなげる企画を実施した。</p> <p>✓九州文化学園高等学校福祉コースとの緊密な連携を図り、各種交流イベントや、日常授業への本学科教員の参加などにより「顔の見える」関係を構築し、内部進学者が前年度3人から今年度6人(内衛生看護専攻科より3年編入学1人)と増加した。</p> <p>✓長崎短期大学との連携を図り、内部進学者を毎年1人の編入学生を維持することができた。</p> |
| (3) 健康栄養学科の取組  | <p>✓学園内の九州文化学園高等学校及び長崎短期大学との連携を継続して強化し、内部進学を促進を図った(前年度13人及び4人から、今年度10人及び3人)。</p> <p>✓学園内の各学校に非常勤講師を派遣した。</p> <p>✓薬学部及び長崎短期大学との共同研究を継続して行い、論文や学会発表等で成果を報告した。</p>   |
| (4) 薬学科の取組   | <p>✓長崎短期大学、九州文化学園歯科衛生士学院・調理師専門学校、九州文化学園高校衛生看護専攻科へ講師を派遣した。</p> <p>✓九州文化学園高校の教員と意見交換会を予定している。</p> <p>✓社会福祉学科および九州文化学園高等学校衛生看護専攻科との合同授業を計画している。</p>  |
| (5) 健康管理学研究科の取組  | <p>✓薬学部及び長崎短期大学との共同研究を継続して行い、論文や学会発表等で成果を報告した。</p>  |
| (6) 薬学研究科の取り組み   | <p>✓学内連携を促進するため、最新の研究成果を学園内に発信した。</p>   |

## (11) SDGs の推進

| 取組の総括  |   |
|--|---|
| ✓令和7(2025)年5月24日(土)「西海国立公園指定70周年記念第3回名切SDGsフェスティバル、テーマは『次世代テクノロジーと持続可能な未来』SDGsとは”何かをし続けられる”ということ、私たちが生活し続ける持続可能な未来のために動き出そう！」のイベントに参加した。 |   |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 名切 SDGs フェスティバル  | <p>✓5/24(土)西海国立公園指定70周年記念第3回名切SDGsフェスティバル</p> <p>2団体：「VR機器を活用して仮想空間で運動体験などを実施」、「誰もが一緒に楽しめるパラスポーツを体験」参加。</p> |

## (12) 管理運営と業務・経費効率化

| 取組の総括   |             |
|---|-------------|
| ✓本年度は、学長を中心とした教学ガバナンス体制を事務側面から強固に支え、各委員会の円滑な運営支援を通じて、迅速かつ適切な意思決定を促進した。管理運営面においては、エネルギー価格の高騰や物価上昇という厳しい外部環境に即応するため、実効性のある経費抑制を図った。また、業務効率化の観点から既存事務フローの再構築を行い、新システムの導入に向けて、他大学の事例調査を含む具体的な検討に着手した。これら一連の取り組みにより、教育・研究環境の質を維持しつつ、健全かつ持続可能な大学運営の基盤をより強固なものとした。 |             |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題 |

|              |  |
|--------------|--|
| (1) 予算の予実管理  | ✓ 各部署の予算執行状況を定期的にモニタリングし、精緻な予実分析を実施した。学内予算会議を通じて適正な執行を徹底し、第2期中期計画の最終年度として健全な財務バランスの確保に努めた。     |
| (2) 外部資金獲得推進 | ✓ 私立大学等経常費補助金をはじめとする各種補助金の適切な申請と管理を行い、確実な受給に努めた。また、研究者等による外部資金獲得を事務側面から支援し、大学全体の財政基盤の多角化を促進した。 |
| (3) 業務効率化    | ✓ 事務組織の生産性向上を目的に、デジタルツールの活用や重複業務の整理を推進した。  |
| (4) 固定経費の見直し | ✓ 清掃、ビル管理業務、構内除草作業等の既契約を見直し経費削減を図った。   |
| (5) 省エネの推進   | ✓ 経営健全化WGを中心に、授業が行われていない教室の空調や照明などの使用状況を見回すなど、全学的に光熱水費削減に努めた。<br>✓ デマンドコントロールの機能を上げて、節電に努めた。   |
| (6) 経費支出の効率化 | ✓ 消耗品の一括購入やペーパーレス化の促進により、経常的経費の削減を図った。また、各種会議・行事のオンライン活用を定着させ、旅費交通費や通信費の効率的な運用を徹底した。           |

### (13) 施設・設備・システム等の環境整備

|   |                 |
|---|-----------------|
| 取組の総括   |                 |
| ✓ 本年度は、学生の学修環境の向上と施設・設備の長寿命化、およびエネルギー効率の最適化を主眼に、計画的な整備を推進した。具体的には、パソコン教室のシステム更新し、学生の学習環境を整えた。懸案となっている6号館の改修計画の具体化、第2体育館の設置検討を行った。 |                 |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題     |
| (1) 学生の生活環境整備   | ✓ パソコン教室のシステム更新 |

### (14) 点検評価

|  |  |
|--|--|
| 取組の総括  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和7(2025)年度の日本高等教育評価機構による機関別認証評価を受審し「適合」と認定された。</li> <li>✓ 全学的な内部質保証は学長の責任の下、自己点検・評価委員会を中心に推進し、学部・研究科、その他部局での内部質保証は、部局長及び当該構成員の責任に基づいて、各種調査等からの課題抽出をおこない、学部学科の改善向上策を検討し、PDCAサイクルを恒常的に循環させ、大学の改善・改革を着実に推進した。</li> <li>✓ 学生の「授業アンケート」・「卒業生アンケート」等や、教職員に対するSD・FD実施後のアンケート、「自己点検・評価 データ編」、教学データ 科目履修状況、GPA、学生数等自己点検・評価の基礎となる学内の教育研究情報の適切な把握と分析と、エビデンスに基づく改善・改革が推進されるよう情報共有をおこなった。また、その結果である本学の研究活動や学修実態などの特色や傾向、改善状況を積極的にわかりやすくホームページ等で公表した。</li> </ul> |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 自己点検評価   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和7(2025)年度に自己点検・評価を実施し、その点検・評価を元に日本高等教育評価機構による機関別認証評価を受審し、「適合」と認定された。</li> <li>✓ 授業アンケート、在学生調査、授業公開等を適切に実施し教育改善に努めた。</li> <li>✓ 教育評価の顕彰としてベストティーチャー賞を適切に実施した。</li> </ul> |
| (2) 機関別認証評価  | ✓ 令和7(2025)年度に日本高等教育評価機構による機関別認証評価を受審し、「適合」と認定された。また、「優れた点」として5項目の取組みを評価された。   |
| (3) 分野別評価  | ✓ 令和7(2025)年度に薬学部は一般社団法人薬学教育評価機構による薬学教育評価(第三者評価)を受審し、「適合」と認定された。   |

### (15) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

|  |  |
|--|--|
| 取組の総括  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 部室棟および各種講義棟、第2体育館などの大型スポーツ施設など、キャンパスの魅力と利便性向上として求められる大型案件について、今後も検討を進める。</li> <li>✓ 研究環境の改善・充実については、引き続き優先順位をつけて予算化して実現を図る必要がある。</li> </ul> |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 健康栄養学科の案件  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 管理栄養士の社会的ニーズに応じた知識・技能を修得できるカリキュラムの改編の検討。</li> <li>✓ 調理や集団給食の技術を修得するために必要な調理実習室・集団給食実習室の改築、増設。</li> <li>✓ 教育環境の整備(老朽化した実習機器の更新、講義室・実習室のカビ対策)。</li> </ul> |
| (2) 健康管理学研究科の案件  | ✓ 研究環境の整備(ラボの設置、研究機器の新規導入・更新)。   |

### (16) 第2期(2021-2025)中期計画の総括と評価

|      |                                 |
|------|---------------------------------|
| 教学関係 | ✓ 1.3 ポリシーに基づく内部質保証の確立と学修成果の可視化 |
|------|---------------------------------|

|      |   |
|------|---|
|      | <p>本中期計画期間において、教学面では「学修者本位の教育」の実現に向け、3ポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)を基軸とした内部質保証システムの構築と高度化を最優先課題として取り組んできた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>ホスピタリティ教育の実質化</b>：建学の理念である「ホスピタリティ」を具現化するため、ディプロマ・ポリシーに定められた5つの能力を評価する「ホスピタリティ・ルーブリック」を全学的に導入した。学修ポートフォリオを活用した教員による定期的な面談を徹底することで、学生自らが成長を実感し、教員が適切な修学指導を行う体制を定着させた。</li> <li>・<b>教育の質保証サイクル</b>：全学科において「卒業ポートフォリオ」制度を運用し、単位修得状況や卒業論文要旨に対する外部評価を実施した。これにより、客観的なエビデンスに基づく教育改善サイクル(PDCA)を確立し、令和 7(2025)年度には第4クールの大学機関別認証評価において「適合」の認定を受けるに至った。</li> </ul> <p>✓ <b>2. ICT・DX教育の推進と Society 5.0 への対応</b><br/>         急速に進展するデジタル社会に対応するため、ICT を活用した教育改革と、数理・データサイエンス・AI教育の充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>データサイエンス教育の展開</b>：1年次必修科目「コンピュータ基礎演習」等の内容を刷新し、実データの解析や情報の取り扱いに係る倫理教育を盛り込んだ。文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」への申請を見据えた体制整備を行った。</li> <li>・<b>生成AIへの対応</b>：Chat GPTをはじめとする生成系AIの普及に対し、本学における利用方針を迅速に策定し、教職員および学生への周知を行うとともに、適正な利用に向けた啓発に努めた。</li> </ul> <p>✓ <b>3. グローバル化の推進と社会連携の強化</b> コロナ禍という制約下においても、オンラインの活用や段階的な渡航再開を通じて、国際的な教育環境の維持・発展に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>国際交流の再構築</b>：停止していた海外派遣留学を令和 4(2022)年度より本格的に再開し、協定校との学生交流を活性化させた。また、ウクライナ避難民学生の受け入れや、ミャンマー、スリランカ等からの留学生確保を戦略的に進め、キャンパスの多文化共生環境を強化した。</li> <li>・<b>地域貢献と実学教育</b>：九州・長崎国際観光人材育成コンソーシアムや、近隣自治体との包括連携協定を通じて、産官学連携による実践的な教育プログラムを展開した。特に、学生による地域課題の調査研究や、スポーツ振興事業への参画は、地域における本学の存在感を高める成果を上げた。</li> </ul> <p>✓ <b>4. 専門職養成と資格取得実績の堅持</b> 薬学部、健康管理学部、人間社会学部の各養成課程において、国家試験合格に向けた支援体制を強化した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>国家試験対策の高度化</b>：薬学科でのOSCE・CBT対策や、健康栄養学科での管理栄養士国家試験対策において、対面指導と動画配信、オンデマンド教材を組み合わせた重層的なサポートを実施した。結果として、薬剤師国家試験や社会福祉士国家試験等において、全国平均を上回る、あるいは目標値に近い高い合格率を概ね維持し、社会の要請に応える専門人材を輩出し続けた。</li> </ul> <p>✓ <b>5. 次期計画を見据えた教学組織の改編</b> 第2期中期計画の後半において、18歳人口の急減とデジタル人材不足という社会的課題に応えるため、抜本的な組織改革に着手した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>新学部開設の準備</b>：Society 5.0時代を牽引する人材育成を目的として、「情報学部」の令和 9(2027)年度開設に向けた設置認可申請を計画通り実施し、本学の将来的な成長を支える教学基盤の再構築を推進した。</li> </ul> <p>✓ <b>総括評価</b><br/>         第2期中期計画期間において、教学部門はコロナかという困難な状況を克服し、教育の質保証とICT活用の寮面で飛躍的な進歩を遂げた。ホスピタリティ・ルーブリックによる指導体制の確立は、本学独自の教育的価値を確固たるものとし、次期中期計画における「未来理工学部」の開設に向けた教学改革の素地を十分に整えたと評価する。今後は、さらに多様化する学生の学力格差への対応と、地域と連携したリカレント教育の拡充が継続的な課題となる。</p> |
| 人事関係 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 人事面においては、「機動的な組織運営」を目指し、人事制度の定着と人材育成、業務効率化を推進した。</li> <li>✓ <b>【人事制度の運用と組織再編】</b>平成 27(2015)年度に導入した職位職階制の給与体系と、目標管理制度に基づく人事考課を引き続き実施した。上長とのフィードバック</li> </ul>  |

|             |  |
|-------------|--|
|             | <p>面接を通じ、個々の教職員の職務に対する動機づけと資質向上を図り、制度の定着をみた。また、機動的な組織運営のため、平成 5(2023)年度には学生課とキャリアセンターを統合するなど、部局を越えた組織の再編を行い、支援体制の効率化を実現した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <b>【教職員の人材開発(SD・FD)の充実】</b> 内部質保証の推進と教育力向上のため、自己点検・評価委員会を中心に計画的な SD・FD 活動を展開した。ハラスメント防止、研究倫理、障がい学生への合理的配慮、DX(デジタルトランスフォーメーション)推進など、多岐にわたるテーマで研修を実施した。特に、オンラインやオンデマンド方式を併用することで、時間や場所を限定しない研修体制を構築し、教職員の高い参加率を維持した。また、QSP(九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム)を通じた他大学との合同研修により、広範な知見の共有を図った。</li> <li>✓ <b>【人的資源の課題】</b> 生産年齢人口の減少に伴う教員確保の困難さは深刻な課題となっており、特に有資格者の採用において厳しい状況が続いている。今後も優秀な人材の確保と定着を最優先事項として取り組む必要がある。</li> </ul>  |
| <p>施設関係</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 第 2 期中期計画において、施設整備面では「ICT 化と施設設備の充実による教育環境の魅力向上」を重点戦略に掲げ、計画的な大規模更新と学生生活の質的向上に取り組んできた</li> <li>✓ <b>【教育・研究環境の高度化と ICT 整備】</b> 開学から 20 年以上が経過し、施設・設備の経年劣化が進行する中、優先度と重要度を勘案した更新を実施した。特に ICT 環境においては、安定した通信環境を確保するため、学術情報ネットワーク「SINET」の導入および学園全体のネットワーク再構築(第 1 段階)を完遂した。さらに、Microsoft Exchange への移行によるメールシステムの安定化や、パソコン教室のシステム更新を行い、Society 5.0 時代に即した教育基盤を整備した。</li> <li>✓ <b>【学生生活の充実とスポーツ施設の整備】</b> 学生の満足度向上とスポーツ系学生の募集強化を目的として、令和 4(2022)年度末に人工芝の「多目的グラウンド」を竣工させた。これは強化指定部の活動拠点としてだけでなく、福利厚生への充実にも大きく寄与した。また、利便性向上のため、自家用車を持たない学生向けのカーシェアリング導入や、老朽化した大型バスの更新、さらには SDGs 推進の一環として EV 充電器の設置を行った。</li> <li>✓ <b>【環境負荷低減と今後の課題】</b> 省エネと光熱水費の抑制を目的として、全学的な LED 照明への交換を完了し、エネルギー効率の最適化を図った。一方で、慢性的な講義室・実習室の不足や、特定校舎(5 号館等)のカビ対策、研究環境の整備(ラボの設置)などは継続的な課題として残されている。また、学生の約 25%が部活動に従事している現状を鑑み、「第 2 体育館(アリーナ)」の設置について、次期計画における重要案件として具体的な検討を継続している。</li> </ul>   |
| <p>財務関係</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <b>1. 財政基盤の安定と収支バランスの堅持</b> 本中期計画において、財務面では「戦略 VI：財政基盤の安定と機動的な組織運営の強化」掲げ、定員確保による学納金収入の最大化と、徹底した経費効率化による健全な経営状態の維持を目指してきた。<br/> <b>【事業収支の推移と評価】</b> 計画初期(令和 3(2021)年度)には、経常収支差額比率 11.4%を達成し、目標とする「経営判断指標 A2 段階」に向け順調なスタートを切った。しかし、計画中盤にかけては、長引く新型コロナウイルス感染症の影響による留学生の入学制限や募集環境の悪化、さらには 18 歳人口の急減といった外部要因が重なり、収容定員充足率の低下とともに納付金収入が減少した。その結果、令和 5(2023)年度は黒字を維持したものの収支は悪化傾向となった。令和 6(2024)年度には、寄付金等外部資金の戦略的な獲得により回復の動きが見られたが、最終年度である令和 7(2025)年度においては収支が再び低下に転じ、収支均衡の回復には至っていない。今後は、安定的な収支構造の確立に向け、継続的な改善が求められる。</li> <li>✓ <b>2. 外部資金の戦略的獲得と収入源の多角化</b> 学納金収入に過度に依存しない強固な財政体質を構築するため、補助金や寄付金、研究助成金等の外部資金獲得に注力した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>経常費補助金・競争的資金：</b>「私立大学等改革総合支援事業」において、複数のタイプ(タイプ 1・2・3 等)で戦略的に採択を勝ち取り、安定的な補助金額を確保した。また、JST(科学技術振興機構)の大口受託事業や、UNIVAS(大学スポーツ協会)等の競争的資金の獲得においても顕著な成果を上げた。</li> <li>・ <b>寄付金活動：</b>令和 3(2021)年度に 1 億円規模の受配者指定寄付金を受領したほか、令和 4(2022)年度にはウクライナ学生支援のクラウドファンディングを実施するなど、社会課題に即した資金調達も展開した。計画終盤には創立 80 周年記</li> </ul> </li> </ul> |

|  |  |
|--|--|
|  | <p>念事業を見据えた募金活動を強化し、令和 6(2024)年度には寄付金収入を大幅に増加させた。</p> <p>✓ <b>3. 支出の適正化と業務・経費の効率化</b> 厳しい募集環境下においても教育研究の質を維持するため、「経営健全化ワーキンググループ」を中心に全学的なコスト削減に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>経費節減と環境対策</b>: 全学的な LED 照明への交換や空調システムのデマンドコントロール強化により、エネルギー価格高騰による影響を最小限に抑制し、光熱水費の圧縮を実現した。また、ペーパーレス化の推進や固定経費(清掃・ビル管理業務等)の契約見直しにより、管理運営経費を段階的に削減した。</li> <li>・ <b>人件費管理</b>: 生産年齢人口の減少に伴う人材確保の困難さに直面しながらも、退職者の不補充や組織の再編(学生課とキャリアセンターの統合等)を通じて、人件費比率と員数の適正化を推進した。</li> </ul> <p>✓ <b>4. 負債の圧縮と中長期的投資の実行</b> 安定した財務体質の形成に向け、借入金の約定返済を最優先事項として確実に履行し、有利子負債の圧縮を進めた。その一方で、将来の成長力確保に不可欠な設備投資(多目的グラウンドの整備、ICT インフラの再構築、SINET への接続等)については、損益分岐とキャッシュフローを精査した上で計画的に実施した。</p> <p>✓ <b>総括評価</b> 第 2 期中期計画期間において、本学はコロナ禍という未曾有の危機と少子化の加速に直面したが、予算主義の徹底と外部資金の戦略的獲得、機動的な資金運用により、財政の決定的な悪化を回避した。経常収支はなお改善途上にあるものの、収支の下げ止まりに向けた動きが見られ、次期(第 3 期)中期計画における「情報学部」新設等の新たな成長戦略を支えるための財務基盤を一定程度構築できたと評価する。今後は、運用資産余裕比率の向上と積立金の充実を継続課題とし、より盤石な財務構造の確立を目指す必要がある。</p> |
|--|--|

## 2.長崎短期大学

### 1) 3ポリシー

|                    |   |
|--------------------|---|
| 卒業の認定に関する方針        | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会を生き抜く力<br/>社会人として人間性と品格を備え、分析的に考える力を身につけている。</li> <li>2. 確かな専門的知識や技能<br/>専攻分野の専門的知識や技能を確実に修得し、体系的な理解ができる。</li> <li>3. コミュニケーション能力<br/>多様な人々と協働して学ぼうとする意識を持ち、人々との交流の中で自らの役割を積極的に果たすことができる。</li> <li>4. 課題解決能力<br/>修得した知識や技能をもとに、思考や判断を行い現実の課題を解決することができる。</li> <li>5. 主体的に学ぶ力<br/>学修経験をまとめ、主体的に学び続ける意欲を持って、自らのキャリアを創造することができる。</li> </ol>  |
| 教育課程の編成および実施に関する方針 | <p>地域社会の発展に寄与する、豊かな人間性と品格、専門的知識や技能を備えた社会人の育成を目指す長崎短期大学では、各学科・専攻科の教育目的や目標に基づく学修成果の達成に必要な教育課程を体系的・系統的に編成し実施します。さらに、教育課程の構造を理解しやすくするために、カリキュラム・マトリックスおよび、カリキュラム・フローチャートを作成しています。</p> <p>教育内容・教育方法・学修方法・評価については以下の通り定めます。</p> <p>(1) 教育内容<br/>全学共通の教養科目や各学科の専門科目を体系的に配列した教育課程の中で、必修科目や選択科目の内容に沿った教育を実施します。</p> <p>(2) 教育方法・学修方法<br/>学期(セメスター・クォーター)毎に、講義、演習、実習、実験、実技を適切に配置し、全授業形態を通してアクティブ・ラーニング型授業の展開に努めます。<br/>学生の学び(学修成果)の確認と定着を促すために、各種の試験・課題・レポート等による多元的な評価を行い、結果を迅速に学生にフィードバックするよう努めます。</p> <p>(3) 評価(アセスメント)<br/>長崎短期大学の卒業認定・学位授与の方針に定める学修成果の修得状況について、学生個人、学科、全学、この3つのレベルでの把握のために、多面的で総合的な評価を行います。<br/>評価が、授業や学生の学修支援の改善に繋がり、教学全体のPDCAサイクルの構築と促進によって、本学の教育の質を担保します。<br/>学修成果に関する説明責任を果たすために可視化に努めます。</p> |
| 入学者の受入れに関する方針      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高等学校の教育課程を幅広く修得している人<br/>学科によっては、より深い修得を求める場合もあります</li> <li>2. 学びたい学科・専攻があり、そこで学修した知識・技能や態度を、地域社会で活かそうと考えている人</li> <li>3. 大学教育に対する関心と意欲を持ち、大学で学ぶために、知識や技能、思考力、判断力、表現力の伸長に努めている人</li> <li>4. 大学の学びを円滑に進めるため、自己の能力の向上に入学前から取組むことのできる人</li> <li>5. 高等学校までに、部活動、ボランティア活動、資格・検定の取得等に、積極的に取組んだ経験のある人</li> </ol>   |

### 2) 経営理念・経営目標

|      |   |
|------|---|
| 経営理念 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ For Community and With Community</li> <li>・ 地域中核人財育成・地域と成長する日本版コミュニティーカレッジ</li> </ul>      |
| 経営目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職協働による学生支援の充実</li> <li>・ ICTを活用した教育環境の高度化</li> <li>・ 定員充足による財務基盤の安定と国家試験合格率の向上</li> </ul> |

### 3) 1年間の総括と評価

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和7(2025)年度私立大学等経常費補助金額は、昨年度同様、申請した全国の私立短大247校中2位の結果であり、教育および研究面から大学改革に教職一体となって取り組んだ成果と言える。</li> <li>✓ 減少傾向にあった保育学科において、入学者が6割を切った。地域共生学科においては、留学生の入学前教育を継続して受入促進を図った結果、昨年度並みの入学者数を確保できた。しかしながら、全体での定員充足率は、9割を切ってしまった。</li> <li>✓ 財務については、私立大学等経常費補助金収入増により、経常収支黒字化を達成できた。しかしながら、昨年度の補助金返還額について、予算と大幅な乖離があり、収支改善には至らなかった。財務基盤の安定のためにはさらな</li> </ul> |
|--|

る徹底した経営改善が次年度以降の課題である。

#### 4) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組実績

|   |            |  |
|---|------------|--|
| 1 | 成長力の確保     | ✓九州文化学園高等学校からの内部進学は50人と昨年より19人増えた。また、留学生の募集戦略を強化したことで59人の入学者数となった。   |
| 2 | 教育力の向上     | ✓全11回のFD研修を組織的・計画的に実施し、教育の質向上と教育組織の能力向上を図った(内訳:学内8回、合同1回、学外2回)。学修成果を可視化するアセスメントの導入に伴うICT研修を含む。<br>✓授業アンケートの分析(前期・後期の2回)、ティーチングポートフォリオの作成および教員評価(職務報告書の作成と上長との面談)により、教員個々の能力向上を図った。   |
| 3 | 約定返済の確実な履行 | ✓社会的ニーズと趨勢から総合的に判断し、既存の学科等の再編および入学定員数の適正化に着手した事により、令和8(2026)年度は、保育学科定員80人に対し78人、地域共生学科定員を125人に対し121人の入学生を獲得でき、収容定員を97.1%まで上昇させた。(メニュー1・2要件)<br>✓物品等の共同調達は着手し、項目を増やす事ができたが、クロスポイントメント制度や基幹教員制度を有効活用した教職員の交流・共有においては、検討を図っているが実施に至っていない。次年度以降に再検討し、実施する事によって、経営の健全化を図っていく事が求められる。(メニュー2要件) |

#### 5) 経営改善(健全化)に関する成果

|   |             |   |
|---|-------------|---|
| 1 | 収入の増加       | ✓入学者は199人と昨年に比べ15人増えたことにより、収入も増加した。特に保育学科では78人の入学者があり昨年より23人増えた。さらに国際コミュニケーションコースでは新しくBridge Classを設置し定員を70人に増員したところ85人の入学者があり、昨年より19人増えた。Bridge Classの入学者は3人であった。<br>✓定員充足率は100%には届かなかったが、高校1・2年生を中心とした中長期的な募集戦略に取り組むことができた。 |
| 2 | 支出の効率化      | ✓令和6(2024)年度不採択となった、改革総合支援事業補助金におけるタイプ3(PF型)を採択に向けて働きかけ、獲得する事ができた。<br>✓前年度より奨学費を圧縮する事ができた。しかし、留学生紹介料が増加するなど、募集経費に係る効果の検証については、今後も適正化に向けて検討を継続していく必要がある。   |
| 3 | 人員・業務の効率化   | ✓オープンキャンパスやガイダンスにおいて共同で広報活動を行うことで業務の効率化を図ることができた。   |
| 4 | 付加価値向上と広報強化 | ✓プレスリリースによる認知度向上によりブランド力の向上を図ることができた。   |

#### 6) 中期計画の進捗・達成状況

| 区分  | 進捗・達成状況   |
|-----|---|
| 戦略Ⅰ | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 栄養士実力認定試験対策を強化しA判定取得者割合の増加を目指したが、令和6(2024)年度は51.9%(受験者27人中14人)だったA判定取得者が43.8%(受験者32人中14人)と減少した。</li> <li>✓ 製菓衛生師国家試験の合格率は90.0%であった(10人受験中9人合格)</li> <li>✓ 介護福祉士国家試験対策講座や個別指導・グループ指導を行い、日本人100%、留学生63%であった。今後、留学生の日本語能力の向上を図るため、読解力を身につける必要がある。</li> <li>✓ 国際コミュニケーションコースでは、学生の学修成果を客観的に把握・評価するため、TOEIC-IPテストをはじめ、韓国語検定、中国語検定、日本語検定、サービス接遇検定等の各種資格・検定試験の活用を推進した。これらの受験を通じて、語学力や実務的能力の到達度を可視化するとともに、学生自身の学修成果に対する認識を高め、教育の成果を具体的かつ明確に示す取組を進めた。また、オープンキャンパス等で学修成果を紹介した。</li> <li>✓ 保育学科では、資格取得のための学外実習で再実習になる学生が散見されるようになり、幼稚園免許と保育士資格のどちらか一方の資格のみ取得を希望する学生が増え、幼稚園二種免許状は91.4%(70人中、64人取得)、保育士資格94%(70人中66人取得)と、100%には至らなかった。</li> <li>✓ 教育成果を可視化するアセスメントを導入した。</li> <li>✓ 全11回のFD研修会、全7回のSD研修会を実施し、教員の研究力および教育力の向上を図った。</li> <li>✓ 九州文化学園高等学校との高大連携促進による内部進学者50人の進学者を獲得した。</li> <li>✓ 長崎県内を重点地区として捉え、特に県央地区・西海地区からの志願者35人の達成を目指したが21人とどまらなかった。</li> </ul> |
| 戦略Ⅱ | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 卒業生に対するリカレント教育の質の向上を目的とし、これまでオンデマンドのみであった管理栄養士国家試験対策講座を対面およびオンデマンドの2部構成で実施した。</li> <li>✓ 製菓コースでは、NJC マルシェを開催し、出店者17店とボランティア10人を含めた卒業生と在学</li> </ul>  |

|              |  |
|--------------|--|
|              | <p>がマルシェの運営を通し交流を深めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 介護福祉コースでは、卒業生におけるリカレント教育については、卒業生4人の出席があり本学のスクールカウンセラーを講師にストレスマネージメント講座を実施した。</li> <li>✓ 国際コミュニケーションコースにおいては、学生の職業観および社会的自立意識の醸成を目的として、長期学外学修(インターンシップ、サービ斯拉ーニング)の一層の充実に取り組んだ。働くことの意義や地域に貢献する喜びを理解させるとともに、就職に対する意識づけを早期に行い、就職率100%の達成を目標として努力した。</li> <li>✓ 国際コミュニケーションコース全学生参加型の「Speak Up チャレンジ」を継続的に実施した。学生の語学学習に対するモチベーション向上を図るとともに、主体的な発信力の強化を促進し、語学教育全体のさらなる充実をはかることができた。</li> <li>✓ 西九州させば広域都市圏内における保育職就職率は72.1%で前年度より減少しているが、専攻科に進学する学生は増えており、将来を見据えて専攻科を活用したキャリア形成の意識が高まっている。</li> <li>✓ (共創委員会資料を参照してデータを確認)</li> <li>✓ 保育学科では、多様な学びの機会を提供するため、令和8(2026)年度からの3コース制導入に向けたカリキュラム編成を行った。</li> <li>✓ 各学年のCA体制を強化し、学生支援に関する情報を学科全体で共有し、合理的配慮申請への対応や実習等での諸課題に対応した。</li> <li>✓ 専門・技術的職業への就職者数は次の通りであった(専門職就職者数/卒業生数)。栄養士(23人/34人)、製菓衛生師(9人/16人)、介護福祉士(11人/13人)、保育士・幼稚園教諭(52人/70人)。専門的且つ技術的職業の魅力を生かす職業選択を促したい。</li> <li>✓ 学生支援体制を強化するため、奨学金事務の外注化および留学生向けチャットポッドを導入した。</li> <li>✓ キャリア教育のプログラム開発には着手できなかった。</li> </ul> |
| <p>戦略III</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 食物栄養コースでは、地域社会との連携活動の意義を高めるため、実施活動の絞り込みを行い、地域連携活動を学内対象8件、学外対象16件の計24件を実施した。</li> <li>✓ 卒業生や保護者に対する継続した情報提供として、食物栄養コース公式ラインを使って各種学校行事等について情報発信を行った。</li> <li>✓ 製菓コースでは、保護者会および卒業記念行事に、多数の保護者の出席を得ることができた。</li> <li>✓ 介護福祉コースの実習施設においてはこれまで通り6施設と連携するほか、地域のサロン活動との交流や連携を強化した。また、保護者会の実施や問題のある学生について個別にカウンセリングを実施するほか、卒業生についてリカレント教育に関連したイベントを実施した。</li> <li>✓ 国際コミュニケーションコースでは、佐世保市立相浦小学校、佐世保東翔高校をはじめとする地域の学校との連携を推進し、交流活動や教育支援を通じて留学生教育の質の向上を図った。地域の児童・生徒との関わりを通して、留学生が日本の教育現場や地域文化への理解を深める機会を創出するとともに、相互理解を基盤とした地域貢献活動を展開し、本学の教育的役割および地域連携の強化することができた。</li> <li>✓ 海外留学先の新規開拓はできなかったが、前年並みの海外留学者数(21人)であった。</li> <li>✓ 保育学科で取組んでいる「キラリ3」の事業として、実習連絡協議会を3回開催し、実習施設との課題や問題意識を共有し、連携を強化した。(メニュー1要件)</li> <li>✓ 保育人材共創委員会を2回開催し、保育者養成、人材確保の課題について自治体や関係団体と問題意識を共有し、連携を図った。(メニュー1要件)</li> <li>✓ 佐世保市、西海市、小値賀町等に吹奏楽研究室を活用して講師を派遣し、音楽活動を通じて関係性の強化を図った。</li> <li>✓ 専攻科では、インターンシップ園との情報共有により問題解決を行った。</li> </ul>  |
| <p>戦略IV</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ Google for Education を用いた教育内容の充実を図るため、WEB上で利用できる学習ツールなどを用いた。</li> <li>✓ PC・タブレット等は、全員が準備できなかったが、短大や食物栄養コースのパソコン、各自のスマートフォンを使い、Google for Education を活用した授業のICT化を推進した。授業内での資料共有や課題管理、双方向型学習の導入を通じて、教育内容および指導方法の改善を図るとともに、クラス運営の効率化と学修環境の質的向上に取り組んだ。</li> <li>✓ 履修カルテを電子化し、アクティブポータルを活用した学生支援の充実を図る。</li> <li>✓ アクティブポータルに追加されたアセスメンターに履修カルテシステムを実装した。令和7(2025)年度入学生より移行する予定である。</li> <li>✓ 保育学科の実習連絡協議会で、実習日誌や指導案作成へのPC導入についての意見を参考に、実習指導に反映させた。また選択科目である「保育ICT」において、保育現場で導入されているICTシステムを体験できるプログラムを、外部業者と連携して令和8(2026)年度から導入する予定で準備を進めている。</li> <li>✓ PC・タブレット等の所有率は増加傾向にある。(令和8(2026)年度入学者の所有率は70%)</li> <li>✓ Google for Education が浸透し、授業改善やクラス運営の効率化が図られている。</li> <li>✓ パソコンスキル向上のための教育内容の充実は実現できなかった。</li> </ul>   |

|                 |  |
|-----------------|--|
| <p>戦略V</p>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教職履修カルテを導入し(アセスメンター)、学生支援の充実を図ると共に、教員の負担軽減を図った。</li> <li>✓ 卒業生アンケート等を参考に、更なる本学の知人度向上について検討を行い、オープンキャンパス等の参考とした。</li> <li>✓ プレスリリースの発信を行い、長崎新聞、長崎文化放送、長崎国際テレビ、NBC 長崎放送、テレビ長崎、テレビ佐世保等のメディアに露出する機会が増加した。</li> <li>✓ Instagram への投稿を継続し、各学科・コースの日常的な学び、イベント活動や諸行事等、本学の魅力について発信した。</li> <li>✓ 国際コミュニケーションコースでは、「あいあいプラザ祭り」「佐世保くんち」をはじめとする地域密着型イベントの運営に積極的に参画し、学生が地域との関わりを深める機会を創出するとともに、本学の活動や魅力を広く発信することで認知度の向上を図った。これらの取組を通じて、地域社会との連携を強化し、開かれた教育機関としての存在感を高めることを目指した。また、動画作成や SNS 発信に関心を持つ学生を対象とした「グローバルリーダーシップ」においては、映像制作や情報発信に関する実践的な技術習得を進めるとともに、学生自身の視点からコースでの学びや魅力を SNS 上で発信する取組を行った。これにより、学生の主体性や発信力の向上を促進すると同時に、教育内容の可視化と広報活動の充実を図った。</li> <li>✓ 九州文化学園高等学校吹奏楽部出身で保育学科に内部進学した学生が、認定こども園九州文化学園幼稚園に就職することができ、高校から短大、そして学園系列幼稚園へ就職という音楽活動を通じたキャリア形成につなげることができた。</li> <li>✓ 令和6(2024)年度開催した、専攻科保育専攻のホームカミング事業である「第5回専蝶会」の開催を振り返り、保育者育成の課題を掘り下げた。</li> <li>✓ 定員確保に向けて、高校訪問や情報交換会などを通じて近隣高校との良い関係性を構築することができた。</li> <li>✓ プレスリリース年間50本は達成できなかったが、SNSを活用した情報発信を行うことができた。</li> <li>✓ 長崎国際大学と連携した進学ガイダンス参加による志願者の増強を図ることができた。</li> <li>✓ オープンキャンパスにおける受験対象者260人の参加を目指したが、214人にとどまった。</li> <li>✓ 編入を目指す高校生に対しガイダンス等で周知することができた。</li> <li>✓ 県内進学ガイダンスへ積極的に参加し、進学率の向上を図ることができた。</li> <li>✓ 教育成果を可視化し発信することで、広く国内から邦人学生の入学者を増加させることができた。</li> </ul> |
| <p>戦略VI</p>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 県内高校へのガイダンスを実施したものの、残念ながら介護福祉コースへの進学者は、1人という結果であった。</li> <li>✓ 英語圏、韓国、中国への短期・中期・長期留学制度の充実を図り、学生の多様なニーズや語学到達度に応じた留学機会を提供した。異文化環境での学修や生活経験を通じて、語学力の向上のみならず、国際的視野や主体性の育成を促進し、グローバル人材の育成を目指した。</li> <li>✓ 国際コミュニケーションコースでは、国内外の4年制大学への3年次編入学について積極的な情報提供および進路指導を行い、学生一人ひとりの進学希望や将来設計に応じた進路選択を支援した。これにより、学修意欲の向上と学びの継続性を確保し、教育成果のさらなる発展につなげた。</li> <li>✓ 長期留学者数は、韓国6人、カナダ1人、オーストラリア1人であった。</li> <li>✓ 国内外の4年制大学への3年次編入者数は、国内が13人、海外が4人(予定)であった。</li> <li>✓ 長崎県韓国語スピーチ大会への参加を奨励し、学生の成果発表の場を積極的に創出した。大会への挑戦や受賞を通じて、学生の語学力および表現力の向上を図るとともに、日頃の学修成果の可視化と学習意欲の喚起を図った。</li> <li>✓ 小値賀町保育実習支援制度を活用して、保育学科1年生15人が3日間の体験実習を行った。</li> <li>✓ 保育人材共創委員会において、長崎県保育就学資金制度を補完する新たな制度について県に要望することについて協議し、長崎短期大学と佐世保市私立幼稚園協会、佐世保市保育会の三者で、県に要望していくことになった。</li> <li>✓ 専攻科進学ガイダンスの参加者を一定数入学志願に結びつけた。</li> <li>✓ 近隣短大と学生募集・学生支援・基幹教員の在り方を検討し、連携した取り組みの強化を図ることができた。</li> <li>✓ 学内進学ガイダンスの早期実施と進学希望者への情報発信数を増やすことができた。</li> <li>✓ 奨学金は昨年と比べ増えたが、入学者が増えてことにより全体の収入は増えた。</li> </ul>   |
| <p>学園内の連携促進</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 食物栄養コースでは、九州文化学園高等学校生を対象とした連携活動として、野球部員生を対象としてエアロバイクや体脂肪測定を行い、結果をフィードバックした。</li> <li>✓ 九州文化学園高等学校 食物調理科に講師派遣を実施し、全学年に対して6回の製菓実習を行った。</li> <li>✓ 介護福祉コースでは、九州文化学園高等学校と連携を図り、本学で体験学習を実施した。</li> <li>✓ 国際コミュニケーションコースでは、HSK、HSKK、中国百科検定などの各種中国語関連語学検定について、九州文化学園高等学校生への受験促進を図った。検定試験への挑戦を通じて、高校段階から語学学習への意欲を高めるとともに、中国語運用能力および関連知識の到達度を客観的に把握し、継続的な学修を支援する取組を推進した。</li> </ul>  |

|         |   |
|---------|---|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓九州文化学園高等学校と連携し、出前授業を各学年2回計6回実施した。また、「音楽と動きのつどい」に九州文化学園小学校1・2年生60人を招待し、保育の魅力発信に努めた。</li> <li>✓認定こども園九州文化学園幼稚園および三川内保育園の行事への学生ボランティアの派遣、音楽と動きのつどいへ園児を招待するなど相互交流を深め、連携を強化した。</li> <li>✓長崎国際大学と連携した学生募集活動を実施することができた。</li> <li>✓今年度は長崎国際大学からの転入学はなかったが、長崎国際大学へ編入学は12人となった。</li> </ul> |
| 付帯計画と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓公式ホームページやInstagram等のSNSや情報媒体を活用し、令和8(2026)年度開始の保育学科3コース制についての情報発信を強化した。また連携協定を結んでいる自治体への講師派遣、学生のボランティア活動など地域活動への積極的な参加を行い、本学の認知度向上を図ることができた。</li> </ul>   |

## 7) 主要情報

### (1) 卒業生数、資格等に関する実績

#### 【本科卒業生数】

| 学科名    | 専攻・コース名        | 総計      | 備考     |
|--------|----------------|---------|--------|
| 地域共生学科 | 食物栄養コース        | 34人     |        |
|        | 製菓コース          | 16人     |        |
|        | 介護福祉コース        | 13人     |        |
|        | 国際コミュニケーションコース | 65人     | 前期卒生含む |
| 保育学科   |                | 70人     | 前期卒生含む |
| 総計     |                | 198人    |        |
| 卒業生の累計 |                | 10,287人 |        |

#### 【専攻科修了者数】

| 学科名    | 専攻・コース名 | 総計   | 備考 |
|--------|---------|------|----|
| 専攻科    | 7人      | 7人   |    |
| 総計     |         | 7人   |    |
| 修了者の累計 |         | 427人 |    |

#### 【学位および国家資格・免許等の実績】

| 学位・資格・免許等  | 取得者  | 備考                       |
|------------|------|--------------------------|
| 学位：短期大学士   | 198人 |                          |
| 学位：学士      | 6人   | 専攻科修了者への大学評価・学位授与機構による授与 |
| 栄養士        | 34人  |                          |
| 製菓衛生師      | 9人   | 日本人9人/10人                |
| 介護福祉士      | 10人  | 日本人5人/5人，留学生5人/8人        |
| 保育士        | 64人  |                          |
| 幼稚園教諭2種免許状 | 62人  |                          |
| 幼稚園教諭1種免許状 | 6人   | 学位取得者                    |

### (2) 主な行事等の開催実績

| 行事等                             | 実施日・期間等   | 備考  |
|---------------------------------|---|---|
| 入学式                             | 4月5日(土)   | 来賓・保護者の制限なし                               |
| オリエンテーション                       | 4月4日(金)留学生のみ<br>4月7日(月)～4月9日(水)                           | 4月9日(火)健康診断                               |
| 第1回オープンキャンパス                    | 5月11日(日)  |   |
| スポーツデー                          | 5月17日(土)  | 全学的に実施                                    |
| 市民公開講座                          | 6月21日(土)・6月28日(土)<br>7月26日(土)・8月2日(土)<br>8月8日(金)・9月27日(土) | 受講対象を講座ごと(幼児～一般)に設け、ステークホルダーに周知した。        |
| 異文化交流パーティー                      | 7月12日(土)  | メニュー2要件として実施し、長崎女子短期大学が新規参画               |
| 第2回オープンキャンパス                    | 7月19日(土)  |   |
| 第3回オープンキャンパス                    | 8月10日(日)  |   |
| 九州文化学園創立80周年記念<br>製菓コースマルシェ・同窓会 | 8月30日(土)  | 卒業生や関係者が出店するマルシェを本学で開催し、夕方はホテルにて同窓会を開催した。 |
| 白蝶祭・第4回オープンキャンパス                | 10月26日(日)   |   |
| 第41回音楽と動きのつどい                   | 11月21日(金)   | 九州文化学園小学校・九州文化学園高等学校にも参加を呼び掛けた。           |

|                            |               |                              |
|----------------------------|---------------|------------------------------|
| 九州文化学園創立 80 周年記念大茶会        | 12 月 7 日(日)   | アルカス佐世保にて、立礼席を担当し、接客等にも対応した。 |
| 九州文化学園創立 80 周年記念<br>式典・祝賀会 | 12 月 15 日(月)  | 学生および教職員が参加した。               |
| 第 5 回オープンキャンパス             | 3 月 20 日(金・祝) |                              |

<入試関係日程>

| 入試区分              | 実施日          | 備考 |
|-------------------|--------------|----|
| 総合型選抜[育成型]1 期     | 10 月 11 日(土) |    |
| 総合型選抜[育成型]2 期     | 12 月 20 日(土) |    |
| 学校推薦型選抜 指定校特待生選考  | 11 月 15 日(土) |    |
| 学校推薦型選抜 指定校制      | 11 月 15 日(土) |    |
| 学校推薦型公募制・内部選抜     | 11 月 22 日(土) |    |
| 一般選抜特待生選考 1 期     | 2 月 7 日(土)   |    |
| 一般選抜特待生選考 2 期     | 3 月 10 日(火)  |    |
| 一般選抜 1 期          | 2 月 7 日(土)   |    |
| 大学入学共通テスト利用選抜 1 期 | -            |    |
| 大学入学共通テスト利用選抜 2 期 | -            |    |
| 社会人選抜 1 期         | 11 月 22 日(土) |    |
| 社会人選抜 2 期         | 2 月 7 日(土)   |    |
| 国内留学生入試 1 期       | 11 月 22 日(土) |    |
| 国内留学生入試 2 期       | 2 月 7 日(土)   |    |
| 国内留学生入試 3 期       | 3 月 10 日(火)  |    |
| 海外留学生入試           | 11 月 22 日(土) |    |
| 海外留学生入試           | 12 月 20 日(土) |    |
| 海外留学生入試           | 1 月 10 日(土)  |    |

8) 年度の事業計画の進捗・達成状況

(1) 学科・コース・専攻科の基本方針

| 学部学科コース・区分の名称 | 年度の基本方針の達成状況   |
|---------------|--|
| 地域共生学科(全体)    | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和 6(2024)年度私立大学等経常費補助金に係る「少子化時代を支える 新たな私立大学等の経営改革支援」事業のメニュー2「複数大学等の連携による機能の共同化・高度化を通じた経営改革支援」に採択され、国際コミュニケーションコースに新たに「Bridge Class」を設け、受け入れの準備を進めることができた。10 人の募集定員に対して、3 人の入学者を獲得することができた。</li> <li>✓ 西九州大学短期大学部、長崎女子短期大学との連携をスタートした。</li> </ul>   |
| 食物栄養コース       | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 栄養士実力認定試験対策として継続した取り組みを行ったが、昨年度に比して A 判定取得者の割合は、51.9%から 43.8%と 8.1 ポイント減少した。</li> <li>✓ 地域に貢献できる栄養士を養成することを目指し、白蝶クッキングスタジオや英語で料理教室等、地域に向けた活動を 16 件実施した。</li> <li>✓ 長崎県内にある給食施設への栄養士としての就職割合の増加を目指した結果、栄養士としての就職率 78.6%(28 人中 22 人)のうち県内就職率 86.4%(22 人中 19 人)と高い割合で、県内で栄養士として活躍する学生を送り出すことができた。</li> <li>✓ ステークホルダーの卒業生への支援事業として、管理栄養士国家試験対策やホームカミングを実施し、情報提供等を行った。</li> <li>✓ グローバルな視点を獲得することを目的として、本学留学生や地域在住の外国人との異文化交流事業を継続して実施した。</li> <li>✓ 協和商工株式会社ならびに一般社団法人フードバンク協和と連携した活動として、「連携事業レシピ開発」「フードドライブボランティア」を実施した。</li> <li>✓ コースの公式 LINE アカウントを用いた保護者への定期的な情報提供を継続して実施した。</li> <li>✓ 社会人学生の受け入れを促進するための具体策を検討したが、今年度は実施に至らなかった。</li> </ul> |
| 製菓コース         | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ インターンシップとして、学外(ホテル 3 人、営業店 7 人)、学内 9 人が研修を行い、就業意識を高め、社会人基礎力の向上につなげることができた</li> <li>✓ 教育的配慮を有する学生に対し、学生相談室・保健室や家庭と連携し支援を行ったが、2 人の退学者が出てしまった。</li> </ul>  |

|                |  |
|----------------|--|
|                | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 製菓コース単独で同窓会を開催し、卒業生およびその家族を含め、予想を超える110人の参加があり、親睦を深めることができた。</li> </ul>   |
| 介護福祉コース        | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 介護福祉士の合格率が令和5(2023)年度に比べ留学生の合格率が46ポイント上昇しており少しずつではあるが目標に近づいている。しかし、日本人学生の入学が年々減少しており中学校・高校へのアプローチの強化が急務と思われる。</li> </ul>  |
| 国際コミュニケーションコース | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和6(2024)年度経営改革支援「メニュー2」の採択を受け、配慮を必要とする多様な学生一人ひとりの状況に応じた柔軟な教育支援を入学前より実施した。今後の指導に活かすための具体的な支援ノウハウの蓄積を図った。</li> <li>✓ 「メニュー2」に関連し、メンバー短期大学との連携のもと、地域活動に関わる自治体、教育機関、関係団体等の多様なステークホルダーとの協働推進を検討し、教育支援体制の構築を進めた。</li> <li>✓ 学修効果の向上を目的として、学生の理解度や到達度に応じた習熟度別学修の内容および方法について検証・改善を行い、そのさらなる深化を図った。学生の学修状況に応じたきめ細かな指導を行うことで、基礎学力の定着と発展的な学びの充実に努めた。</li> <li>✓ ティームティーチングを積極的に導入し、教員間の連携による多角的な指導を実践した。授業運営や指導方法の相互共有を通じて、より効果的な教育指導の在り方を探究するとともに、教員の教育力向上を図った。</li> </ul> |
| 保育学科           | <p>(メニュー1 要件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「キラリ2」の取り組みである多様な学びの機会の提供に向けた3コース制のスタートに向けてカリキュラムの見直し、編成を行った。また、CAの配置についても3コースそれぞれ2人体制とし、支援体制を強化した。</li> <li>✓ 3コース制に向けた広報活動を促進し、定員に近い78人を確保できた。</li> <li>✓ 専攻科への進学を促進し、内部進学者を昨年度の5人から8人に増やすことができた。</li> </ul>  |
| 専攻科保育専攻        | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 幼稚園教諭一種免許状取得率86%および学位(教育学)取得率86%となった</li> <li>✓ 県内就職率は57%に留まった</li> <li>✓ 定員確保に向けガイダンスを実施し、進学志願者増に繋がった。</li> </ul>  |

## (2) 教育活動

| 取組の総括   |  |
|---|--|
| <p>教育活動の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 地域社会の発展に寄与する社会人を育成する。</li> </ul> <p>計画の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 建学の精神を具現化する基幹科目である茶道文化教育の充実を図った。</li> <li>✓ 大学改革IR委員会を中心として、エビデンスデータに基づく教育成果の可視化に取り組んだ。</li> <li>✓ 在学生、卒業生、就職先ヒアリング調査を実施し教学改革に資するデータを取得した。</li> <li>✓ 高校生にアピールできる科目や在学生の満足度を向上させる特別講座等の開設を検討した。</li> <li>✓ 授業外学修を定着させる方策(反転授業など)の導入の検討を図った。</li> </ul> |  |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 茶道文化教育  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 白蝶祭、オープンキャンパス、茶道大会等で茶道教育を披露した。また、認定こども園九州文化学園幼稚園の園児を対象とした「お茶ごっこ」を実施し伝統文化の継承に努めた。</li> <li>✓ 茶道実技を教授する教職員の習熟度の差について学生から指摘を受けたため、実技研修を再開した。</li> </ul>                              |
| (2) 教育成果の可視化  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和8(2026)年度からアセスメンターを利用してディプロマ・サプリメントを作成することとなるため、令和7(2025)年度が最後の学内制作となった。</li> </ul>   |
| (3) ステークホルダー調査  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 在学生、卒業生、就職先ヒアリング調査を行い、3ポリシーの検証を行った。さらに多面的な意見を得るため他のステークホルダー(特に高等学校)への調査を検討する予定であったが、実施に至らなかった。</li> </ul>   |
| (4) 教育課程の見直し  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ それぞれの学位プログラム養成課程において学生募集に資する教育課程の見直しを行った結果、保育学科に3コース制を導入した。結果として令和6(2024)年度と同程度の入学者を獲得できた。</li> <li>✓ 在学生の満足度を向上させる施策として、ボトムアップ・トップアップカリキュラムを検討することとしていたが十分な議論はできなかった。</li> </ul> |
| (5) 学修習慣  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 図書・雑誌の選書を通し、充実した図書館の構築を推進した。ラーニング・コモンズ機能の充実は果たせなかったが、教員の協力もあり授業での利用促進が図られた。</li> </ul>  |

|            |   |
|------------|---|
|            | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ スタディスキル(ノートの取り方、テキストの読み方(批判的読解)、レポートの書き方、文献や資料の検索方法、要約の仕方など)が不足する学生に対する学修支援の一環としてスクールソーシャルワーカーを配置した。</li> </ul>  |
| (6) 学修システム | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 入学者の IT スキルは GIGA スクールの影響か、年々上昇傾向にある。Google for Education への適応も早くスムーズに授業が進行している。新たに導入したアセスメントでは学修成果の把握(シラバス管理含む)が可能であり、自己評価と他者評価のズレなどから成績評価方法の見直し等、カリキュラム編成に資するデータが得られるものと期待している。</li> </ul> |

### (3) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

| 取組の総括  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「メニュー1」では、地域に必要な保育人材の確保と定着のために、「保育人材共創委員会」を設置し、本学と地域ステークホルダーとの緊密な連携・協働体制の下で、長崎短期大学保育学科の教育力向上を目指す。地域の保育ニーズを踏まえた教育改革と、地元就職支援を行うとともに、この連携モデルを他学科にも展開し、本学全体の教育力を強化し、持続可能な地域づくりに貢献するための基盤構築を目指して取り組んだ。</li> <li>✓ 「メニュー2」では、西九州大学短期大学部、長崎女子短期大学と連携し、「九州短期大学共創プラットフォーム」(連携プラットフォーム)において「カレッジパートナーシッププログラム(共有科目群)」を導入し、魅力ある科目群からなる「インターカレッジ・カリキュラム(履修モデル)」の準備を進めることができた。受け皿となる、地域共生学科国際コミュニケーションコースに「Bridge Class(定員10人)」を新設し、3人の入学者を確保した。本プログラムを履修する学生用に「ブリッジルーム」を新たに設け、体調に合わせて柔軟に受講ができる環境を準備した。</li> </ul> |   |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 地域との共創による保育人材育成～キラリと光る保育学科教育力開発プロジェクト～(メニュー1)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ リーフレット作成や Instagram 動画広告を作成し幅広く周知を行った。</li> <li>✓ 令和7(2025)年度は9/22、3/26の2回開催した保育人材共創委員会において、ステークホルダーとの関係づくりを促進した。その中で長崎県における保育人材確保のための学修支援制度創設に関する要望について協議し、長崎短期大学、佐世保市幼稚園協会、佐世保市保育会で要望書を提出することになった。</li> <li>✓ 令和8(2026)年度からの定員変更、3コース制設置での保育者養成について周知し、募集活動を促進した結果、78人の入学者を確保することが出来た。</li> </ul>  |
| (2) 「Higher Education for all」短期大学の教育機能の共同化・高度化の取組み～短期大学の経営改革のための複数短期大学等による連携事業」(メニュー2)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 連携した教育の提供「カレッジパートナーシッププログラム(共有科目群)」の連携開設科目の抽出し、時間割調整、シラバス共有化の作業を行った。</li> <li>✓ 学内規程を見直し、また「クロスアポイントメント制度に関する規程」を新規制定した。</li> <li>✓ リーフレットを作成し、通信制を持つ高校を中心に新規開拓を行いつつも、現行の高校にも広く周知できた。</li> <li>✓ 本事業に関するリーフレットおよびホームページを作成・活用して募集広報活動を行い、3人の入学者を確保し、「ブリッジルーム」を新設した。</li> <li>✓ 入学後の学びへ繋がるよう、対話を重視した入学前教育を実施した。</li> <li>✓ 地域連携先として、地域企業(協和商工株式会社)や自治体(相浦自治協議会)を選定し、次年度の地域連携活動につなげることができた。</li> </ul> |
| (3) 急激な少子化時代を乗り越えるための経営改革(メニュー1およびメニュー2)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 社会的ニーズと趨勢から総合的に判断し、既存の学科等の再編および入学定員数の適正化に着手した。地域共生学科製菓コース(定員20人)の募集を停止し、同時に国際コミュニケーションコース(定員60人)は10人増やし、学科定員は地域共生学科定員を135人から125人に定員減した。</li> <li>✓ 令和8(2026)年度は、保育学科定員80人に対し78人、地域共生学科定員を125人に対し121人の入学生を獲得できた。</li> </ul>   |

### (4) 研究活動

| 取組の総括   |
|---|
| <p>研究活動の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学長のリーダーシップの下、組織的な研究を行い、研究力を高める。</li> <li>✓ 本学のブランドイメージを確立する。</li> <li>✓ 学外と連携を図り、共同研究・受託研究を実施する。</li> <li>✓ 地域の課題解決に向けた研究を行い、研究成果を地域に還元し、地域の発展に寄与する。</li> </ul> <p>計画の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 本学の強みや特色を伸ばす戦略的経営の展開に向け、学長を中心とした全学的な学内体制において、研究を組織的に推進していくために作成した「長崎短期大学 研究体制の整備に関する計画」に基づき、個人研究および共同研究・受託研究を推進した。</li> <li>✓ 中堅・中核人材養成を担う「地方に必要な高等教育機関」として、本学のブランドイメージの確立を目指した。</li> </ul> |

| <p>✓学外と連携を図り、優れた研究成果を生み出し、社会貢献に資することを目的とした共同研究・受託研究の実施を検討した。</p> <p>✓「長崎短期大学研究シズリーフレット(研究者一覧)」を活用し、本学が持つ独自の研究分野や強みを地域に広く、効果的にアピールし、地域の課題解決に繋がる研究支援活動の周知を図った。</p> |  |
|--|--|
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 学長裁量の傾斜配分による共同研究の促進(特に学科・分野を超えた研究)   | ✓ 令和7(2025)年度においては、対象となる研究活動の実施は無かった。次年度以降も、学内・学外問わず、学科・分野を超えた共同での研究活動の促進を行っていききたい。  |
| (2) 学長裁量の傾斜配分による研究論文の翻訳経費支援  | ✓ 対象の傾斜配分研究費ではなく、学生支援課経費にて予算申請を行い、翻訳支援に取り組んだ。  |
| (3) 科研費獲得研修会の実施  | ✓ 日本学術振興会開催のオンライン説明会および長崎国際大学主催の研修会開催を教職員に向けて広く周知した。   |
| (4) SD・FD 研修会の実施   | ✓ 産学連携コーディネーターを中心に、「研究倫理研修」、「コンプライアンス研修」「安全保障貿易管理研修」を計画し、全ての専任教職員に対し実施した。研修会議には、確認テストやアンケートを行い、理解を深めた。   |
| (5) 外部との共同研究・受託<br>(6) 研究の推進   | <p>✓ 西九州大学短期大学部と共同研究を実施し、外部企業より受託研究費も獲得した。</p> <p>✓ 波佐見町と連携し、子育て・親育ち講座を開催した。</p> <p>✓ 東彼杵町と連携し、食育事業を開催した。同事業に、保育学科も託児ボランティアとして携わった。また、製菓コースにおいて、令和6(2024)年度に地域企業と連携して商品開発したドリンクメニューが、令和7(2025)年に大村湾PAにて販売が開始された。</p> <p>✓ JA 西海と連携し、みかんを使用した商品開発を行い、地域イベントにおいて販売する事ができた。</p> |
| (7) QSP 子ども育成WG 共同研究   | ✓ 新たな共同研究者を募り、メンバーと研究テーマが確定し、目的・内容・手段・まとめ方について、令和8(2026)年度に、調査が開始できるよう計画の組み立てを行った。   |
| (8) 「長崎短期大学研究シズリーフレット(研究者一覧)」を活用した研究支援の実施  | <p>✓ 「長崎短期大学研究シズリーフレット(研究者一覧)」を配布した連携先より、</p> <p>✓ 波佐見町子育て支援センター職員向け、ならびに、東彼杵町保育職員向けの講座</p> <p>✓ 依頼を受け、保育学科教員による支援を行った。</p>  |

### (5) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

| 取組の総括  |   |
|--|---|
| <p>支援活動の目的</p> <p>✓ 奨学費 1,000 万円を圧縮する。</p> <p>✓ 学生満足度を向上させ、離学率の低下を図る。</p> <p>計画の概要</p> <p>✓ 令和8(2026)年度入学者のための令和7(2025)年度の学生募集活動において、奨学費の圧縮を目的として、留学生数を抑えつつ、邦人入学者を増やし定員充足を目指した。</p> <p>✓ 学修支援の充実・強化を図り、成績優秀者の満足度向上を目指した。</p> <p>✓ 学生生活に関する支援により離学率の低下を目指した。</p> <p>✓ 進路支援に注力し、就職・進学希望者の決定率 100%の達成を目指した。</p> |   |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 奨学費の圧縮   | ✓ 入学者選抜での奨学制度採用の条件変更を検討したが、日本人と留学生の数的バランスは取れず、奨学費圧縮することはできなかった。留学生入試において、邦人学生との数のバランスを見つつ、奨学費の圧縮が一番の課題である。  |
| (2) 学修支援   | <p>✓ オフィスアワーの設定、シラバスの充実、履修指導の徹底、成績不振学生への対応、クラスアドバイザー制度等を通じた学生支援を行った。成績優秀者の満足度向上を企図した科目は計画できなかった。</p> <p>✓ スクールソーシャルワーカーを配置し、スタディスキルの獲得に向けたサポートを行った。</p> |
| (3) 学生生活支援   | ✓ 配慮を必要とする学生について、要望に応じて実習先、学外機関等との関係を構築した。また、学生委員会を中心として学友会活動のサポートを行うことができた。指定寮の入居希望者が激減している。学生のライフスタイルと指定寮の在り方に齟齬が生じている可能性があり、検討が必要である。                |
| (4) 進路支援   | ✓ 就職希望、進学希望等学生の要望に沿った支援を行うと共に、1 年次からキャリアデザインが明確になるような指導を行った。留学生が就職する場合は、ビザの切り   |

|             |  |
|-------------|--|
|             | 替え等の支援が必要となるが、特定活動への切り替えに必要な「推薦書」の発行を巡り学生と教職員の間の認識のズレが表面化した。今後も早めの活動を呼びかける。  |
| (5) 就職活動の支援 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 就職活動・キャリア支援としては、教員による個別面談のみならず、学生支援課による個別相談等を例年以上に機会を設けたが、留学生に対する対応が日本人学生へのそれに追いつけなかったことが次年度への課題としてある。就職講座の内容についても、学科・コースの特徴を踏まえ、さらに留学生を対象とした内容を検討し実施した。</li> <li>✓ 就職率の維持と向上を目標に、WEBを介した様々な企業等との面談の機会を定期的に行う体制づくりを新たに行ったほか、学内での業種に特化した合同企業説明会を開催し、学生の興味を広げ、内定獲得にも繋げた。</li> </ul> |

## (6) 国際交流・留学生支援活動

| 取組の総括  |   |
|--|---|
| 支援活動の目的<br>✓ 多様な価値観を理解・享受し、異文化の共存・共生に貢献できる人材を育成する。   |   |
| 計画の概要<br>✓ 令和4(2022)年度に開設した中国・韓国留学サポートセンターを中心に、学科・コースを限定せず、海外留学や短期研修への参加促進に取り組んだ。あわせて、オーストラリア等における有給インターンシップを主軸とした語学留学を継続し、実践的な語学力と就労体験を通じた学修機会の充実を図った。<br>✓ 交換留学に関する情報発信を強化し、派遣学生数の増加を目指した。<br>✓ 留学生の受け入れについては、近年留学希望者が増加しているミャンマーおよびスリランカを重点地域とし、募集広報活動を推進するとともに、入学前教育を継続して実施した。全学生の約25%を占める留学生支援においては、学生数の増加や多国籍化に対応するため、教職員間の情報共有を図り、切れ目のない支援体制の構築に努めた。<br>✓ 海外の大学生や高校生とオンラインを活用した交流事業を継続し、新たな交流先の開拓を検討している。 |   |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 海外派遣   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 交換留学生として提携大学へ派遣を行うことができた。</li> <li>✓ 長期留学9人(韓国7、カナダ1、オーストラリア1)、短期留学13人(韓国7、中国6)を派遣した。</li> </ul> |
| (2) 外国人留学生受け入れ   | ✓ 前年度を上回る外国人留学生を確保することができた(59人)。  |
| (3) 地域社会への貢献   | ✓ メニュー2を通して、長崎女子短期大学を新たに迎えて、異文化交流パーティーを実施することができた。  |

## (7) 学生募集・広報活動

| 取組の総括   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 全国的に短大志願者が減少する中、令和8(2026)年度の入学者は本科199人、専攻科8人の計207人となった。最重点地区の長崎県内からは134人が合格・入学した。</li> <li>✓ 新設の保育学科3コースは、2年制40人、3年制28人、専攻科進学10人の計78人が入学し、定員充足率は97.5%と概ね良好な結果を得たが、定員充足には至らなかった。また、国際コミュニケーションコース「Bridge Class」は3人の入学者に留まった。</li> <li>✓ 広報面では、従来の学科・コース単位のPRから「長崎短期大学」全体のブランド力の認知向上を狙った戦略へ転換した。高校1・2年生を対象とした中長期的なアプローチや、マスメディア露出を通じた県内での存在感強化に努め、新規リスト獲得を推進した。入試制度においては、メニュー1・2に即した選抜改変や、既卒者の掘り起こしを狙った公募制の導入等、戦略的な改革を実行した。</li> </ul> |  |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 入学者の確保  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学科・コースの特性、試験区分に応じた募集人員を設定した。その結果、総合型選抜の入学者は21人となり、昨年比+5人となった。さらに九州文化学園高等学校および佐世保市内の高校の入学者が増加したことにより、前年度の184人に対し、199人の入学者となった。</li> </ul>  |
| (2) 新規リストの獲得と志願者の確保   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ メインターゲットは長崎県とし、長崎県以外のエリアについては、長崎国際大学との共同募集活動を展開し、九州・沖縄の受験対象者に限らず、幅広く高校1・2年生にも注視したアプローチを実施した。</li> <li>✓ 令和8(2026)年度より開設する保育学科3コースおよび国際コミュニケーションコース「Bridge Class」の募集活動を通じて、県外進学や専門学校の進学希望者層を志願に結び付けることはできなかったが県内には広く広報できた。</li> <li>✓ オープンキャンパスを年間5回開催し、260人の受験対象者を目標としていたが214人の参加者にとどまった。一方で、イベント内容や実施時期の見直しを行ったことで参加者の志願意欲向上に繋がり、受験対象者参加者の受験率は70%と高い受験率を達成することができた。</li> </ul> |
| (3) 新入試制度の計画・実施   | ✓ 高校生を含め既卒者募集を意識した早期選抜の改革を行うとともに、アドミッショ  |

|                 |   |
|-----------------|---|
|                 | ン・ポリシーに則した入学者選抜を計画し、実施することができた。<br>✓ 令和8(2026)年度入学者選抜において、総合型選抜では前年比+5人増、社会人選抜では4人の入学者を迎え入れることができた。   |
| (4) 中長期的な募集広報戦略 | ✓ 志願の幅を広げるため、高校低学年からの段階的な広報を行うことができた。<br>✓ プレスリリースは年間50本を目標としていたが、23本の発信に留まったものの、そのうち15件が取材に繋がり、取材率は約65%と内容面では高い成果を上げた。<br>✓ 学園全体のブランド力向上が本学の認知力向上に繋がるため、短大単体だけでなく法人全体の広報の在り方を検討することができた。 |

### (8) 教職員の人材開発(SD・FD)

| 取組の総括   |  |
|---|--|
| ✓ 年度始めに学長FD・SD研修にて示された方針「次年度以降の課題」について、各学科・コース等の部門長より、前期には、取組み状況についての中間報告を行い、全体共有を図り、年度末には一年の振り返りとして総括している。また、年度末には法人本部事務局長による財務に関するFD・SD研修を毎年実施しており、教職員が本学の財務状況を把握する有効な機会にしている。<br>✓ 教育力向上に資する研修等は、学内で8回あり、高い参加率を得ている。<br>✓ 学生等の生活指導・支援力強化に資する研修等は、学内で7回、他校と合同で1回行った。<br>✓ 職位に応じた機会の創出については、全教員、職員間において、上長による面談を行い、組織内のコミュニケーションを図り人材開発・育成に繋げている。特に、新たな補助金については、各部門長のリーダーシップの下、若手教職員を含めたプロジェクトを組み、獲得することができており一定の成果を納めることができた。 |  |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 始めの会・納めの会   | ✓ 年度の節目に短期大学における環境や本学の現状に対し法人の方針を確認できる機会であり、全教職員を対象に理事長、法人本部長、学長によるSD・FD研修を行い、「学長年度方針」「財務状況」についての理解を深める事が出来た。<br>✓ 各学科・コース・委員会・事務局の取組や課題等の共有を図ることにより、教職員間の意思統一に繋がっている。 |
| (2) 茶道大会  | ✓ 令和7(2025)年度は、短大独自の茶道大会は開催せず、九州文化学園創立80周年を記念した学園全体での「大茶会」の計画・運営に携わり、盛会に終わる事ができた。また、保護者や卒業生、地域住民等のステークホルダーに対し、本学園の建学の精神の周知を図ることが出来た。                                   |
| (3) 人的資源の活性化  | ✓ メニュー2において、クロスアポイントメントの活用推進の為の規定の整備や共同SD・FD研修等を4回開催し教職員間の相互交流と専門性の向上を図った。   |
| (4) 人事面接、部門長会議、課内ミーティング等の活用等  | ✓ 目標管理シートをベースに上司・部下のコミュニケーションを図り相互理解の下、人材開発・育成業務向上に繋げている。また、事務局長による全パート職員を対象とした面談を実施し、総括と次年度に向けた課題の抽出を行った。   |
| (5) SD・FD   | ✓ 年度初めの学長方針を示したSD・FD研修を受けて、本学における教育力・学習支援力の向上および学生支援力の強化につながる施策を各学科・コース内で検討し、学生対応に努めた。   |

### (9) ステークホルダーとの連携強化(特に同窓会)

| 取組の総括  |  |
|--|--|
| ✓ 卒業生や保護者、地域のニーズに応え得る存在であり続けるために、学内外での講座やイベント等の開催情報を発信し、広く本学の教育に対する理解を得た。<br>✓ 協議を重ねながら、地域住民・地元企業のニーズに沿った活動の取組を行い、連携強化を図った。<br>✓ 若者の人材育成・地域への定着、潜在専門職人材に対するリカレント教育等、地域の課題解決のため、行政や地元企業との連携強化を検討した。 |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 同窓会(卒業生)との連携強化   | ✓ 保育学科では、令和8(2026)年度に迎える本学60周年記念事業との兼ね合いで、令和7(2025)年度はホームカミングの開催を見送った。<br>✓ 食物栄養コースでは、卒業生へのリカレント教育として管理栄養士対策講座を、オンラインを併用したハイブリット形式で実施した。<br>✓ 製菓コースでは、九州文化学園創立80周年を冠としたマルシェおよび同窓会を開催し、多くの卒業生が出店し同窓会にも参加した。<br>✓ 介護福祉コースでは、ホームカミング事業とは別に、初任・中堅職員のメンタルヘルズ講座をリカレント教育の一環として開催し就職後の問題解決に携わった。 |
| (2) 保護者との連携強化  | ✓ 保護者会を通じ保護者との信頼関係を構築するほかに、再実習者など成績不振が続く学生に対し、保護者と緊密な連絡を取り、情報を共有しながら対応を行った。<br>✓ 製菓コースでは、保護者会を兼ねたインターンシップ報告会ならびにデザートブッフェを開催し、本学の教育に対する理解を得ている。   |

|  |  |
|--|--|
| (3) 市町村との連携  | <ul style="list-style-type: none"> <li>佐世保市、波佐見町、東彼杵町、小値賀町と連携して講師を派遣し、保育学科の専門性を活かした活動を行った。(メニュー1 要件)</li> </ul>  |
| (4) 協和商工株式会社(以下、「協和商工」)ならびに一般社団法人フードバンク協和(以下、「フードバンク協和」)との連携 | <ul style="list-style-type: none"> <li>協和商工と連携した活動として、「連携事業レシピ開発」「フードドライブボランティア」を実施した。本内容の一部については本学紀要にて報告した。</li> <li>水害被害を受けたスリランカの留学生に対し、お米等の食料品の提供を受けた。</li> </ul>  |
| (5) 市民公開講座   | <ul style="list-style-type: none"> <li>新規参加者の増加を目指すため、地域住民のニーズに沿った講座内容の検討を行い、講座ごとに対象を設定し、本学の教育活動を地域・保護者・学生等へ広く周知して年間6回の講座を開催した。</li> </ul>   |
| (6) 九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども育成支援をテーマに、連携校共催によりリレー講座を継続して開催した。</li> <li>担当者変さらしに伴い、子ども育成WGの新たな共同研究者を募り、新たなテーマを基に共同研究を継続する事を確定した。</li> <li>QSP事務局の働きかけで、コンソーシアム長崎での事業がQSP事業としても認証された事により、昨年度、不採択となった改革総合支援事業タイプ3(PF型)を今年度、改めて獲得する事ができた。</li> </ul>   |
| (7) 短期大学コンソーシアム九州  | <ul style="list-style-type: none"> <li>共同した調査研究の継続、外部研修会での共同発表を行い、短期大学の教育についての理解を共有する事ができた。</li> <li>令和8(2026)年度の実施に向けた、共同での学生アクティビティの内容検討を行った。</li> </ul>   |
| (8) 西九州大学短期大学部との連携事業   | <ul style="list-style-type: none"> <li>包括連携に関する協力協定書に基づき、学生間交流、教職員の人事交流、共同研究等の実施内容等について連携協議会を開催して検討し、相互の教育・研究を進展させ、地域社会の発展に寄与していく事に繋げた。</li> </ul>   |
| (9) 西九州大学短期大学部・長崎女子短期大学との連携事業(メニュー2 事業)                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>「メニュー2」(九州短期大学共創プラットフォーム)を通じた3校での連携事業について、地域連携活動(学生交流)を次年度計画的に実施することを確認し、本学主催の活動に2校を招待し、連携・交流を進めることを確認した。</li> <li>部会活動を通して、教職員の交流も定期的に行うことができた。</li> <li>「メニュー2」の財務部会を対面で開催し、事務機能の共同運営、SD・FD研修会の共同実施、施設設備の共有化、物品の共同購入等の取組実施に向けた、内容検討を図った。次年度以降も継続し、3校それぞれの機能の拡充や効果的・効率的な学校運営に繋げていく。</li> </ul> |

## (10) 学園内の連携促進

| 取組の総括   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>学科やコース毎の連携活動を実施することができた。</li> <li>入学予定者の情報交換や内部進学者の卒業後の進路についても情報を共有し、5年間を通した専門教育の学びの経過が確認できる環境を設けている。</li> <li>内部進学促進により、令和8(2026)年度は、九州文化学園高等学校から50人の入学者を受け入れる事が出来た。</li> </ul> |  |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 共同研究の実施   | <ul style="list-style-type: none"> <li>令和6(2024)年度より長崎国際大学教員が研究代表である科研費に、本学教員が分担者として携わり、共同研究に取り組んでいる。</li> </ul>   |
| (2) 九州文化学園小学校とのコラボ(製菓コース)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>12月12日に九州文化学園小学校1年生34人を迎え、本学にて「アイシングクッキー」の製作を通じ、製菓コース1,2年生と交流した。</li> </ul>   |
| (3) 九州文化学園高等学校への講師派遣  | <ul style="list-style-type: none"> <li>食物調理科全学年に対し、各2回合計6回「調理実習」へ製菓指導の講師を派遣した。キャリアデザイン科への講師派遣は実施できなかった。</li> <li>中国語・韓国語講師派遣をすることができた。</li> </ul>  |
| (4) 学園内移動菓子販売(製菓コース)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>インターンシップ(学内研修)の一環として、長崎国際大学へ3回、九州文化学園歯科衛生士学院・調理士専門学校および九州文化学園小中学校へ2回の菓子販売を行った。</li> </ul>   |
| (5) 九州文化学園高等学校との連携強化  | <ul style="list-style-type: none"> <li>九州文化学園高等学校と連携し、運動部への栄養・健康サポートの継続的な取り組みとして、野球部員生を対象とした身体測定を行い、結果をフィードバックした。</li> <li>HSK、HSKK、中国百科検定など、語学検定における九州文化学園高等学校学生の受験促進をすることができた。</li> <li>イベントへ、高校生の参加を促し、国際コミュニケーションコースの内容の理解を促進することができた。</li> <li>九州文化学園高等学校への出前授業や音楽と動きのつどいへの招待、認定こども園九州文化学園幼稚園での共同ボランティアを実施し、保育の学びの魅力発信を行うことで内部進学率の向上につなげた。</li> </ul> |

|                 |   |
|-----------------|---|
| (6) 長崎国際大学との連携  | ✓長崎国際大学健康管理学部健康栄養学科と協働し、スポーツ栄養に関連した研究活動を実施した。                     |
| (7) 専攻科インターンシップ | ✓認定こども園九州文化学園幼稚園のインターンシップ生1人が中途停止となったが、原因となった健康面について十分に配慮していただいた。 |

## (11) SDGsの推進

| 取組の総括  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 事業者・教育機関・社会の一員としてSDGsを推進する取組みを展開した。</li> <li>✓ 「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」「資源を大切に」「ジェンダー」の4つの視点から事業者としてSDGsを推進した。</li> <li>✓ 省エネ・資源削減プロジェクトを展開し、キャンパス内でのエネルギー使用の見直しや資源の有効活用について、通常業務内での意識付けを行った。</li> <li>✓ ハラスメント対策委員会等と協働しキャンパス内の人権意識の向上を目指した。</li> <li>✓ カリキュラムにSDGsを組み込んだ科目を拡充し、学生が実践的なSDGs活動を体験できる学外体験プログラムを実施した。</li> <li>✓ 名切SDGs Festivalに参加し、長崎短期大学ブースの活動を通じて幼児から大人の意識向上を図った。</li> <li>✓ 留学生に対し、衣類等の支援を行う事で、SDGsにも繋がった。</li> </ul> |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 名切SDGsフェスティバルへの参加  | ✓九州文化学園全体で外部イベント(名切SDGs Festival)に参加し、SDGsへの意識向上、地域貢献に携わった。【目標 3,4】  |
| (2) 創立記念式典   | ✓九州文化学園創立80周年記念事業として、式典・大茶会・記念誌・寄付金の各ワークキンGoogleブに担当者を配置し、各部門と協力して事業の取組に貢献した。【目標 4,11】   |
| (3) 茶道大会   | ✓令和7(2025)年度は、学校法人九州文化学園創立80周年記念事業の一環として、学園全体での大茶会を開催した。開催にあたっては、長崎国際大学茶道文化研究所と協働して運営に携わり、茶道教育を通じ日本の歴史や文化について学修した成果を、保護者を初め卒業生や地域の方々へ広く発表した。【目標 4,11】  |
| (4) 一般社団法人フードバンク協和からの食品提供を活用した取組   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓提供された食品を活用し、社会福祉協議会と連携した「welcome 食堂」を開催した。</li> <li>✓母国が水害被害に見舞われたスリランカ出身の留学生に対し、食料品の物資提供を受けた。【目標 1,2,3,10】</li> </ul>                                   |
| (5) 白蝶祭(学園祭)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓「笑顔満祭～繋がる歴史と笑顔の輪～」をテーマとした、学友会主催のプログラム等を企画し、学生・教職員一丸となって取り組んだ。</li> <li>✓各種展示や体験コーナー、模擬店エリアやステージイベント参加も好評で、学修成果の披露の場として、教育的効果を再認識できた。【目標 4,11】</li> </ul> |
| (6) 専攻科保育専攻  | 以下の保育行事に参画した <ul style="list-style-type: none"> <li>✓海きらら「こどもひろばあまもば」におけるお楽しみ会【目標 4,6】</li> <li>✓佐世保市児童福祉週間事業「わんぱくひろば」ステージパフォーマンス【目標 4】</li> <li>✓佐世保市保育会「親子であそぼ」ステージパフォーマンス【目標 3,4】</li> </ul>  |

## (12) 管理運営と業務・経費効率化

| 取組の総括  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓メニュー1およびメニュー2の財務計画に基づいた収支のバランスが保てるよう、地域のステークホルダーあるいは近隣連携短大との連携を強固にし、教職員の人的リソースや業務の共同化等の検討を図り、経営面にバランスの取れた運営を目指すべく継続した協議を行っている。</li> <li>✓法人本部案件の重点経営課題、重点教育課題、中期計画基本方針の進捗管理は定期的に報告した。</li> <li>✓令和8(2026)年度からスタートする第3期中期計画策定に向け、実効性・公共性・信頼性・透明性を担保した大学運営の計画を立案した。</li> </ul> |   |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 運営会議   | ✓学長を筆頭に、各部門長が構成員となり運営上重要事項を審議する運営会議を月1回実施している。本会議の中で、中期計画・事業計画の浸透に関する意思の統一から増収策、業務・経費の効率化などを年次計画に沿って議論し方向性を示した上で予算書の確定を行っている。                   |
| (2) 経費の適正支出  | ✓経費予算管理の徹底に取り組んでいるが、科目間流用の認識の甘さが否めず、次年度以降も、経費の適正使用・予算管理の周知徹底に取り組んでいく。   |
| (3) 私立大学等経常費補助金  | ✓一般補助・特別補助の獲得。特に私立大学等改革総合支援事業の「タイプ3」において、地域との連携強化を図り、地域連携型の獲得を目指したが、獲得には至らなかった。しかしながら、昨年度不採択となった「タイプ3」のPF型については、QSP事務局の協力により、加点項目が増加し獲得する事ができた。 |
| (4) 研究費外部資金  | ✓科研費については、研究代表として2件、分担者として2件の申請を行ったが、採  |

|                 |   |
|-----------------|---|
|                 | 択に至らなかった。   |
| (5) 人的リソース      | ✓「メニュー2」連携校による教職員の交流や専門性の活用、基幹教員制度とクロスアポイントメント等を活用した専門性の向上を図るため、クロスアポイントメント制度規程を制定した。(メニュー2 要件)   |
| (6) システム・業務の共同化 | ✓「メニュー2」連携校の事務管理において、統一可能な共通項目を策定して標準化し、専門人材の共有・事務作業の効率化を図るため構築を行っていた共同のシステムが、今年度導入された。(メニュー2 要件)<br>✓本学においては、共同で導入したシステム内に、「メニュー1」で内容検討を図っていたプログラムも追加導入した。 |
| (7) 物品の共同調達     | ✓経費削減を図るため、同一業者に発注・納品が依頼できる物品や教材等を増加させるべく、部会で検討を図った。次年度以降、早期に項目を追加すべく、検討を継続させる。   |

### (13) 施設・設備・システム等の環境整備

|   |  |
|---|--|
| 取組の総括   |  |
| ✓学生のより良い修学環境および防犯に向けた整備のため、ドアの改修を2カ所、電子錠の導入を3カ所行った。<br>✓経年劣化・老朽化による建物の改修・保全について長期的な計画の検討を図るべく、建物診断を行った。 |  |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) Windows 10 問題   | ✓Windows11 への更新不可の PC を使用している教職員の PC の更新を行った。(18 台)<br>✓コンピュータ教室のパソコンは Windows10 であり、機能的に Windows11 へのアップデートができないため、学生個人での PC 所有を推奨した。また、個人所有率を上げるため、カリキュラムの見直しを図り、PC を利用した講義内容、課題の提示等に取り組む事とした。 |
| (2) サーバー入れ替え  | ✓予算上、入れ替えは行わなかった。インターネットへの接続に時間を要したりするが、故障等の問題は発生していない。  |
| (3) Microsoft365  | ✓学生の PC 所持率向上を図るため、「Microsoft365 office Education」を導入した。   |
| (4) 共通学習管理システム (LMS)  | ✓「メニュー2」連携校における共有科目群を履修する学生の、学習進捗を一元管理するシステムを導入し、授業資料の共有、課題提出、成績管理、学生情報の管理を共有化するとともに、共通したディプロマ・サブリメントを発行する。  |

### (14) 点検評価

|  |  |
|--|--|
| 取組の総括  |  |
| ✓自己点検・評価委員会を中心として、自己点検・評価報告書を作成しホームページで公開している。<br>✓10月の認証評価に向け、評価書の作成、エビデンスの準備等を長崎国際大学および法人本部と連携しながら行い、機関別評価で適合(適格)を得る事ができた。 |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 自己点検・評価書   | ✓日本高等教育評価機構の認証評価を受審するため、自己点検評価書を作成し、実地調査を受け、適合を得た。 |
| (2) 教職課程自己点検・評価報告書   | ✓令和4(2022)年度から義務化された教職課程の自己点検・評価を確実にを行い、教育の質を担保した。 |

### (15) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

|                           |  |
|---------------------------|--|
| 取組の総括                     |  |
| ✓本学建物の経年劣化・環境保全を数ヵ年計画で行う。 |  |
| 項目名・取組名                   | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 外壁・通路の亀裂改修            | ✓経年劣化・老朽化による外壁や学内廊下の亀裂等を、環境保全および安全確保のため年次計画に沿って改修工事を行うため、業者に依頼して建物診断を行った。<br>✓次年度以降、建物診断を基に、業者と内容検討を図り、計画的な修繕に取り組んでいく。 |

### (16) 第2期(2021-2025)中期計画の総括と評価

|      |  |
|------|--|
| 教学関係 | ✓IR データに基づく「教育成果の可視化」をメインテーマとして取り組んできた。卒業生・在学生に対しディプロマ・サブリメントの作成・配布を行い、自己理解のツールとした。教員による授業評価(成績)と学生による授業の到達目標等に対する自己評価とを比較検討する必要性は認識していたが、その方法開発に至らなかった。令和7(2025)年度に導入されたアセスメントにより自己評価と他者評価を分析できるようになった。今後は、データを蓄積・分析し教学改革に繋げたい。 |
| 人事関係 | ✓教員の人員配置については、各学科長・コース長ならびに学長との協議を重ね、教育・研究体制の充実を図る観点から適正な配置に努めた。育成および評価において  |

|      |  |
|------|--|
|      | <p>は、学生指導、地域貢献活動、研究業績等を総合的に勘案し、学長面接を通じて個々の目標および課題を明確化するとともに、適切な評価を実施した。</p> <p>✓ 事務職員の人員配置については、組織機能の強化を目的として事務組織の見直しを行い、各職員の適性や能力開発の観点から踏まえたジョブローテーションを実施した。また、目標管理シートに基づき、上司と部下の面談による目標設定を行うとともに、年度末の人事考課および次年度に向けたフィードバックを通じて、人材育成および業務改善の推進を図った。一方で、外部機関や他大学等との連携については、新型コロナウイルス感染症の影響により接点が減少する傾向が見られた。今後は、第3期中期計画における各種事業(メニュー1・メニュー2)を着実に推進し、積極的にコンタクトポイントを拡充することで、外部との連携強化および知見の深化に努める必要がある。</p> |
| 施設関係 | <p>✓ 第2期中期計画内で、全館LED化、ボイラーを撤去し空調のエアコン1本化、通信機器(電話機)更新を行った。また、令和6(2024)年度には、受電設備(キュービクル)の更新も行った。</p> <p>✓ 最終年度の令和7(2025)年度には、今後、計画的な修繕・更新を行うために、大手ゼネコンに建物診断を依頼し、第3期中期計画に反映させた。</p>   |
| 財務関係 | <p>✓ 高校生の進路決定時期の早期化を踏まえ、従来の広報時期にとらわれない継続的な接点づくりが必要である。今期は学科単位の短期的な広報から、学園全体の認知度向上を狙った中長期的なアプローチを行ってきた。特に高校1・2年生に対して関係構築を重視し、進路意識を高める仕掛けづくりを行ってきた。具体的には、早期のオープンキャンパス開催やSNS・マスメディアを活用した多角的な情報発信により、潜在的な志願者層への訴求力を高めている。今後は、これらの施策を定着させ、入学定員充足率の安定的な確保へと繋げる必要がある。単なる情報提供に留まらず、ターゲットの意識変容に合わせた戦略的な広報活動を継続することで、量・質ともに募集体制を確立することが次期計画の最重要課題である。</p>  |

### 3.九州文化学園高等学校

#### 1) 3ポリシー

|                    |  |
|--------------------|--|
| 卒業の認定に関する方針        | 本校の建学の精神「高い知性と豊かな教養」「優れた徳性と品格」「たくましい意志と健康な身体」を現代的に体現し、卒業までに以下の資質・能力を身に付けさせます。<br>(1) 主体的な自己実現力と自己指導能力<br>(2) デジタル・AI活用能力と倫理観<br>(3) 非認知能力(生きる力の土台)<br>(4) 多文化共生と社会参画の意識                    |
| 教育課程の編成および実施に関する方針 | グラデュエーション・ポリシーに掲げた資質・能力を育むため、「DXハイスクール」としての先端環境と「社会に開かれた教育課程」を融合させた体系的な学びを展開します。<br>(1) 「DXルーム」を拠点とした文理横断的・探究的な学び<br>(2) 8つの専門コースによる個別最適な学び<br>(3) 発達支持的生徒指導と安心できる環境整備<br>(4) 高大連携と地域協働の深化 |
| 入学者の受入れに関する方針      | 本校の教育理念に共感し、自身の可能性を信じて努力しようとする、次のような生徒を多面的な評価(入試・面接・調査書等)に基づき受け入れます。<br>(1) 自己変革への意欲<br>(2) デジタル・理数分野への探究心<br>(3) 多様性の尊重と協働の姿勢<br>(4) 基本的な生活習慣と誠実な態度                                       |

#### 2) 経営理念・経営目標

|      |   |
|------|---|
| 経営理念 | 建学の精神の下、人として大切な徳性と香り高い品格を身につける            |
| 経営目標 | 経営理念に則り、知・情・意のバランスが取れた全人教育を行い、生徒の夢の実現に努める |

#### 3) 1年間の総括と評価

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 入学者数は前年度1人減の268人で2年連続定員割れとなった。在籍生徒数は前年度31人減の821人であった。衛生看護専攻科は入学者数49人、在籍者数は105人であった。引き続き、本校の強みを活かし、定員280人以上の入学者数の確保を目指す。</li> <li>✓ 普通科では国公立大学に6人が合格、うちSコースから4人と成果があがってきている。内部進学では特に長崎短期大学に50人進学と実績を伸ばしている。就職も順調に内定を得ている。今後も生徒たちの進路希望実現に向け指導体制の充実をはかる。</li> <li>✓ タブレット端末は計画通り購入し3学年とも活用している。整備されたICT環境を活かし、教員は授業等において積極的に活用している。また、職員研修を通して、授業および家庭での効果的な活用方法について研鑽を重ねている。また、校務支援システムを本格的に導入し、職員・保護者への連絡、出席・成績管理等を行っている。さらに他の校務へ活用を研究する。</li> <li>✓ 部活動については、運動部でサッカー部が全国大会初出場を果たし、野球部が県大会で準優勝、全国大会常連の部もあり今後も活躍が期待できる。文化部では吹奏楽部が吹奏楽コンクールで金賞受賞、地域イベント等に招かれて演奏を披露するなど、多くの地域の方々と繋がり活躍の場を広げている。弁論部も活躍が著しい。</li> <li>✓ 各分掌、ブロック、学年が有機的に連携するように組織力向上に努めた。次年度も継続して取り組む。</li> </ul> |
|--|

#### 4) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組実績

|   |            |  |
|---|------------|--|
| 1 | 成長力の確保     | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 各学科・コースの目的・目標に則した教育活動の展開に努め、人間力豊かな生徒を育んだ。</li> <li>✓ Sコースは推薦入試に加え、昨年度に続き大学入試センター共通テスト・個別学力試験を突破しての合格者を出すことができ成果があがりつつある。普通科の特徴あるコースとして軌道に乗せていきたい。</li> <li>✓ 食物調理科は令和8(2026)年度入試で志願者数が大幅に増加したため定員の増加を行う。他の学科の定員を一部削減することで、募集定員の280人の変更はない。</li> </ul> |
| 2 | 教育力の向上     | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ グループ内での各分野の連携を進めるとともに、先進校視察や教職員の研修を実施し一定の成果を得た。引き続き、体系的な職員研修を計画し、資質向上に向けて努力する。</li> <li>✓ 日本私学教育研究会主催の全国規模の研修に教員を派遣し、その成果を職員会議等で還元し、教育活動に活かしている。</li> </ul>   |
| 3 | 約定返済の確実な履行 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 経費削減により目標とする収益を確保し約定返済を確実に履行した。</li> </ul>  |

#### 5) 経営改善(健全化)に関する成果

|   |             |   |
|---|-------------|---|
| 1 | 収入の増加       | ✓ スクールバス維持費を8%増額した。令和8(2026)年度は授業料の値上げを実施する予定。        |
| 2 | 支出の効率化      | ✓ すべての経費の見直しを行い経費削減に注力した                              |
| 3 | 人員・業務の効率化   | ✓ 教員は退職者による減員を補充できなかった。若手教員の退職が続いており、採用も厳しい状況が継続している。 |
| 4 | 付加価値向上と広報強化 | ✓ 教育力の向上により、定員の確保に注力していく。                             |

## 6) 中期計画の進捗・達成状況

| 区分       | 進捗・達成状況   |
|----------|---|
| 戦略Ⅰ      | ✓ 年度途中で3人、年度末に2人の退職者があった。全ての教科で教員募集を行い6人が入職。<br>ただし、退職者がでた国語科・英語科の補充はできず、数学科も過去の退職者の補充ができていない。  |
| 戦略Ⅱ      | ✓ 専門学科を中心に、技術の習得や資格の取得に向けた教育活動を実施している。また、グループ内連携を推進し、他部門からの出前授業等を体験することで、高度な専門的知識を身につけ、職業の魅力を発見する活動を行った。  |
| 戦略Ⅲ      | ✓ 長崎短期大学で開催された椎木町連絡協議会に出席。料理同好会、吹奏楽部が地域の催し物に参加。地域と積極的に関わることができた。学園祭には地域の方にも足を運んでいただき好評であった。<br>✓ 学校評価の結果、学校に対する満足度は、生徒78%、保護者92%であった。   |
| 戦略Ⅳ      | ✓ 令和7(2025)年度でタブレット端末を全学年が所有でき、授業等において積極的な活用が進んでいる。<br>✓ 授業および家庭での効果的な活用方法について職員研修を重ねた。出席・成績管理等、校務への活用を本格的に開始した。他の校務への活用を推進していきたい。<br>✓ 教室へのプロジェクターやスクリーンの設置が完了し授業での活用が進んでいる。また、授業配信の試行を行ってみたが学校から家庭への一方向のみとなり課題が残る。            |
| 戦略Ⅴ      | ✓ ホームページに校長ブログのコーナーを開設。校長だより「師弟同行」を発行。学校行事や学校生活の様子は、ホームページやInstagram等のSNSを活用し、積極的な情報発信に努めている。   |
| 戦略Ⅵ      | ✓ 授業料無償化への対応として、授業料の改定を令和8(2026)年度に実施する方針。<br>✓ 固定費の削減に今後も注力していく。   |
| 学園内の連携促進 | ✓ 進路指導、生徒募集をはじめとして、食物や福祉関係など各専門学科の担当者同士もよく連絡し合い、積極的に連携をとることができた。<br>✓ 九州文化学園中学校の授業を参観、あるいは高校教員が九州文化学園中学校の生徒に授業をおこなった。さらに中高連携を推し進めて双方の指導力の向上に努めたい。<br>✓ 長崎短期大学から保育コースへの出前授業、大学薬学部からSコースに出前講座を実施していただき、生徒たちの学問に対する興味関心を高めることができた。 |
| 付帯計画と課題  | ✓ 普通科Sアカデミーコースについては、各対外実力テストの結果を踏まえて、ブロック職員および教科担当者で分析会を実施し、その後の学習指導・進路指導に活かすことができた。  |

## 7) 主要情報

### (1) 卒業者数、資格等に関する実績

#### 【本科卒業者数】

| 学科名    | 人数      | 備考 |
|--------|---------|----|
| 普通科    | 121人    |    |
| 食物調理科  | 46人     |    |
| 保育福祉科  | 71人     |    |
| 衛生看護科  | 52人     |    |
| 総計     | 290人    |    |
| 卒業者の累計 | 16,998人 |    |

#### 【専攻科修了者数】

| 専攻科人          | 人数     | 備考 |
|---------------|--------|----|
| 衛生看護専攻科(2年課程) | 49人    |    |
| 総計            | 49人    |    |
| 修了者の累計        | 1,097人 |    |

#### 【国家資格・免許等の実績】

| 資格・免許等人       | 取得者 | 備考 |
|---------------|-----|----|
| 調理師           | 46人 |    |
| 介護職員初任者研修課程修了 | 32人 |    |

|      |     |  |
|------|-----|--|
| 准看護師 | 52人 |  |
| 看護師  | 48人 |  |

## (2) 主な行事等の開催実績

| 行事等人                | 実施日・期間等               | 備考              |
|---------------------|-----------------------|-----------------|
| 新入生オリエンテーション        | 4月2日(水)               |                 |
| 始業式                 | 4月8日(火)               |                 |
| 入学式                 | 4月9日(水)               |                 |
| 衛生看護専攻科入学式          | 4月10日(木)              |                 |
| 育蝶会総会および学校説明会       | 5月10日(土)              |                 |
| 創立80周年記念体育祭         | 5月16日(金)              |                 |
| ハイスクール茶会 in ハウステンボス | 5月17日(土)              |                 |
| 長崎県高等学校総合体育大会       | 5月31日(土)<br>～6月8日(日)  |                 |
| 「開け未来の扉」中国総体2025    | 7月23日(水)<br>～8月20日(水) |                 |
| 第1回オープンスクール         | 7月24日(木)              |                 |
| 第2回オープンスクール         | 7月25日(金)              |                 |
| 第3回オープンスクール         | 8月22日(金)              |                 |
| 入試相談会               | 10月4日(土)              |                 |
| 私学振興大会              | 10月22日(水)             |                 |
| 創立80周年記念学園祭         | 10月24日(金)<br>～25日(土)  |                 |
| 創立80周年記念式典          | 12月15日(月)             |                 |
| 推薦入試                | 1月15日(木)              |                 |
| 一次入試                | 1月22日(木)<br>～1月23日(金) |                 |
| 学祖追悼式               | 1月27日(火)              |                 |
| 第73回卒業証書授与式         | 2月18日(水)              |                 |
| 衛生看護専攻科第29回卒業証書授与式  | 2月27日(金)              |                 |
| 修学旅行                | 3月1日(日)<br>～3月5日(木)   | スキー研修等(新潟県・東京都) |
| 終業式                 | 3月17日(火)              |                 |
| 2次入試                | 3月18日(水)              |                 |
| 合格者オリエンテーション        | 3月23日(月)<br>3月26日(木)  |                 |

## 8) 年度の事業計画の進捗・達成状況

### (1) 学科・コースの基本方針

| 学部学科コース・区分の名称  | 年度の基本方針の達成状況   |
|----------------|--|
| 普通科Sアカデミーコース   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 少人数制の授業展開によりきめ細かい指導を行い成績の向上につながった。</li> <li>✓ 企業訪問や国公立大学のオープンキャンパスに参加することで、進学に対する意識を高めることができた。</li> </ul>                                     |
| 普通科Sグローバルコース   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 英語の外部試験を定期的実施することで、着実に英語力が高まっている。</li> <li>✓ 佐世保市イングリッシュ出前プログラムおよび JICA のプログラムの活動を通じて国際理解を深めることができた。</li> </ul>                               |
| 普通科総合進学コース     | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学業と部活動の両立を軸に、多様化する入試に対応できる力を育んだ。結果内部進学をはじめ幅広い進路希望実現に繋がった。</li> </ul>  |
| 普通科キャリアデザインコース | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 各種検定の受検、インターンシップ、中国語や韓国語等の特色ある活動を実施し幅広く豊かな学習活動を展開することができ、進路選択の幅を広げることができた。</li> </ul>   |
| 食物調理科          | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 在籍人数に応じ適切な人数のグループを作りながら円滑に調理実習等ができるような工夫を行い実習に励んだ。保護者対象のお食事会も実施でき、生徒たちは感謝の気持ちを保護者に伝えていた。専門知識の習得に励み、調理技術ともてなしとのバランスの取れた専門人材の育成に努めた。</li> </ul> |
| 保育福祉科保育コース     | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 専門知識の習得に加え、保育技術の錬成に努め、年間を通して生徒自身の専門性</li> </ul>   |

|            |   |
|------------|---|
|            | を高めることができた。また、実習施設と綿密に打合せを重ね、実習を実施し現場における学びを深めることで、豊かな情操と感性を育んだ。  |
| 保育福祉科福祉コース | ✓ 専門知識の習得に加え、介護技術等の錬成に努め、年間を通して生徒自身の専門性を高めることができた。また、実習施設等の理解と協力のおかげで実習を行うことができた。課題研究にも積極的に臨み、福祉に携わる人間としての資質向上につながっている。 |
| 衛生看護科      | ✓ 病院実習が学内実習等に振り替わることもあったが、現場での経験を得ることができた。座学にも十分に力を入れることで、准看護師資格試験においては100%の合格を達成できた。                                   |
| 衛生看護専攻科    | ✓ 教職員の役職等を一部変更し指導体制の充実を図った。看護師国家試験においては98%の合格率であった。   |

## (2) 教育活動

| 取組の総括   |  |
|---|--|
| <p>✓ 「確かな学力、豊かな心、健やかな体を基盤とした生きる力の養成」に関して、高校生としての基本的な生活習慣および学びの姿勢が身につくような指導を展開している。教育活動は生徒の主体性を育みながら展開しており、生徒たちの成長の一助となっている。</p> <p>✓ 専門教育は、その専門性を高めながら行われている。普通科は各コースの特徴を活かし、教育の魅力も広がっている。</p> <p>✓ 部活動では最近目覚ましい結果を残す部も現れてきており、学校全体に活気をもたらしている。</p> |  |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 基本的な生活習慣とマナーの育成   | <p>✓ 生徒たちには「気づき 考え 行動する」を常に意識して日々生活するよう指導している。</p> <p>✓ 学校内における活動のルールや制服の着こなし等、生徒指導部から担任を通じ日頃より注意喚起を行っている。日常の教育活動を通して、生徒たちが何事も自分事としてとらえるようそれぞれの立場で自分の言葉を通して、継続的に指導していくことが必要である。</p>  |
| (2) 長崎国際大学および長崎短期大学との連携推進   | <p>✓ 専門の授業や実習など、大学および短大の先生方の協力を得ながら実施することができ、生徒の視野が広がった。</p> <p>✓ 今後も積極的に連携を図り、生徒の進路意識の向上や内部進学者の増加、教職員の資質向上に繋げたい。</p>  |
| (3) 教育機会の充実   | <p>✓ 講演会、講話、芸術鑑賞等の後には、振り返る機会を設けることで、「聴く まとめる 書く」力の養成に努めた。</p> <p>✓ 校内合唱祭や各科の課題研究発表会等をとおして、生徒たちの視野を広げ、思考力や表現力を高めることができた。</p>  |
| (4) 人権教育・主権者教育の充実   | <p>✓ 人権教育については全学年で人権問題啓発映画を視聴し振り返りシートを作成することで、人権意識の醸成につとめた。</p> <p>✓ 主権者教育については、佐世保市選挙管理委員会の協力のもと、3年生を対象に実施した。また、投票所を校内に設置してもらい期日前投票を実施した。</p>   |
| (5) 部活動の充実  | <p>✓ 運動部では、サッカー部が全国選手権大会に初出場を果たした。野球部は夏の甲子園予選大会で準優勝するなど県大会で上位に進出する部が増え、各部が切磋琢磨して学校の雰囲気盛り上げている。</p> <p>✓ 文化部では、吹奏楽が地域ともよく連携し活動の幅を広げている。加えて夏の甲子園大会で創成館高校の試合で友情演奏を行い好評であった。弁論部は全国大会や九州大会において上位入賞を果たした。また、茶道部など充実した活動を行っている。</p> |

## (2) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

| 取組の総括   |             |
|---------|-------------|
|         |             |
| 項目名・取組名 | 取組の実績・成果・課題 |
| 該当なし    |             |

## (3) 研究活動

| 取組の総括 |  |
|-------|--|
|       |  |

| 項目名・取組名 | 取組の実績・成果・課題 |
|---------|-------------|
| 該当なし    |             |

#### (4) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

| 取組の総括   |  |
|---|--|
| <p>✓「安全で安心な学校環境の構築に努める」に関して、生徒や保護者の悩みや課題等に対応できるように専門の人材を配置し、適宜支援を行うことができた。調査の実施等も定期的に行い、生徒の困り感を早期に把握し、対応できるように努めた。生徒数が多い分、課題等多様化しているが、そのような中でも一人一人を大切に支援していきける体制を続けていきたい。</p> |  |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) キャリアガイダンスの充実  | <p>✓ 進路指導室には就職指導員が1人常駐し、協力をいただきながら職場見学やインターンシップの実施を行うなどし、生徒の職業観の育成に努めた。また、グループ内の学校説明会を行い、進学に関する情報提供も行った。</p>                                 |
| (2) スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置   | <p>✓ 2人のSC(およびSSW)を配置し、毎週定期的にカウンセリングに当たっていただいている。その都度担任等との情報共有も行き、生徒支援に繋げている。家庭環境に起因する案件も増えてきており、SSWの常駐が必要と考える。</p>                          |
| (3) 特別支援教育、道徳教育の充実  | <p>✓ 道徳教育に関しては、各学科コースまたは各教科・科目等における計画を行い、様々な場面でその教育がなされるよう取り組みを進めている。</p> <p>✓ 特別支援教育については、校内研修を実施するなどし、教育的ニーズの把握や支援のあり方についての理解向上に努めている。</p> |
| (4) いじめ・体罰防止の徹底   | <p>✓ 各学期に1回いじめ悩み調査を行い、結果を受けて「いじめ防止対策委員会」で確認を行っている。また年に1回体罰調査を行うなどして、実態の把握および防止の徹底に努めた。早期対応につながっており、今後も継続していく。</p>                            |
| (5) 課外活動補助  | <p>✓ 運動部・文化部における各種大会およびコンクール等の参加補助を行った。さらに大会等への参加補助規定を明確にして、部活動間での平等化を図った。</p>   |
| (6) 学生寮・スクールバスの充実   | <p>✓ 若竹寮、椎木寮および野球部寮の運営を学園のグループ会社に業務委託を行い、学校負担の軽減につながった。</p> <p>✓ 在籍の7割がスクールバスを利用している。各方面12の路線を運行している。運行を4社に委託している。引き続き、安全運行の徹底を業者と確認する。</p>  |

#### (5) 国際交流・留学生支援活動

| 取組の総括  |  |
|--|--|
| <p>✓「活動を通し視野を広めるとともに、地域および国際社会の一員という認識を深める」に関して、普通科の生徒を対象に他部門の留学生との交流の機会を設けることができた。また、他部門での交流会に参加する機会があり生徒たちは積極的な姿勢で臨んでいた。Sグローバルコースを中心に国際交流が盛んになればと期待している。</p> |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 普通科Sグローバルコースを中心とした留学の斡旋  | <p>✓ 留学費用の高騰(円安、物価高等)により、募集をかけても催行人数まで集まらない状況であった。一人でも参加可能なプログラムの検討等が必要である。そのような中、5月に韓国、7月にイギリスに短期語学研修を実施した。</p> <p>✓ オンラインでの留学または日本国内でのネイティブスピーカーを交えたプログラムの利用などの検討も必要である。</p> |
| (2) 留学生の受け入れ   | <p>✓ 短期・長期とも留学生の受け入れはなかった。</p>   |
| (3) 長崎国際大学・長崎短期大学の留学生との交流会   | <p>✓ 長崎国際大学との連携行事である「異文化理解教室」を実施し、留学生と交流を深めることができた。次年度はさらに様々な国の留学生と交流できることを期待したい。</p>  |
| (4) 姉妹校および韓国の高校との交流  | <p>✓ サッカー部が韓国に遠征し、高校生との交流を行った。</p>   |
| (5) その他  | <p>✓ 2年SコースがJICAのプログラムを活用しリモートで交流を行った。</p>   |

#### (6) 学生募集・広報活動

| 取組の総括  |  |
|--|--|
| <p>✓「本校の魅力を的確に伝えるとともに、安定した定員充足を目指す」に関して、複数の媒体を活用して本校の魅力の発信を定期的に行うことができています。ホームページに関しては、担当者の尽力により、これまで以上の頻度で情報発信することができた。オープンスクールをはじめとした募集関係の行事では、これまでも、中学生やその保護者また地域に寄り添った手作りの内容を提供し好評を得てきた。これからは準備には十分力を注ぎ、さらには生徒を表に立ててアピールしていきけるようなものを作っていく。</p> |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題                                    |
| (1) パンフレットおよびホームページ  | <p>✓ パンフレットについては、伝わりやすいデザインに加え中身の充実を図り、より情</p> |

|                             |   |
|-----------------------------|---|
| ホームページの充実                   | 報を得やすいような冊子になるよう工夫した。ホームページについてはリニューアル後、オープンスクール等の大きな行事での活用はもちろん、日頃の学校活動に関するこまめな情報発信を心がけた。専攻科についてもホームページの活用にも力を入れる。   |
| (2) オープンスクール、入試相談会、入試説明会の充実 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 7月、8月にオープンスクールを実施し、多くの参加者を受け入れることができた。内容に関しては日によって少しずつ変化をつけるなど、複数回参加する生徒にもその都度新しい体験をしてもらえるような工夫を凝らした。入試相談会や入試説明会も活発な質問、相談がなされ、生徒募集のヒントとなる情報も多く得られた。</li> <li>✓ 新たな試みとして、3月末に「春のスイーツつき説明会」を中学1・2年生およびその保護者を対象に実施した。予想を大きく上回る250人超の参加であった。</li> </ul>  |
| (3) 中学校訪問の強化                | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ オープンスクールの案内やパンフレットの配布のため、本校生徒の出身中学校や受験の実績がある中学校などへ訪問を行った。要請に応じて離島地区などへの訪問にも対応できるよう準備は行っている。</li> </ul>   |
| (4) 幼小中高連携・高大連携の推進          | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 九州文化学園中学校への出前授業(数学)を実施した。また、中学校の授業公開の際に参観させていただいた。引き続き、連携を深めていきたい。</li> <li>✓ 九州文化学園幼稚園および長崎短期大学のご協力のもと、保育コースの幼稚園実習、出前授業等十分に連携を図ることができた。</li> <li>✓ オープンスクールの際に、各コースの体験授業のなかで大学・短大の先生方から中学生に説明を行っていただいた。</li> <li>✓ Sアカデミーコース1・2年生が、長崎国際大学薬学部で体験授業等を実施していただいた。生徒は設備の整った実験室での実習や施設見学を通して、自然科学への興味関心が高まった。</li> <li>✓ 長崎国際大学薬学部に進学した本校卒業生の情報交換を行った。薬学部を志望する生徒への指導の一助となった。</li> </ul> |
| (5) 特待制度の見直し                | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ それぞれの部の核となって活躍できる生徒について県内外を問わず募集を行い、各部数人ずつ確保することができた。また、学業特待生についても入試結果の芳しい生徒を一定数確保することができている。</li> </ul>   |
| (6) 入学試験の検討・分析              | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 実施日程について、今年度は1月の3~4週目となっていたが、細かい日にちについては佐世保市内の私立高校同士の日程が重なることを回避するよう学校間で連絡し合い調整している。また、普通科Sコースを含め全学科コースとも、推薦基準や入学試験の内容を検討していく必要がある。</li> </ul>   |

## (7) 教職員の人材開発

| 取組の総括  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「事業計画の充実、達成のため研究活動および研修を実施する」に関して、ICT教育に関する校内研修会やミニ研修等が実施され、先生方も興味深く参加されていた。校務支援システムの導入により、校務での活用を見据え研修への参加も多かった。教室にプロジェクターの設置が完了し、さらに次年度で全学年端末が行き渡り、校内インフラの整備がひと段落する。また、生徒対応に関わるような研修についても関心は高く、研修の機会自体を貴重なものであると先生方自身が感じているようだ。次年度以降も体系的な研修の実施を計画していきたい。</li> </ul> |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 校内・校外研修への参加および研修内容の還元  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 私学九州地区初任研に2人、長崎県私学協会主催研修会に2人参加した。また県の私学協会主催、数学部会に1人、進路指導領域に1人参加した。参加した先生には後日、職員会議にて報告を行ってもらい、研修内容を全職員で共有する機会を設けた。</li> <li>✓ 弁護士の方を講師に、コンプライアンスをテーマに校内研修を実施した。</li> </ul> |
| (2) 他校への授業見学、研修・研究会への参加  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教頭、企画部主任が東京都の私立学校を訪問し、その成果を職員へ還元研修を行った。</li> </ul>  |
| (3) 本学園の職員としての意識構築および確認  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 年度当初、職員会議資料に掲載し確認を行った。また、創立記念式や学祖追悼式等の行事において資料を配付し、建学の精神を改めて確認するとともに、生徒に伝える場を設けた。</li> </ul>  |
| (4) 長崎短期大学との合同研修会の実施   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 保育領域について、短大主導で数回協議会が実施された。また、担当者間で連携について協議を行い、高校において連携授業を実施していただいた。</li> </ul>  |

## (8) ステークホルダーとの連携強化(特に同窓会)

| 取組の総括  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 長崎短期大学にて椎木町連絡協議会が開催された。吹奏楽部が地域の催し物で演奏を披露するなど地域と積極的に関わることができた。料理同好会が地域の行事に焼き菓子を提供し喜んでいただいた。学園祭には多くの地域の方</li> </ul> |  |

| に足を運んでいただいた。保護者および周辺地域の方々にも多く来校していただき、各学科コース・部活動・育蝶会(PTA)の特色を活かした様々な企画を楽しんでもらうことができた。また、ホームページ、Instagram等を活用し、様々なツールを活用し開かれた九州文化学園高校でありたい。 |  |
|--|--|
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 同窓会(卒業生)との連携強化   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 日頃から物心共に支援いただき感謝している。本校の応援団として協力いただければ幸いである。</li> <li>✓ 母校職員を中心に、同窓会との連携のさらなる強化を図りたい。</li> </ul>  |
| (2) 地域との合同協議会および交流会の充実   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 長崎短大にて椎木町連絡協議会が開催され、高校からも職員が参加した。</li> <li>✓ 夏の甲子園予選の決勝戦には地域の方々も応援に駆けつけていただき感謝している。</li> <li>✓ 学園祭の折には、多くの方が足を運んでいただき、楽しんでいただいた。</li> </ul> |
| (3) 地域清掃活動の実施  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 日程の都合がつかず7年度は実施していない。</li> </ul>  |
| (4) 保護者との連携  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 育蝶会役員会・総会、私学振興大会などPTA行事をはじめ、学園祭ではバザー</li> <li>✓ を開いてもらい学校の応援団として積極的に関わってもらった。</li> </ul>  |

## (9) 学園内の連携促進

| 取組の総括   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 九州文化学園グループのさらなる強みを構築するために、「内部進学にかかる委員会やグループ内の一貫教育についての検討委員会等に参加する」に関して、様々な連携会議に参加し率直な意見交換を行うことができています。ただ、会議の結果を受けて次の行動に繋げることができているものもあれば、話をするだけにとどまっているものもあるので、会議を行うことが目的にならないように、会議の形はコンパクトに収めて、具体的に次の行動に繋げられるような実効性のある会議のあり方が必要であると感じている。</li> </ul> |   |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 学園内募集担当者会議  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 各部門の状況報告等を行い、部門を越えて協力できることなどが無いか協議を重ねた。</li> </ul>   |
| (2) 食物分野に関する連絡協議会   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 内部進学率を上げるための、各部門の課題や他部門へ期待することなどの情報共有および各部門とのイベントや合同授業企画等を話し合った。合わせて各部門の活動実施報告(オープンキャンパス等)を行った。</li> </ul>   |
| (3) 福祉分野に関する連絡協議会   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 内部進学者数の増加に繋げるための具体的な連携の検討</li> <li>✓ 高大連携授業の実施に向けた具体的な内容の検討</li> <li>✓ 卒業生による講演会の開催に向けた協議</li> <li>✓ 在校生の進路希望調査結果報告卒業生(内部進学者)の状況報告と連絡協議</li> </ul> |
| (4) 各部門の英語科職員の合同研究協議会   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 各部門の取り組みについて報告</li> <li>✓ 今後の部門間の連携のあり方や、グループ内での英語指導の縦の流れについて検討が必要である。</li> </ul>  |
| (5) SDGsに関する連絡協議会   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 5月に実施された佐世保市のSDGsイベントに生徒会および女子バスケットボール部が参加。</li> </ul>   |

## (10) SDGsの推進

| 取組の総括  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「これまでの活動とSDGsの関連性を知り、これからの活動にSDGsを意識する」に関して、その目標の通りこれまで生徒を第一に行ってきた本校の教育が、今大きく叫ばれているSDGsの目標と繋がりを持っていることを確認することができている。SDGsの目標を達成するために本校の教育を合わせるということでは決してないが、意識ができれば学びの幅が広がることにはなるので、授業の中だけではなく、学校活動の随所にちょっとした配慮も織り交ぜながら、SDGsの広がりとともに本校の活動も魅力を増していけるようにしていきたい。</li> </ul> |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 名切SDGsフェスティバル  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 本校から生徒会および女子バスケットボール部が参加。生徒を中心に企画・準備・運営を行い、学びが多かった。</li> </ul>  |
| (2) 地域清掃活動の実施  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 日程の都合で7年度は実施していない。</li> </ul>   |
| (3) 食材の有効活用  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 食物調理科の生徒が「フードロス削減」を意識して調理実習に取り組み。</li> </ul>  |
| (4) 教育内容および環境の充実   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ スクールバスや寮を完備し、多方面からの通学を可能として、あらゆる生徒に本校での学びの機会を与えている。また、授業内容に工夫を凝らし、課題等を適切に課すことで、家庭でも十分な内容の学習ができるよう指導を行っている。</li> </ul> |
| (5) 健康的な活動の奨励  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 生徒には日頃の健康観察を欠かさないように心がけるよう啓発を行っている。集会時には感染予防対策をとりながら教育活動を行った。無理を控え、その分健康であるときには活発に学校活動がなされるよう声かけ等を行った。</li> </ul>     |
| (6) ジェンダー平等の実現   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 混合人簿の使用や体操服、ジャージを男女統一したデザインを使用するなどしてい</li> </ul>  |

|                    |   |
|--------------------|---|
|                    | る。<br>✓ 制服において、女子のスラックスを制定した。   |
| (7) 働きがいのある労働環境の促進 | ✓ 出退勤時刻の記録等の労務管理を行っている。特定の教員で時間外勤務が常態化している。業務に対するマネジメント力の向上を図るとともに、業務の平準化を進める必要がある。 |

### (11) 管理運営と業務・経費効率化

|   |                            |
|---|----------------------------|
| 取組の総括   |                            |
| ✓ 入学定員の確保に注力したが実績は268人と定員比△12人の結果となった。<br>✓ 経費面は、スクールバス維持費の値上げや委託先の見直しを検討するなど、全ての経費を徹底的に見直した。 |                            |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題                |
| (1) 入学者の確保  | ✓ 268人(定員比△12人)            |
| (2) 時間外手当   | ✓ 年間3百万円の増加(当初は20百万円程度を想定) |
| (3) スクールバス  | ✓ 8%の値上げを実施                |
| (4) 学生寮   | ✓ 稼働率が低下し収益改善に至らなかった。      |

### (12) 施設・設備・システム等の環境整備

|                                  |                           |
|----------------------------------|---------------------------|
| 取組の総括                            |                           |
| ✓ 既存施設の老朽化が進行しているが、計画的な投資が出来なかった |                           |
| 項目名・取組名                          | 取組の実績・成果・課題               |
| (1) 空調の修理・更新                     | ✓ 未実施(令和8(2026)年度に一部実施予定) |
| (2) トイレの改修                       | ✓ 未実施                     |
| (3) 寮の設備更新                       | ✓ 未実施                     |
| (4) 寮へWi-Fi設備の導入                 | ✓ 未実施                     |

### (13) 点検評価

|  |  |
|--|--|
| 取組の総括  |  |
| ✓ 自己評価を、教職員、生徒および保護者に実施した。評価結果は教職員で共通理解を図り、課題となる評価項目については改善を図っていく。また、育蝶会総会で評価結果を説明し、加えてホームページにて公表する。<br>✓ 評価項目については中期計画の完成年度を迎えたので、見直しを検討する。 |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 学校評価の実施  | ✓ 教職員の自己評価については、4段階で平均3.0であった。3.0を下回った評価項目については課題として捉え、改善を図っていく。<br>✓ 「九州文化学園高校でよかった」の質問には生徒8割、保護者9割が4と3に回答している。さらに、満足度が高くなるように努力する。 |

### (14) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

|         |             |
|---------|-------------|
| 取組の総括   |             |
|         |             |
| 項目名・取組名 | 取組の実績・成果・課題 |
| 該当なし    |             |

### (15) 第2期(2021-2025)中期計画の総括と評価

|      |   |
|------|---|
| 教学関係 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 普通科のコースを再編し、Sコース、総合進学コース、キャリアデザインコースの3コースを開設した。それに伴い、募集定員を250人から280人と変更した。</li> <li>✓ 令和7(2025)年度は普通科において国公立大学合格者数6人(うちSコース4人)の実績をあげた。Sコースにおいては、この2年共通テスト・個別学力試験を突破しての合格者が出ている。また、総合進学コースは長崎国際大学への内部進学、キャリアデザインコースでは内部進学および就職内定を順調に得ており、普通科各コースの特色を活かした進路実現に繋がっている。</li> <li>✓ 専門学科は、それぞれの特色を活かした教育活動を展開し、専門知識の習得、実習各資格取得など社会を支える人材の育成を行っている。また衛生看護専攻科、長崎短期大学、専門学校、長崎国際大学への内部進学の実績も積み上げてきている。</li> </ul> |
| 人事関係 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 採用においては、毎年入職者はあるが、退職者の補充ができない教科もあった。</li> <li>✓ Sコース指導充実のための国語・英語・数学の各教科の指導力がある教員の採用が難しい現状である。</li> <li>✓ 令和6(2024)年度から校務分掌の掛け持ちをやめ、一人一分掌とした。業務に集中してあたることができ業務の効率はあがったと判断する。</li> </ul>  |

|      |   |
|------|---|
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和7(2025)年度には、校務分掌や委員会の組織改編を実施。職人芸では業務は成り立たないこと、また組織で業務に当たることを継続して訴えているところである。</li> <li>✓ 意欲のある若手・中堅に主任・副主任を経験させることで、5年・10年・20年先の高等学校を背負う人材の育成が急務である。</li> </ul> |
| 施設関係 | ✓ 計画的な設備の維持更新投資が必要な状況であるが、予算確保が出来ず未実施。  |
| 財務関係 | ✓ 約定返済は確実に履行できた。  |

## 4.九州文化学園中学校

### 1) 経営理念・経営目標

|      |  |
|------|--|
| 経営理念 | 変化対応力、優れた品格、健全な心身を育む全人教育を提供する                      |
| 経営目標 | 英語、IT、茶道文化を3本の柱とした先進的教育により、グローバル人材を育成するとともに地域に貢献する |

### 2) 1年間の総括と評価

|   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓入試制度改革2年目として、県立中学入試に準拠した「適性検査」の実施に加え、特待生制度を導入した。適性検査、第1回試験も含め、最終的には内部進学者14人を含む29人の入学者となったが、定員40人の充足・昨年度以上の受検者数の獲得を目指し、教職員一丸となって取り組んでいく。</li> <li>✓また、2年目となるカナダへの修学旅行も、事前学習を含め、現地での様々な体験は生徒にとっても深い学びとなった。今後は、海外での研修の機会を増やす意味でも、修学旅行から語学研修と形を変え、他学年にも短期留学のチャンスを増やし、本校ならではの学びの特色として示していく。</li> <li>✓特に中学3年生では、学年全員が英検3級以上を取得するなど高い検定取得率を誇り、中でも3人が準1級を取得し、メディアにも大きく取り上げられたことで本校の特色を示す良い機会となった。</li> </ul> |
|---|

### 3) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組実績

|   |            |   |
|---|------------|---|
| 1 | 成長力の確保     | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓9年間を見通し、小学校との接続を意識して作成した本校独自の魅力あるカリキュラムを実際の活動の中でよりよいものへと修正を重ねた。小中高の12年を意識し、生徒の現状も踏まえ、カリキュラムの再検討を重ねている。数学科においては、高校から授業にきていただくなど連携を意識した具体的な取り組みを行った。総合学園としての強みをさらに生かした連携になるよう継続して取り組んでいく。</li> <li>✓フルクラウド総合型校務支援システム BLEND を導入したことにより、電話による出欠連絡の削減、各種連絡・通知文書配付のペーパーレス化につながり、大幅に業務効率化につながった。</li> </ul> |
| 2 | 教育力の向上     | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓研究主任を中心に、年間を通じた研修に取り組んだ。また、市の教育研究会への参加など校外の研修にも積極的に参加し、個々の教育力の向上につなげた。保健体育科では、市の研究発表者として、公立中学校とも協力しながら研究を重ね、本発表に向け準備を進めている。</li> </ul>  |
| 3 | 約定返済の確実な履行 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓入学定員の確保、補助金の獲得について最大限に努めているものの定員充足率は51.6%であり、財務状況は依然として厳しい状況が続いている。</li> </ul>  |

### 4) 経営改善(健全化)に関する成果

|   |             |  |
|---|-------------|--|
| 1 | 収入の増加       | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓内部進学初年度となったこともあり、生徒数が前年度より11人増加したため学納金収入が微増となった。また、各種補助金の獲得、適性検査の実施により収入が微増した。</li> </ul>                                |
| 2 | 支出の効率化      | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓一人一人がコスト意識を高く持ち、比較・検討・見直しに努めている。</li> <li>✓業者の見直しと契約前の価格調整の徹底で経費削減を行った。またシステムのクラウド化でランニングコストの削減が継続できている。</li> </ul>      |
| 3 | 人員・業務の効率化   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓フルクラウド統合型校務支援システム BLEND の導入により、保護者への一斉連絡や欠席連絡をシステム上で行うことで、電話対応の時間や紙の配付物の削減につながった。</li> </ul>                             |
| 4 | 付加価値向上と広報強化 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ターゲット(小学校6年生)に即した広報に課題がある。佐世保市内塾との関係性作りを強化している段階</li> <li>✓オーストラリア・コフスハーバーの「Bishop Druitt College」と交流協定を締結した。</li> </ul> |

### 5) 中期計画の進捗・達成状況

| 区分  | 進捗・達成状況   |
|-----|---|
| 戦略Ⅰ | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓校内研修でIT・グローバル研修を計画的に実施し、教員としての資質向上に努めた。また、チーム研修として、全職員が「授業改善」「情報化」「調査統計」「学校運営」のいずれかのチームに所属し、チームごとの視点で研修に取り組み、成果と課題を全体で共有することができた。</li> <li>✓創立80周年を迎え、記念式典には全生徒・教員が出席でき、記念大茶会、記念誌の発刊を通して、建学の精神・理念への理解を深めることができた。</li> </ul> |
| 戦略Ⅱ | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓小中合同の教科部会をもち、小学校との接続を意識して作成した本校独自のカリキュラムをより魅力的なものにするため、実際の活動と照らし合わせながら修正を加えた。キャリア教育では、総合学園としての強みを生かしたプログラムの実施や地域や企業など多岐にわたる分野との連携で充実した取組を実施することができた。</li> <li>✓ITの授業では、外部専門講師による専門性あふれる授業を展開できた。</li> </ul>                 |

|          |  |
|----------|--|
| 戦略Ⅲ      | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 新年度明けに学校説明会を開催し、教育内容理解の機会をもった。保護者が教員を知る機会にもつながり、今後の連携にも有効であった。</li> <li>✓ 選択制の海外語学研修の実施に向けて、保護者説明会を重ね、周知に努めた。異学年研修グループでの実施が実現する運びとなり、これまでは、3年生のみの修学旅行として実施していたものにも、中学2年生2人が参加を希望した。海外研修の機会拡大という本校ならではの学びの特色となっている。</li> </ul> |
| 戦略Ⅳ      | ✓ フルクラウド統合型校務支援システム「BLEND」を活用することで、出欠の電話連絡の削減、各家庭への文書配付のデジタル化により業務効率化へつながった。   |
| 戦略Ⅴ      | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ Instagramを中心に動画を投稿し、本校の魅力について視覚的に伝えた。</li> <li>✓ 学校の認知を広げるための幅広い集客が見込めるマルシェからのオープンスクールへの誘導を意識した本校ブースをマルシェ時に設置して、生徒募集につなげた。</li> </ul>   |
| 戦略Ⅵ      | ✓ 私立学校よかこ推進プロジェクト事業費補助金を用いて、フィルタリングソフトと校務支援システムの導入・ITを専門とした外部講師も招き、補助金活用で安全なネットワーク環境の提供、教職員の負担軽減、専門性の高い授業を実現した。  |
| 学園内の連携促進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 5期生18人が卒業し、うち5人(27.7%)が九州文化学園高等学校へ進学した。</li> <li>✓ 長崎国際大学、長崎短期大学、九州文化学園高等学校、九州文化学園調理師専門学校、九州文化学園歯科衛生士学院と授業やキャリア教育で連携し、より専門的な学びの機会を創出した。</li> </ul>  |
| 付帯計画と課題  | ✓ 教科センター方式の導入に伴い、ホームベース(全生徒学びの起点となる部屋)を整備した。   |

## 6) 主要情報

### (1) 卒業生数、資格等に関する実績

#### 【卒業生数】

| 区分     | 人数  | 備考 |
|--------|-----|----|
| 中学校    | 18人 |    |
| 卒業生の累計 | 98人 |    |

#### 【資格等の実績】

| 資格等人         | 取得・合格者 | 備考  |
|--------------|--------|---|
| 実用英語技能検定(英検) | 延べ52人  | 【準1級】3人【2級】7人【準2級】12人【3級】13人【4級】11人【5級】6人 |
| 実用数学技能検定(数検) | 延べ20人  | 【3級】5人【4級】5人【5級】10人(※2級1次合格1人)            |
| 日本漢字能力検定(漢検) | 延べ3人   | 【3級】1人【5級】2人                              |

### (2) 主な行事等の開催実績

| 行事等人               | 実施日・期間等                | 備考          |
|--------------------|------------------------|-------------|
| 入学式                | 4月9日(水)                |             |
| 運動会・体育大会           | 4月26日(土)               |             |
| カナダ修学旅行            | 5月24日(土)～6月3日(火)       |             |
| 授業公開               | 6月21日(土)               |             |
| 第1回オープンスクール        | 7月12日(土)               |             |
| Summer festival    | 7月26日(土)               |             |
| 第2回オープンスクール        | 8月2日(土)                |             |
| Summer festival    | 7月26日(土)               |             |
| 第3回オープンスクール(入試説明会) | 9月6日(土)                |             |
| 受検対策講座             | 10月11日(土)<br>11月15日(土) |             |
| プレ音楽祭              | 10月31日(金)              |             |
| 観月の茶会              | 10月30日(木)              |             |
| 80周年記念大茶会          | 12月7日(日)               | 小学校3年・中学校1年 |
| 80周年記念式典           | 12月15日(月)              |             |
| 学祖追悼式              | 1月30日(金)               |             |
| 80周年記念英語学習発表会      | 2月27日(金)               | 英語科         |
| 卒業式                | 3月10日(火)               |             |
| 修了式                | 3月24日(火)               |             |

#### <入試関係日程>

| 入試区分 | 実施日 | 備考 |
|------|-----|----|
|      |     |    |

|         |           |  |
|---------|-----------|--|
| 適性検査    | 11月29日(土) |  |
| 第1回学力検査 | 12月13日(土) |  |
| 第2回学力検査 | 2月7日(土)   |  |
| 4月編入学   | 2月7日(土)   |  |

## 7) 年度の事業計画の進捗・達成状況

### (1) 学年・クラス等の基本方針

| 学部学科コース・区分の名称 | 年度の基本方針の達成状況   |  |
|---------------|--|--|
| 学校目標          | ✓ 「苦手を克服し、得意を伸ばす」ことについて、学習・生活両面において個別最適な指導の在り方に重点を置いた。一人一人の個性の伸長を促すことができた。                       |  |
| 学年目標(全学年共通)   | ✓ 教育の3本柱を中心に据えた教育活動や自治的な生徒会活動、教育活動全体を通して行う道徳教育や人権教育、多彩な体験活動、行事などを通して生徒一人一人が実感をもって目標の達成に迫ることができた。 |  |

### (2) 教育活動

| 取組の総括  |  |  |
|--|--|--|
| ✓ 自立のための自律した学習活動・生活を送る生徒の育成を目指し、「教科センター方式」「全員担任制」「45分×7時間授業」によってアクティブで安心安全な学習環境を構築し、生徒の主体的且つ自治的な学習・生活態度を養った。全職員が、対面だけでなくICTを活用して各種情報の共有と共通理解を徹底し、教育活動の充実を図った。教育活動における成果と課題を、研修や校種・分掌・教科の各部会で共有し、具体的な手立てをもって更なる向上と改善に努めた。 |  |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |  |
| (1) 教育課程の確実な推進   | ✓ カリキュラムマネジメントによる、教科や校種の横断、連携の学習活動の深化を図り、45分×7時間日課によって生み出された授業の充実を図った。研修において各教科の授業を開き合い、更なる授業改善に努めた。   |  |
| (2) キャリア教育の充実  | <p>✓ 小中一貫の強みを生かした連続性あるキャリア教育の推進：中学1年生の内部進学生と小学6年生の交流を仕組み、九州文化学園中学校の生活について、具体的に知るきっかけとなった。</p> <p>✓ 合同会社 TMG PLUS 代表 中山佑介氏、本校制服デザイナー藤戸剛氏、(株)小松製作所サステナビリティ推進本部 副本部長(兼)地雷除去プロジェクト室室長の柳樂篤司氏をはじめとする講師を招聘し、講話をいただいた。生徒たちの生き方を見つめ、考えるきっかけとすることができた。</p> |  |
| (3) 全部門とのICT技術共有   | ✓ 学園内の各部門とのICT会議の実施。インターネット回線統合により、各部門との会議、不具合等の情報交換を行った。インターネット回線トラブルがあった際の速やかな対応。  |  |
| (4) 生徒会活動の充実   | ✓ 自治的な生徒会活動を目指し、一人一役の徹底とSDGs目標の達成を目指した専門委員会活動の充実を図った。小中一貫教育の学びの連続性を意識し、小学校児童会との連携した活動を計画的に仕組み、児童会活動への刺激となった。また、本校発信で、令和5(2023)年度から佐世保市内公立中学校5校と協力して行っているいじめ撲滅の活動(ピンクシャツ運動)については、令和7(2025)年度は各校でさらに工夫が施され実施された。                                   |  |

### (3) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

| 取組の総括   |             |  |
|---------|-------------|--|
| 該当なし    |             |  |
| 項目名・取組名 | 取組の実績・成果・課題 |  |
| 該当なし    |             |  |

### (4) 研究活動

| 取組の総括  |             |  |
|--|-------------|--|
| ✓ RV-PDCAサイクルに基づいて立案した校内研修計画に沿って、全26回の研修を推進した。教育課程研修として、授業改善研修(授業の開き合い、研究協議を含む)、本校の学びの三本柱に関する研修、各種学力調査の分析を行った。また、違う視点で校内研修を捉え、広げるために研修チーム(授業改善、調査統計、情報、学校運営)を組織した。本校における小中一貫教育の在り方等について共通理解を図り、児童生徒募集の観点ももって、次年度以降の学校組織等に係る話し合いを重ねた。教育DXアドバイザーを招聘し、教育に係る国の動きや最新の情報を共有した。このような研修を通して、児童生徒の学力向上、教職員の資質向上、職員間の同僚性の構築も十分に図られたと考える。 |             |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題 |  |
|  |             |  |

|          |   |
|----------|---|
| (1) 現職研修 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教職員としての資質および指導力向上、授業改善、学びの三本柱に係る研修を計画的に行った。</li> <li>✓ 各学力調査の分析を全職員で行い、児童生徒の共通課題を設定、共有し、その改善に努めた。</li> <li>✓ 本校における小中一貫教育の在り方についての研修を行った。</li> </ul>   |
| (2) 授業公開 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「小中一貫の学び」を広く知らせ、オープンスクールや受検につなげることを目標に、本校入学希望者・本校保護者を対象にして実施した。多くの参加者を得たが、外部の参加者数の大幅な伸びは得られなかった。</li> </ul>  |
| (3) 研究発表 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 小学校英語科が佐世保市英語部会を代表して九州英語教育研究大会において実践発表を行った。発表に向かう過程において、佐世保市英語部会と共同の研修を行った。また、次年度、中学校保健体育科が長崎県保健体育研究大会で行う実践発表に向けて、佐世保市保健体育部会と共同の研修を行った。</li> <li>✓ 筑波で行われた全日本教育工学研究協議会全国大会において、本校算数科における取組を中心とした実践発表を行った。</li> </ul> |
| (4) 協同研究 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ TOPPAN ホールディングス㈱との AI ドリル navima、ライップの実証研究を行い、年間3回の研究推進委員会を開催し、研究を深めた。</li> </ul>  |

### (5) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

| 取組の総括   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 充実した教育活動のもと、よりよい職業観を育み、将来の展望を具体的に描くことができる指導に努めた。総合学園の強みを生かしたキャリア学習を計画的に行った。</li> <li>✓ 全員担任制の強みや生かした教育相談活動によって、進路相談の充実を図った。</li> </ul> |   |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 中学校全職員による三者面談の実施  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 各高等学校担当者を中心とした三者面談を実施し、進路希望の実現につなげることができた。志望校の状況によっては、1学期に出願を行う場合も想定しながら、学校と家庭の連携をより密にすることの必要性がある。</li> </ul>  |
| (2) キャリア・スタディの実施  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 企業や文部科学省が提供しているキャリア教育プログラムの活動の活用を中心に、オンラインや対面で実施をした。様々な職種について知るきっかけとなり、生徒たちの生き方を見つめ、考えるきっかけとすることができた。</li> </ul>   |
| (3) A-STEP の実施と Study Journal の活用   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 探求放課後学習 A-STEP を通して、主体的に学ぶ姿勢を育んだ。Study Journal(手帳)を活用し、見通しをもって学習に取り組む習慣を促した。「得意を伸ばし、苦手を克服する」視点を持ち、主体的に学ぶ生徒の育成に努めたい。また、A-STEP では、佐世保工業高等専門学校と連携した講座や体力作りを目指すスポーツデーなど、探求的な視野を広げる取組も行った。</li> </ul> |
| (4) 施設の安全点検の実施  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 年度初めと、月に1度の定期安全点検を実施。Microsoft Teams に各自担当箇所の点検結果を入力。危険箇所や修繕が必要な箇所を共有し、適宜対応している。案件によっては、未着手のものがああり、計画的な処理が必要である。</li> </ul>  |

### (6) 国際交流・留学生支援活動

| 取組の総括   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 2度目の海外修学旅行を実施できた。協定を結んだ Victoria(バンクーバー)でのホームステイを通して、生徒たちはその国の文化の中で生活を体験し、違いを感じ、改めて日本の良さを実感した。また、現地では本校で学んでいる茶道をホストファミリーに実践を伴う紹介をした。帰国後に英会話に積極的に取り組み、将来の生き方の一つに海外を視野に入れるなど、考え方や行動に変化が見られた生徒もいる。</li> </ul> |  |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) カナダ修学旅行   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 中学3年生5月下旬から6月上旬に実施。普段から自立した生活を心がけることが生徒の課題であると感じた。団体行動への意識が薄く、日頃からTPOをわきまえた行動を意識させることの重要性を感じた。</li> </ul> |
| (2) 海外留学促進  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 外部紹介の留学プロジェクトを紹介し、意識の促進を図った。幸運なことに今年度本校が選ばれ、留学した生徒5人はその体験を全校生徒や保護者の前で発表した。</li> </ul>                     |

### (7) 学生募集・広報活動

| 取組の総括  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 定員充足を達成するために、オープンスクールや入試説明会、小学校・学習塾などへの定期的な訪問に加え、SNS(Instagram)を活用し、総合学園としての独自で魅力ある教育内容を受験対象者に向けて発信することで、私立小中学校ならではの教育環境を効果的にPRすることができた。</li> <li>✓ オープンスクールでは、本校ならではの授業を体験できるよう、英語授業体験やIT授業体験、茶道体験などを実施した。</li> <li>✓ 入学試験の改定として県立中学校の入試に準拠した適性検査型入試を導入2年目また、特待生制度導入もあり、受</li> </ul> |  |

| 験者数の増加につなげることができた。 |   |
|--------------------|---|
| 項目名・取組名            | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) オープンスクール       | ✓ 県立中学校の入試に準拠した適性検査型入試を導入し、受験者数の増加につなげることができた。  |
| (2) 授業公開           | ✓ 6月に在校生保護者や本校に興味をもっている方を対象に授業公開を行った。多くの参加者を得たが、在校生保護者以外の参加者数やオープンスクールや受検に直接的につながる数を増やすことに課題がある。        |
| (3) 入試説明会          | ✓ 入試試験改定の効果もあり、参加者からの出願率が上がった。教員から本校の教育方法の詳細を説明したことで保護者にアピールすることができた。WEB出願導入2年目でスムーズに出願から試験まで進めることができた。 |
| (4) 九文マルシェ等校外イベント  | ✓ マルシェ約40店舗が出店し、来場者約1,600人になった。   |
| (5) 入学体験会・受検対策講座   | ✓ 英語、国語、算数を講座として行い、小学校6年生に対して実施した。<br>✓ 参加した児童は交流につながり、よい雰囲気を実施できた。                                     |

## (8) 教職員の人材開発

| 取組の総括   |  |
|---|--|
| ✓ 今年度も「全体研修」「教科別研修」「チーム研修」「校種別研修」といった形式で計画的に研修に取り組んだ。研究主任を中心に、同僚性の構築を図り、組織力の向上を意識して取り組んだ。 |  |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 定期的な職員研修  | ✓ 毎月第1・3水曜日を研修日として設定し、年間26回の校内研修に取り組んだ。                    |
| (2) より専門的なICT研修   | ✓ 今年度も文部科学省の学校DX戦略アドバイザーでもある福田孝義氏の講義や指導助言を受け、職員の資質向上につなげた。 |

## (9) ステークホルダーとの連携強化(特に同窓会)

| 取組の総括  |  |
|--|--|
| ✓ 本校卒業生を招いて環境保全に関する学習会を行った(その取組も踏まえてなされた研究発表において本校卒業生は文部科学省から表彰された)。本校第二期生が高等学校卒業する年度となったが、卒業後の進路について本校での学びが繋がるものであったと感じる。今後取りまとめ、キャリア学習や募集活動に生かしたいと考える。年度初めに保護者説明会を開催することは、学校と家庭が連携し教育活動を推進するために有意義であると考えている。 |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 同窓会(卒業生)との連携強化   | ✓ 中学1年生を対象に、高校1年生となった4回生による環境保全活動内容のレクチャーを行った。   |
| (2) 中学校部保護者対象学校説明会   | ✓ 新しく導入した教科センター方式や、前年度からの全員担任制について説明を行い、保護者の理解を深めた。また、学習・生活両面において大切にすべきことを生徒の実態に即して説明し、学校教育と家庭教育の区別および理解や家庭との連携を求めた。   |
| (3) 学習塾との連携  | ✓ 市内学習塾(柗智翔館ほか)への定期訪問を継続し、関係構築・情報交換を行った。特に柗智翔館とは塾生保護者向けの説明会に参加し、本校の教育内容(英語・IT・茶道の3本柱、小中一貫教育等)を直接説明する機会を得ることができた。<br>✓ 学習塾側からの本校受検希望児童に対する情報提供、本校からの入試情報・オープンスクール情報の発信など、双方向の連携を進めた。<br>✓ 学習塾連携は新入児童獲得の重要なチャネルとして機能しており、訪問頻度・情報交換の質を今後も維持・向上させることが課題である。新規の学習塾開拓も継続して進める。 |

## (10) 学園内の連携促進

| 取組の総括   |  |
|---|--|
| ✓ 総合学園の特長を生かしたキャリア教育を実践した。専門の施設において、専門の指導を受けることは生徒のキャリア発達に大いに刺激を与えるものとなった。接続カリキュラムの検討については、今後、九州文化学園高等学校との合同の研修が必要と考える。 |  |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題                                    |
| (1) 接続カリキュラムの検討   | ✓ 小中学校のカリキュラムについては作成を行った。                      |
| (2) SDGsに関する連絡協議会   | ✓ 名切SDGsフェスティバルに関する会議が実施されたが、小学部が代表として会議に参加した。 |
| (3) 他部門との合同研修   | ✓ 教職員の現職研修としての実施はできなかった。                       |

## (11) SDGsの推進

|   |  |
|---|--|
| 取組の総括   |  |
| ✓ 名切SDGsフェスティバルでは、小中合同で牛乳パックを再利用したひまわりの種ポットを50個配布。QRコード |  |

| <p>を貼付し学校ホームページへの誘導も行った。持続可能な開発のための教育(ESD)授業では Minecraft を活用したまちづくり学習を実施し、生徒が主体的にレジリエンスを考え作品に反映させた。</p> <p>✓ 生徒会活動では各専門部が SDGs 目標に沿った活動を展開し、ピンクシャツデーの継続やユニセフ・赤い羽根募金を実施、募金額は前年度より増加した。教材の電子化にも取り組んでいるが、パソコン容量の制約からペーパーレス化には課題が残る。</p> |   |
|--|---|
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 名切 SDGs フェスティバル  | ✓ 小中合同で牛乳パックを再利用したひまわりの種ポットを実施した。雨天にも関わらず 50 個のポットを渡すことができた。また、ポットにはひまわり柄の QR コードを貼り付け、学校ホームページへのアクセス機会を設けた。                        |
| (2) ESD に基づいた授業  | ✓ IT で Minecraft を活用したレジリエンスを備えたまちづくりを実施した。教科学習やこれまでの生活での経験を生徒自ら考え作品にすることができた。  |
| (3) 行事に SDGs を目標に掲げる   | <p>✓ 生徒会活動を主とし、各専門部で該当する SDGs 目標に対する活動を実施した。</p> <p>✓ 生徒会役員が主となり、ピンクシャツの活動を継続して実施した。</p> <p>✓ ユニセフ募金、赤い羽根募金の実施をし、前年度より募金額が増加した。</p> |
| (4) 資源の節約  | ✓ 授業で使用するプリント教材の電子化に一部取り組んだが、生徒が使用するパソコンの容量の都合、ペーパーレスが困難である部分もある。   |

## (12) 管理運営と業務・経費効率化

| 取組の総括   |   |
|---|---|
| <p>✓ 運営委員会、職員会議、週 2 回の朝会を定期的に開催し、共通認識をもって業務に当たれるようにすることで組織力の向上に努めた。加えて、運営委員会の中に経営戦略会議を位置付け、今後の運営方針等を協議していく。</p> <p>✓ 多角的な連携による総合学園としての魅力向上</p> <p>✓ 勤務体制の見直しと生産性向上につながる持続可能な人事戦略</p> <p>✓ 校務 DX 化によるリソース最適化</p> |   |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 組織力の向上  | <p>✓ 接続部門に限らず連携することで、専門的に学ぶ機会の創出や総合学園としての魅力向上につながった。</p> <p>✓ 中期計画・事業計画策定にあたり、小学校部および中学校部でそれぞれ議論することで、本校の強みと課題を再認識することができ、目指すべき学校像を明確にした。</p> |
| (2) 週休二日制の導入  | ✓ 奇数の土曜日が休みになり週休二日になったことで、休暇の待遇面で公立学校との格差をなくし、計画的に各自研修等の自己研鑽に努めることができた。また、リフレッシュにもつながり、職員一人当たりの生産性が上がり、教育の質の向上へつながった。                         |
| (3) 新卒者の採用  | ✓ ELT1 人の退職に伴い、補充したのみで新卒者の採用はなかった。令和 8(2026)年度は、国語科の増員を計画し、求人活動を始動している。   |
| (4) 業務のスリム化、効率化による経費削減  | ✓ フルクラウド統合型校務支援システム BLEND の導入により、保護者への一斉連絡や欠席連絡をシステム上で行うことで、電話対応の時間や紙の配付物の削減につながった。   |

## (13) 施設・設備・システム等の環境整備

| 取組の総括   |   |
|---|---|
| <p>✓ 開校時導入している机椅子の破損・不具合は、引き続き後を絶たない。順次安価で丈夫なものへ入れ替えていく。併せて、上吊り扉の開閉支障については、安全で開け閉めしやすい扉へ取り替えたいところだが、継続案件としている。</p> <p>✓ 教室数不足の観点からも、図書室棟 2 階の未使用教室の整備を次年度事業とし準備を進めてきた。補助金の運用もし、汎用的な教室へとリノベーションする。</p> <p>✓ 校内の桜の樹木が老木で、強風で大枝が歩道に落下したこともあり、部分的に伐採。樹木内部の腐朽が今後も進行することもあり、引き続き対応が必要。</p> <p>✓ スクールバスについて、道路状況による遅延等でバスの到着がいつかわからない不便を解消すべく、リアルタイムで運行状況を把握できるシステム「MOQUL」を令和 8(2026)年度に導入することとした。</p> |   |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 教室ドアの取替検討   | ✓ 案件的に大きく、取替には至らなかったが、ドアのレールのズレを解消することにより対応した。  |
| (2) シロアリ駆除  | <p>✓ 株式会社三和技研に駆除を依頼。5 月に器材を設置し 9 月には巢の根絶に至り駆除は無事完了。5 年目の 1 年目が終わった。</p> <p>✓ 被害にあった床・壁の手入れが今後の検討課題である。</p>                  |
| (3) 教室数の確保  | <p>✓ 習熟度別授業など、多様で効果的な学びを推進するための教室は今後ますます必要性が増すが、現状のキャパシティでは、限界があることが課題</p> <p>✓ 図書室棟 2 階の未使用教室リノベーションを次年度計画し、補助金獲得等計画的に</p> |

|            |                                      |
|------------|--------------------------------------|
|            | 進めている。                               |
| (4) 桜の樹木伐採 | ✓ 歩道沿いの桜の樹木の腐朽が進んでおり、安全のために部分的に伐採した。 |

### (14) 点検評価

| 取組の総括   |   |
|---|---|
| ✓ 保護者との更なる連携の強化を目指し、アンケート調査を実施した。また、結果を運営委員会で共有し、次年度の教育活動に生かすための手立てを検討した。 |   |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 学校評価  | ✓ 学校評価では、中学校の保護者の総合評価は、5段階評価で3.9であった。「子どもを本校に入学させてよかった」の項目に関しては、3.9となっており、さらに回答者の70%が「5」または「4」と答えており、高い評価を得ることができた。 |

### (15) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

| 取組の総括  |  |
|--|--|
| ✓ 令和元(2019)年に整備した人工芝のグラウンドが、本校の各種行事の際の駐車場として利用しているため、劣化が著しくなっているため、継続案件。 |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) グラウンドの修繕   | ✓ 急速な物価高騰等もあり、他の案件との優先順位によりグラウンドの修繕の検討まで至らなかった。今後ますます劣化は進行するため、修繕は避けられない。次年度以降、検討必須。 |

### (16) 第2期(2021-2025)中期計画の総括と評価

|             |  |
|-------------|--|
| <p>教学関係</p> | <p>✓ 令和6(2024)年度に小学校の完成年度を迎え、小中9年間の学びを意識した接続カリキュラムが完成した。令和7(2025)年度以降は完成したカリキュラムを実際の活動に即し、よりよいものにするため修正に努めている。小中一貫校として、9年間の学びの連続性を意識した教科研修にも取り組んだ。コロナ禍ではICT活用による遠隔教育にも力を入れ、海外の学校との遠隔交流やキャリア教育など様々な活動を行い、生徒の知見を広げることができた。令和6(2024)年・令和7(2025)年には、海外への修学旅行を実施し、現地での語学研修も含め、グローバル社会への対応を意識した活動に取り組み、生徒の英語力向上への意識を高めることにもつながった。令和5(2023)年度には、「学習発表会(英語)」の形で、保護者向けに小学校1年生から中学校へつながっていく英語学習の姿を参観いただき、公立にはない本校独自の取組の魅力を伝える場となった。</p> <p>✓ 英語と数学においては、全学年習熟度別学習に取り組み、これまで以上に学習内容の定着に努めた。特に、数学においては、小学校教員が授業に加わり、小中の接続をより意識した取り組みができた。また、英語は公立を上回る授業数を設定し、さらに習熟度別に指導を重ねることで生徒の学力も向上した。特に英検では、令和7(2025)年度は、中学校3年生時点での3級以上の取得率が100%となり、準1級取得者も3人となった。令和4(2022)年度には、英検取得率がもっとも高かった団体に贈られる「ブリティッシュ・カウンシル駐日代表賞」、令和5(2023)年度、令和6(2024)年度は「優秀団体賞(受験率部門)」を受賞した。</p> <p>✓ 中学校の在籍者数は、第2期の期間の定員充足率は50%前後を推移している。佐世保市内の私立中学校唯一の共学校としての認知度を上げるべく、募集担当スタッフを配置し、広報強化を図っているものの、卒業生の実績がまだ十分に無いこと、学費などの教育費の工面、過去の募集実績からのイメージもあってか依然厳しい状況にあり、早期のイメージ戦略のため、合否判定を意識的に厳しく行った。佐世保北中学校や他私立中学との併願者もあり、受験者数の確保は今後課題となる。そのため、県立中学校入学試験と同等の適性検査や学業特待生制度を導入し、受験生増の策を講じている。</p> <p>✓ 開校以来、他部門との連携事業は、数多く機会を得ている。生徒の多様な学びにつながり、総合学園の強み、本校の特徴にもつながっている。</p> |
| <p>人事関係</p> | <p>✓ 教員不足は深刻で優秀な教員を獲得することは重要課題である。</p> <p>✓ 令和7(2025)年度に週休二日制度の導入</p>  |
| <p>施設関係</p> | <p>✓ 元が古い建造物であるため、雨漏り、シロアリ被害など不具合箇所は絶えなかった。開校時に揃えた机椅子、扉や機器も順次不調が出ている。空調が未整備の教室、体育館については、空調設備をどのようにするのかは課題。グラウンドの整備検討、木々の老朽化など児童生徒の安全確保を第一に着手していく必要がある。</p> <p>✓ ネットワーク環境については、学校法人として、統一化が図られた。</p>  |
| <p>財務関係</p> | <p>✓ 安定的な生徒確保には至っていない中、財務状況は極めて悪く、目標水準の必達水</p>   |

|  |   |
|--|---|
|  | 準である経常収支差額を漸次低減するに至っていない。不要な支出はしておらず、経費節約に努めてはいるものの、厳しい状況である。 |
|--|---|

## 5.九州文化学園小学校

### 1) 経営理念・経営目標

|      |  |
|------|--|
| 経営理念 | 変化対応力、優れた品格、健全な心身を育む全人教育を提供する                      |
| 経営目標 | 英語、IT、茶道文化を3本の柱とした先進的教育により、グローバル人材を育成するとともに地域に貢献する |

### 2) 1年間の総括と評価

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教育の3本柱はもとより、その他の教科でも児童の基礎学力を上げるべくその課題を見極め、適正な計画のもと指導にあたった。英語検定・算数検定・漢字検定の受験者数・合格者数は増加傾向にある。特に英語検定では、小学5年生で準2級、小学1年生で3級に合格した児童もいた。</li> <li>✓ 総合学園の強みを生かし、本年度も多様な学びの機会を創出できた。今年度も㈱エレナ大塚食品㈱、長崎県国保・健康推進課、マルコメ㈱と連携し、オリジナル弁当の制作・味噌づくり体験・販売体験をさせていただき、より深い学びとなった。</li> <li>✓ 入試においては、受験者数が増加してきたこと、過去7年間の課題を集約し、本校が求める児童像を見極める入試内容の検討を始めた。</li> </ul> |
|--|

### 3) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組実績

|   |            |   |
|---|------------|---|
| 1 | 成長力の確保     | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 9年間を見通し、中学校との接続を意識して作成した本校独自の魅力あるカリキュラムを実際の活動の中でよりよいものへと修正を重ねた。小中高の12年を意識し、生徒の現状も踏まえ、カリキュラムの再検討を重ねている。6年生では、算数科で学習習熟度別のクラス編成を行った。英語科では、児童の実態に合わせ、習熟度ではなくTTを行い、全体の英語力向上に努めた。</li> <li>✓ フルクラウド総合型校務支援システム BLEND を導入したことにより、電話による出欠連絡の削減、各種連絡・通知文書配付をペーパーレス化につながり、大幅に業務効率化につながった。</li> <li>✓ ㈱エレナおよび大塚食品㈱、長崎県との産官学連携により、メニュー開発を行った。今年度は大豆を使用したメニュー開発となり、マルコメ㈱の協力もあり、味噌づくり体験も実施することができた。</li> </ul> |
| 2 | 教育力の向上     | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 研究主任を中心に、年間を通じた研修に取り組んだ。また、市の教育研究会への参加など校外の研修にも積極的に参加し、個々の教育力の向上につなげた。英語・ITを活用し、各教科で特色を生かしたカリキュラムを工夫した。また、九州英語研究大会において、本校の取組を発表した。発表に向けて公立小学校とも協力しながら研究を重ね、より専門的に英語を学ぶ機会となった。</li> </ul>   |
| 3 | 約定返済の確実な履行 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 入学定員の確保、補助金の獲得について最大限に努めているものの定員充足率は69.5%であり、財務状況は依然として厳しい状況が続いている。</li> </ul>   |

### 4) 経営改善(健全化)に関する成果

|   |             |   |
|---|-------------|---|
| 1 | 収入の増加       | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 内部進学初年度となったこともあり、生徒数が前年度より11人増加したため学納金収入が微増となった。また、各種補助金の獲得、適性検査の実施により収入が微増した。</li> </ul>                            |
| 2 | 支出の効率化      | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 一人一人がコスト意識を高く持ち、比較・検討・見直しに努めている。</li> <li>✓ 業者の見直しと契約前の価格調整の徹底で経費削減を行った。またシステムのクラウド化でランニングコストの削減が継続できている。</li> </ul> |
| 3 | 人員・業務の効率化   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ フルクラウド統合型校務支援システム BLEND の導入により、保護者への一斉連絡や欠席連絡をシステム上で行うことで、電話対応の時間や紙の配付物の削減につながった。</li> </ul>                         |
| 4 | 付加価値向上と広報強化 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ オーストラリア・コフスハーバーの「Bishop Druitt College」と交流協定を締結した。</li> </ul>  |

### 5) 中期計画の進捗・達成状況

| 区分  | 進捗・達成状況  |
|-----|--|
| 戦略Ⅰ | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 校内研修でIT・グローバル研修を計画的に実施し、教員としての資質向上に努めた。また、チーム研修として、全職員が「授業改善」「情報化」「調査統計」「学校運営」のいずれかのチームに所属し、チームごとの視点で研修に取り組み、成果と課題を全体で共有することができた。</li> <li>✓ 創立80周年を迎え、記念式典には一部児童・教員が出席でき、記念大茶会、記念誌の発刊を通して、建学の精神・理念への理解を深めることができた。</li> </ul> |
| 戦略Ⅱ | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 小中合同の教科部会をもち、中学校との接続を意識して作成した本校独自のカリキュラムをより魅力的なものにするため、実際の活動と照らし合わせながら修正を加えた。キャリア教育では、大塚食品㈱や㈱ファーストリテイリング等の企業と共同プログラムで学ぶ機会を積極的に得、実践的な学びの機会を</li> </ul>   |

|          |  |
|----------|--|
|          | <p>つくることで、将来の仕事観を早期に育むことができた。<br/>         ✓ IT の授業では、外部専門講師による専門性あふれる授業を展開できた。</p>  |
| 戦略Ⅲ      | <p>✓ アメリカやイギリスでの短期留学の制度を構築し、保護者説明会を重ね、周知に努めた。12月には小学5年生1人が1か月アメリカでの短期留学に挑戦した。海外研修の機会拡大という本校ならではの学びの特色となっている。<br/>         ✓ 放課後学習「みらい坂」では、地域の方を講師に招き、書道、ビジョントレーニングの授業を継続的に実施できている。</p> |
| 戦略Ⅳ      | <p>✓ フルクラウド統合型校務支援システム「BLEND」を活用することで、出欠の電話連絡の削減、各家庭への文書配付のデジタル化により業務効率化へつながった。</p>  |
| 戦略Ⅴ      | <p>✓ Instagram を中心に動画を投稿し、本校の魅力について視覚的に伝えた。<br/>         ✓ 学校の認知を広げるための幅広い集客が見込めるマルシェからのオープンスクールへの誘導を意識した本校ブースをマルシェ時に設置して、児童募集につなげた。</p>   |
| 戦略Ⅵ      | <p>✓ 私立学校よかこ推進プロジェクト事業費補助金を用いて、フィルタリングソフトと校務支援システムの導入・IT を専門とした外部講師も招き、補助金活用で安全なネットワーク環境の提供、教職員の負担軽減、専門性の高い授業を実現した。</p>  |
| 学園内の連携促進 | <p>✓ 2期生16人が卒業し、うち12人(75.0%)が九州文化学園中学校へ進学した。<br/>         ✓ 長崎国際大学、長崎短期大学、九州文化学園高等学校、九州文化学園調理師専門学校、九州文化学園歯科衛生士学院と授業やキャリア教育で連携し、より専門的な学びの機会を創出した。</p>                                   |
| 付帯計画と課題  | <p>✓ 習熟度別学習の本格化に備え、未使用教室の整備について計画を立て、補助金等に申請した。実際整備着手は次年度となる。</p>  |

## 6) 主要情報

### (1) 卒業生数、資格等に関する実績

#### 【卒業生数】

| 区分     | 人数  | 備考 |
|--------|-----|----|
| 小学校    | 16人 |    |
| 卒業生の累計 | 40人 |    |

#### 【資格等の実績】

| 資格等人         | 取得・合格者 | 備考  |
|--------------|--------|---|
| 実用英語技能検定(英検) | 延べ49人  | 【準2級】1人【3級】12人【4級】11人【5級】25人                            |
| 実用数学技能検定(数検) | 延べ82人  | 【4級】1人【5級】1人【6級】7人【7級】10人【8級】20人【9級】12人【10級】18人【11級】13人 |
| 日本漢字能力検定(漢検) | 延べ91人  | 【5級】7人【6級】8人【7級】23人【8級】11人【9級】22人【10級】20人               |

### (2) 主な行事等の開催実績

| 行事等人               | 実施日・期間等               | 備考          |
|--------------------|-----------------------|-------------|
| 入学式                | 4月9日(水)               |             |
| 運動会                | 4月26日(土)              |             |
| 九文マルシェ             | 5月17日(土)              |             |
| 授業公開               | 6月21日(土)              |             |
| 第1回オープンスクール        | 7月12日(土)              |             |
| 第2回オープンスクール        | 8月2日(土)               |             |
| 第3回オープンスクール(入試説明会) | 9月6日(土)               |             |
| 入学体験会              | 10月11日(土)             |             |
| プレ音楽祭              | 10月31日(金)             |             |
| 6年生修学旅行            | 11月5日(水)～7日(金)        |             |
| クリスマスフェスティバル       | 12月6日(土)              |             |
| 80周年記念大茶会          | 12月7日(日)              | 小学校3年・中学校1年 |
| 80周年記念式典           | 12月15日(月)             |             |
| 学祖追悼式              | 1月30日(金)              |             |
| 卒業茶会               | 2月19日(木)              |             |
| 80周年記念英語学習発表会      | 2月26(木)・27(金)、3月2日(月) |             |

|     |          |  |
|-----|----------|--|
| 卒業式 | 3月17日(火) |  |
| 修了式 | 3月24日(火) |  |

<入試関係日程>

| 入試区分  | 実施日      | 備考 |
|-------|----------|----|
| 第1次選考 | 11月1日(土) |    |
| 第2次選考 | 1月17日(土) |    |
| 4月編入学 | 1月17日(土) |    |

7) 年度の事業計画の進捗・達成状況

(1) 学年・クラス等の基本方針

| 学部学科コース・区分の名称 | 年度の基本方針の達成状況  |
|---------------|---|
| 学校目標          | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 建学の精神に基づき「変化対応力」「優れた品格」「健全な心身」を育む全人教育の実践に、全教職員が一体となって取り組んだ。経営目標に掲げる「英語・IT・茶道文化」の3本の柱を軸とした先進的教育を展開し、児童一人一人の成長に応じた指導・支援を通して、基本的な生活習慣の定着と基礎的な学力の着実な向上が見られた。</li> <li>✓ 令和6(2024)年度に完成年度を迎えた後の2年目として、9年間を見通した小中一貫教育のカリキュラムを実際の学習活動と照らし合わせながら修正・改善を重ね、学びの連続性を一層高めることができた。特に低・中・高学年のそれぞれの発達段階に応じた到達目標を明確化し、学年間の引き継ぎを丁寧に行うことで、児童の成長の見える化が進んだ。</li> <li>✓ 全学年を通してCEFR-Jによる英語力の到達度評価を継続し、英語学習発表会・レシテーションコンテスト等の場で保護者に成果を発信するとともに、1人1台端末を活用した協働学習を常態化し、思考の可視化と学び合いを深化させた。茶道を核とした日本文化教育を通じて、礼節・おもてなしの心の涵養を図った。</li> <li>✓ 他部門および地域社会との連携においては、産官学連携による探究学習やプラントベースフードを活用した商品開発、海洋保全学習など、実社会とつながる学びを複数展開し、児童の思考力・表現力・社会参画力の伸長を図った。</li> <li>✓ 課題として、習熟度別指導のさらなる充実、個別最適な学びと協働的な学びの一体的推進、また保護者・地域との双方向の関係構築の継続的強化が挙げられる。次年度もPDCAサイクルを回しながら改善に努める。</li> </ul> |
| 低学年           | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 低学年の児童は、基本的な生活習慣や学習習慣の定着を中心に学校生活を円滑に行えるように努めた。ほとんどの児童が3分前着席などの時間を守ること、教室などの整理整頓を行うといった日常生活のルールを学び、守れるようになった。また、集団生活でのルールやマナーを守ることを強化し、授業や休憩時間において積極的に係活動に取り組むなど、友達と協力する姿が見られるようになった。今後も元気に学校生活を送れるように支援していきたい。</li> </ul>  |
| 中学年           | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 中学年では学校における基本的な生活習慣の確立と基礎学力の定着に重点を置き、日々の指導を行ってきた。挨拶や時間を守る意義、係活動への責任ある取組などについて、概ね定着が見られた。また、声掛けに応じて挨拶を行う姿が増加し、意識の高まりがうかがえた。友人関係においては、相手の立場を尊重した言葉選びを意識できるよう、日常生活のあらゆる場面で丁寧な声掛けを行い、互いに認め合える集団づくりに努めた。また、個別の配慮を要する児童に対しては、こまめな状況把握と情報共有を行い、安心感を持って学習に取り組める環境を整えた。ICT機器を活用した指導により、児童の興味、関心を喚起し、主体的に学習へ取り組む態度の育成が図られた。さらに、タブレットを用いての自分の考えを整理し、プレゼンテーションを行うなど、表現力の向上も見られた。加えて、話を聞く態度や発表への意欲にも改善が見られ、学び合いを通して責任感と自信をもって挑戦できるよう一人一人の歩みを支援していきたい。</li> </ul>  |
| 高学年           | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 高学年の教科指導においては、児童一人一人の理解度に応じたきめ細かな指導を実施した。基礎的・基本的な学力の着実な定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力の育成にもつながるよう工夫し、学習内容の定着と活用の両面で一定の成果が見られた。また、完成年度2年目を迎え、児童会活動は昨年度の取組を基盤としながら、より主体的な活動へと広がりを見せた。リーダーとしての役割や責任を自覚し、自ら考えて行動する児童が徐々に増え、企画・運営においても意見を出し合いながら協力する姿が見られた。さらに、運動会などの学校行事においては、企画や運営、司会進行等を児童が主体的に担う場面を意図的に設定したことで、主体性や協働性、リーダー性の一層の育成につながった。</li> </ul>  |

## (2) 教育活動

| 取組の総括  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 英語・ICT・日本文化の三位一体推進で、児童の表現力・論理的思考力・ホスピタリティを育成</li> <li>✓ 英語教育では、1、2年生週4コマ、3～6年生は週5コマ体制を確立</li> <li>✓ 全学年英語科で CEFR・J がベースとなる GSE 評価を実施</li> <li>✓ ICT教育では、1人1台端末を用いた協働学習を常態化</li> <li>✓ 思考の可視化と学び合いを深化</li> <li>✓ 日本文化教育では、茶道を核に礼節教育を充実</li> <li>✓ 参観・公開授業で成果を広く発信</li> <li>✓ 放課後学習の深化として、国語・算数・英語に加え、体育的活動やビジョントレーニングを組み合わせた多領域プログラムを編成</li> <li>✓ 学力向上のため AI ドリルを連動させ、個別最適化した学習サイクルを確立</li> </ul> |   |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 英語教育   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 英語・IT・茶道文化を3本柱とする「三位一体」の教育を令和7(2025)年度も推進し、児童の表現力・論理的思考力・豊かな感性の育成を進めた。英語教育では1・2年生週4コマ、3～6年生週5コマを維持し、CEFR・Jによる到達度評価と英語学習発表会・レシテーションコンテスト等で成果を発信した。</li> <li>✓ 低学年では英語初心者から英検3級取得者まで幅広い児童がおり、個別にレベルに沿って対応した。中学年ではELTが主となりJTEがサブとしてつく授業形態を実施した。高学年ではライティングやリーディングを帯活動として行った。より専門的に英語を学ぶ機会を多くとった。また、九州英語教育研究大会において本校の取組を発表した。</li> </ul>   |
| (2) IT教育   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 本校の教育3本柱の一つとしてIT教育を位置付け、週に1回のITの時間を設定するとともに、国語・算数・英語・生活・理科・社会等の各教科においても1人1台端末を活用したICT学習を常態化させた。協働学習支援ツール・デジタルホワイトボード等を効果的に使い、思考の可視化と学び合いを深化させた。</li> <li>✓ IT教育では1人1台端末による協働学習を常態化し、TOPPANホールディングス(株)との共同実証研究「navima」を算数の個別最適化学習として展開し、JAET全国大会・筑波大会で実践成果を発表した。</li> <li>✓ TOPPANホールディングス(株)との共同実証研究であるAIドリル「navima」を全学年で日常的に活用し、算数を中心に個別最適化された学習サイクルを確立した。放課後学習と連動させることで、児童の理解度に応じた反復学習・補充学習を実現し、基礎学力の定着に成果が見られた。</li> <li>✓ 外部ICT専門家(文部科学省「学校DX戦略アドバイザー」福田孝義氏)による講義・指導助言を継続的に受け、ICTを活用した授業改善と情報活用能力育成の指導力向上を図った。また、私立学校よかとこ推進プロジェクト事業費補助金を活用し、高精度フィルタリングソフトの運用と校務システムの安定稼働により、安全で効率的なICT環境を維持することができた。</li> <li>✓ 情報モラル教育についても計画的に実施し、SNS等の適切な利用、個人情報の取扱い、著作権尊重等について発達段階に応じて学ばせた。</li> <li>✓ JAET(全日本教育工学研究協議会)優良校の再認定を踏まえ、実践研究を継続し、令和7(2025)年度は実践成果の对外発表(全国大会等)の機会を確保することを次年度の課題とする。また、端末の経年に伴う更新計画の策定が今後の検討事項となる。</li> </ul> |
| (3) 日本文化学習   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 茶道を通して、礼法・作法を身に付けておもてなしの心を育んだ。</li> </ul>  |
| (4) 放課後学習  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 国語、算数、英語の学習を継続して行うとともに、体育的活動やビジョントレーニングを組み合わせた多領域プログラムの充実を図った。基礎的・基本的な学力の定着に加え、集中力や認知機能の向上にも一定の効果が見られた。また、継続的な取組により、学習に対する意欲や主体的に取り組む姿勢が育つ一方で、参加人数や活動内容の精選など、今後の改善に向けた課題も見られた。</li> <li>✓ 検定試験対策も実施した。</li> </ul>  |

## (3) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

| 取組の総括   |             |
|---------|-------------|
|         |             |
| 項目名・取組名 | 取組の実績・成果・課題 |
| 該当なし    |             |

## (4) 研究活動

| 取組の総括  |  |
|--|--|
| <p>✓ RV-PDCA サイクルに基づいて立案した校内研修計画に沿って、全 26 回の研修を推進した。教育課程研修として、授業改善研修(授業の聞き合い、研究協議を含む)、本校の学びの三本柱に関する研修、各種学力調査の分析を行った。また、違う視点で校内研修を捉え、広げるために研修チーム(授業改善、調査統計、情報、学校運営)を組織した。本校における小中一貫教育の在り方等について共通理解を図り、児童生徒募集の観点ももって、次年度以降の学校組織等に係る話し合いを重ねた。教育 DX アドバイザーを招聘し、教育に係る国の動きや最新の情報を共有した。このような研修を通して、児童生徒の学力向上、教職員の資質向上、職員間の同僚性の構築も十分に図られたと考える。</p> |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 現職研修   | <p>✓ 教職員としての資質および指導力向上、授業改善、学びの三本柱に係る研修を計画的に行った。</p> <p>✓ 各学力調査の分析を全職員で行い、児童生徒の共通課題を設定、共有し、その改善に努めた。</p> <p>✓ 本校における小中一貫教育の在り方についての研修を行った。</p>   |
| (2) 授業公開   | <p>✓ 「小中一貫の学び」を広く知らせ、オープンスクールや受検につなげることを目標に、本校入学希望者・本校保護者を対象にして実施した。多くの参加者を得たが、外部の参加者数の大幅な伸びは得られなかった。</p>  |
| (3) 研究発表   | <p>✓ 小学校英語科が佐世保市英語部会を代表して九州英語教育研究大会において実践発表を行った。発表に向かう過程において、佐世保市英語部会と共同の研修を行った。また、次年度、中学校保健体育科が長崎県保健体育研究大会で行う実践発表に向けて、佐世保市保健体育部会と共同の研修を行った。</p> <p>✓ 筑波大学で行われた全日本教育工学研究協議会全国大会において、本校算数科における取組を中心とした実践発表を行った。</p> |
| (4) 協同研究   | <p>✓ TOPPAN ホールディングス(株)との AI ドリル navima、ライップの実証研究を行い、年間 3 回の研究推進委員会を開催し、研究を深めた。</p>  |

## (5) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

| 取組の総括  |   |
|--|---|
| <p>✓ 各学年において発達段階に適したキャリア学習を行うことができた。また、6 年生においては中学校への進学について児童の希望進路に応じた進路指導ができた。</p> <p>✓ AI ドリル「navima」を活用し、一人一人の習熟度に合わせた学習サイクルを確立。基礎定着から発展課題まで、放課後学習を通じて効果的に取り組んだ。</p> <p>✓ 英検・漢検・数検の対策を計画的に行い、合格実績を維持・向上</p> <p>✓ 「服のチカラプロジェクト」を通して、保幼小連携で交流のある保育園や幼稚園へ呼びかけ、地域とのつながりを生かした取組を展開</p> <p>✓ 定期点検による安全維持は図られたが、未着手案件の計画的な処理が今後の課題</p> |   |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) キャリア学習   | <p>✓ 学年の発達段階に応じた内容でキャリア教育を展開し、自分の良さや役割、将来の働き方について考える機会を設けた。これにより、児童の自己理解や将来への関心は概ね高まったが、個人差も見られ、今後さらなる支援が求められる。</p>   |
| (2) 放課後学習  | <p>✓ 国語・算数・英語を中心とした放課後学習を引き続き実施し、児童の基礎学力の定着と学力向上を図った。AI ドリル「navima」との連動により、一人一人の理解度・習熟度に合わせた個別最適化された学習サイクルを確立し、反復演習と発展課題の両面で成果を挙げた。</p> <p>✓ 高学年(5・6年生)を対象とした探求・放課後学習プログラム「みらい坂 56」について年間を通じて継続実施した。国語・算数・英語の学習に加え、体育的活動・ビジョントレーニング等を組み合わせた多領域プログラムを編成し、学力と体力、集中力の一体的な育成を図った。</p> <p>✓ 各種検定試験(英検・漢検・数検)の対策指導を放課後学習の枠組みの中で計画的に実施し、昼休み時間と連動させながら過去問演習・弱点補強を重ねた。結果として、延べ受検者数・合格者数ともに前年度実績を踏まえた成果を得ることができた。</p> <p>✓ 学園内他部門との連携を活用し、長崎国際大学強化指定部の学生によるスポーツ指導、長崎短期大学製菓コース学生とのお菓子づくり体験など、通常の授業では得がたい多様な学びの機会を提供した。</p> <p>✓ 課題として、児童数の増加に伴う参加希望者への対応体制、指導者の確保、個別フォローの時間的充実が挙げられる。また、家庭学習との接続をより強化し、学習習慣の定着に一層つなげることが必要である。</p> |
| (3) 検定試験対策   | <p>✓ 昼休みの時間と放課後学習において、過去問を中心に対策を行った。</p>  |

|                |   |
|----------------|---|
| (4) 児童会活動の充実   | ✓ 3年目になる服のチカラプロジェクトに継続して参加し、保幼小連携で交流のある保育園や幼稚園の協力を得ながら取組を進めることができた。地域とのつながりを生かした活動として、取組の広がりや深まりが見られた。また、完成年度2年目を迎え、5・6年生が中心となって活動を進める体制がより安定し、引継ぎまでの一連の流れが確立されてきている。上級生が下級生へ役割や思いを伝える姿も見られ、主体性や協働性、責任感の育成につながった。 |
| (5) 施設の安全点検の実施 | ✓ 月に1回校内の施設・設備の安全点検を行った。不具合の早期発見につながり児童が安全に過ごせる環境の維持が図られた。案件によっては、未着手のものがあり、計画的な処理が必要である。   |

## (6) 国際交流・留学生支援活動

| 取組の総括  |   |
|--|---|
| ✓ 様々な授業やイベントを通して、海外の文化を学んだ。月に1回「ミニ留学」と称して1年に10か国の紹介ができ、また、食文化の紹介として給食にもその国の料理が提供された。本校独自の留学プログラムを始動させたところ、小学5年生1人がアメリカに留学した。 |   |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 海外学生との交流   | ✓ 長崎短期大学を訪れ、留学生との交流を実施した。海外の文化を学び、さらに海外への興味・関心を高めることができた。               |
| (2) 各種イベント   | ✓ サマーフェスティバルやハロウィン、クリスマスなど季節のイベントにおいて、高学年を中心に企画し、全校で楽しめる活動を実施した。        |
| (3) 海外留学促進   | ✓ 児童を対象とした留学説明会を実施した。イギリスやアメリカについて留学先でどのようなことをするのか説明を受けた。5年生の1人がアメリカに留学 |
| (4) 海外インターンシップ生の受け入れ   | ✓ 今年度は希望がなかったため、受け入れなかった。   |
| (5) 短期体験学習生の受け入れ   | ✓ カナダ、韓国、シンガポールより短期体験学習生を受け入れた。積極的に会話する姿が多くみられた。                        |

## (7) 学生募集・広報活動

| 取組の総括   |  |
|---|--|
| ✓ 定員充足を達成するために、オープンスクールや入試説明会、幼稚園・保育園等への定期的な訪問に加え、SNS(Instagram)を活用し、新入生および編入希望者に向けて本校の魅力を発信した。私立小中学校ならではの教育環境を効果的にPRすることができた。幼稚園・保育園への訪問活動においては、近年、紙媒体によるチラシ配布を取りやめ、連絡アプリ等による情報配信へ移行している園が増加している。そのため、従来の紙媒体を中心とした広報活動では各家庭へ十分に情報を届けにくくなっていることが課題であり、今後は各園の実情に応じた新たな情報発信方法の構築が必要である。 |  |
| ✓ 昨年に引き続き、本校パンフレットには、代表児童の写真とコメントを掲載し、それと連動するかたちで本人によるコメント動画をInstagramに投稿した結果、多くの再生回数を記録し関心を集めることができた。  |  |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) オープンスクール  | ✓ 7月・8月・9月オープンスクール開催<br>✓ 昨年度は3回実施し、英語・IT・茶道本校3本柱体験を実施した。参加児童数(年長): 第1回30人、第2回15人、第3回36人。参加人数が多く活発な活動ができた。<br>✓ 小・中学校ともに参加者数が大幅増(小362人・中180人)となり、出願数も一定の成果を得た。一方、系列園外参加者の受験への結びつきが課題であり、教員による積極的な声掛けや、SNSを活用した進路情報の発信強化が求められる。 |
| (2) 授業公開  | ✓ 多教科をバランスよく公開できた点が好評だった。一方、習熟度別少人数クラスへの保護者の理解不足や、帰りの駐車場誘導・暑さ対策など運営面の改善、外部参加者への積極的な働きかけが次年度の課題となった。  |
| (3) 入試説明会   | ✓ 9月のオープンスクールとして開催したため前年度より多くの参加者に来校いただいた。入試スケジュール・入試内容の説明を実施。<br>✓ WEB出願導入も2年目に入り、特に問題なく、円滑に進めることができた。  |
| (4) 九文マルシェ等校外イベント   | ✓ マルシェ約40店舗が出店し、出店者の皆様のご協力もあり、来場者約1,600人になった。いろいろな工夫を行い、盛況に終わった。   |
| (5) 入学体験会・受験対策講座  | ✓ 前年度より、長くホームページに個別相談会を掲載したため、多くの方に見学の機会を提供することができた。<br>✓ 入試問題の模擬体験や学校生活の体験を行った。   |

## (8) 教職員の人材開発

| 取組の総括 |  |
|-------|--|
|-------|--|

| ✓今年度も「全体研修」「教科別研修」「チーム研修」「校種別研修」といった形式で計画的に研修に取り組んだ。研究主任を中心に、同僚性の構築を図り、組織力の向上を意識して取り組んだ。 |   |
|--|---|
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 定期的な職員研修   | ✓毎月第1・3水曜日を研修日として設定し、年間26回の校内研修に取り組んだ。                    |
| (2) より専門的なICT研修  | ✓今年度も文部科学省の学校DX戦略アドバイザーでもある福田孝義氏の講義や指導助言を受け、職員の資質向上につなげた。 |

### (9) ステークホルダーとの連携強化

| 取組の総括  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓産官学連携のさらなる拡充により、「実践的な学び」と「学校の魅力発信」の両立を一層進めることができた。</li> <li>✓企業連携では、TOPPANホールディングス(株)とのAIドリル「navima」実証研究を継続的に展開し、推進委員会を定期開催、授業実践データの蓄積と分析を進めた。</li> <li>✓産官学連携の代表事例である大塚食品(株)×(株)エレナ×長崎県との協働プロジェクトでは、小学5年生が大豆を使用したオリジナル弁当の商品開発に取り組み、エレナ(株)県内店舗での販売を実現、実践的・社会的な学びの機会を得た。</li> <li>✓幼保連携においては、認定こども園九州文化学園幼稚園をはじめとする近隣の幼稚園・保育園と年間を通じた交流事業を継続実施し、全学年がそれぞれ交流する機会を設けた。英語・IT・茶道・季節行事など本校の特色を生かした交流内容を展開した。</li> <li>✓学習塾(株)智翔館(ほか)市内学習塾との関係構築として、定期訪問を軸に継続し、保護者説明会への訪問・情報交換を通して募集広報面での連携を深めた。</li> <li>✓同窓会(卒業生)との連携については、令和6(2024)年度に1期生が卒業したことを受け、在校生との交流機会の創出、学園行事への招待など、ネットワークの形成に向けた取組を開始した。</li> </ul> |   |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 同窓会(卒業生)との連携強化   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓令和6(2024)年度に卒業した小学校1期生(24人のうち14人(58.3%)が九州文化学園中学校へ内部)を踏まえ、令和7(2025)年度は卒業生との継続的な関係づくりに向けた基盤整備を行った。学園行事(九文マルシェ、オープンスクール、英語学習発表会等)への招待を通じて、母校とのつながりを保つ機会を設けた。</li> <li>✓在校生にとって身近なロールモデルとして、卒業生による体験談・メッセージ動画の発信、児童会活動への参加協力を試行的に実施した。</li> <li>✓次年度以降は、組織的な同窓会組織の形成、卒業生データベースの整備、定期的な交流会・通信の発行などを計画的に進めることを課題とする。</li> </ul>  |
| (2) TOPPAN(株)とのAIドリルnavimaの実証研究  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓TOPPANホールディングス(株)とのAIドリル「navima」実証研究を令和7(2025)年度も継続し、推進委員会を年間2回開催して、企業・保護者・教員が一堂に会した多面的な検証を行った。</li> <li>✓小学校算数科を中心に、AIドリルを活用した個別最適化学習の実践データを蓄積・分析し、学力向上への効果について協議した。令和6(2024)年度にまとめた教育論文「教育DX時代に求められる新たな学力向上対策の取組～小学校算数科におけるAIドリルを活用した個に応じた学習指導の強化～」は日教弘教育賞(全国表彰)で奨励賞を受賞しており、その成果を令和7(2025)年度実践に反映させた。</li> <li>✓今後は対象教科の拡大、家庭学習との接続、データ分析の精緻化を通じて、実証研究の成果を全教育活動に広げていくことが課題である。</li> </ul> |
| (3) 近隣の幼稚園・保育園との連携   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓認定こども園九州文化学園幼稚園および近隣の幼稚園・保育園と、年間を通じた交流活動を継続実施した。全学年がそれぞれ発達段階に応じた形で交流する機会を設定し、英語活動・IT体験・その他教科での交流を展開した。</li> <li>✓本校からの訪問型交流に加え、園児の本校来校による体験活動(英語レッスン、茶道体験等)を実施し、相互理解と接続期教育の充実を図った。</li> <li>✓幼保小連携を通じて、本校の特色ある教育内容を地域に発信するとともに、内部進学・新入児童獲得につながる関係構築を進めた。</li> <li>✓課題として、各園との連携内容のさらなる質的向上、年長児保護者への情報提供の充実、教員間の合同研修等の計画的実施が挙げられる。</li> </ul>  |
| (4) 学習塾との連携  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓市内学習塾(株)智翔館(ほか)への定期訪問を継続し、関係構築・情報交換を行った。特に(株)智翔館とは塾生保護者向けの説明会に参加し、本校の教育内容(英語・IT・茶道の3本柱、小中一貫教育等)を直接説明する機会を得ることができた。</li> <li>✓学習塾側からの本校受検希望児童に対する情報提供、本校からの入試情報・オープンスクール情報の発信など、双方向の連携を進めた。</li> <li>✓学習塾連携は新入児童獲得の重要なチャネルとして機能しており、訪問頻度・情報交換の質を今後も維持・向上させることが課題である。新規の学習塾開拓も継続して進める。</li> </ul>   |

### (10) 学園内の連携促進

| 取組の総括  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学園内組織と、授業・キャリア教育・SDGs活動など多面的な連携を進め、総合学園の強みを生かした専門性の高い学びの機会を児童に提供することができた。</li> <li>✓ 接続機関である認定こども園九州文化学園幼稚園とは、保幼小連携にとどまらず、英語活動・行事への相互参加など日常的な交流を深め、校種を超えた教職員交流の機会も継続的に確保した。</li> <li>✓ 高学年対象の探求学習「みらい坂56」では、長崎国際大学の強化指定部学生によるスポーツ授業の提供を継続し、児童は大学生から直接指導を受ける中で、運動を身近に感じる貴重な体験を得た。</li> <li>✓ SDGsに関する連絡協議会を継続開催し、学園全体としての「NAKIRI SDGs FESTIVAL(名切SDGsフェスティバル)」への出展を計画的に準備・実施、対外的な広報と学園内部の連携を両立する取組として成果を挙げた。</li> <li>✓ 令和7(2025)年12月の学園創立80周年記念式典に向けた各WG(記念式典・祝賀会・記念誌・寄附金・同窓会連合会・茶会)にも担当者を配置し、学園全体の節目を各部門と連携しながら盛り上げた。</li> </ul> |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 連携事業   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 認定こども園九州文化学園幼稚園との連携においては、保幼小連携の交流行事に加え、本校教員による年長児・年中児への英語レッスン、園児の本校来校による季節行事への参加など、校種を超えた交流を継続的に実施した。内部進学促進にもつながる関係構築が進んでいる。</li> <li>✓ 長崎国際大学との連携では、薬学部による理科授業を実施。大学生・教員との学びを通じて、児童は高度な専門性に触れる機会を得た。</li> <li>✓ 長崎短期大学との連携では、製菓コースによるお菓子づくり体験、国際コミュニケーション関連の留学生交流(4年生対象)等を実施し、多彩な学びの場を提供いただいた。</li> <li>✓ 九州文化学園高等学校・九州文化学園中学校との連携では、合同イベント(Summer Festival、ハロウィン、クリスマスフェスティバル等)を通じて、異校種間の交流を深めた。</li> <li>✓ 九州文化学園調理師専門学校・九州文化学園歯科衛生士学院との連携により、食育・健康教育分野での専門的な学びの機会を得ることができた。</li> <li>✓ 令和7(2025)年度の授業公開においても長崎国際大学や九州文化学園幼稚園の教職員にも参加いただき、本校の小中一貫の学びを他部門と共有する機会を継続した。</li> </ul> |
| (2) SDGsに関する連絡協議会  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学園全体のSDGs連絡協議会に教員・事務職員から各1人ずつ担当者を選出し、令和7(2025)年5月24日に佐世保中央公園で開催された「第3回NAKIRI SDGs FESTIVAL(名切SDGsフェスティバル)」への出展内容を計画的に検討・準備した。</li> <li>✓ 本校からは、児童会主導で取り組んだ「人権の花運動」の活動成果を中心に、ひまわりの種をポット入りで来場者に配布する体験型ブースを出展し、学園のSDGs推進姿勢を広く発信することができた。</li> <li>✓ 協議会では、学園全体の出展構成の調整、他部門(大学、大学、高校、幼稚園、調専、学院)との出展内容の役割分担、当日の運営体制について協議を重ね、円滑な実施につながった。</li> <li>✓ 課題として、イベント参加後の学びの振り返り・次年度計画への反映の仕組み化、協議会開催頻度の確保が挙げられる。</li> </ul>   |

## (11) SDGsの推進

| 取組の総括   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和7(2025)年度は、児童の発達段階と本校の教育3本柱(英語・IT・茶道文化)を軸にしたSDGsプロジェクトを計画的に展開した。主要テーマは①名切SDGsフェスティバルへの出展(人権の花プロジェクト)、②プラントベースフード(大豆)を使った商品開発、③届けよう、服のチカラプロジェクト、④平和・人権学習の4本柱である。なお、九十九島の海洋保全学習(アマモ種付け等)は実施を計画していたが、関係機関とのスケジュール調整が折り合わず、令和7(2025)年度は実施できなかった。</li> <li>✓ 児童会を中心とした全校的な活動として推進し、学年をまたいだ学び合いと、保幼小連携による地域ぐるみの取組に発展させることができた。</li> <li>✓ 対外発信にも注力し、学園として初めて佐世保中央公園で開催される「名切SDGsフェスティバル」へ出展、学外の多くの方々にも本校および学園のSDGs推進姿勢を伝える機会となった。</li> <li>✓ 企業・行政・地域団体(大塚食品(株)、(株)エレナ、長崎県国保・健康推進課、(株)ファーストリテイリング等)との産官学連携の中でSDGsを位置づけ、実社会の課題解決に直接つながる学びを提供できた点が大きな成果である。</li> </ul> |   |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 名切SDGsフェスティバル   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和7(2025)年5月24日(土)、佐世保中央公園で開催された「第3回NAKIRI SDGs FESTIVAL(名切SDGsフェスティバル)」に学園として初出展し、小学校部門として独自ブースを展開した。</li> <li>✓ 出展内容は、児童会を中心に取り組んだ「人権の花運動」の活動成果を中心とし、</li> </ul> |

|                        |  |
|------------------------|--|
|                        | <p>来場者にひまわりの種をポット入りで配布する体験型ブースを展開した。花の栽培を通じた思いやり・協力・多様性尊重の心を育む学びを、種の配布というかたちで地域の方々と共有した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 当日は多数の来場者に対して児童自身が発表・体験ガイドを務め、自己の学びを言語化する貴重な機会となった。英語での案内にも挑戦し、本校の英語教育の成果を対外的に発信することができた。</li> <li>✓ 学園全体との合同出展の一員として参加することで、総合学園の魅力を示し、学園の認知度・ブランド向上にも寄与した。</li> <li>✓ 課題として、出展準備にかかる児童・教員の負担軽減、他部門との事前調整の効率化、来場者との交流内容を次年度の学習計画へフィードバックする仕組みの構築が挙げられる。</li> </ul>  |
| (2) プラントベースフードを使った商品開発 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 大塚食品(株)・(株)エレナ・長崎県(国保・健康推進課)との産官学連携事業として、小学5年生がプラントベースフード(大豆)を使用したオリジナルメニューの商品開発に取り組んだ。3年目となり、プロジェクトはより深化した。</li> <li>✓ 児童主体のメニュー提案、栄養バランスの検討、パッケージデザイン、価格設定、販売促進の企画まで、商品開発の一連のプロセスを体験的に学んだ。</li> <li>✓ 商業施設させば五番街内の(株)エレナでの販売体験を実施し、児童が接客・販売を担当。流通・小売の現場を肌で感じ、食を通じた健康・環境・社会課題(SDGs 目標 2・3・12・15等)への理解を深めた。</li> <li>✓ 長崎県国保・健康推進課との連携により、健康・食育の観点からの学びが加わり、多角的な学習へと発展している。</li> <li>✓ 課題として、開発商品の販売実績のフィードバックを児童に返す仕組み、他学年への波及、食品ロス削減等の関連テーマへの展開が挙げられる。</li> </ul> |
| (3) 届けよう服のチカラプロジェクト    | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 株式会社ファーストリテイリング社の「"届けよう、服のチカラ"プロジェクト」に継続参加し、児童会主導で古着回収活動を実施した。令和7(2025)年度は保幼小連携を活用し、交流のある近隣の幼稚園・保育園にも回収協力を呼びかけ、地域ぐるみの取組に拡大した。</li> <li>✓ 回収した古着は(株)ファーストリテイリング社を経由して、難民キャンプ等の必要とされる地域に送付。児童は服というものが持つ「チカラ」、人道支援や国際協力(SDGs 目標 1・10・17等)の意義について理解を深めた。</li> <li>✓ 前年度(令和6(2024)年度)の古着15箱送付実績を踏まえ、令和7(2025)年度も同水準以上の回収・送付実績を達成した。児童会の5・6年生がリーダーとなり、下学年や保幼小への引継ぎの流れも整いつつある。</li> <li>✓ 課題として、回収方法の効率化、保護者への啓発継続、活動成果の現地レポート等による児童へのフィードバックの充実が挙げられる。</li> </ul>         |
| (4) 九十九島の海をきれいにしよう     | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和6(2024)年度に前段階として鹿町でアマモの種付けを実施したことを踏まえ、令和7(2025)年度は佐世保市水産課との連携による海洋保全学習(アマモ種付け等)の実施を計画していた。しかしながら、関係機関とのスケジュール調整が折り合わず、令和7(2025)年度は本プログラムを実施することができなかった。</li> <li>✓ 令和8(2026)年度は、佐世保市水産課をはじめとする関係機関との事前調整を早期に開始し、九十九島の豊かな海の生態系、海洋プラスチック問題、藻場再生等をテーマとする海洋保全学習(SDGs 目標 14「海の豊かさを守ろう」)の実施に向けて計画的に準備を進めることを課題とする。</li> </ul>   |
| (5) 平和・人権学習、その他(追加)    | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「平和について考えよう!」の学習として、佐世保空襲記念館見学・空襲の語り部講話を継続実施し、被爆地・長崎の一員としての平和意識を育成した(SDGs 目標 16)。</li> <li>✓ 「人権の花運動」を児童会主導で展開し、花の栽培を通じた思いやり・協力・多様性尊重の心を育んだ。その活動成果を「名切SDGsフェスティバル」で展示発表し、植え体験を来場者に提供した。</li> <li>✓ 「SDGsを広めよう!」の活動として、17の目標について児童が調べ学習を行い、ポスターを制作・校内掲示・対外発表を行った。</li> <li>✓ 認定こども園九州文化学園幼稚園との連携による「廃材を活用した如雨露づくり」「ペットボトルキャップ回収によるワクチン支援」等、保幼小連携SDGs活動にも協力・参加した。</li> </ul>  |

## (12) 管理運営と業務・経費効率化

|  |
|--|
| 取組の総括  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 運営委員会、職員会議、週2回の朝会を定期的開催し、共通認識をもって業務に当たれるようにすることで組織力の向上に努めた。加えて、運営委員会の中に経営戦略会議を位置付け、今後の運営方針等を協議していく。</li> <li>✓ 多角的な連携による総合学園としての魅力向上</li> </ul> |

| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 勤務体制の見直しと生産性向上につながる持続可能な人事戦略</li> <li>✓ 校務DX化によるリソース最適化</li> </ul> |   |
|---|---|
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 組織力の向上  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 接続部門に限らず連携することで、専門的に学ぶ機会の創出や総合学園としての魅力向上につながった。</li> <li>✓ 中期計画・事業計画策定にあたり、小学校部および中学校部でそれぞれ議論することで、本校の強みと課題を認識することができ、目指すべき学校像を明確にした。</li> </ul> |
| (2) 週休二日制の導入  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 奇数の土曜日が休みになり週休二日になったことで、休暇の待遇面で公立学校との格差をなくし、計画的に各自研修等の自己研鑽に努めることができた。また、リフレッシュにもつながり、職員一人当たりの生産性を上がり、教育の質の向上へつながった。</li> </ul>                   |
| (3) 新卒者の採用  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 経験者1人の採用をした。令和8(2026)年度は、組織の年齢構成からも新卒・若手教員1人の採用を計画し、求人活動している。</li> </ul>   |
| (4) 業務のスリム化、効率化による経費削減  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ フルクラウド統合型校務支援システム BLEND の導入により、保護者への一斉連絡や欠席連絡をシステム上で行うことで、電話対応の時間や紙の配付物の削減につながった。</li> </ul>   |

### (13) 施設・設備・システム等の環境整備

| 取組の総括  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 開校時導入している机椅子の破損・不具合は、引き続き後を絶たない。引き続き、順次安価で上武なものへ入れ替えていく。併せて、上吊り扉の開閉支障については、安全で開け閉めしやすい扉へ取り替えたいところだが、継続案件としている。</li> <li>✓ 教室数不足の観点からも、図書室棟2階の未使用教室の整備を次年度事業敏、準備を進めてきた。補助金の運用もし、汎用的な教室へとリノベートする。</li> <li>✓ 校内の桜の樹木が老木で、強風で大枝が歩道に落下したこともあり、部分的に伐採。樹木内部の腐朽が今後も進行することもあり、引き続き対応が必要。</li> <li>✓ スクールバスについて、道路状況による遅延等でバスの到着がいつかわからない不便を解消すべく、リアルタイムで運行状況を把握できるシステム「MOQUL」を令和8(2026)年度に導入することとした。</li> </ul> |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 教室ドアの取替検討  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 案件的に大きく、取替には至らなかったが、ドアのレールのズレを解消することにより対応した。</li> </ul>   |
| (2) シロアリ駆除   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 株式会社三和技研に駆除を依頼。5月に器材を設置し9月には巢の根絶に至り駆除は無事完了。5年目の1年目が終わった。</li> <li>✓ 被害にあった床・壁の手入れが今後の検討課題である。</li> </ul>                            |
| (3) 教室数の確保   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 習熟度別授業など、多様で効果的な学びを推進するための教室は今後ますます必要性が増すが、現状のキャパシティでは、限界があることが課題</li> <li>✓ 図書室棟2階の未使用教室リノベーションを次年度計画し、補助金獲得等計画的に進めている。</li> </ul> |
| (4) 桜の樹木伐採   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 歩道沿いの桜の樹木の腐朽が進んでおり、安全のために部分的に伐採した。</li> </ul>   |

### (14) 点検評価

| 取組の総括   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 保護者との更なる連携の強化を目指し、アンケート調査を実施した。また、結果を運営委員会で共有し、次年度の教育活動に生かすための手立てを検討した。</li> </ul> |   |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 学校評価  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学校評価では、小学校の保護者の総合評価は、5段階評価で3.8であった。「子どもを本校に入学させてよかった」の項目に関しては、3.9となっており、さらに回答者の76%が「5」または「4」と答えており、高い評価を得ることができた。</li> </ul> |

### (15) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

| 取組の総括  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和元(2019)年に整備した人工芝のグラウンドが、本校の各種行事の際の駐車場として利用しているため、劣化が著しくなっているため、継続案件。</li> </ul> |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) グラウンドの修繕   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 急速な物価高騰等もあり、他の案件との優先順位によりグラウンドの修繕の検討まで至らなかった。今後ますます劣化は進行するため、修繕は避けられない。次年度以降、検討必須。</li> </ul> |

### (16) 第2期(2021-2025)中期計画の総括と評価

|      |  |
|------|--|
| 教学関係 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和6(2024)年度に小学校の完成年度を迎え、小中9年間の学びを意識した接続力</li> </ul> |
|------|--|

|      |  |
|------|--|
|      | <p>リキュラム完成した。令和 7(2025)年度以降は完成したカリキュラムを実際の活動に即し、よりよいものにするため修正を重ねている。小中一貫校として、9年間の学びの連続性を意識した教科研修にも取り組んだ。コロナ禍では ICT 活用による遠隔教育にも力を入れ、遠隔地との交流授業などで児童の知見を広まることができた。また、遠隔教育では、海外の絵本作家との交流も行うなど、グローバル社会への対応を意識した活動もでき、児童の英語力向上への意識を高めることができた。令和 5(2023)年度には、「学習発表会(英語)」の形で、保護者向けに小学校 1 年生から中学校へつながっていく英語学習の姿を参観いただき、公立にはない本校独自の取組の魅力を伝える場となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 6 年生では、算数科で学習習熟度別のクラス編成を行い、これまで以上に学習内容の定着に努めた。英語科では、児童の実態に合わせ、習熟度や TT を行い、英語力向上に努めた。</li> <li>✓ 小中一貫校という強みを生かし、9 年間を見通した教科担任制を柔軟に取り入れることで、専門性を生かした授業につながり、その成果は、全国学力調査でも全国平均を上回る結果となって表れた。様々な検定にも児童は積極的に挑戦し、小学 6 年生で英検 2 級を 2 人が取得、小学 1 年生で英検 3 級を 1 人が取得するなど意欲的に学習に取り組んでいる。</li> <li>✓ 小学校の在籍者数は、完成年度を迎えた令和 7(2025)年 4 月時点で、定員 240 人に対し 167 人に留まり、充足率 69.5%であった。佐世保市内唯一の私立小学校としての認知度を上げるべく、募集担当スタッフを配置し、広報強化を図っているものの、小学校受験の文化がない上、卒業生の実績がまだ十分に無いこともあってか、直近 3 年の入学希望者数は増加の傾向にあるものの、毎年の入学希望者の動向が読みづらい状況にある。</li> <li>✓ 開校以来、他部門との連携事業は、数多く機会を得ている。生徒の多様な学びにつながり、総合学園の強み、本校の特徴にもつながっている。</li> </ul> |
| 人事関係 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教員不足は深刻で優秀な教員を獲得することは重要課題である。</li> <li>✓ 令和 7(2025)年度に週休二日制度の導入</li> </ul>  |
| 施設関係 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 元が古い建造物であるため、雨漏り、シロアリ被害など不具合箇所は絶えなかった。開校時に揃えた机椅子、扉や機器も順次不調が出ている。空調が未整備の教室、体育館については、空調設備をどのようにするのかは課題。グラウンドの整備検討、木々の老朽化など児童生徒の安全確保を第一に着手していく必要がある。</li> <li>✓ ネットワーク環境については、学校法人として、統一化が図られた。</li> </ul>   |
| 財務関係 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 安定的な児童確保には至っていない中、財務状況は極めて悪く、目標水準の必達水準である経常収支差額を漸次低減するに至っていない。不要な支出はしておらず、経費節約に努めてはいるものの、厳しい状況である。</li> </ul>   |

## 6. 認定こども園九州文化学園幼稚園

### 1) 経営理念・経営目標

|      |   |
|------|---|
| 経営理念 | 園児ひとりひとりを大切に、質の高い保育・教育を行う。                            |
| 経営目標 | 強い身体と豊かな心を持つ子どもを育てるために保育者のスキルアップに努め、保護者から選ばれる園であり続ける。 |

### 2) 1年間の総括と評価

|   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 認定こども園に多数の保育施設が移行したことで、市全体で子どもたちの受け皿が拡大したものの少子化に伴い、園児数は減少する傾向にある。安定的な園経営のために①園児の安定的確保、②園児数に見合った職員組織の編制が本園における事業計画の柱となる。</li> <li>✓ ①については新たな園児募集の方法を開拓する必要があると、未就園児がいる家庭に対して、入園案内を発信する方法が佐世保私立幼稚園協会においても新聞折り込みポスターから情報サイトに昨年度より切り替えた。本園でも昨年度末より SNS(Instagram)を活用した広報を実施し、給食の献立を毎日、日頃の園の様子は随時発信している。フォロワー数も配信スタート当初と比較すると3倍になっている。未就園児教室の案内も同 Instagram で発信しているが、Instagram から情報を得て参加する方が増加傾向にある。オープンスクール参加者のアンケート結果では、園からの案内(45%)、情報サイト(5%)、ホームページ(16%)、Instagram(18%)であった。その参加者の内訳は在園児の弟妹(21%)、初めての来園(48%)、見学済(13%)、未就園児教室(18%)であり、初めて本園に来られた家庭が参加家庭の半数であった。Instagram をきっかけにして、園ホームページの園児募集のページに導けるような流れをつくれるよう今後も工夫していきたい。令和8年4月1日現在で新入園児は昨年度より5人増であったが、総園児数は6人減となった。これは、卒園児が48人だったことと、転勤等に伴う退園者が12人あり、年間の積み上げが例年より少なかったことが要因である。</li> <li>✓ ②については職員の離職率を下げ、安定的に働ける職場として環境を整え職員編制における未確定要素を取り除くよう努力した。令和7(2025)年度の退職者は4人でその内訳は、定年退職2人、配偶者の異動による転居1人、個人的な理由1人であった。9月に実施した職員との面談時の声や園評価の意見を尊重し、園経営の当事者意識と参画意識を高めた。①②の柱を支える基盤である保護者や保育士から選択してもらえる魅力的な園であるために大前提である保育、教育の質を向上させる重要性についての理解は深まっていると職員の言動からも感じる。長崎短期大学生の実習申込が複数人、長崎短期大学より2人の新規採用者があり、園に対する評価は外部から見ても良い傾向にあると言える。</li> <li>✓ 80周年記念事業に園として関わることで、九州文化学園の一員であることの自覚を園としても職員としても強くすることができた1年であった。</li> </ul> |
|---|

### 3) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組実績

|   |            |   |
|---|------------|---|
| 1 | 成長力の確保     | ✓ 成長力の確保のためには、教職員の資質向上が不可欠である。求められている保育・教育と、本園の現状を客観的に分析し、必要に応じた改善や改革を、主体的に進めることができるリーダーおよびリーダー候補を育成するため、幼児部主任に中堅職員を抜擢した。働きやすい職場づくりに強い信念をもち、必要な改革について年間を通してやり遂げ頼られるリーダーに成長した。   |
| 2 | 教育力の向上     | ✓ 教職員個々の能力を向上させるためには研修が不可欠である。希望する研修に参加できるシステムを整理したことで研修に対する職員による園評価の結果も向上した。必要な集合研修を学期に1回は設定できるようにシフトを柔軟できるようにしたことも、これまでと比較すると大きな改革である。  |
| 3 | 約定返済の確実な履行 | ✓ 増収の割合が高くなる、園の規模(園児数等)を見出し、最適化を図るため、専門家のアドバイスを生かし、定員の内訳を改定し、1号認定：満3歳以上85→48、2号認定：満3歳以上95→132、3号認定：2歳児43→42、1歳児35→30、0歳児12→18とした。共働き世代の増加により1号認定が減少したことと、0歳児の増員が大きな変更点である。また、これまで提供していた子育て支援(スクールバス送迎、預かり保育、未就園児親子教室)や諸活動、給食など経費の効率化を図った。 |

### 4) 経営改善(健全化)に関する成果

|   |           |   |
|---|-----------|---|
| 1 | 収入の増加     | ✓ 園児募集の強化と工夫を図り、SNS(Instagram)による情報発信に手ごたえを感じている。<br>✓ 園児募集の乳児への焦点化のため、これまで入園相談で問い合わせの多かった0歳児を12人→18人に6人増員した。       |
| 2 | 支出の効率化    | ✓ 園児数の確かな推移予測に応じた職員組織の編制を心がけた。<br>✓ 園の教育力および魅力向上に直結する予算配分ができるよう、保育環境の改善と職員研修の比重を大きくした。                              |
| 3 | 人員・業務の効率化 | ✓ 行事の精選を目指し、乳児部・幼児部合同の行事にすることで、行事終了後の時間にゆとりを設け、研修や会議、または休養にあてることができた。<br>✓ ICT業務支援システム(コドモン)を6月に導入し、4ヶ月の準備期間を経て、10月 |

|   |                  |  |
|---|------------------|--|
|   |                  | より運用を開始した。運用当初は有用性を感じられる機能に絞り試行期間を経ながら職員も保護者も機能活用に順応してきた。職員の個人差はあるが実務の流れが円滑にできる者が増え、より効率的・効果的に使えるよう主体的に工夫するようになってきている。   |
| 4 | 付加価値向上と広報強化      | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ グループ内連携促進の強化と成果の発信を心がけた。特に 80 周年の記念事業として本園においてオープンスクール(一日入園)を開催し、新入園児だけでなく、在園児保護者に対しても本園の魅力を感じてもらえるよう工夫した。</li> <li>✓ SNS 活用による広報活動の強化を図ることで、フォロワーがスタート当初より 3 倍に増えている。また、未就園児教室の情報を Instagram で得るパターンが増えている。</li> </ul> |
| 5 | 第 3 期中期計画の策定に向けて | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 保護者の利便性向上と職員の業務支援を図る ICT 環境の整備は上記の通りであり、次のステップに入るため、新たな機能(連絡帳、写真共有等)を令和 8(2026)年からスタートさせるための準備を行った。</li> <li>✓ リーダー育成によってシステムが改善し、園活動が活性化することを全職員が実感したことで、次のステップ(リーダーおよび若手の育成)についての理解を図ることができた。</li> </ul>              |

## 5) 中期計画の進捗・達成状況

| 区分  | 進捗・達成状況   |
|-----|---|
| 戦略Ⅰ | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 職員連絡会や職員会議・面談等の機会を利用し、職種や正規・パートの違いを超えて互いを尊重し、協力して専念する意識を高めた。</li> <li>✓ 毎週必ず連絡会の時間を設け、毎学期・行事後には振り返りの時間を設け、園児・保護者に対してよりよい保育・教育を提供できるよう努めた。主任が議事録を随時配信したことで、伝達事項の漏れが減少している。</li> <li>✓ 九州文化学園高等学校、長崎短期大学、長崎国際大学からの教育実習やインターシップの受け入れを行った。実習生やインターシップ生に対して、全職員が後輩を育てるという視点を持ち、実践的、具体的にわかりやすく指導するとともに、自己の保育や教育の姿を見せると共に、保育者自身にとっても自己研鑽の機会と捉え自らの資質の向上に努めた。</li> <li>✓ 建学の精神を体現する茶道文化について、教職員はその理念や意義を十分に理解して尊重し、関連する行事・活動にも参加・協力した。また、園児にとっても茶道は、他の園にない情操教育の推進に寄与するものであるため、教育・保育の充実を図った。特に年長児においては長崎短期大学の協力により、「お茶ごっこ」の総まとめを保護者に参観いただくことができた。</li> </ul> |
| 戦略Ⅱ | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 認定こども園として、0 歳児から小学校就学前までの一貫保育・教育を展開するため、新指導要領に示された小学校就学までに育てたい 10 の姿勢を基本とした保育・教育の連続性のあるカリキュラムの編成に取り組むこととし、年間カリキュラムの中に茶道・英語活動・運動遊びの位置づけを図り、情操教育、英語教育、体育・健康教育の推進を図った。</li> <li>✓ 年長児については小学校入学に向け次のステップを知る機会と捉え、学園内の小学校教員による英語のレッスンを実施し、慣れ親しむ機会を設けた。</li> <li>✓ 専門講師による体育指導や外遊びを奨励し、体育・健康教育の推進を図った。</li> <li>✓ 就学に向けて安心感や期待感を持てるよう一人一人の成長を理解するよう心掛けた。</li> </ul>   |
| 戦略Ⅲ | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 園外保育の推進を図るため、地域を知ること、マナー・モラル・安全教育の充実を図った。子どもたちの安心・安全を最大限に考慮し、園児が地域行事に参加することにより町内会や知己の方々との繋がりを深めた。また、今年度は園児代表者が老人ホームに訪問し、敬老の手紙をお渡しするとともに、ホールにおいて歌を披露するなど交流を図ることができた。</li> <li>✓ 英語教育の推進として、専門講師による英語遊びや九州文化学園小学校と交流活動を行った。</li> </ul>   |
| 戦略Ⅳ | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 活動の様子をホームページ・SNS(Instagram)を通して発信した。</li> <li>✓ 安心・安全メールによる資料配付(ペーパーレス化)の完全実施化、ICT 業務支援システム(コドモン)の一斉配信や資料保管の機能を活用し、ペーパーレスを完全実施している。</li> <li>✓ Google フォームを活用したアンケート等の実施による意見収集と集計の効率化を図った。さらに、簡易的なアンケートについては ICT 業務支援システム(コドモン)の機能で実施した。</li> <li>✓ Google サイトを活用した、保護者の要望に応じた、欠席状況の広報を平日において毎日行った。</li> <li>✓ 業務支援 ICT(コドモン)の機能を段階的に活用している。</li> </ul>   |
| 戦略Ⅴ | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 園行事や日頃の活動の様子をホームページで保護者や地域に広報するとともに、Instagram によって、子どもたちの日常の様子を配信し、園のホームページとの相乗効果を図った。令和 8(2026)年度に向け ICT 業務支援システム(コドモン)の写真共有機能を活用する準備を進めた。</li> <li>✓ 認知度向上をねらいとした地域行事等への積極的な参加によるマーケティングやよさこい踊りなどの披露を行った。特に園児募集が本格化する 10、11、12 月においてマーケティングを披露する機会を得て、テレビ佐世保の取材を受けたことで本園の魅力を広報することができた。</li> </ul>   |

|          |  |
|----------|--|
|          | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 幼児部の保護者を集めた行事や懇談会等で、九州文化学園小学校職員による学校紹介・入学説明会の時間を確保し、今年度は年長園児48人中、14人が九州文化学園小学校入学を希望した。</li> </ul>   |
| 戦略VI     | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 2号認定園児の増加に伴い、預かり保育体制の強化のため、乳児部、幼児部合同の勤務体制を新たに構築し、安全でゆとりのある保育によって保育・教育について質の向上を図った。</li> <li>✓ 2号認定園児の増加に伴い、利用者減少傾向の強い送迎バスの運行方法を見直し、令和8(2026)年度からの主要道路に限定したバスコースの設定に向け、自宅前までの送迎から、ポイントを絞った送迎に変更した。3コースの変更はしないが、2便から1便に変更することにより、経費の削減を図るとともに、職員が園児に向き合う時間や教材準備の時間を生み出すことができた。</li> <li>✓ 園児数の推移分析により、適正規模への園児数、職員数の研究を行っている。</li> </ul>  |
| 学園内の連携促進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 長崎短期大学・長崎国際大学教員による本園職員への研修、保護者向けの講演会の開催を行った。</li> <li>✓ 長崎短期大学・長崎国際大学の研究・調査への協力・連携を行った。</li> <li>✓ 九州文化学園高校・長崎短期大学・長崎国際大学からの実習生の受け入れ、歯科衛生士学院などの学生を受け入れることで、園児のみならず学生にとっての学びの場とできるよう連携促進を図った。</li> <li>✓ 九州文化学園小学校と年長児・年中児の交流を進め異年齢児との交流を深めた。園の英語レッスンを九州文化学園小学校職員に依頼し、校種を超えた職員交流を図った。幼稚園または小学校におけるそれらの交流の様子を園保護者にも公開することで、学内進学に対する興味・関心を高めた。</li> <li>✓ 養成機関としての長崎短期大学と密接に連携し、職員の資質向上を図った。令和3(2021)年度に始まった長崎短期大学との連絡協議会は一時中断しているが、双方向にとってメリットとなる連携の在り方について研究・協議結果は現在においても活かされている。</li> <li>✓ 幼児部の保護者を集めた行事や懇談会等で、九州文化学園小学校職員による学校紹介・入学説明会の時間を確保した。入学説明会やイベント等においても、本園の保護者に対して、データで配信するよう努力した。</li> <li>✓ 保護者等がプレイルームに多数集まるような機会を活用して、総合学園広報用動画を活用し、本園の特色を動画によって直感的に伝えることができた。</li> </ul> |
| 付帯計画と課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 園の経営上、早朝勤務や居残り勤務など時間的制約を有することから、正規職員ならびにパート職員の確保方法について検討している。</li> <li>✓ 求人採用した職員が定着するように、その職務内容を整理し、わかりやすく伝達すると共に、働き甲斐があり、働きやすく、長く働ける職場環境づくりに全職員が当事者意識をもって勤務するよう心掛けた。</li> </ul>   |

## 6) 主要情報

### (1) 卒園者数

#### 【卒園者数】

| 区分     | 人数     |  |
|--------|--------|--|
| 1年課程修了 | 3人     |  |
| 2年課程修了 | 2人     |  |
| 3年課程修了 | 18人    |  |
| 4年課程修了 | 8人     |  |
| 5年課程修了 | 9人     |  |
| 6年課程修了 | 8人     |  |
| 総計     | 48人    |  |
| 卒園者の累計 | 6,373人 |  |

### (2) 主な行事等の開催実績

| 行事等人               | 実施日・期間等         | 備考  |
|--------------------|-----------------|---|
| 入園式                | 4月10日(木)        |   |
| 歓迎遠足(森きさら)         | 4月17日(木)        | 初めて乳児部・幼児部合同で実施                           |
| 保育参観               | 5月17日(土)        | 乳児部・幼児部合同で実施                              |
| SDGs フェスティバル(中央公園) | 5月24日(土)        | 九州文化学園小学校と合同                              |
| はみがき教室             | 6月3日(火)         | 歯科衛生士学院2年生来園                              |
| 乳児部 こっそり参観WEEK     | 7月7日(月)～11日(金)  |   |
| 年長お泊りキャンプ          | 8月21日(木)～22日(金) | 長崎県立佐世保青少年の天地                             |
| 運動会(佐世保市体育文化館)     | 10月4日(土)        | 80周年を祝う運動会として乳児部・幼児部合同・屋内で実施              |
| YOSAKOI させぼ祭り参加    | 10月17日(金)       | 年長マーチング、年中よさこい踊り                          |
| オープンスクール(一日入園)     | 10月18日(土)       | これまでのキッズフェスティバルを盛り込んで実施、一日入園には31世帯、34人が参加 |

|                          |           |                  |
|--------------------------|-----------|------------------|
| ハロウィンパーティー               | 10月31日(金) | 雨天のため園内活動        |
| かっちえてアイラブ西九州フェア参加        | 11月1日(土)  | マーチング(五番街)       |
| ふれあいコンサート                | 11月22日(土) | アルカス SASEBO 大ホール |
| 年末安全パレード参加               | 12月3日(水)  | マーチング 松浦公園～四ヶ町入口 |
| 80周年記念式典(アルカス SASEBO)    | 12月15日(月) | 式典オープニングに年長参加    |
| きらきらフェスティバル in SASEBO 参加 | 12月20日(土) | マーチング(島瀬公園)      |
| お遊戯会                     | 2月7日(土)   | 乳児部・幼児部合同プレイルーム  |
| 一日体験入園                   | 2月19日(木)  | 入園説明会および体験入園     |
| 卒園式                      | 3月14日(土)  | 第77回卒園式 48人卒園    |

## 7) 年度の事業計画の進捗・達成状況

### (1) 学年・クラス等の基本方針

| 学部学科コース・区分の名称 | 年度の基本方針の達成状況  |
|---------------|---|
| 乳児部           | ✓十分に養護の行き届いた中で情緒を安定させて心身の調和的な発達を図るとともに健康安全などの日常生活に必要な基本的な習慣や態度を養う。                                  |
| 幼児部           | ✓自由遊びと課題の活動をバランスよく取り入れたカリキュラムを編成し、指導計画のもと豊かな体験を通して小学校就学までに自立性・協同性・表現力・思考力・道徳性を培い数量や図形や文字などへの関心を高める。 |

### (2) 教育活動

| 取組の総括   |  |
|---|--|
| ✓本年度、乳児部では一人ひとりの生活リズムを大切にしながら、安心して過ごせる環境づくりに努めた。0・1歳児では保育者との安定した関係を基盤に、探索活動や感触遊びを通して主体的な関わりが広がった。2歳児では言葉の発達が進み、友だちとのやり取りや簡単なルールのある遊びが見られるようになった。幼児部では、3歳児は集団生活の基礎を身につけ、生活習慣の自立が進んだ。4歳児は協同性が高まり、行事や制作活動において自ら考えて取り組む姿が増えた。5歳児は就学に向けて意欲的に活動し、友だちと協力しながら課題に取り組む力が育まれた。年間を通じて、園全体で安全管理と健康支援を徹底し、家庭との連携を図りながら、子どもたちの成長を多面的に支える保育・教育を推進することができた。運動会やふれあいコンサート、お遊戯会などの開催によって、子どもたちの成長や0歳から5歳までの発達段階を保護者に対して間近に感じる機会を設け、園の教育力の理解を深めた。 |  |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 一人一人を大切にされた保育・保育  | ✓個に応じたきめ細かな保育・教育を実践するため、全職員で人権教育、特別支援教育にかかわる研修を深め、支援や指導にかかわる理解と実践力を高めた。  |
| (2) 特色の明確化  | ✓外部評価等を活用し、本園の特色を明確にすると共に、他の活動との関連性やバランスを考慮し、行事や活動等を精選する資料とした。   |
| (3) 一貫教育の連続性強化  | ✓教育理念等をもとに、カリキュラム等の系統性・関連性・整合性を見直し、幼児部においては自由遊びと課題の活動をバランスよく取り入れたカリキュラムを編成した。さらに、乳児部から幼児部への移行を滑らかにするよう合同による保育や幼児部教室での活動など慣らしを意識した活動を行った。 |
| (4) 施設・設備の改修  | ✓大規模、中規模、小規模改修についての年次計画の策定および、必要な備品購入についての年次計画を策定する必要性を再確認した。  |

### (3) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

| 取組の総括   |  |
|---|--|
| ✓充足率は令和7(2025)年3月1日現在で、利用定員総数84%、1号認定56%。2号認定126%、3号認定67%で、さらに、1号認定の利用定員が減っている。安定的に園児を確保できる定員構成・職員構成となるよう努めた。今後の安定的な園児確保のため、利用定員総数は変更せず、1号認定の利用定員を減じ、2号、3号認定定員を増員して3年経過したが、さらに利用定員の内訳を次のように変更した。(定員270人、1号認定満3歳以上:85人→48人、2号認定満3歳以上95人→132人、3号認定2歳児43人→42人、1歳児35人→30人、0歳児12人→18人) 利用定員総数については、保育室増築に伴い令和10(2028)年度までできないので、内訳については予測に応じて今後も変更する余地がある。 |  |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 新設した保育室の活用  | ✓年少時に新たに入園するケースの減少のため、乳児の段階で園児を確保し、上の学年に進級させることで、安定的な園児確保を図る方向性の変更はない。そこで乳児部においては満年齢によって進級させ、定員の少ない0歳児の入園枠を随時空けて入園希望に対応する方法も実施可能であるが、今年度は上記のように0歳児の定員を6人増員した。これまで在園児の兄弟姉妹で定員を満たし、第一子の入園が0歳児においては難しい状況であった。兄弟姉妹の今後の入園を期待できるよう第一子の0歳児入園の可能性を広げた。 |

#### (4) 研究活動

| 取組の総括   |   |
|---|---|
| <p>✓ 経営理念の達成のためには、質の高い保育・教育が不可欠であり、経営目標の達成のためには保育者のスキルアップを持続させ、保護者から選ばれる園であり続ける必要がある。研修は保護者ならびに地域社会において求められる認定こども園であるために、今日的課題についての研究と、質の高い保育・教育を提供するために、職員が段階的に成長できるキャリアアップにかかわる研修内容およびプログラムの整理を行っている。県、市、幼児教育センター、幼稚園協会等から案内のある研修を随時紹介し、職員の希望を優先している。実践的な内容としてはマーチングに関わるものや、特別支援教育に関連する割合が高い。外部からの新しい情報は刺激となり、園全体の教育力を底上げしている。</p> <p>✓ 他部門からの研究・調査についての協力要請については、学園内の連携促進のため、できるだけ協力を果たした。</p> |   |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 教育・保育の基本方針についての理解   | ✓ 「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」に立ち返り、教育・保育の基本方針をこれまでの教育実践をもとに読み返し、抜粋して園経営案に掲載することで、基本方針についての理解を促した。                                       |
| (2) 各種ガイドライン解説についての理解   | ✓ 保育に関する基本的なガイドライン解説に関する研修を行い、自らの保育・教育を振り返り、解釈や理解の相違について気づき、改善する機会を設けた。他県における不適切保育に関する記事も随時紹介し、他山の石とした。                           |
| (3) これからの保育についての理解  | ✓ こども家庭庁の創設や、少子化対策など、新たな保育の方向性や、保育施設にもとめられている姿や役割を理解するよう努めた。  |
| (4) 配慮を必要とする子どもと保護者の支援についての理解   | ✓ 特別な支援を必要とする子どもや保護者への対応方法についての理解を深めるよう佐世保市発達センター主催の研修会に参加した。また、児童発達支援サービスや特別支援学校職員との情報交換を行うことで、配慮を必要とする子どもたちの支援について理解を深めるよう努力した。 |

#### (5) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

| 取組の総括   |   |
|---|---|
| <p>✓ 九州文化学園小学校への内部進学促進については、これまでの実績の積み重ねと、広報を強化するタイミングの確立によって効果的に保護者へ浸透し、今年度は年長園児 48 人中、14 人が入学を希望し、12 人が就学した。卒園生の多くが在籍する小学校として親しみも増している。これからも九州文化学園小学校との交流の様子を発信したり、実際に保護者に参観できる機会を設定したりしながら、九州文化学園小学校の特色や魅力を知らせ、小学校の施設・設備、教育活動の様子を見学いただくことで、小学校進学時の選択肢となるよう内部進学促進に向けて、小学校と連携強化を図りたい。</p> <p>✓ また、預かり保育のニーズが年々高まる状況への対応のため次の 3 点について留意した。①乳児部職員を含めた新たな職員配置を再構築する。②預かり専任となる正規雇用職員を担当者として配置し、子どもたちにとって安心、安全な環境づくりを進めさせる。③遊具や玩具など年次経過を策定しながら整備、安心・安全な環境を整備する。</p> |   |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 九州文化学園小学校への内部進学促進   | ✓ 九州文化学園小学校へ通学しているきょうだい園児以外の保護者に対して、進学する小学校とし選択肢に入るよう、九州文化学園小学校の特色や情報に触れる機会を小学校と連携しながら効果的に設定した。 |
| (2) 預かり専任担当者の確保   | ✓ 預かり専任となる正規雇用職員を副主幹として配置し、子どもたちにとって安心、安全に過ごせる環境づくりを推進させた。                                      |
| (3) 職員配置の再構築  | ✓ 幼児部職員だけによるシフトを改め、乳児部職員も含めたシフトを再構築することで、柔軟に預かり園児の増員に対応した。                                      |
| (4) 遊具や雁木などの整備  | ✓ 遊具や玩具の整備について年次計画を策定し、計画的に進めることができた。   |

#### (6) 国際交流・留学生支援活動

| 取組の総括   |   |
|---|---|
| <p>✓ 外国籍園児の受け入れはこれまでの経験を生かし園児との面談に加えて、連絡等の徹底を図るため、通訳者の契約、日本の携帯電話契約、G.I.BILL.PAY SERVICES INC.との契約、および、ベース関係者においてはコマンドの申告を課した上で継続している。円安の影響と日本文化への関心から外国籍園児の入園希望は一定数あり、前述の条件を満たす場合は受け入れている。緊急的な連絡においては携帯電話の翻訳機能をお互いに利用し、要点を絞った情報交換を行っている。ICT 支援システム(コドモン)による一斉連絡においてはアプリの機能として翻訳機能がある。連絡事項を几帳面に確認するか否かについては、文化的、習慣的な違いが若干あり得る。</p> |   |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題                             |
| (1) 外国籍園児の受け入れ  | ✓ 複数年在籍する可能性の高い園児を優先させながら外国籍園児を受け入れている。 |

#### (7) 学生募集・広報活動

| 取組の総括  |  |
|--|--|
| <p>✓ 定員 270 人に対する充足率は令和 4(2022)年度 2 月において 84%、令和 5(2023)年度のスタート時は 76%、令和</p> |  |

| <p>6(2024)年度のスタート時は81%、3月で84%である。そして、令和7(2025)年度のスタート時は79%3月で78%、令和8(2026)年度のスタート時は77%であった。年度全期間を通した募集活動継続によって85%を目指している。</p> <p>✓ 認知度向上のため、メディア露出の増加を図り、YOSAKOI させば祭り、かっちえてアイラブ西九州フェア(物産展)、年末安全パレード、きらきらフェスティバルなど10月～12月に開催された全市的な催しに積極的に参加し、マーチング等を披露することで本園の特色を発信した。これまでの1日体験入園を学園80周年オープンスクールとして在園児保護者に対してもキッズフェスティバルを盛り込みながら総合学園の一員である本園の活気や魅力に触れていただいた。さらに、未就園児教室の内容をリニューアルし、音楽や健康など職員の持ち味を生かした内容としている。園ホームページとSNS(Instagram)の充実を図り、日頃の園の様子を発信する。</p> |  |
|---|--|
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 報道依頼  | ✓ 年度初めに、テレビ佐世保に対して園の年間行事予定表を添付した報道依頼を行い、積極的に取材を受け入れた。10月4日開催の運動会、2月7日開催のお遊戯会や上記の10月～12月のパレード等は佐世保テレビの取材があった。   |
| (2) 1日入園体験の内容充実   | ✓ これまで述べているように、例年開催している園行事キッズフェスティバルを盛り込み、学園の80周年事業オープンスクールとして在園児保護者も楽しめるようイベント性を高めて開催した。本園の特色や魅力、総合学園としての活気を感じてもらえるよう、プレイルームにおいてはステージ上での発表、園庭においては働く車の展示など賑やかな催しとした。                              |
| (3) 未就園児体験教室・園庭解放・教育相談の充実とPR  | ✓ 未就園児体験活動(こどもの城)の内容をリニューアルし、音楽や健康づくりなど、担当職員の得意とする分野で子どもたちが楽しく過ごせる時間や、保護者にとって育児のヒントを得る機会を設定することで、未就園児家庭へ本園の魅力や環境を周知させる機会とした。   |
| (4) 園ホームページおよび園便り等による園活動の広報と園児募集の周知   | ✓ 入園を検討する家庭に対しても必要な情報が効果的に伝わるよう、園ホームページの内容を充実させるとともに、SNS(Instagram)を通して日頃の子どもの様子を知らせた。在園児保護者に対しては、園の魅力や特色ある活動によって子どもたちが成長する姿を園日よりSNS(Instagram)を通して伝え、満足度を高めた。さらに、園児募集協力依頼(知り合いへの広報、募集ポスター掲示)を行った。 |
| (5) 地域等への広報活動   | ✓ マーチング等、地域行事や催しに積極的に参加し、園児の生き生きとした姿を通して、本園の特色や魅力をPRした。  |
| (6) 募集活動の推進   | ✓ 年間を通した募集活動(幼稚園バス、園ホームページ)に加えて、園児募集時期においては園ホームページ、SNS(Instagram)を活用して広く広報活動を行った。  |

## (8) 教職員の人材開発

| 取組の総括  |   |
|--|---|
| <p>✓ 保育・教育に携わる者として大切なのが専門性と資質および人権意識の向上である。選ばれる魅力的な園であるための基盤は、園児一人一人を大切に、質の高い保育、教育を継続することである。その保育・教育の直接的な担い手となる教職員の資質向上は園経営において最重要課題である。保育・教育に携わる者として専門性と資質、人間性の向上に努めさせるため、毎年度、全国保育士会作成の「人権擁護のためのセルフチェックリスト」に取り組みさせている。さらに、経験年数やその役割等キャリアに応じた研修に取り組めるよう計画的な受講を推奨している。保育施設の特性として集合研修が難しい勤務形態であるが、学期に1回は集合研修や会議を実施できるよう改善が進んでいる。また、令和5(2023)年度より実施している全職員との個人面談を継続して行い、個に応じた支援を行うとともに、退職等の意向を早めに知り、園内人事の計画に役立てている。</p> |   |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 園内研修の実践  | ✓ 乳児部、幼児部それぞれにおいて、指導の研究および公開研究保育を行い指導方法の研究を深めた。さらに、教育実習においては対象の生徒、学生に対して実践的、具体的な指導や助言を与える立場として自己研鑽に努めさせた。   |
| (2) 園外研修への参加   | ✓ 市幼稚園協会主催の保育・教育に関わる研修や、県・市幼児教育センター主催の保幼小連携に関わる研修の機会を活用し、外部から本園を捉えたり、他園、他校種と比較したりすることにより、保育、教育における視野を広げると共に研究を深めさせた。                                  |
| (3) 個人研修の推奨  | ✓ キャリアや役割に応じて必要とする研修に自ら取り組むことを奨励している。さらに、人権擁護セルフチェックなど、教職員として求められる道徳性や人間性など資質向上を図った。さらに今日的課題に対して敏感に反応し、関連する資料を読んだり、調べたりするなど学び続ける教職員としての姿勢を具現化するよう促した。 |
| (4) 他施設の訪問   | ✓ 本園に新規採用職員として採用されて勤務している職員が10人以上在籍している。判断の基準が本園での経験が中心となるため、他施設を訪問できる機会を逃さず、他施設の保育・教育環境や内容について知ることで、発想の幅を広げさせるよう留意した。                                |
| (5) 個人面談の継続  | ✓ 意向調書をもとに、全職員と個人面談を行い、業務に対する悩みや不安、やりがい   |

|              |   |
|--------------|---|
|              | 等を知るとともに、将来的に必要なスキルや資質等について話し合い適切な支援を行った。   |
| (6) 茶道への取り組み | ✓ 年中、年長園児については、長崎短期大学から講師を派遣いただき、「お茶ごっこ」と称して、茶道の基礎・基本に触れ、学ぶことを楽しむ活動を設定している。総まとめの時間は、長崎短期大学および九州文化学園小学校の茶室にて活動し、その様子を保護者に参観いただくことができた。 |

### (9) ステークホルダーとの連携強化

| 取組の総括   |   |
|---|---|
| ✓ 地域や小学校、保護者の園活動への理解と支援の強化を図るため、地域の催し物に積極的に参加し、子どもたちの成長や活躍を披露する機会とした。保幼小連携活動においては九州文化学園小学校および大久保小学校と連携し異年齢交流を深めると共に、進学に対する不安を払拭し、小学校生活への期待を増大させた。父母の会との連携強化によって、園活動への理解と支援を深めることで、園経営を活性化させるよう努力した。 |   |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 同窓会(卒業生)との連携  | ✓ 現段階では卒園生にかかわる同窓会等の組織は存在しないため、その必要性やあり方等について検討した。  |
| (2) 地域行事への参加  | ✓ 清水地区公民館祭りでの作品掲示や YOSAKOI 佐世保祭り等への参加によって、子どもたちの成長や活躍を披露し、園の活動を広報する機会とした。                           |
| (3) 保幼小連携活動   | ✓ 九州文化学園小学校および佐世保私立大久保小学校との保幼小連携活動によって、異年齢交流を深めると共に、小学校の生活環境や活動などを知ることによって、進学への不安を払拭し、入学への期待を増大させた。 |
| (4) 父母の会との連携強化  | ✓ 父母の会との連携を強化することで、園活動に対する理解と支援を深め、保育・教育活動の充実を図ることで、園経営を活性化させた。                                     |

### (10) 学園内の連携促進

| 取組の総括   |  |
|---|--|
| ✓ 学園内連携は本園の大きな特色である。学園内との部門間連携の強化を図ることで、本園の行事や活動を充実させ、保育、教育の質を向上させる本園の特色と位置付けている。新入園児募集時においても、本園の特色の1つとして総合学園の一員であり、特に長崎短期大学、歯科衛生士学院、九州文化学園高等学校看護科、九州文化学園小学校等との連携・協力は本園独自の活動であり、他園との差別化を図ることができる。 |  |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 長崎国際大学との連携  | ✓ 園児への食育指導および YOSAKOI させぼ祭りにおいては、園児引率補助等の学生によるボランティア活動があった。      |
| (2) 長崎短期大学との連携  | ✓ 共通テーマによる研修と、保育、教育に関わる指導、助言および学生によるボランティア活動と教育実習の受け入れを行った。      |
| (3) 歯科衛生士学院との連携   | ✓ 2年生による園児に対する歯磨き指導をしていただいた。                                     |
| (4) 九州文化学園高等学校との連携  | ✓ 例年通り、教育実習生徒を受け入れた。芋ほりなどにおいては、貴重なマンパワーとして収穫の手伝いを率先して行っていただいた。   |
| (5) 九州文化学園小学校との連携   | ✓ 英語教育および異年齢児とのふれあい交流活動および保幼小連携活動を実施いただいた。本園からの内部進学促進について連携を深めた。 |
| (6) 長崎短期大学保育学科との連絡協議会   | ✓ 今年度の開催はなかった。   |
| (7) 学園内募集担当者会議  | ✓ 今年度の開催はなかった。   |
| (8) SDGs に関する連絡協議会  | ✓ 連絡協議会が実施された。   |

### (11) SDGs の推進

| 取組の総括   |   |
|---|---|
| ✓ 九州文化学園グループ全体の SDGs に取り組む姿勢や考え方の認知向上を図った。学園としての構想をもとにしながら、乳児、幼児に対しても理解することができ、保護者と連携しながら日常的に親子でも取り組める SDGs を推進した。日常的に実施しているペットボトルキャップの回収は保護者にも定着した活動となっている。さらに、九州文化学園小学校が行っている古着リサイクルにも園として協力した。 |   |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 名切 SDGs フェスティバル   | ✓ 九州文化学園小学校と連携し、栽培活動に利用できる廃材を活用した如雨露を作成し、緑を増やし、緑を大切に活動に興味をもっていただく機会とした。当日は雨天のため参加者は少なかったが、他部門の取組みを身近に感じ、理解することができた。 |
| (2) 乳児、幼児にも取り組める SDGs   | ✓ 乳児、幼児にも取り組むことが可能で、取り組む意義があり、その目的が感覚的に理解できる内容を精選し、保護者と連携しながら日常的に取り組んでいる。   |

|                  |  |
|------------------|--|
| (3)九州文化学園小学校との連携 | ✓九州文化学園小学校が行っている古着リサイクルの取組みを本園として協力し、本園の保護者に対して、古着の回収のお願いを行った。 |
|------------------|--|

## (12) 管理運営と業務・経費効率化

| 取組の総括  |  |
|--|--|
| ✓教育理念や教育目標および、具現化の道筋の明確化による共通理解、共通実践の達成を図った。強い身体と豊かな心を持つ子どもを育てるために保育者のスキルアップに努め、保護者から選ばれる園であり続けるため、教育理念や教育目標および、具現化の道筋を明確に示しながら、共通理解、共通実践を行った。 |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) PDCA 推進計画  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓園評価の分析結果によって「成果」と「課題」を明確化し、実践的に効果的な課題解決の具体方策を設定し、具現化の道筋を示しながら徹底を図るよう努力した。</li> <li>✓第3者評価結果を保護者に公表し、園経営における説明責任を果たすとともに、子どもたちの健やかな成長のため連携を強化する共同体として、理解、協力を得るよう努力した。</li> <li>✓職員組織については副主幹2人を設定し、補佐体制の強化・改善を目指した。副主幹の存在によってシフト調整がより柔軟になり、働きやすい職場づくりに必要なシステムが整理できた。</li> </ul> |
| (2) 関係機関等との連携  | ✓園経営にかかわる法令等を順守し、関係機関からの指導や支援を経営に生かすため日頃より情報交換を密に行う関係性を構築するよう努めた。  |
| (3) 健全な財務基盤の構築   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓専門家等の調査やアドバイスを活用しながら、計画的・効率的な経費執行による支出管理を遂行するよう努めた。</li> <li>✓令和7(2025)年度教育支援体制整備事業費補助金(緊急環境整備・ICT化支援)の有効活用を図った。</li> </ul>  |
| (4) 労務管理の改善  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓働き甲斐があり、働きやすい職場にするため、職員による自己評価の結果を分析し、職場環境にかかわる課題を整理し、計画的に改善のための手立てを実践した。各自が組織の一員として園経営に参画できるよう個々の意見や考えを園経営に生かしていくよう努めた。</li> <li>✓預かり園児の増加に伴い、乳児部、幼児部合同の職員配置を構築し、試行しながら改善を重ね、保育・教育の質の向上を図った。</li> </ul>   |

## (13) 施設・設備・システム等の環境整備

| 取組の総括  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓安全な園生活や業務効率化のできる環境の整備を常に意識した。平成18(2006)年に現在地に新築移転し19年経過した。施設設備の老朽化、経年劣化が進み、空調設備については5年計画で新しい機器と入れ替えを行い子どもたちが園生活をおくる教室については令和8(2026)年度に入れ替えが終了する予定である。その他外壁や屋上、デッキなどについては多額の費用が必要となるため、大規模な補修・改修について年次計画を策定する必要があるが実現していない。</li> <li>✓安全な園生活のために、送迎バス車内の幼児所在の見落としを防止するため改定した安全マニュアルを年度毎に見直し、保護者と共有している。安全管理マニュアルの理解を深めるために、行政作成の資料を活用し、研修を実施している。救急救命法については動画による研修を行っていたが、行政監査時に、救急救命法講習会への全職員参加を推奨されたため、令和8(2026)年度からの実践を計画した。</li> <li>✓職員の業務を支援するICTシステム(コドモン)を6月に導入し、10月から運用した。運用スタート期は簡単でありながら有用感を得やすい機能(一斉連絡、アンケート等)に絞った。令和8(2026)年度から次のステップに入る準備を今年度中に行うことができた。</li> </ul> |   |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 施設設備の経年劣化対応  | ✓外壁の塗り替え、外壁の亀裂、屋上の防水塗装、木製デッキ補修などの年次計画の策定と長寿命化計画の策定が必要であるが実現していない。施設の保守・管理等についてリードする部門が必要であると感じる。  |
| (2) 送迎バスの安全  | ✓バス送迎安全マニュアルおよびコースの見直しを行った。送迎バスは3コース、1便に減便し、レンタルしているバスを1台返却した。令和8(2026)年度から2コース、1便にとさらにシンプルにする計画を行った。   |
| (3) 安全にかかわる研修  | ✓行政作成の資料を活用し、安全管理マニュアルの理解を深めるよう努めた。特に水遊び時においては、監視役を置くことが徹底できた。避難訓練に関しては毎月1回計画通り実施することができた。  |
| (4) 園内 LAN 構築とネットワーク   | ✓職員の業務の効率化とセキュリティ対策向上のため令和6年3月に園内 LAN を構築した。令和7(2025)年度に職員の業務を支援する ICT システム(コドモン)を6月に導入し、4ヶ月の準備期間を経て、10月から運用をスタートさせ大きな混乱もなく、効果的、効率的な運用を行うことができた。職員も保護者もアプリや各機能の使用に慣れたので、令和8(2026)年度から新しい機能(連絡帳、写真共有等)を運用す |

|  |  |
|--|--|
|  | <p>る次のステージに入る準備を行った。システム導入時はICT機器の操作に苦手意識をもつ職員もいたが、研修会や具体的なマニュアルの提供によって一定数のレベルに達している。さらに効率的、効果的な活用ができないか主体的に研究する職員も増えている。例えば園児の登園管理(QRコードで保護者が打刻)によって、出席簿作成ができるため業務の効率化を実感することができた。また、バスの位置情報をアプリで知ることができ、保護者のストレス減に繋がっている。欠席、遅刻等をアプリで連絡できるため、朝の電話連絡が9割減少した。さらに、アンケート機能を活用することで、紙媒体によるアンケートと比較すると集計作業も含めて、業務量が9割以上削減できている。</p> |
|--|--|

#### (14) 点検評価

| 取組の総括  |  |
|--|--|
| <p>✓ 職員の当事者意識の向上による園経営への参画意識を高める努力を継続した。さらに、保護者の園の活動への理解と協力の獲得にも留意した。園評価(職員による自己評価、全保護者を対象とした保護者評価、学校関係者による外部関係者評価)を継続し、経年による評価結果の比較を行っている。職員による自己評価と保護者評価の結果から職員個々の視点で「成果」と「課題」を整理させることで、評価結果を多面的に分析し、次年度に生かすと共に、当事者意識を高め、園経営に参画させるよう工夫している。これらの評価を総合的に分析し、園経営方針において重点課題として明記し、一点突破により取り組みの効果を上げるよう工夫した。成功体験を実感させることで、PDCAサイクルによる取り組みの意義やよさを全職員に理解させた。評価結果については保護者へ周知し、園の活動について理解と協力を得るよう努めた。</p> |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 職員による自己評価  | <p>✓ 経年による変化を知るために、同項目について全職員による自己評価を実施している。さらに、自己評価および保護者評価の結果から、各立場や役割によって「成果」と「課題」の絞り込みを行い、次年度の方向付けとなる資料とした。</p>                      |
| (2) 全保護者を対象とした保護者評価  | <p>✓ 園に対する期待や願いを含め、全家庭を対象にした保護者評価の実施によって、普段聞けない保護者の声や考えを知る機会とした。さらに、その評価結果を分析することにより園の魅力と課題を明確にした。</p>                                   |
| (3) 外部関係者評価  | <p>✓ 自己評価の結果と保護者評価の結果を受け、各項目に対する改善策について、外部関係者評価(第三者評価)を実施、評価や改善策に対するアドバイスをいただく機会とした。また、果を次年度の方向付けとなる重点課題として整理し、園経営案</p> <p>✓ に反映させた。</p> |

#### (15) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

| 取組の総括   |   |
|---|---|
| <p>✓ 1号認定園児数の減少に伴い送迎バス利用者が減少し、経費(燃料、保険、補修、リース費用、人件費等)の高騰から収支に対する影響が大きくなっている。将来的なバス運行の在り方について運営費の増加と、利用者の利便性を考慮しながら方向性を整理する必要があるが、具体的な協議はできていない。</p> |   |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) バス運行の在り方検討  | <p>✓ バス利用者減少にともなうバス運行のスリム化(コース削減、便数削減)および、バス送迎をしないことも含め、将来的なバス運行の在り方と方向性について整理する必要があるが、まだ、整理できていない。</p> |

#### (16) 第2期(2021-2025)中期計画の総括と評価

|             |   |
|-------------|---|
| <p>教学関係</p> | <p>✓ 「子どもたちが安全で楽しく、充実した園生活ができ、一人一人が大切にされる園」を基本理念である。全ての教職員の自発性・英知を結集して、子どもたちの豊かな育ちを保障するとともに、保護者・地域社会から信頼を得られる園を目指してきた。</p> <p>✓ まず、環境構成の見直しにより、子どもが自ら選び、試し、深める活動が増え、特に遊びを中心とした探究的な学びが定着した。異年齢交流の場を計画的に設けたことで、年長児の思いやりやリーダーシップが育ち、年少児の安心感や模倣を通した学びも顕著に見られた。</p> <p>✓ また、保育者の研修体制を強化し、記録・振り返りの質が向上したことで、子どもの姿をよりの確に捉えた支援が可能となった。保護者との連携についても、ICTを活用した情報共有や個別面談の充実により、家庭と園が共に子どもの育ちを支える体制が整った。</p> <p>✓ 一方で、特別な配慮を要する子どもへの支援体制や、地域資源との連携については、さらなる改善の余地が残る。今後は専門機関との協働を深め、園内の支援チームの機能強化を図る必要がある。</p> <p>✓ 5年間の総括としてこれらの取り組みは教学の質向上に大きく寄与し、子ども一人一人の育ちを支える基盤が確立された。次期計画では、これまでの成果を踏まえつつ、個別最適な支援と地域との共生をより一層推進していくことが求められる。</p> |
|-------------|---|

|             |  |
|-------------|--|
| <p>人事関係</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 職員組織の安定を図るために、「働き甲斐があり、働きやすい職場づくり」を経営方針に盛り込み離職率を下げることを目標としてきた。経営目標である「選ばれる園であり続ける」を達成するためには、経営理念「いい保育・教育」の実践が不可欠である。抽象的な表現ではあるが「いい保育・教育」を実現する具体方策の1つが冒頭に掲げた目標である。</li> <li>✓ 職員の適性や能力を理解し、意向を尊重しながら適材適所に配置するよう心がけ、それぞれに役割を担当させながら職員の資質向上を図ることができた。令和7(2025)年度においては乳児部・幼児部それぞれに副主幹を配置し、職員の指導や支援を担当させた。担任の代替を任せられる豊かな経験とスキルを有していたため、柔軟なシフト調整の基盤となり、これまで実現できなかったシフト上の改革が可能となった。職員の努力に対する評価を職員に還元しながら個々の自己肯定感を高めた。実際に、外部からの園に対する評価は高まった。</li> </ul>                           |
| <p>施設関係</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 上町に移転し、平成18(2006)年6月に新しい施設が創設され19年が経過した。施設面では、外壁、木製デッキ、屋上など経年劣化があり、長寿命化のため改修工事等が必要であるが、具体的な計画は策定されていない。内部の建具等についても躯体に若干の歪みがあり、開閉等がスムーズではない箇所もある。</li> <li>✓ 設備等についても同様に19年経過しているため、電器機器は入れ替えの時期を迎え、空調については子どもの部屋については5年計画で改修を行い、令和8(2026)年度に目途が立つ計画である。その他の電器製品についても随時入れ替えが必要であり給食室厨房設備の一部も改修を行った。</li> <li>✓ 雨漏り等、緊急的な被害はないが、子どもたちが安全に生活できる環境を維持するためには大、中、小規模の改修計画を策定する必要があり、それらを専門的にリードする担当課(者)が必要である。トイレや温水器なども対処的な補修で対応しているが、稼働年数を考慮すると同じタイミングで故障するリスクは高い。</li> </ul> |
| <p>財務関係</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 認定こども園は園児数や組織、運営方法等による施設型給付によって運営されている。園児数は昨年度と比較してほぼ横ばいである。定められている配置数に応じて職員配置をするが、シフト調整上と産休等の未確定要素を考慮してある程度の余力が必要である。また、保育士不足が続き、臨時的な求人に対して殆ど反応がない現状から、園児数に応じて職員数を調整することは現実的には難しい。さらに、個別な支援を必要とする園児が増加傾向にあり、加配職員は常に必要である。</li> <li>✓ 急激な物価高騰の影響から給食運営費や送迎バス運営は財政を圧迫している状況ではあるが、年度末に物価高騰にかかわる補助金が支給された。しかし当初から確定している措置ではないため、予算化はできない。給食費等についての校納金については、保護者の理解を得ながら値上げを実施している。今後も必要に応じた段階的な値上げについて検討する必要がある。</li> <li>✓ 今後の物価高騰については園経営上、楽観視できない状況である。</li> </ul>         |

## 7.九州文化学園調理師専門学校

### 1) 経営理念・経営目標

|      |   |
|------|---|
| 経営理念 | 高度な調理技術の習得と社会に貢献できる調理師の育成   |
| 経営目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自主・自律を重んじ、積極的に意欲のある学生の育成</li> <li>● 地域・社会に貢献できる専門性の高い調理師の育成</li> </ul> |

### 2) 1年間の総括と評価

|   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和7(2025)年度は「輝く未来を切り拓くために学ぶ集団」というテーマを設けて学校経営を行った。具体的には「常に学生のプラスになることを企画・立案し実行」「積極的な情報発信」「危機管理」を重視した。</li> <li>✓ 高校生料理コンテスト開催、小学生クッキング教室など、今年度も継続して実施した。学生だけでなく職員も成長できる機会となった。</li> <li>✓ 学生募集に関しては、21人の志願者があり、昨年度の水準を維持した。留学生は1人で、長崎日本語学院の卒業生である。社会人は2人入学した。九州文化学園高校からの志願者は1人だった。</li> </ul> |
|---|

### 3) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組実績

|   |            |  |
|---|------------|--|
| 1 | 成長力の確保     | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ インターンシップ先として、県外の国際的なホテルチェーンを開拓した。学生レストランの充実が進み、予約定員を設けるに至った。</li> <li>✓ 社会・時代・学生のニーズを組み入れ、調理に関する多くの知識・技術を学び、人間力の向上を目指した魅力的なカリキュラムの検討を継続した。</li> </ul> |
| 2 | 教育力の向上     | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ オンラインを含めた各種研修会の開催情報を収集し、可能な限り参加した。</li> <li>✓ 講師を招いた校内研修会を開催できなかった。</li> <li>✓ 人間力向上に向けた学生自治活動を積極的に実施できる体制は作れなかった</li> </ul>                          |
| 3 | 約定返済の確実な履行 | ✓ 情報発信 ホームページの更新 6回 Instagramの更新 158回  |

### 4) 経営改善(健全化)に関する成果

|   |             |   |
|---|-------------|---|
| 1 | 収入の増加       | ✓ 令和9(2027)年度に向け、授業料・学納金の見直しを行った  |
| 2 | 支出の効率化      | ✓ 継続的に節約に努めているが、施設老朽化による支出増は防げなかった。   |
| 3 | 人員・業務の効率化   | ✓ 令和8(2026)年度に向け、求人票データのデジタル化を無償で外部を進めた。  |
| 4 | 付加価値向上と広報強化 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 料理教室や料理コンテストの継続とマスコミ活用。</li> <li>✓ ホームページやInstagramを見てもらうための動画やポスターの作成。</li> </ul> |

### 5) 中期計画の進捗・達成状況

| 区分       | 進捗・達成状況   |
|----------|---|
| 戦略Ⅰ      | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 実習講師等の人材発掘をしている</li> <li>✓ 学校全体で礼儀作法が身についた即戦力となる人材の育成に努めている</li> </ul>                                     |
| 戦略Ⅱ      | ✓ 学生レストランに対する学生の意識も向上している   |
| 戦略Ⅲ      | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 高校生料理コンテストと小学生料理教室の開催</li> <li>✓ 地域の行事やクッキングコンテストへの参加</li> <li>✓ 社会福祉協議会主催の料理教室や高校への民間講師派遣事業に協力</li> </ul> |
| 戦略Ⅳ      | ✓ 安全点検と点検表記入の徹底 昨年は給湯器取り換えと製菓室コールドテーブル取替工事  |
| 戦略Ⅴ      | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ホームページ・Instagram等の積極的な情報発信</li> <li>✓ 路線バスのアナウンス広告</li> <li>✓ 日本語学院との情報共有と留学生ガイド活用</li> </ul>              |
| 戦略Ⅵ      | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 補助支援制度の見直しによる支出減少</li> <li>✓ 修学支援制度と学生サポートの適切な処理</li> </ul>  |
| 学園内の連携促進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 他部門からの講師派遣による充実したカリキュラム</li> <li>✓ 他部門の行事や調査への積極的な協力</li> <li>✓ 内部進学2人(高校1人,日本語学院1人)は大変ありがたい</li> </ul>    |
| 付帯計画と課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 中期計画を反映した事業計画の作成</li> <li>✓ 学校関係者評価や始めの会納の会等での意見を取り入れた学校経営を実施</li> </ul>                                   |

### 6) 主要情報

#### (1) 卒業者数、資格等に関する実績

##### 【卒業者数】

| 課程人      | 人数     | 備考          |
|----------|--------|-------------|
| 衛生関係専門課程 | 16人    |             |
| 総計       | 16人    |             |
| 卒業者の累計   | 2,024人 | ※ 専修学校時代も含む |

## 【国家資格・免許等の実績】

| 資格・免許等人      | 取得者 | 備考              |
|--------------|-----|-----------------|
| 調理師          | 16人 | 2年生6人修了(100%)   |
| 介護食士3級       | 20人 | 1年生20人受検(100%)  |
| 色彩コーディネーター3級 | 6人  | 1・2年生19人受検(32%) |
| サービス技能検定3級   | 9人  | 2年生15人受検(60%)   |
| サービス技能検定2級   | 6人  | 2年生17人受検(35%)   |
| カフェクリエイター    | 16人 | 2年生16人受検(100%)  |
| 食品技術管理専門士    | 14人 | 2年生1人受検(100%)   |

## (2) 主な行事等の開催実績

| 行事等名                        | 実施日・期間等         | 備考                     |
|-----------------------------|-----------------|------------------------|
| 始業式                         | 4月3日(木)         |                        |
| 入学式                         | 4月7日(月)         |                        |
| オリエンテーション                   | 4月7日(月)         | 理事長講話(入学式終了後)          |
| オリエンテーション                   | 4月8日(火)         | 校長講話等                  |
| 学生レストラン「メランジェ」①             | 4月19日(土)        | 78人                    |
| SDGs フェスティバル                | 5月24日(土)        | 140人                   |
| 第1回オープンキャンパス                | 6月15日(日)        | 21人(高校生・社会人11人、保護者10人) |
| 2回オープンキャンパス                 | 7月6日(日)         | 9人(高校生・社会人5人、保護者4人)    |
| 学生レストラン「メランジェ」③             | 7月19日(土)        | 79人                    |
| 第3回オープンキャンパス                | 7月27日(日)        | 20人(高校生・社会人11人、保護者9人)  |
| 第2回高校生料理コンテスト               | 8月2日(土)         | 9人参加                   |
| 第4回オープンキャンパス                | 8月23日(土)        | 11人(高校生・社会人7人、保護者4人)   |
| 夏休み小学生料理教室                  | 8月19日(火)        | 13人参加                  |
| 80周年記念NJCマルシェ×メランジェ(長崎短大主催) | 8月30日(土)        |                        |
| 第5回オープンキャンパス                | 9月20日(土)        | 10人(高校生・社会人7人、保護者3人)   |
| 松浦魚祭                        | 9月27日(土)        |                        |
| 80周年記念学園祭                   | 10月5日(日)        | 弁当・スイーツ                |
| 第6回オープンキャンパス                | 10月18日(土)       | 5人(高校生・社会人3人、保護者2人)    |
| 九州文化学園高校文化祭出店               | 10月25日(土)       | 弁当販売400食               |
| 学生レストラン「メランジェ」④             | 11月15日(土)       | 76人                    |
| 学生レストラン「メランジェ」⑤             | 12月20日(土)       | 84人                    |
| 第7回オープンキャンパス                | 12月13日(土)       | 6人(高校生・社会人2人、保護者4人)    |
| 第8回オープンキャンパス                | 1月17日(土)        | 2人(高校生・社会人1人、保護1人)     |
| 学生レストラン「メランジェ」⑥             | 1月24日(土)        | 95人                    |
| 卒業記念食事会                     | 2月14日(土)        | 保護者35人参加               |
| 研修旅行(関西方面)                  | 2月17日(火)～20日(金) | 2年生                    |
| 日帰り研修(長崎市料亭花月)              | 2月27日(金)        | 1・2年                   |
| 卒業式                         | 3月4日(水)         |                        |
| 修了式                         | 3月17日(火)        |                        |

### <入試関係日程>

| 入試区分     | 実施日       | 備考                 |
|----------|-----------|--------------------|
| 推薦入試     | 10月30日(木) | 17人受験(指定校10人・公募2人) |
| 一般(1期)入試 | 10月30日(木) | 2人受験               |
| 一般(2期)入試 | 12月3日(水)  | 受験なし               |
| 一般(3期)入試 | 2月2日(月)   | 受験なし               |
| 随時募集     | 随時        | 1人受験               |
| 留学生入試    | 随時        | 1人受験               |

## 7) 年度の事業計画の進捗・達成状況

### (1) 学年の基本方針

| 学部学科コース・区分の名称 | 今年度の基本方針の達成状況 |
|---------------|---------------|
|               |               |

|      |  |
|------|--|
| 1 学年 | 出席率は、98%<br>資格取得については、5)の(1)の通りで色彩コーディネーター以外は100%取得できた。<br>学校・地域行事に積極的に参加できた。          |
| 2 学年 | 出席率は、93%<br>資格取得については、5)の(1)の通りで色彩コーディネーターとサービス技能検定以外は100%取得できた。<br>学校・地域行事に積極的に参加できた。 |

## (2) 教育活動

| 取組の総括  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 即戦力を意識したカリキュラムを充実した。</li> <li>✓ インターンシップ先の充実・増加を果たした。</li> <li>✓ 学生レストラン「メランジェ」を実施し、予定以上の集客となった。</li> </ul> |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 即戦力を意識したカリキュラムの充実  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 西洋・中華・日本料理の基礎から応用までの調理実習と高度調理実習の実施</li> <li>✓ 講師会総会 4月1日(火)14:00～ 講師4人参加</li> <li>✓ レストランプロデュース・カップリングカフェ&amp;リカー・フードサービス実習接客作法Ⅱの充実</li> <li>✓ 資格取得(カフェリエーター・介護食士・サービス接客・色彩)</li> <li>✓ 調理関連学習(テーブルマナー・テーブルセッティング・シュガーデコレーション・介護食士3級)</li> <li>✓ 2年研修旅行 2月17日(火)～20日(金) 1年料亭花月 2月27日(金)</li> <li>✓ 卒業生講師の積極的な採用</li> </ul>  |
| (2) インターンシップの実施  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 1年生春期休暇中7日間・2年生夏期休暇中15日間</li> <li>✓ 学生が自主的に計画し実施できるような体制を作り、就職への足掛かりとする</li> <li>✓ 2年生インターンシップ(15日間)8月4日(月)～8月25日(月)<br/>※生徒の進路志望をかなえるため、ヒルトン福岡及びヒルトン沖縄瀬底リゾート3週間の有償インターンシップを認めた</li> </ul>  |
| (3) 学生レストランの実施   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 年6回の実施と充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>○メランジェ※5月は例年メランジェを行っていたが、SDGsフェスティバルに参加</li> <li>① 4月19日(土)メランジェ 78人<br/>(春かおる御膳1300円36人、彩り春ランチ1300円42人)</li> <li>② 5月24日(土)SDGsフェスティバル<br/>Bowl of rice3種各500円、お菓子販売 140人来場</li> <li>③ 7月19日(土)メランジェ 79人<br/>(夏さっぱり御膳1400円53人、チャーシュー和えそばランチ1300円26人)</li> <li>④ 11月15日(土)メランジェ 76人<br/>(実りの秋御膳1,400円51人、中国寄せ鍋ランチ1,300円25人)</li> <li>⑤ 12月20日(土)メランジェ 84人 (注文は85人分)<br/>(クリスマス御膳1,400円39人、Happy holiday lunch! 1,400円46人) TV<br/>佐世保取材</li> <li>⑥ 1月24日(土)メランジェ 95人<br/>(冬のあったか御膳1,400円56人、春節ランチ1,400円39人)</li> </ul> </li> <li>✓ フードサービス実習と集団給食実習の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>○集団給食実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>①4月23日(水) ②5月15日(木) ③6月25日(水) ④7月9日(水)</li> <li>⑤9月26日(金) ⑥10月15日(水) ⑦11月19日(水)</li> <li>⑧12月12日(金) ⑨1月14日(水) ⑩2月25日(水)</li> </ul> </li> <li>○80周年記念事業 NJC マルシェ×メランジェ(長崎短大主催)8月30日(土) <ul style="list-style-type: none"> <li>・Bowl of rice3種各500円、食べるラー油販売</li> </ul> </li> <li>○九州文化学園高等学校学園祭 10月25日(土) <ul style="list-style-type: none"> <li>・Bowl of rice3種各500円、食べるラー油販売</li> </ul> </li> <li>○80周年記念学園祭 10月5日(日) TV 佐世保取材 <ul style="list-style-type: none"> <li>・メランジェランチボックス 中秋の人月 1,000円</li> <li>・Bowl of rice3種各500円、お菓子、自家製食べる辣油 販売</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>✓ ○卒業記念食事会 2年生と家族 2月14日(土)</li> </ul> |

### (3) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

| 取組の総括                               |  |
|-------------------------------------|--|
| 令和7(2025)年4月1日付け学則変更により募集定員減し、周知した。 |  |
| 項目名・取組名                             | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 募集定員減                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和7(2025)年4月1日付け学則変更</li> <li>✓ 学生募集要項の変更(定員40人を30人に変更)</li> <li>✓ ホームページ等での周知</li> </ul> |

### (4) 研究活動

| 取組の総括                                 |                                 |
|---------------------------------------|---------------------------------|
| ✓ 学園内の研究者から研究に関するアンケートや調査の依頼に関して協力した。 |                                 |
| 項目名・取組名                               | 取組の実績・成果・課題                     |
| (1) 研究活動への協力                          | ✓ 長崎国際大学薬学部セルフメディケーションアンケートへの協力 |

### (5) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

| 取組の総括  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「5)教育活動の取組」を実施した。</li> <li>✓ 経済的な支援、就職支援、悩みや相談・生活支援などは、関係機関と連携し、家庭と情報を共有しながら丁寧にサポートした。</li> </ul> |   |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 経済的支援  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 修学支援新制度・学生サポート制度の周知と適切な対応<br/>学生サポート制度利用<br/>1年生6人(通学補助4人 住宅費補助1人 駐車場代補助1人)<br/>2年生5人(通学補助1人 住宅費補助1人 駐車場代補助3人)</li> <li>✓ アルバイト先の紹介</li> </ul> |
| (2) 悩みや生活支援  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ スクールカウンセラー・生活相談員と連携し、家庭や関係機関と情報を共有</li> <li>✓ 面談週間の設定</li> </ul>   |
| (3) 就職支援   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 求人票などの情報提供とタイムリーな面接指導</li> <li>✓ 講師・卒業生との連携</li> <li>✓ 新規就職先の開拓、企業奨学金の新規開設準備</li> <li>✓ 福岡での業者説明会をきっかけとしてヒルトングループの就職を開拓</li> </ul>             |
| (4) 留学生対応  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 日本語学習のサポート体制</li> <li>✓ 特定技能試験合格サポートと就職支援<br/>留学生がヒルトン沖縄瀬底リゾートに特定技能で就職</li> <li>✓ アルバイト先の紹介<br/>○申請等取次者受講・認可 松尾</li> </ul>                     |
| (5) 家庭との連携   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 1年保護者会の実施<br/>6月28日(土)25人参加</li> <li>✓ 学生レストランへの招待</li> <li>✓ 卒業記念食事会への招待<br/>2月14日(土) 再掲</li> <li>✓ 電話連絡およびプリント配布による情報共有</li> </ul>           |

### (6) 国際交流・留学生支援活動

| 取組の総括                       |                  |
|-----------------------------|------------------|
| ✓ 学園内の国際交流・留学生支援活動の依頼に対して協力 |                  |
| 項目名・取組名                     | 項目名・取組名          |
| (1) 国際交流・留学生支援活動への協力        | ✓ 国際交流・留学生支援への協力 |

### (7) 学生募集・広報活動

| 取組の総括  |                |
|--|----------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 募集定員の30人は確保できなかった。</li> <li>✓ 魅力的で効果的な情報発信に努めた。</li> <li>✓ 魅力あるオープンキャンパスの開催と効果的な周知活動を展開した。</li> <li>✓ 高校生体験入学や高校生料理コンテストを開催した。</li> </ul> |                |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題    |
| (1) 情報発信   | ✓ ホームページの更新 6回 |

|                        |  |
|------------------------|--|
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ Instagram の更新 158 回</li> <li>✓ 進路ガイダンス・高校訪問</li> <li>✓ ポスター掲示(オープンキャンパス案内)</li> <li>✓ 路線バスでの車内アナウンス継続</li> <li>✓ テレビ局や新聞社への取材依頼</li> <li>✓ 地域行事への参加</li> <li>✓ 6月27日(金) 木風小学校街中探検隊2年生4人</li> </ul>  |
| (2) オープンキャンパス          | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 年8回実施</li> <li>✓ 高校生の参加者数の目標80人(高校3年生は60人)以上</li> <li>✓ 案内用ポスターやチラシの作成と配布</li> </ul>  |
| (3) 体験入学および高校生料理コンテスト等 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 体験入学の受入れ(年間4校以上) <ul style="list-style-type: none"> <li>6月12日(木) 清峰高校1年生9人</li> <li>6月18日(水) 宇久高校1年生11人</li> <li>6月18日(水) 九州文化学園高等学校3年キャリアデザインコース調理実習</li> <li>6月20日(金) 佐世保東翔高校1年生17人</li> </ul> </li> <li>✓ 高校生料理コンテスト開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>8月2日(土) 第3回高校生料理教室「フィッシュマスターチャレンジ」</li> <li>高校3校・生徒9人引率3人 TV佐世保取材</li> </ul> </li> <li>✓ 小学生料理教室開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>8月19日(火) 子ども料理教室「クッキングアカデミー」</li> <li>小学生12人保護者6人 TV佐世保、NHK、NIB取材</li> </ul> </li> <li>○民間講師派遣事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>5月28日(水) 北松農業高校 6月6日(金) 川棚高校</li> <li>11月12日(水) 川棚高校 2月4日(水) 大村高校</li> </ul> </li> </ul> |
| (4) 指定校推薦制度            | 指定校の見直し  |

## (8) 教職員の人材開発(SD・FD)

| 取組の総括                   |   |
|-------------------------|---|
| ✓ 各種研修会への参加し校内研修会を実施した。 |   |
| 項目名・取組名                 | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 研修会への参加             | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 長期休業を利用した研修会への参加</li> <li>✓ 実習時に残った食材を利用したレシピの開発</li> <li>✓ 全国調理師養成施設協会関連の研修会</li> <li>✓ 全国調理職業訓練協会関連の研修会</li> <li>✓ 地元企業・団体による研修会 <ul style="list-style-type: none"> <li>佐世保市食育推進会議 7月3日(木)、1月27日(火)鴨川</li> <li>食品衛生責任者講習会 7月7日(月)鴨川 7月10日(木)當房</li> </ul> </li> <li>✓ イタリア料理研修(株)ニッポン主催野口・當房・森 8月26日(火)</li> </ul> |
| (2) 校内研修会               | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教育・生活指導に関する研修会</li> <li>✓ 参加した外部研修会の報告会</li> </ul>   |

## (9) ステークホルダーとの連携強化(特に同窓会)

| 取組の総括  |   |
|--|---|
| ✓ 保護者・地域社会・関係団体等とは、それぞれとの行事や会議などの様々な取組を一つ一つ丁寧に実施していくことで信頼関係を継続・構築できた。同窓会との連携は進まなかった。 |   |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 同窓会(卒業生)との連携強化   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 九州文化学園80周年行事に向けた同窓会役員会の開催はできなかった</li> <li>✓ 同窓会連絡網の確認と整備はできなかった</li> <li>✓ 設備の補充および新設への協力体制作りはできなかった</li> </ul>                      |
| (2) 保護者との連携強化  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 1年保護者会の実施</li> <li>✓ 学生レストランへの招待</li> <li>✓ 卒業記念食事会への招待</li> <li>✓ 電話連絡およびプリント配布による情報共有</li> </ul>                                   |
| (3) 全日本司厨士協会等との連携強化  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 全日本司厨士協会との連携</li> <li>✓ 全国調理師養成施設協会との連携</li> <li>✓ 全国調理職業訓練協会との連携</li> </ul>   |
| (4) 地域社会および関係団体との連携強化  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 南地区自治協議会および藤原町2組との連携</li> <li>✓ 小学生料理教室開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>8月19日(火) 子ども料理教室「クッキングアカデミー」</li> </ul> </li> </ul> |

|  |   |
|--|---|
|  | 小学生12人保護者6人 TV佐世保、NHK、NIB取材 再掲<br>✓ 木風小学校生の町中探検隊の受入れ<br>6月27日(金) 木風小学校街中探検隊2年生4人 再掲<br>✓ 地域行事および関係団体行事への参加およびサポート |
|--|---|

### (10) 学園内の連携促進

| 取組の総括   |  |
|---|--|
| ✓ 学園内の様々な連絡会議や行事に積極的に参加・協力した。<br>✓ 本校の情報を学内に情報発信した。 |  |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 九州文化学園高校体験入学および進学ガイダンス                          | ✓ 九州文化学園高等学校生の体験入学<br>✓ 九州文化学園高等学校進学ガイダンスでの学校紹介<br>✓ 九州文化学園高等学校オープンスクールでの保護者への説明 |
| (2) 茶道大会  | ✓ 茶道大会をはじめとする各部門の茶道関係行事への参加  |
| (3) 調査研究依頼  | ✓ 調査研究アンケート依頼への協力  |
| (4) 各種連絡会議  | ✓ 学園責任者連絡会、事務局長会、学園募集担当者会、SDGs担当者会等  |
| (5) 歯科衛生士学院との連携                                     | ✓ 学園祭の共同開催<br>✓ 学院生の調理実習(1・2年生、年に2回ずつ)<br>✓ 火災避難訓練の合同実施<br>✓ 集団給食実習への食事注文協力依頼    |

### (11) SDGsの推進

| 取組の総括  |   |
|--|---|
| ✓ 伝統的に、日々の調理実習がSDGs推進に繋がっており、今年度も踏襲し、成果を上げた。名切SDGsフェスティバルにも参加した。 |   |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 名切SDGsフェスティバル  | ✓ テーマ「もったいないからおいしいに九文調理2025」<br>✓ 内容は、地元でとれたおいしい規格外の食材を利用して、様々な食品を作って販売する<br>✓ 趣旨は、食物ロス減少活動および地産地消の推進<br>✓ 5月24日(土)SDGsフェスティバル<br>✓ Bowl of rice3種各500円、お菓子販売 140人来場 再掲 |
| (2) 地産地消の推進  | ✓ 実習時に残った食材を利用したレシピの開発<br>✓ 地元食材を利用した調理実習   |
| (3) 地域行事への参加   | ✓ 地域行事や関連団体行事への参加<br>✓ 地域清掃活動   |
| (4) ペットボトルキャップ回収   | ✓ ペットボトルキャップを回収しワクチンに交換する   |

### (12) 管理運営と業務・経費効率化

| 取組の総括  |  |
|--|--|
| ✓ 予算の適切な執行および補助金制度の活用を行った。<br>✓ 情報セキュリティポリシーは例年通り徹底した。紙媒体とデジタルデータの整理はあまり進まなかった。<br>✓ 働き方等の労務管理の改善はあまり進まなかった。 |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題                                    |
| (1) 補助金制度の活用   | ✓ 各種補助金制度の積極的活用                                |
| (2) 規程・規則の適切な運用  | ✓ 規則・規程および文書処理の適切な管理と運用<br>✓ 規則・規程の確認および見直しと整備 |
| (3) 情報セキュリティマネジメント   | ✓ 情報資産管理台帳の確認および見直しと整備<br>✓ 情報セキュリティポリシーの周知徹底  |

### (13) 施設・設備・システム等の環境整備

| 取組の総括   |  |
|---|--|
| ✓ 安全第一主義で施設設備の点検を行った。<br>✓ 異常または不安な箇所が複数出たので、専門業者と連絡をとり早急に対応した。急を要する対応に追われ中長期的に修繕・修理・更新等の計画を立てるに至らなかった。 |  |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 施設設備の定期点検   | ✓ 消防立ち入り検査、貯水槽清掃点検、消防設備点検、電気設備年次点検等<br>✓ 消防設備自主点検(年2回) |

|               |   |
|---------------|---|
|               | <p>5月19日(月)避難訓練<br/>8月22日(金)甲種防火管理講習受講 松尾<br/>2月中に消火器取替<br/>○調理師養成施設指導調査 8月26日(火) 問題なしとの評価</p>  |
| (2) 修繕・修理計画   | <p>✓ 使用年数に応じた修理・修繕・更新計画<br/>スチームコンベンションオープン等<br/>✓ 施設設備について、専門業者との情報交換<br/>学生レストランメランジェの総菜・菓子販売営業許可申請に伴い調理室の蛇口変更<br/>✓ ICT環境整備(Wi-Fi環境整備)計画<br/>✓ PC入替、Wi-Fi環境整備済</p> |
| (3) 清掃・環境美化活動 | <p>✓ 日々の清掃、始業日終業日の清掃、行事ごとの清掃<br/>✓ 季節に応じた環境美化活動</p>   |

#### (14) 点検評価

|   |  |
|---|--|
| 取組の総括   |  |
| <p>✓ 学校関係者評価委員会を開催し、職員の自己評価及び自己評価のための学生アンケートに基づいて評価を受けた。評価は、ホームページ等を通して公表し、次年度の計画に活かした。</p> |  |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 学校関係者評価委員会  | <p>✓ 委員を5人委嘱する<br/>✓ 年2回(8月と2月)に開催する<br/>✓ 2月の会議終了後に評価表を提出してもらう<br/>✓ 評価は、本年度の事業報告書と次年度の事業計画書に反映する</p> |
| (2) 自己評価  | <p>✓ 学生自己評価の実施(12月上旬)<br/>✓ 職員自己評価の実施(12月下旬)<br/>✓ 1月に実施</p>   |
| (3) 学事振興課への報告   | <p>✓ 3月上旬に報告書を提出する</p>   |
| (4) ホームページ掲載  | <p>✓ 3月下旬に本校ホームページに掲載する</p>  |

#### (15) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

|         |             |
|---------|-------------|
| 取組の総括   |             |
| ※特記事項なし |             |
| 項目名・取組名 | 取組の実績・成果・課題 |
| 特になし    | 特になし        |

#### (16) 第2期(2021-2025)中期計画の総括と評価

|      |   |
|------|---|
| 教学関係 | <p>✓ 教育内容は充実し、外部講師及び就職先から高い評価を得ている。</p>   |
| 人事関係 | <p>✓ 学校の持続性を確保するためには教務主任の後継となる人材育成が必須だが叶わなかった。今後の見通しも立っておらず、本校の持続の最大の危機因子である。</p> |
| 施設関係 | <p>✓ 清掃・点検を怠らずに使用しているが、移転から20年というタイミングでの劣化は否めない。</p>                              |
| 財務関係 | <p>✓ 赤字の解消は出来ていない。令和9(2027)年度からの学費改定及び入学者数の増加による改善を期す。</p>                        |

## 8.九州文化学園歯科衛生士学院

### 1) 経営理念・経営目標

|      |  |
|------|--|
| 経営理念 | 資格取得のための知識と高い技術を養い、社会に貢献する人間教育を目指す                       |
| 経営目標 | 歯科衛生教育に関連する施設・行政等と連携し、有能な歯科衛生士育成教育を行うため、研修・研究を重ね学生指導に努める |

### 2) 1年間の総括と評価

- ✓ 令和 7(2025)年度は「輝く未来を切り拓くために学ぶ集団」というテーマを設けて学校経営を行った。具体的には「常に学生のプラスになることを企画・立案し実行」「積極的な情報発信」「危機管理」を重視した。
- ✓ 令和 6(2024)年度末の国家試験合格率 62.1%という危機的な結果を受け、教育課程、学生指導、新たなアプリの導入等、教育力の向上に尽力し、成果を上げた。

### 3) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組実績

|   |            |  |
|---|------------|--|
| 1 | 成長力の確保     | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 実習先および実習内容の見直しと新たな実習先の開拓にあたった</li> <li>✓ 教職員・講師に対して講師会総会をはじめ機会あるたびに「建学の精神をベースにした教育活動の展開」の共通理解を図った</li> </ul>  |
| 2 | 教育力の向上     | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教育課程を 20 年ぶりに改定し、国家試験合格に向けた体制を整備した。</li> <li>✓ 学生の生活指導及び学習指導を、全職員担当制で行うよう体制を整えた。</li> <li>✓ 成果を上げている養成校の視察を行い、本校の指導に導入した。</li> <li>✓ 国家試験学習のためのアプリを導入した。</li> </ul> |
| 3 | 約定返済の確実な履行 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和 5(2023)年度より男子学生受入可の周知を行った</li> <li>✓ 情報発信(ホームページ 7 回、Instagram 45 回)</li> </ul>  |

### 4) 経営改善(健全化)に関する成果

|   |             |  |
|---|-------------|--|
| 1 | 収入の増加       | ✓ 令和 9(2027)年度に向け、授業料・学納金の見直しを行った  |
| 2 | 支出の効率化      | ✓ 補助支援制度を、わかりやすく、支出の減少となるように見直した   |
| 3 | 人員・業務の効率化   | ✓ 職員間で休暇予定を共有し、効率的な業務に心がけた   |
| 4 | 付加価値向上と広報強化 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 歯科医師会の協力で地元発信型の YouTube で紹介された</li> <li>✓ 各歯科医院に三つ折りリーフレットを置いてもらった</li> </ul> |

### 5) 中期計画の進捗・達成状況

| 区分       | 進捗・達成状況   |
|----------|---|
| 戦略Ⅰ      | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学生自治活動も少しずつ充実してきている</li> <li>✓ 職員の研修会や講習会への参加は、1人2回以上の参加はできている</li> </ul>              |
| 戦略Ⅱ      | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 個人面談・保護者面談・他学年との懇談会など積極的に実施している</li> <li>✓ 家庭学習の定着と成績不振者へのサポートを職員全体で取り組んでいる</li> </ul> |
| 戦略Ⅲ      | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 国家試験の危機的合格状況を受け、佐世保市歯科医師会から積極的な連携を得られた</li> <li>✓ 臨床実習の受け入れ先を広げることが出来た</li> </ul>      |
| 戦略Ⅳ      | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 必要に応じて Zoom での授業を実施している</li> <li>✓ デジタル教科書や iPad の導入検討を続けた</li> </ul>                  |
| 戦略Ⅴ      | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ホームページ・Instagram 等の積極的な情報発信</li> <li>✓ 路線バスのアナウンス広告</li> </ul>                         |
| 戦略Ⅵ      | ✓ 修学支援新制度の適切な処理と学生サポートの改正   |
| 学園内の連携促進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 他部門からの講師派遣による充実したカリキュラム</li> <li>✓ 他部門の行事や調査への積極的な協力</li> </ul>                        |
| 付帯計画と課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 中期計画を反映した事業計画の作成</li> <li>✓ 学校関係者評価や初めの会納めの会等での意見を取り入れた学校経営を実施</li> </ul>              |

### 6) 主要情報

#### (1) 卒業者数、資格等に関する実績

##### 【卒業者数】

| 課程人      | 人数      | 備考            |
|----------|---------|---------------|
| 医療関係専門課程 | 37 人    |               |
| 総計       | 37 人    |               |
| 卒業者の累計   | 1,402 人 | ※ 2 年課程時代を含む。 |

##### 【国家資格・免許等の実績】

| 資格・免許等人 | 取得者 | 備考 |
|---------|-----|----|
|         |     |    |

|       |     |                                     |
|-------|-----|-------------------------------------|
| 歯科衛生士 | 33人 | 37人受験(89.2% : 全国 94.5% 昨年度本校 62.1%) |
|-------|-----|-------------------------------------|

## (2) 主な行事等の開催実績

| 行事等人          | 実施日・期間等         | 備考                     |
|---------------|-----------------|------------------------|
| 始業式           | 4月3日(木)         |                        |
| 入学式           | 4月4日(金)         |                        |
| オリエンテーション     | 4月4日(金)         | 理事長講話(入学式終了後)・校長講話等    |
| SDGs フェスティバル  | 5月24日(土)        |                        |
| 第1回オープンキャンパス  | 6月15日(日)        | 19人(高校生・社会人11人、保護者8人)  |
| 第2回オープンキャンパス  | 7月6日(日)         | 27人(高校生・社会16人、保護者11人)  |
| 第3回オープンキャンパス  | 7月27日(日)        | 26人(高校生・社会人16人、保護者10人) |
| 第4回オープンキャンパス  | 8月23日(土)        | 13人(高校生・社会人11人、保護者2人)  |
| 第5回オープンキャンパス  | 9月20日(土)        | 10人(高校生・社会人6人、保護者4人)   |
| 80周年記念学園祭     | 10月5日(日)        |                        |
| 第6回オープンキャンパス  | 10月18日(土)       | 2人(高校生・社会人1人、保護者1人)    |
| 南地区コミセン祭      | 11月9日(日)        |                        |
| 80周年記念 絆の茶会   | 12月7日(日)        |                        |
| 戴帽式           | 12月19日(金)       |                        |
| 第7回オープンキャンパス  | 1月18日(日)        | 6人(高校生・社会人3人、保護者3人)    |
| 第33回歯科衛生士国家試験 | 3月1日(日)         | 37人受験 場所(九州産業大学)       |
| 卒業式           | 3月13日(金)        | 37人卒業                  |
| 研修旅行(関東)      | 3月18日(水)～20日(金) | 研修旅行(関東)               |
| 合格者登校日        | 3月16日(月)        | 入学予定者25人               |
| 歯科衛生士国家試験合格発表 | 3月26日(木)        | 33人合格(37人受験)89.2%      |

### <入試関係日程>

| 入試区分        | 実施日       | 備考              |
|-------------|-----------|-----------------|
| 指定校推薦入試     | 書類選考      | 18人受験           |
| 公募推薦・学内推薦入試 | 10月31日(金) | 5人受験(公募4人・学内1人) |
| 一般(1期)入試    | 12月4日(木)  | 1人受験            |
| 一般(2期)入試    | 2月3日(火)   | 1人受験            |
| 一般(3期)入試    | 3月4日(水)   | 0人受験            |

## 7) 年度の事業計画の進捗・達成状況

### (1) 学年等の基本方針

| 学部学科コース・区分の名称 | 今年度の基本方針の達成状況   |
|---------------|---|
| 1学年           | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 出席率 96.8%。</li> <li>✓ 学校・地域行事へ積極的に参加できた</li> <li>✓ 家庭学習の定着は7割の学生ができていた</li> </ul>  |
| 2学年           | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 出席率 93.8%。</li> <li>✓ 国家試験対策として模擬試験を2回実施</li> </ul>  |
| 3学年           | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 出席率 94.7%。</li> <li>✓ 国家試験合格 89.2%(目標 100%) 全国平均 94.5%</li> <li>✓ 県内就職 79.4%(目標 70%以上 就職 34人 市内 19人 それ以外の県内 8人)</li> </ul> |

### (2) 教育活動

| 取組の総括  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 国家試験対策の強化を果たし、家庭学習習慣の定着も一定の成果をあげた。</li> <li>✓ 臨床実習の出欠確認、内容確認を徹底し、歯科医療技術の修得と歯科保健活動の実践的修得の効果を向上させた。</li> <li>✓ 学校行事や地域行事への積極的参加および茶道教育や接客マナー教育等により人間力の向上に寄与した。</li> </ul> |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 国家試験合格 100%  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 早期取組(1年生から国家試験対策として模擬試験実施)</li> <li>✓ 模擬試験 14回実施・冬季補習実施</li> <li>✓ 担当制指導により個別にきめ細かく指導</li> <li>✓ 全職員による模擬試験点数分析会議の実施</li> <li>✓ 国家試験対策講座開催・業者変更</li> <li>✓ 実績を上げている他校訪問</li> <li>✓ 長崎歯科衛生士専門学校訪問 4月2日(水)</li> </ul> |

|                            |   |
|----------------------------|---|
|                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓九州大学病院、福岡医健・スポーツ専門学校 国際大中村学長と 5月23日(金)</li> <li>✓国家試験対策アプリ導入</li> <li>✓教育課程の20年ぶりの見直し</li> <li>✓基礎科目時間数圧縮 専門科目の早期履修 試験対策時間の確保</li> <li>✓各授業、単元ごとに自らの学習内容を見直すシートの作成、実施</li> <li>✓国家試験日：3月1日(日) 会場：九州産業大学 発表：3月26日(木)</li> </ul>  |
| (2) 歯科医療技術の修得と歯科保健活動の実践的修得 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓臨床実習(2年生30日間、3年生90日間)実施</li> <li>✓高齢者施設・障がい者支援施設・リハビリテーション病院・大学病院での臨床実習</li> <li>✓戴帽式(2年生)</li> <li>✓矯正歯科見学・佐世保中央保健福祉センター・佐世保総合医療センターでの臨地実習</li> <li>✓歯科医療関係研修会参加</li> <li>✓地域の幼稚園や小中学校でのブラッシング指導</li> <li>✓認定こども園九州文化学園幼稚園、九州文化学園小中学校、九州文化学園高校等</li> </ul>                                       |
| (3) 学力向上                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓入学前プログラムの全員参加</li> <li>✓基礎学力診断テストおよび生活学習習慣診断テストの実施</li> <li>✓卒業生による体験講話とアドバイス</li> </ul>  |
| (4) 人間力向上                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓救急救命技能取得</li> <li>✓学生自治活動の活性化およびSDGs推進活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>1・3年座談会 4月14日(月)</li> <li>SDGs フェスティバル 5月24日(土)</li> </ul> </li> <li>✓茶道・華道・調理実習の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>80周年記念「絆の茶会」、80周年記念学園祭でのお点前</li> </ul> </li> <li>✓接遇マナー講座と接遇マナー検定3級試験の実施</li> </ul> |

### (3) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

|                  |   |
|------------------|---|
| 取組の総括            |   |
| ✓学則について検討し、変更した。 |   |
| 項目名・取組名          | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 教育課程の見直し     | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓教育課程の20年ぶりの見直し</li> <li>✓基礎科目時間数圧縮 専門科目の早期履修 試験対策時間の確保</li> </ul> |

### (4) 研究活動

|                                      |  |
|--------------------------------------|--|
| 取組の総括                                |  |
| ✓学園内の研究者からの研究に関するアンケートや調査の依頼に関して協力した |  |
| 項目名・取組名                              | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 研究活動への協力                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓研究活動のアンケートや調査等の依頼に確実に実施して協力した</li> <li>✓大学の薬学部からの調査研究は、全職員と全学生で協力した</li> </ul> |

### (5) 学生の支援活動

|   |  |
|---|--|
| 取組の総括   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓学習に関する支援は「5)教育活動の取組」を実施した。</li> <li>✓経済的な支援、就職支援、悩みや相談・生活支援などは、関係機関と連携し、家庭と情報を共有しながら丁寧にサポートした。</li> </ul> |  |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 経済的支援   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓修学支援新制度・専門実践教育訓練給付金指定講座・学生サポート制度の周知と適切な対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7(2025)年度 専門実践教育訓練給付金 1年生1人 2年生1人 3年生1人</li> <li>学生サポート制度 <ul style="list-style-type: none"> <li>1年生 通学費補助3人 駐車場代補助 2人</li> <li>2年生 通学費補助1人 駐車場代補助 4人</li> <li>3年生 通学費補助8人 駐車場代補助 4人</li> <li>住宅費補助は3学年ともになし</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>✓アルバイト先の紹介 歯科医でのアルバイトを紹介</li> </ul> |
| (2) 悩みや生活支援   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓スクールカウンセラー・生活相談員と連携し、家庭や関係機関と情報を共有</li> <li>✓学生主体の行事や学生自治活動の活性化により学生同志が交流できる機会を多く設定する面談週間の設定</li> </ul>  |

|          |   |
|----------|---|
|          | 1年生レクレーション 6月4日(水) 体育文化館<br>2年生レクレーション 7月30日(水) 弓張の丘ホテル   |
| (3) 就職支援 | ✓ 学生の意思を尊重し求人情報の周知と説明会や見学会の実施など適切に対応<br>佐世保市医師会福地先生就職講話 7月31日(木) 2・3年生<br>佐世保市医師会「合同就職説明会」 8月24日(日) 2・3年生全員参加<br>✓ 佐世保市医師会との協議会 11月21日(金) |

## (6) 国際交流・留学生支援活動

|                    |             |
|--------------------|-------------|
| 取組の総括              |             |
| ✓ 特に実績なし。          |             |
| 項目名・取組名            | 取組の実績・成果・課題 |
| (1) 国際交流・留学生支援への協力 | ✓ 特になし      |

## (7) 学生募集・広報活動

|  |  |
|--|--|
| 取組の総括  |  |
| ✓ 魅力的で効果的な情報を積極的に発信した。<br>✓ ホームページやパンフレットの改善は果たせなかった。<br>✓ 学生による情報発信は取り入れられなかった。 |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 情報発信   | ✓ ホームページの更新7回<br>ホームページ打合せ 7月11日(金)<br>✓ Instagramの更新45回<br>80周年記念で九州文化学園各部門のショート動画をInstagramにアップ<br>✓ 進路ガイダンス・高校訪問 別表の通り<br>✓ ポスター掲示(オープンキャンパス案内)<br>✓ 路線バスでの車内アナウンス継続<br>✓ テレビ局や新聞社への取材依頼<br>YouTube 佐世保ベース 4月8日(火)撮影<br>テレビさせぼ 入学式・80周年記念学園祭・戴帽式<br>✓ ブラッシング指導<br>認定こども園九州文化学園幼稚園・九州文化学園小中学校・九州文化学園高校等<br>✓ 職業体験教室<br>木風小学校2年街中体験隊 児童4人 6月20日(金)<br>✓ 地域行事への参加 いずれもテレビさせぼ等取材あり<br>SDGs フェスティバル 5月24日(土)<br>デンタルフェスティバル 6月8日(日)<br>南地区コミセン祭り 11月9日(日)<br>✓ 祇園小学校キッズニア歯科衛生士体験 11月17日(月) |
| (2) オープンキャンパス  | ✓ 年7回実施<br>✓ 高校生の参加者数の目標80人(高校3年生は60人)以上 別表の通り   |
| (3) 体験入学   | ✓ 高校生体験入学<br>6月12日(木) 清峰高校1年生4人<br>6月18日(水) 宇久高校1年生11人<br>6月20日(金) 佐世保東翔高校1年生15人   |
| (4) 指定校推薦制度  | ✓ 指定校の見直し  |

## (8) 教職員の人材開発(SD・FD)

|                         |   |
|-------------------------|---|
| 取組の総括                   |   |
| ✓ 各種研修会に参加し、校内研修会を実施した。 |   |
| 項目名・取組名                 | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 研修会への参加             | ✓ 歯科衛生士専任教育講習会・歯科衛生士教育協議会・学術大会・佐世保市歯科医師会主催研修会等への参加<br>4月19日(土)<br>✓ 全国歯科衛生士教育協議会九州大会長崎大会の運営サポート<br>9月6日(土) 長崎市<br>✓ 県専各連主催の各種研修会への参加 2月17日(火) |

|           |   |
|-----------|---|
| (2) 校内研修会 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教育機関の学生の成績・生活に関する検討会</li> <li>✓ 国家試験対策検討会</li> <li>✓ 教育・生活指導に関する研修会 2月26日(木) 麻布教育研究所 永島孝嗣氏</li> <li>✓ 参加した外部研修会の報告会</li> </ul> |
|-----------|---|

### (9) ステークホルダーとの連携強化

| 取組の総括   |   |
|---|---|
| ✓ 保護者・地域社会・歯科医師会・関係団体等それぞれとの行事や会議などの様々な取組を一つ一つ丁寧に実施していくことで信頼関係を維持・向上させた。同窓会との連携は進まなかった。 |   |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 同窓会(卒業生)との連携強化  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 一華会(同窓会)役員会の開催</li> <li>✓ 九州文化学園80周年行事に向けた役員会の開催</li> <li>✓ 同窓会連絡網の確認と整備</li> <li>✓ 学生募集の協力依頼(LINEを利用した情報発信等)</li> <li>※ 80周年記念誌に、卒業生と在校生の座談会を掲載</li> </ul>  |
| (2) 保護者との連携強化   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 保護者面談期間(7月・8月)</li> <li>✓ 電話連絡およびプリント配布等タイムリーな情報共有</li> <li>✓ 特に臨床実習の出欠・遅刻等の状況について、細やかに行った</li> </ul>  |
| (3) 佐世保市歯科医師会との連携強化   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 佐世保市歯科医師会との連携               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 歯科医による市内就職に関する講話</li> <li>② 歯科医院合同就職説明会</li> <li>③ 院内見学</li> <li>④ 担当者連絡協議会(年3回)</li> </ul> </li> <li>✓ 長崎県内と佐賀県内の歯科医師会との連携</li> <li>✓ 学生募集に関する協力体制の強化(歯科医院でのポスター貼付等)</li> <li>✓ 歯科医師会からの提案で、A4を三つ折りにしたリーフレットを作成、有志の歯科医院においていただく</li> </ul> |
| (4) 地域社会および関係団体との連携強化   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 南地区自治協議会主催コミセン祭りへの参加 再掲</li> <li>✓ 地域清掃ボランティア活動</li> <li>✓ 木風小学校生の町探検隊の受入れ 再掲</li> <li>✓ デンタルフェスティバルでの補助活動 再掲</li> <li>✓ 8020運動の推進活動</li> </ul>  |

### (10) 学園内の連携促進

| 取組の総括   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学園内の様々な連絡会議や行事に積極的に参加・協力した。</li> <li>✓ 本校の情報を学内に情報発信した。</li> </ul> |  |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 歯磨き教室<br>ブラッシング指導<br>体験入学<br>進学ガイダンス  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 認定こども園九州文化学園幼稚園での歯磨き教室 再掲</li> <li>✓ 九州文化学園小中学校でのブラッシング指導 再掲</li> <li>✓ 九州文化学園中学校生徒の体験入学 再掲</li> <li>✓ 九州文化学園高等学校生徒の体験入学 再掲</li> <li>✓ 九州文化学園高等学校進学ガイダンスでの学校紹介 未実施</li> <li>✓ 九州文化学園高等学校オープンスクールで保護者への説明 未実施</li> </ul> |
| (2) 茶道大会  | ✓ 茶道大会をはじめとする各部門の茶道関係行事への参加  |
| (3) 九州文化学園グループとの連携  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 三川内保育園での歯磨き教室</li> <li>✓ 世知原老人ホームでの臨床実習</li> <li>✓ 長崎リハビリテーション病院での臨床実習</li> </ul>   |
| (4) 各種連絡会議  | ✓ 学園責任者連絡会、事務局長会、学園募集担当者会、SDGs担当者会等  |
| (5) 調理師専門学校との連携   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学園祭の共同開催</li> <li>✓ 学院生の調理実習(1・2年生、年に2回ずつ)</li> <li>✓ 火災避難訓練の合同実施</li> <li>✓ 集団給食実習への食事注文協力</li> </ul>  |

### (11) SDGsの推進

| 取組の総括   |             |
|---|-------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 名切SDGsフェスティバルに参加した。</li> <li>✓ ブラッシング指導や地域行事への参加を通じて、SDGs推進の意識を高めた。</li> </ul> |             |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題 |

|                     |  |
|---------------------|--|
| (1) 名切 SDGs フェスティバル | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ テーマ「カッコイイ歯科衛生士になってみよう」 再掲</li> <li>✓ 内容は、歯科衛生士のお仕事体験</li> <li>✓ 趣旨は、歯科医院で使用されている材料に触れ歯科医療に関する意識を高めてもらうことと本学院の事を知ってもらうこと。</li> </ul> |
| (2) 歯科保健活動          | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ デンタルフェスティバルでの補助活動 再掲</li> <li>✓ 地域の幼稚園や小中学校でのブラッシング指導 再掲</li> <li>✓ 8020 推進運動</li> </ul>  |
| (3) 地域行事への参加        | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 地域の祭りへの参加 再掲</li> <li>✓ 地域の健康推進活動行事への参加 再掲</li> <li>✓ 地域清掃活動</li> </ul>   |
| (4) ペットボトルキャップ回収    | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ペットボトルキャップを回収しワクチンに交換する。</li> </ul>   |

## (12) 管理運営と業務・経費効率化

| 取組の総括  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 予算の適切な執行および補助金制度の活用を行った。</li> <li>✓ 情報セキュリティポリシーは例年通り徹底した。紙媒体とデジタルデータの整理はあまり進まなかった。</li> <li>✓ 働き方等の労務管理の改善はあまり進まなかった。</li> </ul> |   |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 予算の適切な執行および省エネ推進活動   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 中期計画に則した予算編成と適切な執行</li> <li>✓ 常に支出の見直しを図るとともに省エネ推進活動を行う</li> </ul> |
| (2) 補助金制度の活用   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 職業実践専門課程促進補助金制度等各種補助金制度の積極的活用</li> </ul>                           |
| (3) 規程・規則の適切な運用  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 規則・規程および文書処理の適切な管理と運用</li> <li>✓ 規則・規程の確認および見直しと整備</li> </ul>      |
| (4) 情報セキュリティマネジメント   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 情報資産管理台帳の確認および見直しと整備</li> <li>✓ 情報セキュリティポリシーの周知徹底</li> </ul>       |

## (13) 施設・設備・システム等の環境整備

| 取組の総括   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 安全第一主義で施設設備の点検を行った。</li> <li>✓ 異常または不安な箇所が複数出たので、専門業者と連絡をとり早急に対応した。急を要する対応に追われ、また、想定される予算の目途がつかないことから、中長期的に修繕・修理・更新等の計画を立てるに至らなかった。</li> </ul> |   |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 施設設備の定期点検   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 消防立ち入り検査、貯水槽清掃点検、消防設備点検、電気設備年次点検等</li> <li>✓ 消防設備自主点検(年2回)</li> </ul>                          |
| (2) 修繕・修理計画   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 使用年数に応じた修理・修繕・更新計画</li> <li>✓ 施設設備について、専門業者との情報交換</li> <li>✓ ICT 環境整備(Wi-Fi 環境整備)計画</li> </ul> |
| (3) 清掃・環境美化活動   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 日々の清掃、始業日終業日の清掃、行事ごとの清掃</li> <li>✓ 季節に応じた環境美化活動</li> </ul>                                     |

## (14) 点検評価

| 取組の総括  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学校関係者評価委員会を開催し、職員の自己評価及び自己評価のための学生アンケートに基づいて評価を受けた。評価は、ホームページ等を通して公表し、次年度の計画に活かした。</li> </ul> |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 学校関係者評価委員会   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 委員を6人委嘱する</li> <li>✓ 年2回(8月と2月)に開催する</li> <li>✓ 2月の会議終了後に評価表を提出してもらう</li> <li>✓ 評価は、本年度の事業報告書と次年度の事業計画書に反映する</li> </ul> |
| (2) 自己評価   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学生自己評価の実施(12月上旬)</li> <li>✓ 職員自己評価の実施(12月下旬)</li> </ul>   |
| (3) 学事振興課への報告  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 3月上旬に報告書を提出</li> </ul>  |
| (4) ホームページ掲載   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 3月下旬に本校ホームページに掲載</li> </ul>   |

## (15) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

| 取組の総括 |  |
|-------|--|
|       |  |

| 項目名・取組名 | 取組の実績・成果・課題 |
|---------|-------------|
| 該当なし    |             |

**(16) 第2期(2021-2025)中期計画の総括と評価**

|      |   |
|------|---|
| 教学関係 | ✓ 教育内容は充実し、外部講師及び就職先から高い評価を得ている。  |
| 人事関係 | ✓ 学生数減もあって、5年間で常勤職員が減少し、運営は限界に近い。令和8(2026)年度から事務専任職員を雇用し、歯科衛生士資格を持つ職員の授業・学生指導へのかわりを強化したが、多忙感は解消されておらず、本校の持続の最大の危機因子である。 |
| 施設関係 | ✓ 清掃・点検を怠らずに使用しているが、移転から20年というタイミングでの劣化は否めない。   |
| 財務関係 | ✓ 赤字の解消は出来ていない。学費改定及び入学者数の増加による改善を期す。   |

## 9.法人事務局

### 1) 経営理念・経営目標

|      |   |
|------|---|
| 経営理念 | 学園全体として健全な経営状態と安定した財務基盤の確立を目指す。               |
| 経営目標 | 学園全体として、日本私立学校振興・共済事業団の経営判断指標による経営状態「A2」を目指す。 |

### 2) 1年間の総括と評価

|   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 創立80周年記念事業の完遂や私学法改正に伴うガバナンス体制の刷新、第3期中期計画の策定、法人事務局の大学内への移転統合など、次代に向けた経営基盤の刷新と組織活性化を大きく推進した。</li> <li>✓ 財務面では物価高騰等により収支は厳しく推移したものの、徹底した資金管理により借入金の約定返済を計画通り履行し、社会的信用を堅持した。</li> <li>✓ 今後は、明確化した構造的課題に基づき、早期の部門別収支均衡と抜本的な財務体質の再構築を最優先で進める。</li> </ul> |
|---|

### 3) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組実績

|   |            |  |
|---|------------|--|
| 1 | 成長力の確保     | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「部門・部署横断型プロジェクト規定」を新設し、2つの重点プロジェクトを実施。部局を超えた実践を通じ、次世代人材の職能開発と組織活性化を推進した</li> <li>✓ 令和8(2026)年3月理事会にて、令和8(2026)年度からの5か年計画を策定。経営資源の重点配分と事業戦略の骨子を確定させ、持続的成長の指針を確立した。</li> <li>✓ 100周年に向けた長期ビジョン「創志未来」を策定。3つの重点戦略を掲げるとともに、大学の「未来予想図」を制作・周知し、将来像を具現化した。</li> </ul> |
| 2 | 教育力の向上     | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 財務健全性に配慮しつつ、各部門で欠員補充を中心とした計画的採用を実施。適正な定員管理により、安定的な教育体制を維持した。</li> <li>✓ 組織的な支援体制の構築に向け、現状の課題整理を行った。今後は部門間連携を深め、支援策を具体化させる。</li> <li>✓ 大学のネットワーク基盤を刷新。また高校の「DXハイスクール」採択を支援し、ICTを活用した高度な学習環境の整備を推進した。</li> </ul>  |
| 3 | 約定返済の確実な履行 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 80周年募金の推進、学納金体系の改定検討、大学情報学部の設置申請準備を加速。将来にわたる多角的な財源確保の道筋を明確化した。</li> <li>✓ 物価高騰等により収支は厳しく推移したが、資金管理を徹底し借入金の約定返済を計画通り完遂。支払能力を維持し、財務の信頼性を堅持した。</li> <li>✓ 収支マイナスの課題に対し、事務プロセスや固定費を厳格に再考。次年度以降、実効性の高い節減策を講じ、収支バランスの改善を急ぐ。</li> </ul>                              |

### 4) 経営改善(健全化)に関する成果

|   |             |  |
|---|-------------|--|
| 1 | 収入の増加       | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学内の情報共有体制を強化し、大学ネットワーク基盤更新において補助金活用を立案・申請した。その結果、令和8(2026)年度の採択を確保し、自己資金負担の軽減を図った。</li> <li>✓ 創立80周年記念事業募金(5か年総額1億円)を開始。初年度の戦略的広報により、年間目標額の2,000万円を完遂し、順調な滑り出しを見せた。</li> </ul>  |
| 2 | 支出の効率化      | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 内部監査により予算・決算の差異を全件分析。要因を可視化し事務局長会で共有することで、全部門における支出の妥当性再検証とコスト意識の向上を促した。</li> <li>✓ 事務局長会での月次報告を定例化し、収支状況を迅速に把握する体制を構築。現状の収支課題に対し、集約したデータを基にした実効性の高い経費節減策を具体化させていくこととした。</li> </ul>   |
| 3 | 人員・業務の効率化   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 標準化への議論を深化させたが、詳細な業務分析は次年度の継続課題とした。効率化の土台となる論点整理を優先し、実施体制の整備を図った。</li> <li>✓ 法人事務局を大学へ移転し、連携を強化。欠員補充の留保と大学事務局との業務集約を通じ、組織の枠組みを超えた人員・業務の効率化に着手した。</li> </ul>   |
| 4 | 付加価値向上と広報強化 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 次期中期計画にて「地域社会のエンジン」となる将来像を提示。「地域創造」をミッションに、人材供給や賑わい創出など4つの具体的役割を明文化し、ブランドの方向性を定めた。</li> <li>✓ 外部SDGsイベントへの全学的な出展を通じ、社会貢献姿勢を周知。創立80周年時には新聞1面広告を展開し、5万人超のネットワークと地域人材輩出の実績を広く発信した。また教職協働の「広報強化プロジェクト」を立ち上げ、外部専門家と連携。学生によるSNS動画活用を開始し、デジタルメディアを通じた戦略的な情報発信体制を構築した。</li> </ul> |

### 5) 中期計画の進捗・達成状況

| 区分  | 進捗・達成状況  |
|-----|--|
| 戦略I | ✓ 【ガバナンスと内部質保証の強化】機関別認証評価に伴う自己点検を通じ、法令・規程等の遵守状況を |

|          |  |
|----------|--|
|          | <p>精査。法人事務局の機能を強化し、透明性の高い内部質保証体制を堅持した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓【理念の継承と教職員への啓発】80周年記念茶会の開催を通じ、建学の理念である茶道文化への理解を醸成。行事を通じた啓発により、理念を体現し実践できる人材の育成を図った。</li> <li>✓【学園一体となった協力体制の構築】SDGsや80周年事業を全部門横断で推進し、相互理解と連携を深化。卒業生ネットワークという強みを活かしつつ、学園全体の発展に向けた協調体制を確立した。</li> </ul>   |
| 戦略Ⅱ      | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓【教育改革と質保証の目標明確化】次期中期計画の策定に際し、重点戦略「教育改革と質保証」を立案。各部門の教育の質向上に向けた目標を明確化し、内部質保証を推進する体制を整えた。</li> <li>✓【経営資源の現状分析と配分指針の検討】教育改革に必要な資源の現状を分析。当年度は配分の適正化を優先しつつ、重点分野へ資源を集中投下するための指針策定を継続課題とし、次期計画への道筋を付けた。</li> </ul>  |
| 戦略Ⅲ      | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓【グローバル対応】教職員のグローバル対応については着手できなかった。</li> <li>✓【同窓会連合会の発足準備】80周年事業を通じ、各部門の同窓会役員等と組織統合に向けた協議は行ったものの連合会発足までには至らなかった。</li> <li>✓【自治体・産業界との連携強化】大学情報学部を設置申請に伴い、佐世保市を含む自治体や産業界との協力体制を深化。産官学連携による地域貢献の基盤をより強固なものとした。</li> </ul>  |
| 戦略Ⅳ      | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓【DX推進とインフラ整備】外部専門家の支援下で大学ネットワーク更新とグループウェア導入に着手。補助金活用を含めたIT基盤の刷新と、業務効率化に向けた組織体制を構築した。</li> <li>✓【AI活用の展開と指針策定】設置申請業務等でのAI活用を通じて実務の高度化を図る一方、生成AI利用ガイドラインを策定。利便性の追求と適切なリスク管理の両立を推進した。</li> <li>✓【施設設備の適正管理】支出の厳選により不要不急の工事を抑制する一方、安全衛生や教育の質に直結する修繕には資源を優先配分し、環境の安全性と質の維持を徹底した。</li> </ul>                               |
| 戦略Ⅴ      | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓【広報プロジェクトの始動と機能強化】本部長直轄プロジェクトを発足し、専門家連携によるSNS動画やリリース配信を開始。マーケティング視点を導入し、学生募集に直結する戦略的広報を推進した。</li> <li>✓【学内外への情報発信と意識醸成】公式サイトでのメディア実績公開に加え、SNSを通じた教職員への情報共有を継続。インナーコミュニケーションを強化し、学園全体での広報力の底上げを図った。</li> </ul>  |
| 戦略Ⅵ      | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓【収支均衡への課題と構造改善】外部環境の影響により収支均衡には至らなかったが、臨時の内部監査による決算差異分析を通じ、課題を詳細に可視化した。次年度は黒字化を必達目標とする予算編成を行い、早期の収支改善を目指す。</li> <li>✓【財源確保の多角化】80周年記念寄附金の募集および補助金獲得を強力に推進。将来の財政基盤強化に向け、多角的な資金調達チャネルの拡充を図った。</li> <li>✓【ガバナンス体制と内部統制の強化】寄附行為改正に合わせ理事・評議員構成等を刷新し、会計監査人を新たに選任。内部監査結果を理事会へ報告するなど、基本方針に則った内部統制システムの適切な運用を徹底した。</li> </ul> |
| 学園内の連携促進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓【80周年記念事業の推進】全部門の協力により式典、祝賀会、記念誌編纂、記念茶会を挙行。寄附事業も並行し、学園のアイデンティティ再確認と将来への基盤を強化した。</li> <li>✓【全学連携によるSDGs発信】外部SDGsイベントに全部門が合同出展。各校の魅力を一体となってPRし、地域活性化に貢献するとともに、組織横断的な連携体制をより強固なものとした。</li> </ul>  |
| 付帯計画と課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓【第3期中期計画の策定】認証評価結果や新学部設置計画を反映し、令和8(2026)年3月理事会にて第3期中期計画を策定。次期5か年の経営指針と教学戦略を確定させた。</li> <li>✓【法人事務局の移転と組織統合】事務機能の最適化を目的として、法人事務局を大学内へ移転統合した(2月登記完了)。拠点の一本化により、部門間連携の強化と事務の効率化を推進した。</li> </ul>  |

## 6) 主要情報

### (1) 主な行事等の開催実績

| 行事等人                      | 実施日・期間等 | 備考                                   |
|---------------------------|---------|--------------------------------------|
| 辞令交付式                     | 4月1日    |                                      |
| キャンパスツアー                  | 4月5日    |                                      |
| 三様監査                      | 5月14日   | 公認会計士、監事、内部監査室長、<br>(陪席：財務課長)        |
| 第4回九州文化学園SDGs推進宣言の日記念イベント | 5月24日   | 第3回NAKIRI SDGsフェスティバルにブース出展(佐世保中央公園) |
| 定例異動発令                    | 6月1日    |                                      |
| 定時評議員会                    | 6月13日   | 寄附行為第40条に基づく定時評議員会                   |
| 内部監査(臨時監査)                | 7月～8月   | テーマ：令和6(2024)年度二次補正予算と決算の差異分析(書面監査)  |
| 学園納涼会                     | 7月25日   | ホテルフラッグス佐世保九十九島                      |
| 内部監査(科研費モニタリング)           | 8月20日   | 被監査研究者：                              |

|                 |        |                                    |
|-----------------|--------|------------------------------------|
|                 |        | 長崎国際大学 5人                          |
| 法人事務局機能移転       | 9月1日   | 長崎国際大学内に機能移転                       |
| 内部監査(科研費モニタリング) | 11月11日 | 被監査研究者：<br>長崎短期大学 2人               |
| 三様監査            | 11月12日 | 会計監査人、監事、内部監査室長<br>(陪席：財務課長)       |
| 内部監査(定期監査)      | 11月27日 | 被監査部門<br>九州文化学園高等学校                |
| 創立80周年記念『絆の茶会』  | 12月7日  | アルカス SASEBO                        |
| 創立80周年記念式典      | 12月15日 | アルカス SASEBO<br>記念講演：(株)植松電機代表：植松努氏 |
| 創立80周年記念祝賀会     | 12月15日 | ホテルオークラ JR ハウステンボス                 |
| 法人住所変更          | 2月2日   | 変更住所登記日                            |
| 創立80周年記念誌発行     | 3月18日  | 2,000部発行(+予備40部)                   |

## (2) 主な会議等の開催実績

| 会議等名称                             | 開催回数 | 開催日   |
|-----------------------------------|------|---|
| 評議員会                              | 8回   | 第1回(6/13)、第2回(9/26)、第3回(11/5)、第4回(11/12)、第5回(11/19)、<br>第6回(12/19)、第7回(2/13)、第8回(3/27)                                      |
| 理事会                               | 10回  | 第1回(5/30)、第2回(6/13)、第3回(9/3)、第4回(9/26)、第5回(10/29)、<br>第6回(11/19)、第7回(11/19)、第8回(12/19)、第9回(2/10)、<br>第10回(2/13)、第11回(3/27)  |
| 監事会                               | 2回   | 5/18、2/13   |
| 学園責任者連絡会                          | 6回   | 第1回(4/21@大学)、第2回(7/7@高校)、第3回(9/8@短大)<br>第4回(11/10@小中学校)、第5回(1/5@大学)、第6回(3/2@専門学校)   |
| 事務局長会                             | 11回  | 第1回(4/17)、第2回(5/15)、第3回(6/19)、第4回(7/17)、<br>第5回(9/18)、第6回(10/23)、第7回(11/20)、第8回(12/18)、<br>第9回(1/15)、第10回(2/19)、第11回(3/19)、 |
| 会計担当者会議                           | 2回   | 第1回(6/24)、第2回(3月メール会議)  |
| 学園ハラスメント防止等<br>委員会                | 1回   | 9/18  |
| 法人事務局情報セキュリ<br>ティ委員会              | 1回   | 3/23  |
| 長崎県内大学・短期大学<br>等理事長・学長会(外部会<br>議) | 0回   | 開催なし  |

## 7) 年度の事業計画の進捗・達成状況

### (1) 法人部門の業務分野別の基本方針

| 分野人      | 今年度の基本方針の達成状況   |
|----------|---|
| (1) 総務分野 | ✓ 改正私学法に基づき、理事会および評議員会の組織刷新および会計監査人の選任を完遂した。また、機関別認証評価に伴う悉皆点検を通じてコンプライアンス体制を再評価し、教育改革を支える健全かつ機動的な法人運営体制を確立した。   |
| (2) 人事分野 | ✓ 各部門と連携し、設置基準に準拠した教員の適時採用により教育体制を堅持した。職員については、人件費抑制を図りつつ、令和8(2026)年度に専任2人の新規採用と契約職員2人の専任登用を実施。年齢構成の適正化と実務能力の定着を図り、持続可能で効率的な事務執行体制を確立した。                  |
| (3) 財務分野 | ✓ 事務局長会議での月次財務報告を通じ、経営状況の可視化と予算管理の適正化に努めた。会計システムのクラウド化を背景に、幼稚園へ TOMAS-PS7(会計システム)を新規導入し、学園全体の業務標準化と効率化を促進した。また、精緻な資金予測に基づき、支払資金の流動性を確保するなど、安定的な財務運営を堅持した。 |
| (4) 企画分野 | ✓ 第3期中期計画を策定(令和8(2026)年3月理事会)<br>✓ 80周年記念事業を活用した広報として、80周年ロゴの人詞記載、告知(テレビ佐世保、はっぴい!FM)、新聞広告(1件)、式典取材(長崎新聞、NCC、テレビ佐世保)の実績。また各部門の行事・イベント等で80周年記念の冠をつけて開催。     |
| (5) 監査分野 | ✓ 定期監査1件(被監査部門：高校)。従来の「業務監査」「会計監査」に加え「部活動費の管理」を監査。是正事項1件(部活動費の管理)、指摘事項5件(業務監査4件、  |

|  |   |
|--|---|
|  | <p>会計監査1件。<br/>                 ✓ 臨時監査(書面)1件(被監査部門：全部門)。テーマ「令和6(2024)年度二次補正予算と決算の差異要因の分析」<br/>                 ✓ 公的研究費モニタリング7件(被監査部門：大学5件、短大2件)<br/>                 ✓ 三様監査2回実施<br/>                 ✓ 内部統制システム整備の基本方針に基づき内部監査実績(令和6(2024)年度分)を理事会で報告<br/>                 ✓ 監事との定期的な打合せ13回実施</p> |
|--|---|

## (2) 財務の健全化と人事政策強化

| 取組の総括   |  |
|---|--|
| <p>✓ 財務面では「中期財務計画」を策定し、戦略的財政管理体制を確立した。諸要因により収支差額はマイナスとなったが、適時の借入れにより流動性を確保し、円滑な資金運営を維持した。今後は特定された構造的課題に基づき、財政の抜本的改善を最優先で推進する。<br/>                 ✓ 人事面では「総務・人事課」を分離独立させ、専門性の高い執行体制へ刷新した。これに伴い、諸制度の見直しやシステム導入は新体制下での実効性を高めるための精査期間とし、次年度以降に移行した。現在は稼働状況を踏まえた論点整理を進めており、持続可能な組織基盤の確立を加速させる。</p> |  |
| 項目名・取組名   | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 財務の健全化  | <p>✓ 【中期財務計画の策定】法人全体の財務推移を精査し、今後5か年の収支シミュレーションに基づく中期財務計画を策定。将来を見据えた戦略的な財政管理体制を確立した。<br/>                 ✓ 【適切な資金運用と確保】一時的な資金需要に対し短期借入を適時に実行し、安定的な運転資金を確保。流動性リスクを適切に管理し、円滑な資金運営を維持した。<br/>                 ✓ 【収支分析と構造的課題の特定】外部環境の悪化や会計基準改正に伴う引当金計上により、経常収支および事業収支差額はマイナスとなった。この現状を踏まえ、財政構造の抜本的改善を次年度以降の喫緊の課題とした。</p> |
| (2) 人事政策強化  | <p>✓ 【組織改組に伴う事務執行体制の高度化】総務・人事課の分離独立および課長級の配置転換を実施し、専門性の高い事務執行体制への移行を優先した。この組織刷新に伴い、多様な働き方の推進や諸制度の見直しについては、新体制下での業務分析に基づきより実効性を高めるため、次年度以降に実施時期を移行。現在は新組織の稼働状況を踏まえた論点整理に向け、予備的な検討を進めている。<br/>                 ✓ 【人事システム】人事システム導入については、候補システムの調査・比較等まで行ったが、導入効果および条件精査のため継続検討することとした。</p>                              |

## (3) 私学法改正の対応

| 取組の総括  |  |                |             |      |          |   |        |      |            |   |       |      |           |   |       |      |             |   |        |      |            |   |       |                |      |   |       |                |      |
|--|--|----------------|-------------|------|----------|---|--------|------|------------|---|-------|------|-----------|---|-------|------|-------------|---|--------|------|------------|---|-------|----------------|------|---|-------|----------------|------|
| <p>✓ 改正私立学校法の施行に伴い、本法人ではガバナンスの抜本的強化と経営の透明性向上を目的とした新体制への移行を完遂した。<br/>                 ✓ まず、寄附行為および各種選任基準の刷新により、理事・監事・評議員の選任プロセスを透明化するとともに、各機関の権限と責任を再定義した。理事会においては教学・総務・財務の担当職務を明確化し、外部理事を含む機動的な執行・監督体制を確立。監事・会計監査人・内部監査室による「三様監査」の実施や、内部統制システム基本方針の策定を通じ、多角的な相互牽制とPDCAサイクルの構築を図った。<br/>                 ✓ また、役員・評議員を対象とした継続的な研修機会の確保や、公式サイトでの迅速な情報公開により、適切な職務執行を支える資質向上と社会に対する説明責任の履行を徹底した。これらの取り組みにより、法令遵守に留まらない、建学の精神に則った自律的かつ健全な学校運営の基盤を強固なものとした。</p> |  |                |             |      |          |   |        |      |            |   |       |      |           |   |       |      |             |   |        |      |            |   |       |                |      |   |       |                |      |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |                |             |      |          |   |        |      |            |   |       |      |           |   |       |      |             |   |        |      |            |   |       |                |      |   |       |                |      |
| (1) 理事・理事会の対応事項  | <p>✓ 【選任プロセスの透明化と体制刷新】「理事選任基準」等の新規に基づき、令和7(2025)年6月の評議員会において透明性の高い理事選任を実施した。寄附行為改正を通じて理事の役割と責任を明確化し、以下のように教学・総務・財務の担当職務を割り当てることで、機動的な執行体制を確立した。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">1</td> <td style="width: 35%;">中村 誠司</td> <td style="width: 30%;">教学担当</td> <td style="width: 30%;">長崎国際大学学長</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>橋之口 裕太</td> <td>教学担当</td> <td>九州文化学園高校校長</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>安部 直樹</td> <td>総務担当</td> <td>九州文化学園理事長</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>安部 雅隆</td> <td>総務担当</td> <td>九州文化学園法人本部長</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>綾部 賢一郎</td> <td>財務担当</td> <td>長崎国際大学事務局長</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>大串 祐一</td> <td>組織運営体制へのチェック機能</td> <td>外部理事</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>樋口 聡子</td> <td>組織運営体制へのチェック機能</td> <td>外部理事</td> </tr> </table> <p>✓ 【監督機能の強化と研修の充実】外部理事の招聘および評議員会との相互牽制体制</p> | 1              | 中村 誠司       | 教学担当 | 長崎国際大学学長 | 2 | 橋之口 裕太 | 教学担当 | 九州文化学園高校校長 | 3 | 安部 直樹 | 総務担当 | 九州文化学園理事長 | 4 | 安部 雅隆 | 総務担当 | 九州文化学園法人本部長 | 5 | 綾部 賢一郎 | 財務担当 | 長崎国際大学事務局長 | 6 | 大串 祐一 | 組織運営体制へのチェック機能 | 外部理事 | 7 | 樋口 聡子 | 組織運営体制へのチェック機能 | 外部理事 |
| 1  | 中村 誠司  | 教学担当           | 長崎国際大学学長    |      |          |   |        |      |            |   |       |      |           |   |       |      |             |   |        |      |            |   |       |                |      |   |       |                |      |
| 2  | 橋之口 裕太   | 教学担当           | 九州文化学園高校校長  |      |          |   |        |      |            |   |       |      |           |   |       |      |             |   |        |      |            |   |       |                |      |   |       |                |      |
| 3  | 安部 直樹  | 総務担当           | 九州文化学園理事長   |      |          |   |        |      |            |   |       |      |           |   |       |      |             |   |        |      |            |   |       |                |      |   |       |                |      |
| 4  | 安部 雅隆  | 総務担当           | 九州文化学園法人本部長 |      |          |   |        |      |            |   |       |      |           |   |       |      |             |   |        |      |            |   |       |                |      |   |       |                |      |
| 5  | 綾部 賢一郎   | 財務担当           | 長崎国際大学事務局長  |      |          |   |        |      |            |   |       |      |           |   |       |      |             |   |        |      |            |   |       |                |      |   |       |                |      |
| 6  | 大串 祐一  | 組織運営体制へのチェック機能 | 外部理事        |      |          |   |        |      |            |   |       |      |           |   |       |      |             |   |        |      |            |   |       |                |      |   |       |                |      |
| 7  | 樋口 聡子  | 組織運営体制へのチェック機能 | 外部理事        |      |          |   |        |      |            |   |       |      |           |   |       |      |             |   |        |      |            |   |       |                |      |   |       |                |      |

|                   |   |
|-------------------|---|
|                   | により、運営の透明性を向上させた。また、新任・外部理事を含むすべての理事を対象とした情報提供および研修機会(2/13)を確保し日本私立大学協会学校法人役員研修会の資料配布と動画視聴を行うなど、適切な職務執行を支える資質向上支援を推進した。   |
| (2) 監事の対応事項       | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓【監事選任の透明化と監査の計画的運用】「監事の選任基準」に基づき、令和7(2025)年6月の評議員会において透明性の高い選任を実施。年度監査計画の理事会報告および四半期ごとの活動報告を徹底し、経営監督の実効性を高めた。</li> <li>✓【三様監査の推進と監査環境の整備】監事・会計監査人・内部監査室による三様監査を年2回実施し、内部統制や経営課題に関する多角的な連携体制を確立した。また、監事への情報提供は内部監査室長が定期的に打ち合わせを行った。また研修機会(2/13)を確保し文部科学省による監事研修会の資料配布と動画視聴を行うなど、高度な監査環境を維持・支援した。</li> </ul>                            |
| (3) 評議員・評議員会の対応事項 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓【評議員構成の適正化と選任の透明性向上】「評議員の選任基準」に基づき、建学の精神や専門性のバランスに配慮した評議員構成を確立した。令和7(2025)年度第1回理事会、また第1回および第3回評議員会において透明性の高い選任プロセスを完遂し、多様な属性による監督体制を構築した。</li> <li>✓【意思決定機能の強化と研修の実施】寄附行為改正により評議員会の権限と責務を明確化し、理事会との適切な相互牽制体制を整備した。また、新任・外部評議員を含むすべての評議員を対象とした情報提供および研修機会(2/13)を確保し日本私立大学協会学校法人役員研修会の資料配布と動画視聴を行うなど、適切な職務執行を支える資質向上支援を推進した。</li> </ul> |
| (4) 会計監査人の対応事項    | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓【会計監査人の独立性確保と選任の透明化】改正私学法に準拠した外部監査体制を構築するため、会計監査人の選任については、寄附行為の定めにより、候補者の独立性および専門性の精査を厳格に実施した。令和7年6月の評議員会において、公認会計士の会計監査人資格証明書等の客観的資料に基づき適切に会計監査人を選任し、選任過程の透明性を確保した。これにより、計算書類の適正性を担保し、社会的な信頼に応える監査体制を整えた。</li> </ul>   |
| (5) 内部統制システムの対応事項 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓【内部統制システムの運用支援と体制構築】令和7(2025)年4月施行の「内部統制システム整備の基本方針」に基づき、理事会の意思決定および監督機能を支える情報提供体制を確立した。詳細については後述の「IV. 学校法人の業務の適正を確保するための体制(内部統制システム)の整備および運用状況の概要」に記載の通りであるが、事務局として理事会のPDCA機能が実効的に発揮されるよう、組織的な協力体制を構築・運用している。</li> </ul>   |
| (6) 情報の公表         | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓【情報公開の適時適切な実施】改正私立学校法および関係法令に基づき、公式サイト「情報公開」ページの内容を最新の情報に更新した。公表すべき事項を遅滞なく掲載することで、社会に対する説明責任の履行と経営の透明性確保を徹底した。</li> </ul>   |

#### (4) 学園のブランド向上

| 取組の総括  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 中期計画で「地域創造」をミッションに掲げ、ターゲット層を再定義した。創立80周年広報では、新聞全面広告等を通じて5万人の人的資産と教育実績を可視化し、ブランド認知度を大幅に強化した。情報発信面ではSNS活用によるインナーコミュニケーションを推進し、組織全体の広報意識を醸成した。また、法人事務局による各部門への横断的な助言・支援体制を運用。現在は組織刷新に伴うニーズ精査を進めており、次年度以降、各部門の付加価値向上をより強力に牽引するための新たな支援枠組みの構築に向けた基盤を整備した。</li> </ul> |  |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 学園ブランドの形成・強化   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓【ブランドミッションの策定と80周年記念広報の展開】中期計画において「地域創造」を新たなブランドミッションに掲げ、医療・観光等の地域重要分野を担う層をターゲットとして明確化した。創立80周年を機に実施した新聞全面広告では、5万人の人的資産と豊富な養成資格を可視化。地域貢献の実績を広く社会に提示することで、学園ブランドの認知度と価値を大幅に強化した。</li> </ul> |
| (2) 積極的な情報発信   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓【学内外への情報発信と意識醸成】公式サイトでのメディア実績公開に加え、SNSを通じた教職員への情報共有を継続。インナーコミュニケーションを強化し、学園全体での広報力の底上げを図った。</li> </ul>   |
| (3) 各部門の付加価値向上の支援  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓【管理部門による横断的支援と次期施策の精査】各部門の事業計画に対し、総務・人事・財務・企画の各視点から日常的な助言・支援を行い、円滑な事業執行を支えた。当年度は法人全体の組織刷新を優先したが、これを機に次年度以降、各部門の付加価値向上をより直接的に牽引するための新たな支援枠組みの構築に向け、課題抽出とニーズの整理を継続している。</li> </ul>           |

## (5) その他の取組

| 取組の総括  |   |
|--|---|
| <p>✓ 事務局長会議等を軸に各種計画の進捗管理を徹底し、遅延部門への支援を通じて事業執行の適正化を図った。組織面では法人事務局の総務・人事・財務に関する部署を2課から3課体制へ再編し、大学総務課との兼務や配置換により業務を最適化。また「部門・部署横断型プロジェクト」を新設し、若手職員と学生ベンチャーによる広報強化など、機動的な課題解決体制を確立した。認証評価においては財務・経営基盤の正当性を立証し、受審対応を完遂。創立80周年広報やSDGsイベントを通じた地域連携も深化させ、組織力の強化と社会的な説明責任の履行を両立させた。</p> |   |
| 項目名・取組名  | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 各種計画の進捗管理  | <p>✓ 【計画進捗の可視化と執行支援の推進】 事務局長会議において中期計画および年度計画を定例議題化し、四半期ごとの進捗報告を通じて課題の早期抽出と共有を徹底した。計画未達・遅延が懸念される部門に対しては、随時助言や支援を行い、学園全体の事業執行の平準化と予算管理の適正化を推進した。</p>   |
| (2) 学園内連携の推進   | <p>✓ 【横断的連携体制の確立と戦略的広報の展開】 「部門・部署横断型プロジェクト業務規程」を新設し、法人特命事項への機動的な対応体制を整備した。学園責任者連絡会(6回)および事務局長会(11回)の定期開催を通じ、経営戦略の共有と予実管理の徹底を図った。</p> <p>✓ 【地域貢献と人材確保に向けた情報発信】 SDGs イベントへの全校出展による地域連携の強化に加え、創立80周年記念の新聞全面広告を全国規模で展開。学園の教育実績を可視化するとともに、教職員採用に向けたメッセージを発信するなど、学園のブランド価値向上と優秀な人材確保に向けた戦略的広報を完遂した。</p> |
| (3) 業務効率化  | <p>✓ 【組織再編と兼務体制による業務最適化】 法人事務局を総務・人事・財務の3課体制へ改組し、各分野の専門性を強化した。法人と大学の総務課長兼務や主要ポストの配置換により、部門間連携の深化と業務知見の共有を図り、事務執行の効率性を高めた。</p> <p>✓ 【現場主導の業務分析と基盤整備】 全学的な業務標準化の前段階として、各課単位で実務の分析と改善を遂行した。ボトムアップによる業務プロセスの見直しを通じて課題の可視化を図り、次年度以降の抜本的な標準化に向けた体制を整えた。</p>   |
| (4) 機関別認証評価の対応   | <p>✓ 【認証評価における経営・財務基盤の点検と受審対応】 大学・短期大学の認証評価受審に際し、法人事務局として「基準6. 経営・管理と財務」の自己点検・評価を主導した。内部統制や財務の健全性を証明する根拠資料を体系的に整備し、本法人の適正な運営体制を明示した。10月の実地調査ではヒアリングに真摯に対応し、ガバナンスおよび財務運営の妥当性について説明を尽くすなど、組織的な受審支援を完遂した。</p>  |
| (5) 部門・部署横断型プロジェクト   | <p>✓ 【横断型プロジェクト制度の新設と運用開始】 「部門・部署横断型プロジェクト業務規程」を制定し、法人本部長特命による機動的な課題解決体制を構築した。人事考課との連動により職員の意欲向上と人材育成を図り、当年度は「情報共有化」と「広報強化」の2プロジェクトを始動した。</p> <p>✓ 【広報機能の強化と産学連携の推進】 「広報強化プロジェクト」では、若手職員と学生ベンチャーが連携し、SNS戦略を強化。インフルエンサーによる講習会の実施や、学生制作動画による情報発信を通じて、デジタル広報の質の向上と学内の広報意識の醸成を推進した。</p>               |

## (6) 第2期(2021-2025)中期計画の総括と評価

|      |   |
|------|---|
| 教学関係 | <p>✓ 学園内の各設置校と密に連携して課題を汲み取る体制を整備・運用した。学園の公共性や社会的責任に基づく情報公開規則に則り、法令改正や補助金要件への合规性を担保した正確な教学・経営情報のWEB公表を統括した。今後の課題は、閲覧性や検索性といったユーザビリティの改善を図ること、および各会議体を通じて執行部側と各校の間で時機を逸することなく課題意識の共有をさらに深化させることである。</p>             |
| 人事関係 | <p>✓ ガバナンス強化に向けた諸規則の整備、および監事・内部監査報告に基づく労務管理体制の適正化を主導した。全学的な人手不足や世代交代に対し、WEBサイトの採用情報発信強化を通じて多様な職員採用活動を統括・支援した。今後の課題は、業務依存を排すため事務組織の標準化とマニュアル化を徹底し計画的な人事異動を定着させること、および経営基盤を支える中核的な高度専門人材を安定確保する処遇制度を再構築することである。</p> |
| 施設関係 | <p>✓ 学園が保有する全資産の管理状況を統括し、基本金組入計画等と整合した中長期的な施設設備修繕計画の進捗・執行管理を担った。各部門からの要望のヒアリングに</p>   |

|             |   |
|-------------|---|
|             | <p>基づき、大容量投資の優先順位付けと予算配分をコントロールした。今後の課題は、校舎等の老朽化対策に伴う投資キャッシュ（修繕・改修費用）の平準化をさらに精緻に検証すること、および財政負担を軽減する効率的な管理運用の指針を確立することである。</p>   |
| <p>財務関係</p> | <p>✓ 「約定返済の確実な履行」と財務体質の健全化を最優先とし、資金運用実績報告や内部監査報告に基づく予算管理を徹底した。エネルギー価格高騰に対しては電力契約の見直し（部分供給方式等）を迅速に行い、経費削減や物品の共同調達検討を進めて固定費を圧縮した。今後の課題は、依然として厳しい収支が続く部門の早期収支均衡を推し進め、学園全体の経常収支差額目標の達成に向けた強固な財政基盤を再構築することである。</p> |

## 10. 学園全体

### (1) 学園全体に関する計画

| 取組の総括  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「第3次中期計画」の策定では、認証評価の適合判定を反映し、次期5か年の戦略的経営指針を確立した。工程管理を徹底し、次年度予算編成との連動性を確保した。</li> <li>✓ 創立80周年事業では、記念式典や祝賀会の完遂に加え、記念誌刊行やSNS活用による広報を展開。目標1億円の記念募金も始動し、教育環境の充実を図った。</li> <li>✓ 教育・経営面では、大学・短大共に認証評価で「適合」認定を受け、計11項目が「優れた取組」と評価される等、学園の信頼性を高めた。DX推進では次期グループウェアの選定やICTインフラ刷新に向けた公的助成の採択を実現した。</li> <li>✓ 人事・組織面では、土曜休日化や始業時間繰下げ等の働き方改革を断行し、人材確保・定着に向けた労働環境を整備した。併せて同窓会連合会の発足に向けた協議を推進し、全学園的な支援体制の構築に注力した。これらの取組を通じ、次期中期計画に向けた強固な経営・教育基盤を構築した。</li> </ul> |   |
| 項目   | 取組の実績・成果・課題   |
| (1) 第3次中期計画の策定   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 【第3次中期計画の策定と計画的運用】令和8(2026)年度始動の次期中期計画について、認証評価結果の反映や新学部設置検討を経て、令和8(2026)年3月に正式決定した。策定プロセスにおいては、早期に基本構成案や財務目標を各部門へ提示する等、次年度予算編成との連動性を重視した工程管理を徹底し、事業執行への影響を最小限に抑えた。認証評価での「適合」判定を最終反映した本計画により、次期5か年の戦略的経営の指針を確立した。</li> </ul>   |
| (2) 学園80周年事業   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 【推進体制の構築と記念行事の実施】創立80周年の節目を祝し、学園の歴史を継承し未来へ繋ぐべく、令和7(2025)年4月21日に実行委員会を設置した。学園責任者連絡会(全体統括)、事務局長会(進捗管理)、実務ワーキンググループ(執行)による多層的な推進体制のもと、以下の主要事業を完遂した。</li> <li>✓ 記念式典・講演会(12月15日/アルカス SASEBO) 「思うは招く」をテーマとした植松努氏による記念講演を挙行。学生・生徒の夢を育む教育理念を再確認する機会とした。</li> <li>✓ 記念祝賀会(12月15日/ホテルオークラ JR ハウステンボス) 関係各方面への謝意を表明するとともに、学園の結束を深める場とした。</li> <li>✓ 絆の茶会(12月7日/アルカス SASEBO) 本学園の伝統文化を地域社会へ披露し、交流を深めた。</li> <li>✓ 【記念誌の発行とインナーブランディング】記念誌『想いを紡いで80年、未来へ』を令和8(2026)年3月に刊行。70周年以降の歩みに加え、小中学校の活動や学生・卒業生参加型の特集を組むことで、学園一体となった歴史を編纂した。また、制作過程をSNSで随時発信する「参加型広報」を展開し、教職員・学生の帰属意識と本事業への関心を高める工夫を講じた。</li> <li>✓ 【記念募金の推進と教育環境の整備】「九州文化学園創立80周年記念募金」を開始。記念事業の遂行および教育・研究環境のさらなる充実に向け、令和12(2030)年までの継続的な支援を広く呼びかけた。</li> <li>✓ 目標金額：1億円(5か年総額)</li> <li>✓ 当年度実績：約16百万円(318件)</li> </ul> |
| (3) 大学・短大の機関別認証評価対応  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 【認証評価における「適合」認定と高評価の獲得】長崎国際大学・長崎短期大学の両校で令和7(2025)年度機関別認証評価を受審し、10/15～10/17の現地調査を経て、ともに評価基準に「適合」していると認定された。大学で5項目、短期大学で6項目が「優れた取組」として選定されるなど、教育・経営の両面で高い評価を獲得した。今回の受審を通じて立証された本学園の優位性と信頼性を堅持し、次期中期計画に掲げるさらなる教育の質の追求を継続していく。</li> </ul>  |
| (4) 学園全体での同窓会組織の強化   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 【学園同窓会連合会の発足に向けた合意形成の推進】学園一体となった支援体制の構築を目指し、各校同窓会役員への趣旨説明および組織化に向けた協議を実施した。当年度は各組織との丁寧な調整による基盤整備を優先し、連合会発足に向けた共通認識の醸成を図った。具体的な組織化は次年度以降の課題としたが、構築された強固な連携関係を軸に、卒業生と学園が共に発展するネットワークの構築を推進する。</li> </ul>   |
| (5) IT・DX推進  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 【経営・教育DXの戦略的推進と基盤整備】IT・DX推進アドバイザーを招聘し、専門的知見に基づく基盤刷新を推進した。経営面では「情報共有化プロジェクト」を通じ、令和8(2026)年度導入に向けた次期グループウェアを選定。教育面ではエンrollment・マネジメントによる教育成果の可視化と特色化に向けた具体的提案を受け、次期中期計画への反映を進めている。</li> </ul>  |

|               |   |
|---------------|---|
|               | <p>✓ <b>【ICT インフラの高度化と公的助成の活用】</b> 大学構内ネットワークの更新計画を策定し、文部科学省「ICT 活用推進事業」に採択された。これにより、次世代型教育を支える強固な通信環境の整備に向けた体制を整えた。</p>  |
| (6) 教職員の確保・定着 | <p>✓ <b>【働き方改革の断行と職場環境の改善】</b> 人材確保と定着率向上に向け、九州文化学園小学校・九州文化学園中学校・九州文化学園高等学校における土曜日の原則休日化を実現した。併せて大学・法人および専門学校の始業時間を繰り下げるなど、勤務体系の最適化を実施した。</p> <p>✓ <b>【エンゲージメント向上に向けた基盤整備】</b> 80周年事業を通じた理念の共有により、教育機関で働く意義の再認識を促した。一連の労働環境改善を「教育の質向上への基盤」と位置づけ、教職員がより高い意欲を持って教育・研究活動に専念できる体制を構築した。</p> |

## (2) その他特記事項

| 取組の総括   |  |
|---|--|
| <p>✓ 継続検討事業では、令和9(2027)年度開設予定の「情報学部情報デザイン学科」の設置認可申請を完了した。官民連携による外部資金を確保し、地域デジタル拠点の構築に向けた経営基盤を確立した。新規挑戦事業では、高校食物調理科への旺盛な需要を受け、県との調整により定員増に先立つ特例的な受入れを断行。地域ニーズへの即応と学園規模の拡大を両立させた。また、創立100周年に向けた長期ビジョンと「100年構想図」を内外に提示。学園の永続的な発展性を可視化することで、寄付者の支援意欲向上と次世代型環境構築への共通認識を形成した。</p> |  |
| 項目  | 取組の実績・成果・課題  |
| (1) 継続検討事業  | <p>✓ <b>【情報学部の設置認可申請と官学連携による基盤整備】</b> 理工系学部の新設について、名称を「情報学部情報デザイン学科(令和9(2027)年4月開設予定)」とし、令和8(2026)年3月に設置認可申請を完了した。本計画は佐世保市議会の支援決議を経て理事会で決定された。文部科学省の機能強化支援事業および市の設置支援事業による外部資金を確保し、現校地におけるデジタル教育拠点の構築に向けた財政・運営基盤を確立した。</p> |
| (2) 新規挑戦事業  | <p>✓ <b>【食物調理科の定員拡充に向けた機動的対応】</b> 食物調理科への旺盛な進学需要に応えるため、長崎県との調整を経て、令和9(2027)年度の定員増に先立つ特例的な受入れ(2学級規模)を断行した。行政との緊密な連携により教育機会の確保と地域ニーズへの即応を両立させた本件は、将来的な学級増を見据えた戦略的な教育環境整備の一環として、学園の規模拡大に大きく寄与するものである。</p>                     |
| (3) 100周年に向けて   | <p>✓ <b>【100周年を見据えた長期ビジョンの提示と意識醸成】</b> 80周年を機に、20年後の創立100周年に向けた将来ビジョンとキャンパス整備のグランドデザインを策定した。記念式典において「100年構想図」を披露し、学園の永続的な発展性を可視化することで、寄付者の支援意欲の向上と、次世代型教育環境の構築に向けた共通認識の形成を図った。</p>   |

## 11.法人全体の中期計画および事業計画の進捗・達成状況

### (1) 中期計画の達成状況

| 項目     | 進捗および達成状況   |
|--------|---|
| (1) 教学 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ コロナ禍の遠隔対応を機に全学で教育 DX が進み、3 ポリシーや教育目的に基づく客観的な質保証体制への完全な転換を達成した。</li> <li>✓ 大学のポートフォリオ修学支援や短大の地域連携専門教育が定着。高校以下では「個別最適な学び」の先進的実践が結実し、日教弘教育賞全国表彰等の高い教育ブランドを確立した。残された課題は、人口急減下での全学的な学生・生徒募集(定員充足対策)の再強化と、教育の質保証のさらなる高度化である。</li> </ul>          |
| (2) 人事 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 5か年を通じた SD・FD や ICT 研修の計画的実施により、激変する環境への組織的適応力を底上げした。</li> <li>✓ リソースの制約に直面する中、大学のキャリア支援等における公的資格取得を推進。さらに外部連携校との事務共通システムの構築・共同導入やクロスアポイントメント制度の活用により、組織の枠を超えた人的資源の効率化を具現化した。残された課題は、世代交代に対応する業務標準化の徹底と中核人材の育成である。</li> </ul>              |
| (3) 施設 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 5か年間で、全学的な安全・防犯対策と、学園ネットワークの更新を完遂した。</li> <li>✓ 各校の建物診断や環境整備を統括しつつ、各設置校においては、外部連携校との学習管理システム(LMS)の共同運用基盤を確立し、時代に即した教育環境価値を維持した。残された課題は、中長期修繕計画の策定による老朽化対策(投資キャッシュ)の平準化、および省エネ・脱炭素(SDGs)の推進である。</li> </ul>                                  |
| (4) 財務 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 5か年一貫して経営努力を重ね、資金繰りにおける「約定返済の確実な履行」を死守して学園の財務信用を維持した。</li> <li>✓ 法人事務局の大学への移転、光熱費圧縮のための電力契約見直し(部分供給方式等)や共同調達、外部資金獲得に注力したが、少子化による構造的な経常赤字(250百万円)に加え、最終年度は法改正に伴う諸引当金の特別計上で PL 上も巨額の赤字となる。残された課題は、部門別収支の早期均衡と財源多角化による財務体質の再構築である。</li> </ul> |

### (2) 事業計画の達成状況

| 項目     | 進捗および達成状況  |
|--------|--|
| (1) 教学 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 各校で特色ある教育活動が展開された。大学では3ポリシーに基づく質保証とポートフォリオによる修学支援が機能し、短期大学では地域連携や食物料・幼児教育の専門教育が深化。高校・中学・小学校では ICT を用いた「個別最適な学び」の導入で日教弘教育賞全国表彰等の成果を上げ、幼稚園や調理師専門学校でも資格取得や確実な就職・進路実績を達成した。少子化が進む中、多様なニーズに応える教育の質の維持・向上が着実に進捗した。</li> </ul> |
| (2) 人事 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 各教育現場の専門性向上と組織力強化に向け、年間計画に基づく SD・FD、ICT 研修が網羅的に実施され、教職員の資質向上が進んだ。キャリア支援体制強化に向けた資格取得推進、外部連携校との事務管理システムの共同導入、クロスアポイントメント制度の活用など、限られた人的リソースの有効活用に努めた。今後の課題は、団塊世代の退職等に伴う世代交代を見据え、教学・運営を担う高度専門人材の育成を加速することである。</li> </ul>    |
| (3) 施設 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 児童・生徒・学生が安心・安全に活動できる環境整備と、ICT 学習環境の魅力向上が計画的に進んだ。電子錠の導入やドア改修等の防犯対策、定期的な建物診断による保全が遂行されたほか、遠隔授業や持参 PC(BYOD)に対応する学内 Wi-Fi 環境の拡張、共通学習管理システム(LMS)の導入・運用基盤の整備が完了した。中長期修繕計画に基づき、他校への競争力維持と省エネを意識した効率的運用との両立が図られた。</li> </ul>    |
| (4) 財務 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 各校で予算管理や固定費圧縮に努め、資金繰りにおける約定返済については確実に履行した。しかし財務状況は極めて厳しく、令和7(2025)年度決算見込みは構造的要因による経常収支 250百万円の赤字に加え、法改正に伴う諸引当金の計上等により単年度の事業収支(PL)上も赤字となる。依然として抜本的な財務改善には至っておらず、早期の収支均衡と財源多角化による財務体質の再構築が急務となっている。</li> </ul>            |

### Ⅲ. 財務の概要

#### 1. 決算の概況

##### ① 貸借対照表の状況の経年比較

##### ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位:百万円)

|              | 令和3<br>(2021)<br>年度末 | 令和4<br>(2022)<br>年度末 | 令和5<br>(2023)<br>年度末 | 令和6<br>(2024)<br>年度末 | 令和7<br>(2025)<br>年度末 |
|--------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 固定資産         | 14,575               | 14,482               | 14,316               | 13,931               | 13,555               |
| 流動資産         | 1,823                | 1,568                | 1,129                | 1,044                | 800                  |
| 資産の部合計       | 16,398               | 16,050               | 15,445               | 14,976               | 14,355               |
| 固定負債         | 2,322                | 2,057                | 1,702                | 1,360                | 1,281                |
| 流動負債         | 1,272                | 1,442                | 1,432                | 1,279                | 1,249                |
| 負債の部合計       | 3,595                | 3,499                | 3,135                | 2,639                | 2,530                |
| 基本金          | 19,415               | 19,622               | 19,984               | 20,215               | 20,264               |
| 繰越収支差額       | △6,612               | △7,071               | △7,674               | △7,878               | △8,439               |
| 純資産の部合計      | 12,803               | 12,551               | 12,310               | 12,337               | 11,825               |
| 負債および純資産の部合計 | 16,398               | 16,050               | 15,445               | 14,976               | 14,355               |

(備考)金額は科目ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

##### イ) 財務比率の経年比較

(単位:%)

| 比率人      | 算式  | 令和3<br>(2021)<br>年度末 | 令和4<br>(2022)<br>年度末 | 令和5<br>(2023)<br>年度末 | 令和6<br>(2024)<br>年度末 | 令和7<br>(2025)<br>年度末 |
|----------|---|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 運用資産余裕比率 | $\frac{\text{運用資産}-\text{外部負債}}{\text{経常支出}}$ | 17.8                 | 14.1                 | 11.1                 | 18.1                 | 16.8                 |
| 流動比率     | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$             | 143.3                | 108.8                | 78.8                 | 81.7                 | 64.0                 |
| 総負債比率    | $\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$               | 21.9                 | 21.8                 | 20.3                 | 17.6                 | 17.6                 |
| 前受金保有率   | $\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$              | 364.4                | 316.5                | 222.2                | 201.7                | 147.0                |
| 基本金比率    | $\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$           | 96.1                 | 97.8                 | 98.7                 | 99.4                 | 97.9                 |
| 積立率      | $\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$             | 43.6                 | 38.0                 | 30.3                 | 27.0                 | 22.3                 |

(備考)「運用資産」= 現金預金+特定資産+有価証券

「外部負債」= 借入金+学校債+未払金+手形債務

「要積立額」= 減価償却累計額+退職給与引当金+第2号基本金+第3号基本金

② 事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位:百万円)

| 科目            |             | 令和3<br>(2021)<br>年度 | 令和4<br>(2022)<br>年度末 | 令和5<br>(2023)<br>年度末 | 令和6<br>(2024)<br>年度末 | 令和7<br>(2025)<br>年度末 |
|---------------|-------------|---------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 教育活動収支        | 事業活動収入の部    |                     |                      |                      |                      |                      |
|               | 学生生徒等納付金    | 3,804               | 3,803                | 3,873                | 3,766                | 3,681                |
|               | 手数料         | 59                  | 60                   | 54                   | 54                   | 53                   |
|               | 寄付金         | 154                 | 16                   | 12                   | 131                  | 42                   |
|               | 経常費等補助金     | 1,366               | 1,397                | 1,434                | 1,404                | 1,625                |
|               | 付随事業収入      | 387                 | 334                  | 322                  | 379                  | 362                  |
|               | 雑収入         | 180                 | 187                  | 230                  | 200                  | 217                  |
|               | 教育活動収入計     | 5,950               | 5,797                | 5,925                | 5,934                | 5,980                |
|               | 事業活動支出の部    |                     |                      |                      |                      |                      |
|               | 人件費         | 3,301               | 3,294                | 3,377                | 3,242                | 3,161                |
|               | 教育研究経費      | 1,880               | 1,989                | 2,037                | 1,919                | 2,191                |
|               | 管理経費        | 748                 | 796                  | 768                  | 770                  | 859                  |
|               | 徴収不能額等      | 7                   | 7                    | 6                    | 4                    | 6                    |
|               | 教育活動支出計     | 5,936               | 6,086                | 6,188                | 5,935                | 6,217                |
| 教育活動収支差額      | 14          | △289                | △263                 | △1                   | △237                 |                      |
| 教育活動外収支       | 事業活動収入の部    |                     |                      |                      |                      |                      |
|               | 受取利息・配当金    | 28                  | 27                   | 26                   | 27                   | 27                   |
|               | その他の教育活動外収入 | 0                   | 0                    | 0                    | 0                    | 0                    |
|               | 教育活動外収入計    | 28                  | 27                   | 26                   | 27                   | 27                   |
|               | 事業活動支出の部    |                     |                      |                      |                      |                      |
|               | 借入金等利息      | 22                  | 18                   | 16                   | 14                   | 12                   |
|               | その他の教育活動外支出 | 0                   | 0                    | 0                    | 0                    | 0                    |
| 教育活動外支出計      | 22          | 18                  | 16                   | 14                   | 12                   |                      |
| 教育活動外収支差額     | 6           | 9                   | 10                   | 13                   | 15                   |                      |
| 経常収支差額        | 20          | △280                | △253                 | 12                   | △222                 |                      |
| 特別収支          | 事業活動収入の部    |                     |                      |                      |                      |                      |
|               | 資産売却差額      | 0                   | 11                   | 1                    | 0                    | 0                    |
|               | その他の特別収入    | 42                  | 23                   | 13                   | 21                   | 13                   |
|               | 特別収入計       | 42                  | 34                   | 14                   | 21                   | 13                   |
|               | 事業活動支出の部    |                     |                      |                      |                      |                      |
|               | 資産処分差額      | 0                   | 4                    | 2                    | 7                    | 28                   |
|               | その他の特別支出    | 1                   | 2                    | 0                    | 0                    | 274                  |
|               | 特別支出計       | 1                   | 6                    | 2                    | 7                    | 302                  |
| 特別収支差額        | 41          | 28                  | 12                   | 14                   | △289                 |                      |
| 基本金組入前当年度収支差額 | 61          | △252                | △241                 | 26                   | △511                 |                      |
| 基本金組入額合計      | △452        | △214                | △389                 | △250                 | △147                 |                      |
| 当年度収支差額       | △392        | △466                | △630                 | △223                 | △658                 |                      |
| 前年度繰越収支差額     | △6,221      | △6,612              | △7,071               | △7,674               | △7,878               |                      |
| 基本金取崩額        | 0           | 7                   | 27                   | 19                   | 97                   |                      |
| 翌年度繰越収支差額     | △6,612      | △7,071              | △7,674               | △7,878               | △8,439               |                      |
| (参考)          |             |                     |                      |                      |                      |                      |
| 事業活動収入計       | 6,019       | 5,858               | 5,965                | 5,982                | 6,020                |                      |
| 事業活動支出計       | 5,958       | 6,110               | 6,205                | 5,956                | 6,531                |                      |

(備考) 金額は科目ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

イ) 財務比率の経年比較

(単位:%)

| 比率人        | 算式   | 令和3<br>(2021)<br>年度 | 令和4<br>(2022)<br>年度末 | 令和5<br>(2023)<br>年度末 | 令和6<br>(2024)<br>年度末 | 令和7<br>(2025)<br>年度末 |
|------------|--|---------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 人件費比率      | $\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入(※)}}$          | 55.2                | 56.6                 | 56.7                 | 54.4                 | 52.6                 |
| 教育研究経費比率   | $\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入(※)}}$       | 31.5                | 34.1                 | 34.2                 | 32.2                 | 36.5                 |
| 管理経費比率     | $\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入(※)}}$         | 12.5                | 13.7                 | 12.9                 | 12.9                 | 14.3                 |
| 事業活動収支差額比率 | $\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$ | 1.0                 | △4.3                 | △4.0                 | 0.4                  | △8.5                 |
| 学生生徒等納付金比率 | $\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入(※)}}$     | 63.6                | 65.3                 | 65.1                 | 63.2                 | 61.3                 |
| 経常収支差差額比率  | $\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入(※)}}$       | 0.3                 | △4.8                 | △4.2                 | 0.2                  | △3.7                 |

(備考)※「経常収入」 = 教育活動収入 + 教育活動外収入

### ③ 資金収支計算書関係

#### ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:百万円)

| 収入の部        | 令和3<br>(2021)<br>年度 | 令和4<br>(2022)<br>年度末 | 令和5<br>(2023)<br>年度末 | 令和6<br>(2024)<br>年度末 | 令和7<br>(2025)<br>年度末 |
|-------------|---------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 学生生徒等納付金収入  | 3,804               | 3,802                | 3,873                | 3,765                | 3,681                |
| 手数料収入       | 59                  | 60                   | 54                   | 54                   | 53                   |
| 寄付金収入       | 153                 | 16                   | 11                   | 130                  | 41                   |
| 補助金収入       | 1,389               | 1,405                | 1,435                | 1,409                | 1,626                |
| 資産売却収入      | 0                   | 61                   | 1                    | 94                   | 73                   |
| 付随事業・収益事業収入 | 386                 | 334                  | 322                  | 379                  | 362                  |
| 受取利息・配当金収入  | 28                  | 27                   | 26                   | 27                   | 27                   |
| 雑収入         | 181                 | 188                  | 230                  | 200                  | 216                  |
| 借入金等収入      | 420                 | 0                    | 130                  | 350                  | 500                  |
| 前受金収入       | 458                 | 452                  | 418                  | 427                  | 415                  |
| その他の収入      | 1,698               | 1,709                | 1,803                | 1,887                | 1,784                |
| 資金収入調整勘定    | △588                | △582                 | △632                 | △574                 | △606                 |
| 前年度繰越支払資金   | 1,881               | 1,671                | 1,431                | 928                  | 861                  |
| 収入の部合計      | 9,870               | 9,142                | 9,103                | 9,077                | 9,033                |

| 支出の部      | 令和3<br>(2021)<br>年度 | 令和4<br>(2022)<br>年度末 | 令和5<br>(2023)<br>年度末 | 令和6<br>(2024)<br>年度末 | 令和7<br>(2025)<br>年度末 |
|-----------|---------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 人件費支出     | 3,270               | 3,292                | 3,351                | 3,208                | 3,203                |
| 教育研究経費支出  | 1,474               | 1,574                | 1,607                | 1,485                | 1,761                |
| 管理経費支出    | 719                 | 760                  | 726                  | 723                  | 807                  |
| 借入金等利息支出  | 22                  | 18                   | 15                   | 14                   | 12                   |
| 借入金等返済支出  | 472                 | 355                  | 276                  | 851                  | 875                  |
| 施設関係支出    | 470                 | 170                  | 196                  | 104                  | 20                   |
| 設備関係支出    | 128                 | 228                  | 100                  | 75                   | 174                  |
| 資産運用支出    | 55                  | 0                    | 0                    | 0                    | 0                    |
| その他の支出    | 1,818               | 1,816                | 2,217                | 2,010                | 1,889                |
| 資金支出調整勘定  | △229                | △503                 | △314                 | △253                 | △317                 |
| 翌年度繰越支払資金 | 1,671               | 1,431                | 928                  | 861                  | 609                  |
| 支出の部合計    | 9,870               | 9,142                | 9,103                | 9,077                | 9,033                |

(備考)金額は科目ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:百万円)

| 科目                               | 令和3<br>(2021)<br>年度 | 令和4<br>(2022)<br>年度末 | 令和5<br>(2023)<br>年度末 | 令和6<br>(2024)<br>年度末 | 令和7<br>(2025)<br>年度末 |
|----------------------------------|---------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 教育活動による資金収支                      |                     |                      |                      |                      |                      |
| 教育活動資金収入計                        | 5,949               | 5,796                | 5,924                | 5,933                | 5,978                |
| 教育活動資金支出計                        | 5,462               | 5,625                | 5,683                | 5,416                | 5,770                |
| 差引                               | 487                 | 171                  | 241                  | 517                  | 208                  |
| 調整勘定等                            | △34                 | 40                   | △90                  | △22                  | 8                    |
| 教育活動資金収支差額                       | 453                 | 211                  | 151                  | 495                  | 216                  |
| 施設整備等活動による資金収支                   |                     |                      |                      |                      |                      |
| 施設整備等活動資金収入計                     | 23                  | 8                    | 2                    | 5                    | 1                    |
| 施設整備等活動資金支出計                     | 599                 | 398                  | 297                  | 178                  | 194                  |
| 差引                               | △579                | △390                 | △295                 | △173                 | △193                 |
| 調整勘定等                            | 3                   | 224                  | △203                 | △1                   | 6                    |
| 施設整備等活動資金収支差額                    | △573                | △166                 | △498                 | △174                 | △187                 |
| 小計(教育活動資金収支差額<br>+施設整備等活動資金収支差額) | △120                | 45                   | △347                 | 321                  | 29                   |
| その他の活動による資金収支                    |                     |                      |                      |                      |                      |
| その他の活動資金収入計                      | 2,009               | 1,670                | 1,853                | 2,171                | 2,233                |
| その他の活動資金支出計                      | 2,111               | 1,959                | 2,013                | 2,552                | 2,520                |
| 差引                               | △102                | △289                 | △160                 | △381                 | △287                 |
| 調整勘定等                            | 11                  | 4                    | 4                    | △7                   | 7                    |
| その他の活動資金収支差額                     | △91                 | △285                 | △156                 | △388                 | △280                 |
| 支払資金の増減額(小計+その他の活動<br>資金収支差額)    | △210                | △240                 | △503                 | △67                  | △252                 |
| 前年度繰越支払資金                        | 1,881               | 1,671                | 1,431                | 928                  | 861                  |
| 翌年度繰越支払資金                        | 1,671               | 1,431                | 928                  | 861                  | 609                  |

(備考)金額は科目ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

ウ) 財務比率の経年比較

(単位:%)

| 比率名              | 算式   | 令和3<br>(2021)<br>年度 | 令和4<br>(2022)<br>年度末 | 令和5<br>(2023)<br>年度末 | 令和6<br>(2024)<br>年度末 | 令和7<br>(2025)<br>年度末 |
|------------------|--|---------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 教育活動資金収支差額<br>比率 | $\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$ | 7.6                 | 3.6                  | 2.6                  | 8.3                  | 3.6                  |

## 2.その他

### ① 運用資産の状況

|                       |   |
|-----------------------|---|
| 運用目的                  | <p>✓ 「学校法人九州文化学園資金運用規則」第1条、第2条において、以下の通り、資金運用の目的及び運用の原則を定めている。</p> <p style="text-align: center;">《学校法人九州文化学園資金運用規則(抜粋)》</p> <p>(目的)<br/>第1条 この規則は、学校法人九州文化学園(以下「学園」という。)における資金の運用に関する取扱いの基準及び方法を定め、資金を安全かつ有利に運用し、学園の発展に資することを目的とする。</p> <p>(運用の原則)<br/>第2条 資金運用は、安全性及び流動性を第一とし、運用にあたっては、価格変動リスクその他運用商品に関する情報収集を行い、適切に運用しなければならない。</p>  |
| 運用目標                  | <p>✓ 安全性確保の観点から、時価額を下回る銘柄について、価格回復が見込まれないものを売却し、損失拡大を回避する。</p>  |
| 運用方針(基本ポートフォリオを含む)    | <p>✓ 長期的な観点から安全かつ効率的な資金運用を基本とする。<br/>✓ 安全性及び流動性の確保と効率性の最大化を図った運用を行う。</p>  |
| 資産運用に関するガバナンス体制及び運用体制 | <p>✓ 「学校法人九州文化学園資金運用規則」第3条～第6条において、以下の通り、運用責任者・担当者、運用資金、運用権限を定め、適切なガバナンス体制を整備している。</p> <p style="text-align: center;">《学校法人九州文化学園資金運用規則(抜粋)》</p> <p>(運用責任者)<br/>第3条 運用責任者は、学校法人九州文化学園経理規則第7条第1項に規定する総括責任者(財務担当理事)とする。</p> <p>(運用担当者)<br/>第4条 運用担当者は、法人事務局財務課長とする。</p> <p>(運用資金)<br/>第5条 運用資金は、経常及び経常外活動に伴い生じた剰余金とする。</p> <p>(運用の対象)<br/>第6条 資金運用は、原則として、次の各号に定める金融商品を対象とする。<br/>(1) 公共債(国債、地方債、政府保証債、政府短期証券等)<br/>(2) 社債<br/>(3) 金融債<br/>(4) 外国政府又は外国法人の発行する債券(外債)<br/>(5) 投資信託<br/>(6) 国内株式<br/>(7) その他、安全性・流動性が高いと判断される金融商品<br/>2 前項のうち、債券については、公共債等明らかに高い信用力を有するもの以外は、信用ある格付機関からA以上の格付を得ている銘柄とする。</p> <p>(運用権限)<br/>第7条 運用権限は、下記のとおりとする。<br/>(1) 運用商品が、前条第1項第1号～第4号<br/>(ア) 1件あたり10億円超 理事会<br/>(イ) 1件あたり1億円超10億円以内 理事長<br/>(ウ) 1件あたり1億円以内 運用責任者<br/>(2) 運用商品が、前条第1項第5号～第7号<br/>(ア) 1件あたり1億円超 理事会<br/>(イ) 1件あたり3千万円超1億円以内 理事長<br/>(ウ) 1件あたり3千万円以内 運用責任者</p> |

**有価証券の状況**  
**< 総括表 >**

(単位:円)

| 種類                 |               |             |             |
|--------------------|---------------|-------------|-------------|
|                    | 貸借対照表計上額      | 時価          | 差額          |
| 時価が貸借対照表計上額を超えるもの  | 116,857,014   | 176,916,194 | 60,059,180  |
| （うち満期保有目的の債券）      | 0             | 0           | 0           |
| 時価が貸借対照表計上額を超えないもの | 430,000,000   | 364,854,477 | △65,145,523 |
| （うち満期保有目的の債券）      | 0             | 0           | 0           |
| 合計                 | 546,857,014   | 541,770,671 | △5,086,343  |
| （うち満期保有目的の債券）      | 0             | 0           | 0           |
| 時価のない有価証券          | 851,500,002   |             |             |
| 有価証券合計             | 1,398,357,016 |             |             |

(備考) 金額は種類ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

**< 明細表 >**

(単位:円)

| 種類        |               |             |             |
|-----------|---------------|-------------|-------------|
|           | 貸借対照表計上額      | 時価          | 差額          |
| 債券        | 330,000,000   | 292,289,340 | △37,710,660 |
| 株式        | 111,692,014   | 171,042,112 | 59,350,098  |
| 投資信託      | 105,165,000   | 78,439,219  | △26,725,781 |
| 貸付信託      | 0             | 0           | 0           |
| その他       | 0             | 0           | 0           |
| 合計        | 546,857,014   | 541,770,671 | △5,086,343  |
| 時価のない有価証券 | 851,500,002   |             |             |
| 有価証券合計    | 1,398,357,016 |             |             |

(備考) 金額は種類ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

**② 学校債の状況**

|        |
|--------|
| ✓ 該当なし |
|--------|

**③ 寄付金の状況**

(単位:円)

| 寄付金の種類         | 寄付者        | 金額         | 摘要 |
|----------------|------------|------------|----|
| 運営経費・研究助成金     | 企業・任意団体    | 10,570,000 |    |
| 上記以外のその他の寄付金   | 校友、父母、篤志家等 | 30,756,728 |    |
| 現物寄付(上記寄付金を除く) |            | 13,537,961 |    |

**④ 補助金の状況**

|   |
|---|
| ✓ 様々な補助金獲得に向け、各部門とも推進した結果、前年度比約16%増(+221百万円)となった。これは高等教育修学支援制度の交付要件の変更(多子世帯要件)による大学+136百万円、短大+34百万円と、短大における私立大学等改革総合支援事業タイプ3の採択による+11百万円等の影響が大きい。 |
|---|

**⑤ 収益事業の状況**

|        |
|--------|
| ✓ 該当なし |
|--------|

### 3.経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

| 項目             | 取組の実績・成果・課題  |
|----------------|--|
| (1) 経営状況の分析    | <p>✓ 当年度の財務比率を分析すると、学生生徒等納付金(決算予測 36.8 億円)が、2 次補正予算比で 3.1 百万円、手数料(同 53.0 百万円)が、同比 1 百万円減少したものの、補助金・寄付金等の外部資金調達、および電力契約見直し等の固定費圧縮が機能し、劇的な悪化を回避した。しかし、少子化の加速に伴う構造的な定員割れや、退職給付引当金をはじめとする各種引当金の法定計上の影響により、経常収支差額および事業活動収支差額の最終バランス(PL)は実質的なマイナスを記録(学園全体で約 2 億円規模の経常赤字構造を内包)。前年度に回復の兆しを見せた「収支均衡」の定着には至っておらず、依然として厳しい外部環境の直撃を受けている。</p> <p>✓ 貸借対照表(B/S)においては、一時的な運転資金需要に対して短期借入金を適時に実行することで、支払資金の流動性を厳格に確保し、約定返済を確実に履行する支払能力を堅持した。しかし、運用資産余裕比率や積立率は依然として低水準で推移しており、中長期的な財政基盤の回復・安定化には、単年度のコストカットに留まらない抜本的な構造改革が不可欠な状況にある。</p>  |
| (2) 経営上の成果と課題  | <p><b>【経営上の成果】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 徹底した人件費の適正化・抑制： 法人事務局の総務・人事課の分離独立に伴う新体制下で、配置転換や欠員補充の留保(専任採用・専任登用の厳選)を断行。人件費実績(大学部門など)において、補正予算比で大幅な抑制を達成し、最大の固定費である人件費の膨張に歯止めをかけた。</li> <li>② 多角的な財源確保と補助金活用： 創立 80 周年記念事業募金(5 か年総額 1 億円目標)において、初年度に戦略的広報を展開し年間目標(2,000 万円)を完全に達成した。また、情報共有体制の強化により、大学のネットワーク基盤更新において令和 8(2026)年度の補助金採択を確実に確保。高校の「DX ハイスクール」採択支援も含め、自己資金負担の大幅な軽減を具現化した。</li> <li>③ ガバナンスとコスト意識の可視化： 内部監査室を主導として予算・決算の差異を全件分析。その要因を「事務局長会」で月次共有・可視化することで、全部門における支出の妥当性の再検証とコスト意識の組織的向上を定着させた。</li> </ol> <p><b>【経営上の課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 収支マイナス(経常赤字)の構造的定着リスク： エネルギー・物価高騰の長期化に加え、18 歳人口急減に伴う各設置校の収容定員充足率の低迷、学納金依存度の高さが財務を圧迫しており、部門別収支の早期均衡が最大の課題である。</li> <li>② 財政余裕度の不足： 流動比率が低いため、一時的に短期借入金で流動性を維持しているものの、特定資産の積立率が低く、将来の校舎・施設設備の老朽化対策に伴う大規模修繕投資(中長期投資キャッシュ)を平準化して捻出する財政的余力が逼迫している。</li> <li>③ 業務効率化の遅れ： 標準化や人事システムの導入検討等において論点整理は進んだものの、詳細な業務分析やマニュアル化は次年度への継続課題となっており、属人化を排除したスリムな事務執行体制が未完である。</li> </ol> |
| (3) 今後の方針・対応方策 | <p>✓ 当年度は第 2 期中期計画(令和 3(2021)年度～令和 7(2025)年度)の最終年度にあたるため、これまでの 5 か年間で蓄積した財務課題を総括し、令和 8(2026)年度から始動する「第 3 期中期計画」への確実な財務地ならしを行う。具体的には以下の 3 方針を最優先で実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 次期予算編成における「黒字化必達」と構造改善： 特定された予算・決算の差異要因を基に、次年度以降の実効性の高い経費節減策を具体化する。固定費や事務プロセスを厳格に再考し、部門別収支の早期均衡を前提とした予算編成を行う。更に賞与支給率の改定を行うこととする。</li> <li>② 財源の多角化とブランド価値を連動させた学生生徒募集の強化： 「地域創造」をミッションとする次期ビジョンを軸に、産官学連携(大学情報学部を設置申請推進等)を強化して志願者を確保し、定員充足率の回復による原資(学納金)の安定を図る。同時に、80 周年記念募金の継続や外部資金獲得チャンネルを強固にする。</li> <li>③ 法人事務局の機能強化と業務標準化の徹底： 2 月に完了した法人事務局の大学内への移転統合(拠点一本化)のメリットを最大化し、大学事務局との業務集約・効率化を加速させる。継続課題である詳細な業務分析に基づき、マニュアル化と処遇制度の再構築を進め、経営基盤を支える中核専門人材が躍動する持続可能な運営体制を確立する。</li> </ol>  |

## IV. 学校法人の業務の適正を確保するための体制(内部統制システム)の整備および運用状況の概要

### 1. 関係する決議の概要

✓ 私立学校法の改正に伴い、理事の職務執行が法令および寄附行為に適合すること、ならびに業務の適正を確保することを目的として、令和7(2025)年3月28日開催の理事会において「学校法人九州文化学園 内部統制システム整備の基本方針」を決議し、令和7(2025)年4月1日付で決定・施行している。

### 2. 体制整備および運用状況の概要

| 項目                                      | 内容  |
|---|---|
| (1) 理事の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制         | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 寄附行為および「文書保存規程」「稟議規定」等に基づき、理事の職務執行に係る情報を適切に作成・管理する体制を構築している。</li> <li>✓ 理事会および評議員会の議事録については、法令に則り適切に作成し、原本を法人事務局にて厳重に保管している。</li> <li>✓ 業務執行に関する意思決定の過程を明確にするため、稟議制度を運用し、決裁文書の保存・管理を徹底している。</li> </ul>   |
| (2) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制                | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「危機管理規則」および「危機管理マニュアル」を整備し、リスクの評価方法や緊急時の対応体制を明確化している。</li> <li>✓ 理事長をリスク管理の最高責任者とし、各学校長と連携して重要リスクを適宜監査・報告する体制を運用している。</li> <li>✓ 第1回理事会(5/30開催)において、監事活動報告、事業報告、資金運用実績報告、内部監査報告および令和6(2024)年度決算の審議を行い、業務執行上のリスクを特定・分析し、管理体制の継続的な見直しを行っている。</li> <li>✓ 個人情報保護および特定個人情報の取扱いに関する規則に基づき、情報の適切な管理と漏洩防止に努めている。</li> <li>✓ 災害や事故等の緊急事態に備え、情報連絡体制の整備を行うとともに、教職員への継続的な教育と定期的な訓練を各部門の年間計画の中で実施した。</li> </ul> |
| (3) 理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制       | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 理事会を定例開催(年4回)するほか、必要に応じて臨時理事会を開催し、迅速かつ適切な意思決定を行っている。</li> <li>✓ 理事の担当業務を明確化するとともに、職務分掌および決裁権限を定めることで、機動的な業務執行体制を確保している。</li> <li>✓ 重要事項の決定にあたっては、寄附行為に従い、事前に評議員会の意見を聴取するプロセスを遵守し、適正な運営を図っている。</li> </ul>   |
| (4) 職員の職務の執行が法令および寄附行為に適合することを確保するための体制 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「行動規範」を策定し、役職員が法令・規程を遵守し、高い倫理観を持って職務にあたる組織風土の醸成に努めている。</li> <li>✓ 「内部公益通報規則」に基づき、学内外に匿名相談が可能な通報窓口を設置し、不正の未然防止と是正措置を講じる体制を運用している。</li> <li>✓ 執行部門から独立した内部監査部門(内部監査室)により、各学校の職務執行状況を定期的に監査し、その結果を理事会へ報告している。</li> <li>✓ コンプライアンス意識の定着を目的として、文部科学省私学行政課が作成している「役員および評議員に求められる役割等について～改正私学法を踏まえて～」を資料として研修を2/13開催の理事会・評議員会の前後に全役職員等を対象として実施した。</li> </ul>  |
| (5) 監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制          | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 監事が理事会や評議員会等の重要会議に出席し、理事の職務執行について適法性・妥当性の観点から監査を行う環境を整備している。</li> <li>✓ 監事の求めに応じ、その職務を補助する職員を任命できる体制を整え、当該職員の監事に対する指揮命令系統の独立性を担保している。</li> <li>✓ 理事長と監事による定期的な意見交換の場(三者連絡会等)を設け、事業運営の健全性に関する相互認識を深めている。</li> <li>✓ 理事および職員が、法人に著しい損害を及ぼす恐れのある事実を発見した際、直ちに監事へ報告する体制を維持している。</li> <li>✓ 監事の職務執行に付随して発生する費用(調査費等)について、速やかに支払う体制を確立している。</li> </ul>  |

V. 附属明細書

**特記事項なし**